

令和6年度 歴史総合年間指導計画

令和6年度 年間指導計画		学校名		北山高校		科・コース名		普通科		クラス		1～2組【普通科】				単位	2	学年	1
		教科名		地理歴史科		科目名		歴史総合		教科書名（会社名）		歴史総合（実教出版）							
科目 目標 （資 質・ 能 力）	柱書	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																	
	知識及び技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。																	
	思考力、判断力、表現力等	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。																	
	学びに向かう力、人間性等	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。																	
観点別評価の表記について		学習改善（指導）に生かす評価＝●は、毎時間行うものであり、ここには表記しない。 評定に用いる（記録に残す）評価＝○、そのうちペーパーテストで見取る評価＝◎として記載する。 ＊○（記録に残す）評価の例：振り返りシート・毎時のノート・レポート等																	
学期	月	大項目	大項目の問い	単元名	F Q（単元を貫く問い）	小単元名	MQ（本時の問い）				評価の観点			時数					
							知	思	態										
Ⅰ学期	4月	歴史の扉	なぜ歴史を学ぶのか	1 歴史と私たち 2 歴史的特質と資料	歴史は現代社会に何を求めているのか。	オリエンテーション 1 歴史と私たち～ダンスからみる今と昔～ 2 歴史的特質と資料～「装い」は何を語るのか～	歴史を学ぶとは？ 私達は歴史とどのようにつながっているのか。		○				1						
				第1章 近代化への胎動 （1）近代化への問い	「近代化」とは何か	近代化への問い 時代を見る 歴史ひろば①17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 1 江戸時代の異本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 歴史ひろば②近世の琉球と蝦夷地 3 幕政の改革と東アジア世界 アクティブ1 鎖国は日本だけのもの？	地球規模の一体化がすすみ始めたのはなぜか。 17世紀を通じて東アジアではどのような体制ができたのか。 「近代化」とは何か		○			1							
						時代を見る 歴史ひろば③ヨーロッパの主権国家体制の成立 4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5 フランス革命とウィーン体制 資料の読み解きトレーニング① ナポレオンはどうえがかれたのか 6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 歴史のひろば④世界市場の形成 7 オスマン帝国の衰退とロシア	主権国家はどのように誕生したか。 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争はどう展開したか。 フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化したか。 領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのだろうか。	◎		○		1							
						歴史のひろば⑤イスラームについて 8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9 江戸幕府の滅亡	東方問題を通じてロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じただろうか。 アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応を迫られたか。	◎				1							
						【1学期 中間考査】 アクティブ2 19世紀の日米交渉 第1章、第2章の振り返り		◎◎				2							
	5月	第1編 近代化とは何だろうか				時代を見る 10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一 11 明治政府の諸改革 歴史のひろば⑥文明開化 12 日本のアジア外交と国境問題 13 自由民権運動と大日本帝国憲法 アクティブ3 北海道旧土人保護法は何を目的に制定されたのか	イタリアとドイツの統一運動にみられる共通点は何か。 明治政府はどのような国を作りを目指していたのか。 日本はどのように国境を画定したのか。 列強の帝国主義政策に対してアジア諸国はどのような影響を受けたのか。	◎				1							
						時代を見る 歴史のひろば⑦近代化する日本をおとずれた外国人 14 帝国主義の時代へ 15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16 日清戦争後の東アジア 17 日露戦争と東アジアの変動 18 日本の産業革命 歴史のひろば⑧産業革命の光と影	訪日する外国人に、近代化する日本はどのように見えたか。 欧米諸国はなぜ帝国主義をすすめたのか。 何を目的に日清戦争は始まったのか。 日本は中国、朝鮮とどのような関係があるのか。 日露戦争が与えた世界への影響は何か。 産業革命によって日本経済はどう変わったか。	◎				1							
						【1学期 期末考査】 アクティブ4 日本の帝国主義とナショナリズム 近代化と現代的な諸課題		◎◎				2							
						国際秩序の変化や大衆化への問い 時代を見る 19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー 22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23 アジアの民族運動 アクティブ5 民族資本の形成	20世紀、国際関係はどのように変化したのか。 第一次石油危機はなぜ世界を巻きこむ戦いになったのか。 世界はロシア革命をどのように受け止めたのか。 米騒動のなかで人々は何を求めたのか。 ヴェルサイユ体制とワシントン体制は何を目的とするのか。 なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか。 国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。					1							
						24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。	◎				1							
						【2学期 中間考査】 歴史のひろば⑨1920年代に花ひらいた大衆文化 アクティブ6 移動する人々―南洋へのまなざし― 第5章の振り返り						2							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
	6月 7月	第3編 近代化と私たち		第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 （3）「国民国家と明治維新」	列強の帝国主義政策に対してアジア諸国はどのような影響を受けたのか。	時代を見る 歴史のひろば⑨文明開化 12 日本のアジア外交と国境問題 13 自由民権運動と大日本帝国憲法 アクティブ3 北海道旧土人保護法は何を目的に制定されたのか	イタリアとドイツの統一運動にみられる共通点は何か。 明治政府はどのような国を作りを目指していたのか。 日本はどのように国境を画定したのか。 列強の帝国主義政策に対してアジア諸国はどのような影響を受けたのか。	◎				1							
				時代を見る 歴史のひろば⑦近代化する日本をおとずれた外国人 14 帝国主義の時代へ 15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16 日清戦争後の東アジア 17 日露戦争と東アジアの変動 18 日本の産業革命 歴史のひろば⑧産業革命の光と影	訪日する外国人に、近代化する日本はどのように見えたか。 欧米諸国はなぜ帝国主義をすすめたのか。 何を目的に日清戦争は始まったのか。 日本は中国、朝鮮とどのような関係があるのか。 日露戦争が与えた世界への影響は何か。 産業革命によって日本経済はどう変わったか。	◎				1									
				【1学期 期末考査】 アクティブ4 日本の帝国主義とナショナリズム 近代化と現代的な諸課題		◎◎				2									
				国際秩序の変化や大衆化への問い 時代を見る 19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー 22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23 アジアの民族運動 アクティブ5 民族資本の形成	20世紀、国際関係はどのように変化したのか。 第一次石油危機はなぜ世界を巻きこむ戦いになったのか。 世界はロシア革命をどのように受け止めたのか。 米騒動のなかで人々は何を求めたのか。 ヴェルサイユ体制とワシントン体制は何を目的とするのか。 なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか。 国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。					1									
				24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。	◎				1									
				【2学期 中間考査】 歴史のひろば⑨1920年代に花ひらいた大衆文化 アクティブ6 移動する人々―南洋へのまなざし― 第5章の振り返り						2									
				国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1									
	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。								1										
	9月			第2編 国際		第5章 第一次世界大戦と大衆社会 （1）「国際秩序の変化や大衆化への問い」 （2）「第一次世界大戦と大衆社会」	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。	国際秩序の変化や大衆化への問い 時代を見る 19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー 22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23 アジアの民族運動 アクティブ5 民族資本の形成	20世紀、国際関係はどのように変化したのか。 第一次石油危機はなぜ世界を巻きこむ戦いになったのか。 世界はロシア革命をどのように受け止めたのか。 米騒動のなかで人々は何を求めたのか。 ヴェルサイユ体制とワシントン体制は何を目的とするのか。 なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか。 国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。					1					
						24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。	◎				1							
						【2学期 中間考査】 歴史のひろば⑨1920年代に花ひらいた大衆文化 アクティブ6 移動する人々―南洋へのまなざし― 第5章の振り返り						2							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
						国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。						1							
		国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。 第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。 社会運動をになった人々は、何を求めたのか。								1									

2 学期	10 月	国際 秩序 の 変 化 や 大 衆 化 と 私 た ち	大 衆 化 と は 何 か	第6章 経済危機と 第二次世界大戦	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰はどのようなものであったか。	時代をみる		世界恐慌は人々の生活をどう変化させたのか。	◎			1			
						26 世界恐慌と各国の対応									
						27 ファシズムの時代		若者はなぜヒトラーに協力したのか。	◎			1			
						資料の読み解きトレーニング(2)若者はなぜヒトラーに協力したのか									
						28 満洲事変と軍部の台頭	期 末 考 査 出 題 範 囲	日本国民はなぜ国際連盟からの脱退を支持したのか。	◎			1			
						29 日中戦争と戦時体制		なぜ日中戦争は長期化したのか。	◎						
						アクティブ7 戦争と文化		アメリカ、日本、中国のアニメは誰に何を訴えているのか。		○	○	1			
						30 第二次世界大戦の勃発		第二次世界大戦を止めることはできなかったのか。	◎			1			
						31 第二次世界大戦の終結		第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰はどのようなものであったか。	◎			1			
						歴史のひろば⑩沖縄と戦争		国際連合の「拒否権」は必要か。	◎			1			
						32 国際連合の成立と冷戦									
						33 日本占領と日本国憲法		日本国憲法は旧植民地の人々にどのように評価されたか。	◎			1			
歴史のひろば⑪日本国憲法															
34 朝鮮戦争と日本	なぜ日本は再軍備化（逆コース化）したのか。	◎			1										
【2学期 期末考査】											2				
アクティブ8 満洲移民・引揚・戦後開拓							○	○	5						
国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題						現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史はどのようなものであったか。									
11 月				(3)「経済危機と第二次世界大戦」 (4)「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」	現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史はどのようなものであったか。										
12 月															
3 学期	1 月	第3編 グローバル化は私たちの生活に何をもたらしたか	グローバル化とは何か	第7章 冷戦と脱植民地化 (1)「グローバル化への問い」 (2)「冷戦と世界経済」	世界経済と日本経済の成長にともない社会はどのように変化したか。	グローバル化への問い									
						時代をみる		独立を果たした旧植民地の人々の生活は豊かになったか。	◎			1			
						35 植民地の独立	期 末 考 査 出 題 範 囲								
						歴史のひろば⑫核実験と核競争		日本はなぜ高度経済成長を果すことができたのか。	◎			1			
						36 米ソ両陣営の動揺		冷戦は日本の政治や経済にどのような影響を与えたのか。	◎		○	1			
						歴史のひろば⑬高度経済成長									
						37 日本の国際社会復帰と高度経済成長									
						アクティブ9 沖縄からみたベトナム戦争									
						時代をみる		オイルショック後の世界はどのような変化をみせたか。	◎			1			
						38 石油危機と世界経済		パレスチナ問題とは何か。	◎			1			
						歴史のひろば⑭パレスチナ問題の変遷		なぜソ連は解体したのか。	◎			1			
						39 緊張緩和から冷戦の終息へ		バブル経済とは何か。	◎			1			
40 日本の経済大国化	冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。	◎			1										
アクティブ10 多国籍企業															
時代をみる	冷戦終結後の世界は平和になったか。	◎			1										
41 地域紛争と対立															
42 国際秩序の変容															
【学年末考査】											2				
歴史のひろば⑮グローバル化のなかの日本															
アクティブ11 持続可能な社会をめざして						冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。			○	○	5				
現代的な諸課題の形成と展望															

令和6年度 歴史総合年間指導計画

令和6年度		学校名		北山高校		科・コース名		理数科		クラス		3組【理数科】		単位		2	学年	1
年間指導計画		教科名		地理歴史科		科目名		歴史総合		教科書名（会社名）		歴史総合（実教出版）						
科目 目標 （資質・能力）	柱書	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																
	知識及び技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。																
	思考力、判断力、表現力等	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。																
	学びに向かう力、人間性等	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。																
観点別評価の表記について		学習改善（指導）に生かす評価＝●は、毎時間行うものであり、ここには表記しない。 評定に用いる（記録に残す）評価＝○、そのうちペーパーテストで見取る評価＝◎として記載する。　＊○（記録に残す）評価の例：振り返りシート・毎時のノート・レポート等																
学期	月	大項目	大項目の問い	単元名	F Q（単元を貫く問い）	小単元名	MQ（本時の問い）	評価の観点			時数							
								知	思	態								
Ⅰ 学期	4月	歴史の扉	なぜ歴史を学ぶのか	1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料	歴史は現代社会に何を求めているのか。	オリエンテーション	歴史を学ぶとは？	○			1							
						1 歴史と私たち～ダンスからみる今と昔～ 2 歴史の特質と資料～「装い」は何を語るのか～	私達は歴史とどのようにつながっているのか。											
		第1編 近代化と私たち	近代化とは何だろうか	第1章 近代化への胎動 （1）近代化への問い	「近代化」とは何か	近代化への問い	地球規模の一体化がすすみ始めたのはなぜか。	○			1							
						時代を見る												
						歴史ひろば①17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出												
						1 江戸時代の異本と東アジア秩序の変動												
						2 江戸時代の生産・流通と諸改革												
						歴史ひろば②近世の琉球と蝦夷地												
						3 幕政の改革と東アジア世界												
						アクティブ1 鎖国は日本だけのもの？												
						時代を見る												
						歴史ひろば③ヨーロッパの主権国家体制の成立												
	4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争																	
	5 フランス革命とウィーン体制																	
	資料の読み解きトレーニング①																	
	ナポレオンはどうかかれたのか																	
	6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立																	
	歴史のひろば④世界市場の形成																	
	7 オスマン帝国の衰退とロシア																	
	歴史のひろば⑤イスラームについて																	
	8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国																	
	9 江戸幕府の滅亡																	
	【1学期 中間考査】																	
	アクティブ2 19世紀の日米交渉																	
第1章、第2章の振り返り	18世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係はどのように変化していったのか。		○	○		1												
5月	第1編 近代化と私たち	近代化とは何だろうか	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 （2）「結び付く世界と日本の開国」	18世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係はどのように変化していったのか。	時代を見る	主権国家はどのように誕生したか。	◎			1								
					歴史ひろば③ヨーロッパの主権国家体制の成立	イギリス産業革命とアメリカ独立戦争はどう展開したか。												
					4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化したか。												
					5 フランス革命とウィーン体制													
					資料の読み解きトレーニング①													
					ナポレオンはどうかかれたのか													
					6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのだろうか。												
					歴史のひろば④世界市場の形成													
					7 オスマン帝国の衰退とロシア	東方問題を通じてロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じただろうか。												
					歴史のひろば⑤イスラームについて													
					8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国	アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応を迫られたか。												
					9 江戸幕府の滅亡													
【1学期 中間考査】	◎ ◎		2															
アクティブ2 19世紀の日米交渉																		
第1章、第2章の振り返り	18世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係はどのように変化していったのか。		○	○		1												
6月	第1編 近代化と私たち	近代化とは何だろうか	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 （3）「国民国家と明治維新」	列強の帝国主義政策に対してアジア諸国はどのような影響を受けたのか。	時代を見る	イタリアとドイツの統一運動にみられる共通点は何か。	◎			1								
					10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一													
					11 明治政府の諸改革	明治政府はどのような国を作りを目指していたのか。												
					歴史のひろば⑥文明開化													
					12 日本のアジア外交と国境問題	日本はどのように国境を画定したのか。												
					13 自由民権運動と大日本帝国憲法	列強の帝国主義政策に対してアジア諸国はどのような影響を受けたのか。												
					アクティブ3 北海道旧土人保護法は何を目的に制定されたのか													
					時代を見る	訪日する外国人に、近代化する日本はどのように見えたか。												
					歴史のひろば⑦近代化する日本をおとずれた外国人	欧米諸国はなぜ帝国主義をすすめたのか。												
					14 帝国主義の時代へ	何を目的に日清戦争は始まったのか。												
					15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	日本は中国、朝鮮とどのような関係があるのか。												
					16 日清戦争後の東アジア	日露戦争が与えた世界への影響は何か。												
17 日露戦争と東アジアの変動																		
18 日本の産業革命	産業革命によって日本経済はどう変わったか。																	
歴史のひろば⑧産業革命の光と影																		
【1学期 期末考査】	◎ ◎		2															
アクティブ4 日本の帝国主義とナショナリズム																		
近代化と現代的な諸課題	現代的な諸課題の形成に近代化の歴史はどのように関わっているのか。		○	○		1												
7月	第1編 近代化と私たち	近代化とは何だろうか	第4章 帝国主義の時代 （4）「近代化と現代的な諸課題」	現代的な諸課題の形成に近代化の歴史はどのように関わっているのか。	時代を見る	20世紀、国際関係はどのように変化したのか。				1								
					19 第一次世界大戦	第一次石油危機はなぜ世界を巻きこみ戦いになったのか。												
					20 ロシア革命とソ連の成立	世界はロシア革命をどのように受け止めたのか。												
					21 米騒動とデモクラシー	米騒動のなかで人々は何を求めたのか。												
					22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	ヴェルサイユ体制とワシントン体制は何を目的とするのか。												
					23 アジアの民族運動	なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか。												
					アクティブ5 民族資本の形成	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。												
					24 第一次世界大戦後の欧米諸国	第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。												
					25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	社会運動になった人々は、何を求めたのか。												
					【2学期 中間考査】									2				
					歴史のひろば⑨1920年代に花ひらいた大衆文化													
					アクティブ6 移動する人々ー南洋へのまなざしー	第一次世界大戦後の日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制はどのように変化したのか。						○	○		1			
第5章の振り返り																		
9月	第2編 国際	第5章 第一次世界大戦と大衆社会 （1）「国際秩序の変化や大衆化への問い」 （2）「第一次世界大戦と大衆社会」	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。	国際秩序の変化や大衆化への問い	20世紀、国際関係はどのように変化したのか。				1								
					時代を見る	第一次石油危機はなぜ世界を巻きこみ戦いになったのか。												
					19 第一次世界大戦	世界はロシア革命をどのように受け止めたのか。												
					20 ロシア革命とソ連の成立	米騒動のなかで人々は何を求めたのか。												
					21 米騒動とデモクラシー													
					22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	ヴェルサイユ体制とワシントン体制は何を目的とするのか。												
					23 アジアの民族運動	なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか。												
					アクティブ5 民族資本の形成	国際秩序の変化や大衆化に伴い、私たちの生活や社会の在り方はどのように変化したのか。												
					24 第一次世界大戦後の欧米諸国	第一次世界大戦後、欧米諸国はどのように動いたのか。												
					25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	社会運動になった人々は、何を求めたのか。												
					【2学期 中間考査】									2				
					歴史のひろば⑨1920年代に花ひらいた大衆文化													
アクティブ6 移動する人々ー南洋へのまなざしー	第一次世界大戦後の日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制はどのように変化したのか。		○	○		1												
第5章の振り返り																		

2 学 期	10 月	国際 秩序 の 変 化 や 大 衆 化 と 私 た ち	大 衆 化 と は 何 か	第6章 経済危機と 第二次世界大戦	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰はどのようなものであったか。	時代をみる	期 末 考 査 出 題 範 囲	世界恐慌は人々の生活をどう変化させたのか。	◎			1									
	26 世界恐慌と各国の対応					若者はなぜヒトラーに協力したのか。		◎			1										
	27 ファシズムの時代																				
	資料の読み解きトレーニング(2)若者はなぜヒトラーに協力したのか					日本国民はなぜ国際連盟からの脱退を支持したのか。		◎			1										
11 月				(3)「経済危機と第二次世界大戦」 (4)「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」	現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史はどのようなものであったか。	28 満洲事変と軍部の台頭	なぜ日中戦争は長期化したのか。	◎				1									
						29 日中戦争と戦時体制	アメリカ、日本、中国のアニメは誰に何を訴えているのか。		○	○	1										
						アクティブ7 戦争と文化	第二次世界大戦を止めることはできなかったのか。	◎			1										
						30 第二次世界大戦の勃発	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰はどのようなものであったか。	◎			1										
						31 第二次世界大戦の終結	国際連合の「拒否権」は必要か。	◎			1										
						歴史のひろば⑩沖縄と戦争	日本国憲法は旧植民地の人々にどのように評価されたか。	◎			1										
						32 国際連合の成立と冷戦	なぜ日本は再軍備化（逆コース化）したのか。	◎			1										
						33 日本占領と日本国憲法															
						歴史のひろば⑪日本国憲法															
						34 朝鮮戦争と日本															
12 月						【2学期 期末考査】					2										
						アクティブ8 満洲移民・引揚・戦後開拓	現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史はどのようなものであったか。		○	○	5										
						国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題															
3 学 期	1 月	第3編 グロー バル 化 は 私 た ち の 生 活 に 何 を も た ら し た か	グ ロ ー バ ル 化 は 私 た ち の 生 活 に 何 を も た ら し た か	第7章 冷戦と脱植民地化 (1)「グローバル化への問い」 (2)「冷戦と世界経済」	世界経済と日本経済の成長にともない社会はどのように変化したか。	グローバル化への問い	期 末 考 査 出 題 範 囲	独立を果たした旧植民地の人々の生活は豊かになったか。	◎			1									
						時代をみる		日本はなぜ高度経済成長を果たすことができたのか。	◎			1									
						35 植民地の独立		冷戦は日本の政治や経済にどのような影響を与えたのか。	◎		○	1									
						歴史のひろば⑫核実験と核競争		オイルショック後の世界はどのような変化をみせたか。	◎			1									
						36 米ソ両陣営の動揺		パレスチナ問題とは何か。	◎			1									
						歴史のひろば⑬高度経済成長		なぜソ連は解体したのか。	◎			1									
						37 日本の国際社会復帰と高度経済成長		バブル経済とは何か。	◎			1									
						アクティブ9 沖縄からみたベトナム戦争		冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。	◎			1									
						時代をみる															
						38 石油危機と世界経済															
	2 月							(3)「世界秩序の変容と日本」	冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。	歴史のひろば⑭パレスティナ問題の変遷											
										39 緊張緩和から冷戦の終息へ											
										40 日本の経済大国化											
										アクティブ10 多国籍企業											
										時代をみる											
										41 地域紛争と対立	冷戦終結後の世界は平和になったか。	◎			1						
										42 国際秩序の変容											
										【学年末考査】					2						
										3 月				(4)「現代的な諸課題の形成と展望」	冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。	歴史のひろば⑮グローバル化のなかの日本					
																アクティブ11 持続可能な社会をめざして	冷戦終結後の市場経済と国際政治はどのように変化したのか。		○	○	5
	現代的な諸課題の形成と展望																				

令和6年度 公共 年間指導計画

令和5年度		学校名	北山高校		学科	普通科	クラス	1～2組			単位	2	学年	2
年間指導計画		教科名	公民科		科目名	公共	教科書名（会社名）	「新公共」（第一学習社）						
科目目標 （資質・能力）	柱書	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。												
	知識及び技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。												
	思考力、判断力、表現力等	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に応札し構成に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。												
	学びに向かう力、人間性等	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。												
観点別評価の表記について		学習改善（指導）に生かす評価＝●は、毎時間行うものであり、ここには表記しない。 評定に用いる（記録に残す）評価＝○、そのうちペーパーテストで見取る評価＝◎として記載する。												
学期	月	大項目 編	中項目 章	単元名 節	FQ （単元を貫く問い）	小単元名	MQ （本時の問い）	評価の観点 知 思 態			時数			
一学期の評価	4	第1編	公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち	私たちはどのように社会に関わっているのだろうか？	オリエンテーション					1	OP P ①		
						1. 社会に生きる私たち	未来へ「おとな」になるとは、どういうことだろうか？	自分自身を成長させるために必要なことは何か？	◎	○			1	
						2. 個人の尊厳と自主・自立	互いの「ちがいを」認め合うことはなぜ大切か？	異文化に優秀や上下は存在するのか？	◎	○			1	
						3. 多様性と共通性	異文化に優秀や上下は存在するのか？							
						4. 伝統文化とのかかわり	私たちにとって、伝統文化はどのような存在か？	◎	○		1			
				第2章 公共的な空間における人間としてのあり方	社会の様々な問題について、どのように選択・判断するべきか。	5. 自立した主体をめざして	1. 人間と社会の在り方についての見方・考え方 ◇実社会の例から考える～環境保護 ◇実社会の例から考える～生命倫理	もしあなたがこの問題の当事者なら、どのように選択し判断するのか。		◎	○		1	
						第3章 公共的な空間における基本的原理	よりよい社会を実現するために必要な（5つの）原則とは、どのようなものか？	1. 人間の尊厳と平等、個人の尊重	差別や偏見はなぜおこるのか。	◎				1
								2. 民主主義と法の支配	私たちはなぜ代表を選び政治を任せるのか？法の支配はなぜ必要					
								3. 自由・権利と責任・義務	人々の関係が協働的である条件とは？	◎			○	
						4. 日本国憲法に生きる基本原理	日本国憲法が最高法規な理由は何か？							
	1学期中間考査										2			
	6	第2編	自立した主体となる私たち	第1章 法的な主体となる私たち	主題1 法や規範の意義と役割	法が公正なルールであるための基準とはどのようなものがあるか？	1. 私たちと法	ルールを決めるときに必要なことは？		○		2	OP P ②	
							2. 法と基本的人権	自由権にはどのようなものがあるか？どのように保障されている	◎			1		
							3. 自由に生きる権利と法・規範	現存する差別に法はどのような働きをしているか？	◎			1		
							4. 平等に生きる権利と法・規範	安全で豊かな暮らしのために、どのような基本的人権が保障され	◎			1		
							5. 安全で豊かに生きる権利と法・規範	世論や政治に参加し、法をよりよいものにするために、どのよう	◎	○		1		
主題2 契約と消費者の				賢い消費者とはどのようなものか？	1. さまざまな契約と法（よりよい契約を結ぶために）	賢い消費者になるために必要なことは何か。		○		2				
					2. 消費者の権利と責任									
					1. 裁判所と司法	国民が司法に参加する目的は何か。	◎		○	2				
					2. 国民の司法参加（司法にかかわる）	あなたは裁判員として人を裁けますか？								
					1学期期末考査									
7	第2編	政治的な主体となる私たち	第2章 政治参加と公正な世論形成	民主政治を推進するために私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	1. 私たちと選挙	シルバー民主主義とは何か。シルバー民主主義は公正か。	◎	○		1	OP P ③			
					2. 選挙の現状と課題	一票の格差を是正し、投票率の低下を防ぐには何が必要か。	◎			1				
					3. 世論の形成と政治参加（選挙に行こう）	投票する候補者や政党を選ぶ時、どのように比較・判断すればいい	◎	○		1				
					4. 国会と立法	民主主義の考え方は、国会のしくみのなかでどう生かされているか。	◎			1				
					5. 内閣と行政	もしあなたが〇〇大臣なら、どのような行政サービスを提案しますか。	◎	○		1				
			主題4 国際社会と国家主権	主権国家がならび立つ国際社会はどのように成り立っているのか？	6. 地方自治と住民福祉（災害と向きあう～災害と情報）	地域社会の課題に、私たちの意見を反映させるにはどうしたらよいのか。	◎		○	1				
					1. 国家と国際法	国境とは何か。なぜ領土問題が存在するのか。	◎			1				
					2. 国境と領土問題	常任理事国の拒否権を廃止したら世界は変わるのか。	◎			1				
					3. 国際連合の役割と課題	世界で唯一の被爆国の国民として、国際平和を実現するためにどのようなことができるか。	◎			1				
					1. 平和主義と安全保障	核兵器を減らすことで国際平和は実現できるか。	◎			1				
主題6 日本の安全保障と防衛	日本国憲法の平和主義の下、私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	2. 日本の安全保障体制の変容	世界は一体化？分断化？多極化？その原因は何か。	◎			1							
		3. 核兵器の廃絶と国際平和	SDG sの達成に向け、日本が、私たちができることは何か。	◎		○	1							
		2学期中間考査										2		
		主題7 国際社会の変化と日本の役割	国際平和を実現するために、日本にはどのような役割が求められているだろうか？	1. 私たちと経済	私たちは経済にどのように関わっているのか。関わっていくのか。	◎			1					
				2. 労働者と権利（労働トラブルに巻き込まれないために）	安心して働くための環境とは、どのようなものだろうか。	◎	○	○	1					
3. 労働環境と課題														
1. 日本経済のこれまでもこれから	戦後日本経済のあゆみのなかで、産業が発展し経済が成長した			◎			1							
2. 技術革新の進展	AIは私たちの生活を幸せにしてくれるのか。			◎			1							
主題9 社会の変化と職業観	現代社会において、私たちは将来の働き方をどのように考えていけばよいだろうか？	3. 現代の企業	企業が社会に対して果たすべき役割と責任は何だろうか。	◎			1							
		4. 中小企業の現状と役割	農林水産業の課題とそれを克服するために必要なことは何か。	◎			1							
		5. 日本の農林水産業												
		スキル 自分の職業を考えよう			○	○	1							
		2学期末考査										2		
12	第3編	経済的な主体となる私たち	主題10 市場経済の機能と限界	公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるのはなぜだろうか？	1. 市場経済と経済運営	人々が公正・公平に経済活動を行うために、政府は何をするべきか。	◎	○		2	OP P ⑥			
					2. 市場のしくみ	「GAFA」に対し、政府は干渉すべきか。								
					3. 経済発展と環境保全	「開発」と「保護」は両立できるのか。	◎	○		1				
					4. 国民所得と私たちの生活	国の「豊さ」はどのような基準で決めるのか。	◎			1				
					5. 経済成長と国民の福祉									
			主題11 金融のはたらき	金融市場の役割とは何か。	1. 金融の意義と役割	銀行は社会生活にどのような影響を与えているか。	◎	◎	○	1				
					2. 金融のいま（金融との向き合い方）									
					1. 財政のしくみと租税	あなたが納めている租税（税金）は何に使われているのか。	◎	○		1				
					2. 日本の財政の課題	社会保障制度はなぜ必要か。	◎	○		1				
					3. 社会保障と国民福祉	人口減少社会において、持続可能な社会保障制度にするためには、どのような課題があるか。		○	○	1				
主題12 財政の役割と社会保障	財政や社会保障を持続可能なものにしていくために、政府はどのような役割を果たしていけばよいだろうか？	4. これからの社会保障												
		1. 国際分業と貿易	日本のブランド服でも「MADE IN 〇〇」が多いのはなぜか？	◎	○		1							
		2. 国際収支と国際経済体制	円高や円安、なぜ為替相場は変動するのか。	◎	○		1							
		3. 外国為替相場の動き	イギリスはなぜEUを離脱したのか。日中韓の経済的統合は可能か。	◎			1							
		4. グローバル化する経済	自由貿易協定のメリット、デメリットはどのようなことが考えられるか。	◎			1							
主題13 経済のグローバル化	貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちはどうあるべきだろうか？	5. 地域的経済統合	発展途上国の経済成長のためには何が必要か。	◎			1							
		6. 国際社会における貧困や格差	地球環境を保護するために、私たちはどのような生活をするべきか。	◎			1							
		7. 地球環境問題	SDG sの目標12「作る責任・使う責任」とはどのような意味なのか。	◎			1							
		8. 資源・エネルギー問題												
		9. 国際社会のこれから	もしあなたが100万円を国際社会に支援するなら、どのように使うか。		○	○	1							
3学期考査										2				
3	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会づくりの主体となる私たちにできることは何か？	1. 排出権取引を考える～地球環境問題 2. ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 3. ゲノム編集を考える～生命倫理 4. インターネットによる投票を考える～情報 5. フェアトレードを考える～国際社会の課題	1～5からいくつか選択し、各2時間程度の授業を行う。		○	○	10	OP P ⑨				

令和6年度 地理総合 年間指導計画(普通科)

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 使用教科書・副教材

教科書:「わたしたちの地理総合」「基本地図帳」
副教材:「わたしたちの地理総合ワークブック」「アトラスワークブック」

3 年間指導計画例

学期		3 学 期 制	2 学 期 制	月	授 業 時 数	章 配 当 時 数	章	学 習 項 目	学 習 内 容 と ね ら い	節 配 当 時 数	考 査 範 囲	3 学 期	2 学 期		
1 学 期	前 期			4 月	5	11	1 章 地 図 と G I S の 活 用	1節 球面上の世界 1.2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。	3	1 学 期 中 間				
								2節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。	2					
				5 月	6			3節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。	4	1 学 期 期 末				
								4節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム(GIS)のしくみと使い方	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。	2					
2 学 期	後 期			6 月	8	30	2 章 生 活 文 化 の 多 様 性 と 国 際 理 解	1節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2.3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル 7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。	8	2 学 期 中 間				
								2節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4.5 経済成長 中国 6.7 工業化 タイ・ベトナム	世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。	7					
				9 / 1 0 月	1 2			3節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5.6 イスラーム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 社会の形成 ラテンアメリカ 9 多文化社会 オーストラリア	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。	9	2 学 期 期 末				
								4節 グローバル化の進展と生活文化 1～3 地域統合 EU 4～6 グローバル化 アメリカ	EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。	6					
	3 学 期	後 期			11 月		6	15	3 章 地 球 的 課 題 と 国 際 協 力	1節 人口・食料問題 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ	世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また、人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して、各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。持続可能な発展のために、飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際、モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。	5	2 学 期 期 末		
										2節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市 ロンドン・ニューヨーク 3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ	都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。また、途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら、解決の方策を構想する。	3			
					1 月		4			3節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本	エネルギー資源の変化を世界的視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。	4	3 学 期 期 末		
										4節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 アラル海	地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには、国際的な協力体制が必要だけでなく、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。	3			
					2 月		8			1節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2～4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え	日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。	5	後 期 中 間		
										2節 持続可能な地域づくり 1 地域調査の実施手順と方法 2～4 地域調査 軽井沢	生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を見いだし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。	4			
合計時数					65	65						65			

令和6年度 公共 年間指導計画

令和5年度		学校名	北山高校		学科	理数科	クラス	3組			単位	2	学年	2				
年間指導計画		教科名	公民科		科目名	公共		教科書名（会社名）	「新公共」（第一学習社）									
科目目標 （資質・能力）	柱書	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																
	知識及び技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。																
	思考力、判断力、表現力等	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に応札し構成に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。																
	学びに向かう力、人間性等	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。																
観点別評価の表記について		学習改善（指導）に生かす評価＝●は、毎時間行うものであり、ここには表記しない。 評定に用いる（記録に残す）評価＝○、そのうちペーパーテストで見取る評価＝◎として記載する。																
学期	月	大項目 編	中項目 章	単元名 節	FQ （単元を貫く問い）	小単元名	MQ （本時の問い）	評価の観点 知 思 態			時数							
一学期の評価	4	第1編	公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち	私たちはどのように社会に関わっているのだろうか？	オリエンテーション						1						
						1. 社会に生きる私たち	自分自身を成長させるために必要なことは何か？	◎	○		1							
						未来へ「おとな」になるとは、どういうことだろうか？												
						2. 個人の尊厳と自主・自立	互いの「ちがいを」認め合うことはなぜ大切か？	◎	○		1							
						3. 多様性と共通性	異文化に優秀や上下は存在するのか？											
						4. 伝統文化とのかかわり	私たちににとって、伝統文化はどのような存在か？	◎	○		1							
	5	公共の扉	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方	社会の様々な問題について、どのように選択・判断するべきか。	5. 自立した主体をめざして	1. 人間と社会の在り方についての見方・考え方 ◇実社会の例から考える～環境保護 ◇実社会の例から考える～生命倫理	もしあなたがこの問題の当事者なら、どのように選択し判断するのか。	◎	○		1							
					1. 人間の尊厳と平等、個人の尊重	差別や偏見はなぜおこるのか。	◎			1								
					2. 民主主義と法の支配	私たちはなぜ代表を選び政治を任せるのか？法の支配はなぜ必要												
					3. 自由・権利と責任・義務	人々の関係が協働的である条件とは？	◎		○									
					4. 日本国憲法に生きる基本原理	日本国憲法が最高法規な理由は何か？												
					1学期中間考査									2				
二学期の評価	6	第1編	法的な主体となる私たち	主題1 法や規範の意義と役割	法が公正なルールであるための基準とはどのようなものがあるか？	1. 私たちと法	ルールを決めるときに必要なことは？		○		2							
						2. 法と基本的人権	自由権にはどのようなものがあるか？どのように保障されている	◎			1							
						3. 自由に生きる権利と法・規範	現存する差別に法はどのような働きをしているか？	◎			1							
						4. 平等に生きる権利と法・規範	安全で豊かな暮らしのために、どのような基本的人権が保障され	◎			1							
						5. 安全で豊かに生きる権利と法・規範	世論や政治に参加し、法をよりよいものにするために、どのよう	◎	○		1							
						6. 法をよりよいものにするための権利	賢い消費者になるために必要なことは何か。		○		2							
	7	第2編	政治的な主体となる私たち	主題2 契約と消費者の	賢い消費者とはどのようなものか？	1. ささまざまな契約と法（よりよい契約を結ぶために）	2. 消費者の権利と責任											
						1. 裁判所と司法					国民が司法に参加する目的は何か。 あなたは裁判員として人を裁けますか？	◎		○	2			
						9	自立した主体となる私たち	主題3 司法参加の意義	公正な裁判をおこなうために私たちが果たすべき責任は何か？	1学期期末考査								2
										主題4 政治参加と公正な世論形成	民主政治を推進するために私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	1. 私たちと選挙	シルバー民主主義とは何か。シルバー民主主義は公正か。	◎	○		1	
												2. 選挙の現状と課題	一票の格差を是正し、投票率の低下を防ぐには何が必要か。	◎			1	
												3. 世論の形成と政治参加（選挙に行こう）	投票する候補者や政党を選ぶ時、どのように比較・判断すればいい	◎	○		1	
4. 国会と立法	民主主義の考え方は、国会のしくみのなかでどう生かされているか。	◎			1													
5. 内閣と行政	もしあなたが〇〇大臣なら、どのような行政サービスを提案しますか。	◎	○		1													
三学期の評価	10	第2編	自立した主体となる私たち	主題5 国際社会と国家主権	主権国家がならび立つ国際社会はどのように成り立っているのか？	6. 地方自治と住民福祉（災害と向きあう～災害と情報）	地域社会の課題に、私たちの意見を反映させるにはどうしたらよいのか。	◎		○	1							
						主題6 日本の安全保障と防衛	日本国憲法の平和主義の下、私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	1. 国家と国際法	国境とは何か。なぜ領土問題が存在するのか。	◎			1					
								2. 国境と領土問題	常任理事国の拒否権を廃止したら世界は変わるのか。	◎			1					
								3. 国際連合の役割と課題	世界で唯一の被爆国の国民として、国際平和を実現するためにどのようなことができるか。	◎			1					
								1. 平和主義と安全保障	核兵器を減らすことで国際平和は実現できるか。	◎			1					
								2. 日本の安全保障体制の変容										
	11	第3編	経済的な主体となる私たち	主題7 国際社会の変化と日本の役割	国際平和を実現するために、日本にはどのような役割が求められているだろうか？	3. 核兵器の廃絶と国際平和	核兵器を減らすことで国際平和は実現できるか。	◎			1							
						1. 今日の国際社会	世界は一体化？分断化？多極化？その原因は何か。	◎			1							
						2. 人種・民族問題と地域紛争	SDG sの達成に向け、日本が、私たちができることは何か。	◎		○	1							
						3. 国際社会における日本の役割												
						未来へ 国際平和のために日本は何ができるのだろうか？								2				
						12	第3編	経済的な主体となる私たち	主題8 雇用と労働問題	活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるには、どうすればいいのか？	未来へ 安心して働くためにはどのような環境が必要だろうか？	2. 労働者と権利（労働トラブルに巻き込まれないために）	私たちは経済にどのように関わっているのか。関わっていくのか。	◎			1	
2. 労働者と権利（労働トラブルに巻き込まれないために）					安心して働くための環境とは、どのようなものだろうか。						◎	○	○	1				
主題9 社会の変化と職業観	現代社会において、私たちは将来の働き方をどのように考えていけばよいだろうか？	1. 日本経済のこれまでとこれから	戦後日本経済のあゆみのなかで、産業が発展し経済が成長した	◎								1						
		2. 技術革新の進展	AIは私たちの生活を幸せにしてくれるのか。	◎								1						
		3. 現代の企業	企業が社会に対して果たすべき役割と責任は何だろうか。	◎								1						
		4. 中小企業の現状と役割	農林水産業の課題とそれを克服するために必要なことは何か。	◎								1						
		5. 日本の農林水産業																
スキル 自分の職業を考えよう						○	○	1										
三学期の評価	12	第3編	経済的な主体となる私たち	主題10 市場経済の機能と限界	公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるのはなぜだろうか？	2学期末考査								2				
						主題11 金融のはたらき	金融市場の役割とは何か。	1. 私たちと経済	人々が公正・公平に経済活動を行うために、政府は何をするべきか。	◎	○		2					
								2. 市場のしくみ	「GAFA」に対し、政府は干渉すべきか。									
								3. 経済発展と環境保全	「開発」と「保護」は両立できるのか。	◎	○		1					
								4. 国民所得と私たちの生活	国の「豊さ」はどのような基準で決めるのか。	◎			1					
								5. 経済成長と国民の福祉										
	1	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	主題12 財政の役割と社会保障	財政や社会保障を持続可能なものにしていくために、政府はどのような役割を果たしていけばよいだろうか？	1. 金融の意義と役割	銀行は社会生活にどのような影響を与えているか。	◎	◎	○	1							
						2. 金融のいま（金融との向き合い方）												
						1. 財政のしくみと租税	あなたが納めている租税（税金）は何に使われているのか。	◎	○		1							
						2. 日本の財政の課題	社会保障制度はなぜ必要か。	◎	○		1							
						3. 社会保障と国民福祉	人口減少社会において、持続可能な社会保障制度にするためには、どのような課題があるか。		○	○	1							
						4. これからの社会保障												
2	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	主題13 経済のグローバル化	貧困や格差などの問題を取り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちはどうあるべきだろうか？	未来へ 持続可能な社会保障制度を維持するにはどうすべきだろうか？	1. 国際分業と貿易	日本のブランド服でも「MADE IN 〇〇」が多いのはなぜか？	◎	○		1							
					2. 国際収支と国際経済体制					円高や円安、なぜ為替相場は変動するのか。	◎	○		1				
					3. 外国為替相場の動き	イギリスはなぜEUを離脱したのか。日中韓の経済的統合は可能か。	◎			1								
					4. グローバル化する経済	自由貿易協定のメリット、デメリットはどのようなことが考えられるか。	◎			1								
					5. 地域的経済統合	発展途上国の経済成長のためには何が必要か。	◎			1								
					6. 国際社会における貧困や格差	地球環境を保護するために、私たちはどのような生活をするべきか。	◎			1								
3	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	主題13 経済のグローバル化	貧困や格差などの問題を取り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちはどうあるべきだろうか？	未来へ 日本のこれらの貿易政策はどうあるべきか？	7. 地球環境問題	SDG sの目標12「作る責任・使う責任」とはどのような意味なのか。	◎			1							
					8. 資源・エネルギー問題					もしあなたが100万円を国際社会に支援するなら、どのように使うか。		○	○	1				
					9. 国際社会のこれから													
					未来へ 国際社会における貧困や格差に日本はどう向き合うべきか？													
					3学期考査								2					
3	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会づくりの主体となる私たちにできることは何か？	1. 排出権取引を考える～地球環境問題 2. ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 3. ゲノム編集を考える～生命倫理 4. インターネットによる投票を考える～情報 5. フェアトレードを考える～国際社会の課題					1～5からいくつか選択し、各2時間程度の授業を行う。					○	○	10		

令和6年度 地理総合 年間指導計画【理数科】

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 使用教科書・副教材

教科書:「わたしたちの地理総合」「基本地図帳」
副教材:「わたしたちの地理総合ワークブック」「アトラスワークブック」

3 年間指導計画例

学期		2 学期制	月	授業 時数	章 配 当 時 数	章	学習項目	学 習 内 容 と ね ら い	節 配 当 時 数	考 査 範 囲	3 学 期	2 学 期				
1 学期	前 期	4 月	5	11	1 章 地 図 と G I S の 活 用	1節 球面上の世界 1.2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。	3	1 学 期 中 間	前 期 中 間						
						2節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。	2								
						3節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。	4								
						4節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム(GIS)のしくみと使い方	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。	2								
2 学期	前 期	6 月	8	30	2 章 生 活 文 化 の 多 様 性 と 国 際 理 解	1節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2.3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル 7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。	8	1 学 期 期 末	前 期 期 末						
						2節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4.5 経済成長 中国 6.7 工業化 タイ・ベトナム	世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。	7								
		7 月	7			3節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5.6 イスラーム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 社会の形成 ラテンアメリカ 9 多文化社会 オーストラリア	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。	9								
	後 期	9 / 1 0 月	1 2			4節 グローバル化の進展と生活文化 1～3 地域統合 EU 4～6 グローバル化 アメリカ	EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。	6	2 学 期 中 間				後 期 中 間			
		11 月	6			3 章 地 球 的 課 題 と 国 際 協 力	1節 人口・食料問題 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ	世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また、人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して、各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。持続可能な発展のために、飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際、モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。								5
							12 月	5								2節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市 ロンドン・ニューヨーク 3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ
3 学期	後 期	1 月	4	15	4 章 生 活 圏 の 諸 課 題	3節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本	エネルギー資源の変化を世界的視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。	4	2 学 期 期 末	後 期 期 末						
		2 月	8			4節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 アラル海	地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには、国際的な協力体制が必要だけでなく、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。	3								
						3 月	4	1節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2～4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え								日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。
合計時数		65	65	65				65								

令和6年度 公民探究 年間指導計画

教科	公民
科目	公民探究
単位数	3
対象学年	3年普通科

科目	公民探究	単位	3	学年	3	普通科
使用教科書	「高等学校 改訂版 現代社会」(第一学習社)			副教材等	「最新現代社会資料集」(第一学習社)	

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。時事問題に関する小論文や演習を通して実践力を身につける。
---------	---

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	知	思	態	評価方法
1学期	4	1 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界 の政治体制	- 民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 - 法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解する。 - 基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の国際的な広がりについて考察する。 - 民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 小論文課題 - 提出課題
	5	④日本国憲法の基本原則 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権	- 日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原理について理解する。 - 大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察し、それぞれの憲法の本質について理解する。 - 天皇の地位と役割について、国民主権と関連させて理解する。 - 日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 - 個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について把握しながら、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について理解する。 - 自由権や社会権、参政権などの基本的人権や新しい人権について理解を深め、その本質を把握する。 - 人権に関する判例を活用しながら、権利と義務との関係や、「公共の福祉」の概念について理解する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
	6	⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利	- 国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高めるとともに、それぞれの役割について理解する。 - 日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。 - 二院制の意義や法律の制定過程、衆議院の優越など、国会に関する基本的事項について把握しながら、国会の課題についても関心を高める。 - 現代の福祉国家の下では、国家機能が複雑化・大規模化して、行政府の役割が増大したことを理解する。 - 裁判員制度について理解し、報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに、刑罰の意義や犯罪被害者の救済、犯罪者の更生について関心を高める。 - 地方自治の本旨を把握しながら、地方分権と住民の権利について理解し、国と地方の関係を考察する。 - 地方財政の現状と地方自治の課題について関心を深め、報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題

期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	7	⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割	- 日本の選挙制度について把握しながら、政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。 - 政党政治や選挙、国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解しながら、政治への関心を高める。 - 選挙結果や投票率の分析・動向などを、さまざまな情報手段を活用して調査し、主権者としての参政のあり方について考察する。 - マス・メディアの役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて理解する。 - 特定の政治的志向をもたない人々の増大や、政治的無関心の広がりについて考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 定期考査
		2 現代の国際政治と日本 ①国際社会と国際法 ②国際連合の組織と役割 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤国際平和と日本の役割	- 国際社会の成立過程を把握しながら、実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。 - 国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 - グローバル化の進展により、国際社会ではNPOや多国籍企業など国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。 - 国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 - 冷戦終結後の国際社会の動向について把握するとともに、冷戦終結後の世界が冷戦時代と比べてどのように変化したのか理解する。 - 民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに、国際社会における文化や宗教の多様性について理解する。 - 国際平和に関する問題について、メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
2	10	3 現代の経済 第1章現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動 ③市場経済の機能と限界 ④経済成長と景気変動	- 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解する。 - 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。 - 株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について関心を高める。 - 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 - 独占、寡占状態の市場での消費者に対する影響と、その弊害を排除するための措置について理解する。 - 国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
		⑤財政のしくみとはたらき ⑥金融のしくみとはたらき ⑦物価の動き ⑧日本経済の歩み	- 財政の基本的なしくみや役割、租税の意義について理解しながら、その使途について関心を高める。 - 日本の財政の現状について、報道資料などから調査し、公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。 - 金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 - 物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 - 人々の生活が豊かになる一方で、公害などの社会問題が発生したことを認識する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
		⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題	- 大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 - 日本の農業が直面している課題について理解する。 - 消費者問題の現状や消費者運動、さまざまな法制度について、諸資料を利用して調査する。 - クレジットやローンなどが日常生活で果たしている役割と、多重債務問題について理解する。 - 情報化が政治・経済・国民生活に及ぼす影響や、高度情報社会の課題について理解する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題

期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
3	1	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題	- 労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義を理解する。 - メディアを利用して、若年層・女性・中高年・障害者・外国人労働者など最近の労働問題をさまざまな視点で調査する。 - 日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 - すべての人が社会に参画するための方法を、諸資料を利用して調査する。 - 化石燃料・原子力発電・新エネルギーのそれぞれの違いとメリット・デメリットを理解する。 - 深刻化している地球的規模の環境問題に関心をもち、どのように乗り越えるべきか考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 小論文課題 - 定期考査
	2	4 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③国際経済の諸問題と日本の役割	- 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 - 国際収支の基本的な構成を把握しながら、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 - 為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 - グローバル化に伴うヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。 - 地域的経済統合やF T A・E P Aについて関心をもち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 - 先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小論文課題 - 演習

令和6年度 地理探究 年間指導計画

令和6年度	学校名	学年	科・コース名	クラス	単位数	
年間指導計画	沖縄県立北山高等学校	3	普通科(Ⅰ・Ⅱ組)	Ⅰ・Ⅱ組(普通科)	3	

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 使用教科書・副教材

教科書：「地理探究」(二宮書店)，「詳解現代地図 最新版」(二宮書店)

3 年間指導計画例

学期 3 学期制	月	授業 時数	編 配 当 時 数	編	節	項	学 習 内 容 と ね ら い	節 配 当 時 数	考 査 範 囲	
1 学期	4 月	9	64	第Ⅰ編 現代世界の 系統地理的 考察	第1章 自然環境			23	単 元 テ ス ト	
					①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレーートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	地形に関わる諸事象の規則性，傾向性や，人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して，「平野の地形」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6		
	②気候と生態系	1 水の循環と利用 2 海洋の循環 3 大気の大循環と気候 4 気候の地域性 5 植生と土壌 新しい視点 自然環境と生態系			気候と生態系に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して，「気候の地域性」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	5				
	③世界各地の自然と生活	1 世界の気候区分 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 4 温帯の自然と生活 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 新しい視点 高山地域の自然と生活			世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して，「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	5				
	④日本の自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災			日本の自然環境に関わる諸事象の規則性，傾向性や，自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して，「自然災害と防災」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	3				
	⑤地球環境問題	1 環境問題に関する大観 2 越境する汚染 3 地球温暖化の現状 4 地球温暖化への対策 新しい視点 環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス			地球環境問題に関わる諸事象の規則性，傾向性や，持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して，「気候変動の影響」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4				
	第2章 資源と産業					17				
	①農林水産業	1 農業の諸条件 2 社会の発展と農業の変化 新しい視点 都市とその周辺で営まれる農業 3 グローバル化・技術革新と農業 4 林業 5 水産業 6 食料問題 日本を知る 日本の農林水産業とその課題			農林水産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，食料問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して，「食料問題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6				
	②資源・エネルギー	1 社会の発展と資源の利用 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化 日本を知る 日本の資源・エネルギー問題			資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性，傾向性や，資源・エネルギー問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して，「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4				
	③工業	1 社会の発展と世界の工業化 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 新しい視点 知識集約型産業の発展 日本を知る 日本の工業 変化と課題			工業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して，「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6				
	④第3次産業	1 サービス経済化と社会の変化			第3次産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，サービス経済化の現状や要因，解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して，「サービス経済化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	1				
9 月	11	第3章 人・モノ・金のつながり				7	2			
		①交通・通信			1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信 新しい視点 交通・通信の発達と買い物行動の変化 日本を知る 日本の暮らしを支える交通とその課題	交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，交通・通信に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して，「交通と通信の課題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。		3		
		②貿易・観光			1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題 日本を知る 日本の観光とその課題	運輸，観光に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，貿易・観光に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して，「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。		4		

2 学期	10 月	11			第4章 人口、村落・都市		9	学 期 中 間			
					①人口	1 人口の推移と分布 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 4 人口増加地域、減少地域の人口問題 日本を知る 日本の人口問題	人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			5	
					②村落・都市	1 集落の成り立ちと機能 2 都市の成り立ちと機能 新しい視点 都市の拡大と都市システム 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 日本を知る 日本の都市・居住問題と解決への努力	村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4	
					第5章 文化と国家		8				
					①生活文化と言語・宗教	1 生活文化と地域 2 世界の衣服 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 6 世界の宗教	生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4	
	11 月	11				②国家とその領域	1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 新しい視点 北極圏と南極圏 5 国際連合の役割と課題	国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4	後 期 中 間	
						第1章 地域区分	1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法	地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	2		
						第2章 現代世界の諸地域		35			
						①中国	1 経済の改革開放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題	世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	4		
						②朝鮮半島	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係	隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2		
12 月	8				海洋① 環日本海		日本を含む環日本海諸国との関係について探究させる。		2 学 期 期 末		
					③東南アジア	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多様な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の発展的変化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。	3			
					④南アジア	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	3			
					⑤西アジア・中央アジア	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係	乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3			
					⑥北アフリカ・サブサハラ アフリカ	1 自然環境と農業 2 歴史と文化 3 産業と経済発展 4 地域紛争と国際関係	広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3			
3 学期	1 月	10			海洋② 環インド洋		環インド洋地域の変化や世界各地への影響、日本が貢献できることを探究させる。		3 学 期 期 末	後 期 期 末	
					⑦ヨーロッパ	1 統合するヨーロッパ 2 統合の背景としての文化の多様性 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5 ヨーロッパの変化と課題	地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。	5			
					⑧ロシア	1 自然環境と民族・文化 2 体制転換と産業の変化 3 ロシアと世界の結びつき	世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2			
					⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ	広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	4			
					⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族、拡大する都市 3 鉱工業の移り変わり 4 地域内外との政治的・経済的関係	南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	3			
	2 月	10				海洋③ 環大西洋		地域開発と経済発展について環大西洋地域の結びつきについて探究させる。		3 学 期 期 末	後 期 期 末
						⑪オーストラリア	1 自然と農牧業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。	2		
						⑫ニュージーランドと島嶼 国	1 オセアニアのなかのニュージーランド	日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	1		
						海洋④ 環太平洋		日本をはじめ環太平洋地域との結びつきについて探究させる。			
						①現代日本に求められる国 土像	1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然市街に強い国土をめざすには 2 テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 2 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには 2 テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身に付けさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第Ⅰ編で学んだ基本的な知識や、第Ⅱ編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について	4		

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目全体の評価の観点の概行

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

3 学習の評価標準と評価方法

編 章	節	項	時配 数当	知識・理解	評 価 の 規 準 思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法	
第1章 自然環境	①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレーートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	6	●地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、地形の形成に関する様々な情報を適切に読み取り、まとめることができる。	●地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を基に、「平野の地形はどのように利用されてきたのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●地形とその利用について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●知識・技能 ・地形図の読み取りやハイサーグラフを作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題	
		②気候と生態系	5	●気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、ハイサーグラフなど気候と生態系に関する情報を適切に作成することができる。	●大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を基に、「地域による気候の違いにはどのような背景があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●気候の変化と生態系の維持について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●思考・判断・表現 ・地域の望ましい防災のあり方を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査の問題	
	③世界各地の自然と生活	5	1 世界の気候区分 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 4 温帯の自然と生活 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 新しい視点 高山地域の自然と生活	●世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解することができる。 ●統計やGISなどを用いて、気候に関するグラフを適切かつ効果的に読み取り、まとめることができる。	●気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を基に、「厳しい自然環境の中で人々はどのように工夫して暮らしているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●世界各地の自然と生活について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート	
	④日本の自然環境と防災	3	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災	●日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、防災に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を基に、「自然災害にどのように対処すればよいだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●日本の自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
	⑤地球環境問題	4	1 環境問題に関する大観 2 越境する汚染 3 地球温暖化の現状 4 地球温暖化への対策 新しい視点 環境問題への国際協力とシズン・サイエンス	●地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な開発のあり方などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、地球環境問題に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を基に、「地球温暖化は生態系や人間生活にどのような影響を与えているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
第2章 資源と産業	①農林水産業	1 農業の諸条件 2 社会の発展と農業の変化 新しい視点 都市とその周辺で営まれる農業 3 グローバル化・技術革新と農業 4 林業 5 水産業 6 食料問題 日本を知る 日本の農林水産業とその課題	6	●農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、農林水産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を基に、「世界の栄養不足人口の分布に地域的な偏りがあるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●農林水産業の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●知識・技能 ・産業に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題	
		②資源・エネルギー	4	1 社会の発展と資源の利用 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化 日本を知る 日本の資源・エネルギー問題	●資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、資源・エネルギーに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を基に、「資源の産出と消費にはどのような地域的な特徴と地域的結びつきがみられるか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●資源・エネルギーの生産と消費について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
	③工業	6	1 社会の発展と世界の工業化 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 新しい視点 知識集約型産業の発展 日本を知る 日本の工業 変化と課題	●工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、工業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を基に、「知識集約型産業は今後どのように展開していくのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●工業の発展について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
	④第3次産業	1	1 サービス経済化と社会の変化	●第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、第3次産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を基に、「サービスの需要の拡大と発展は社会にどのような影響をもたらすのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●産業構造の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
第3章 人・モノ・金のつながり	①交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信 新しい視点 交通・通信の発達と買い物行動の変化 日本を知る 日本の暮らしを支える交通とその課題	3	●交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、交通・通信に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して、「交通と通信の課題」などの主題を基に、「通信手段の発達にはどのような生活の変化や課題を生じさせているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●交通と通信の発達について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●知識・技能 ・貿易に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート・教科書の内容を確認する定期考査問題 ●思考・判断・表現 ・貿易の進展に伴う問題の望ましい解決策を判断し、適切に図示するワークシート	
		②貿易・観光	4	1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題 日本を知る 日本の観光とその課題	●運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、貿易・観光に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を基に、「地域的な経済連携は、なぜのように進められてきたのか」や「観光が経済や観光にどのような影響を与えているのか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●経済連携の進展や観光の多様化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
第4章 人口・村落・都市	①人口	1 人口推移と分布 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 4 人口増加地域、減少地域の人口問題 日本を知る 日本の人口問題	5	●人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、人口に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を基に、「世界の人口分布や各国の年齢別人口割合は今後どのように変化するのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●世界及び日本の人口問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●知識・技能 ・人口に関わる主題図の読み取りや村落の新旧地形図を比較するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題 ●思考・判断・表現 ・人口問題や都市問題の望ましい解決策を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題	
		②村落・都市	4	1 集落の成り立ちと機能 2 都市の成り立ちと機能 新しい視点 都市の拡大と都市システム 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 日本を知る 日本の都市・居住問題と解決への努力	●村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、村落・都市に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●世界の都市問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート	
第5章 文化と国家	①生活文化と言語・宗教	1 生活文化と地域 2 世界の衣服 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 6 世界の宗教	4	●生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、生活文化と言語・宗教に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を基に、「世界各地で主食が異なるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●生活文化と言語・宗教について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●知識・技能 ・景観写真の読み取りや民族紛争に関する主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題 ●思考・判断・表現 ・民族紛争や領土問題の望ましい解決策を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題	
		②国家とその領域	4	1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 新しい視点 北極圏と南極圏 5 国際連合の役割と課題	●国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、国家とその領域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を基に、「民族紛争や領土問題の背景には何があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●民族・領土問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
第1章 地域区分		1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法	2	●地域概念や地域区分の意義、有用性を理解し、地域区分の方法を身に付けている。 ●地域区分の学習を通して、現代世界の多様性・多面性について理解することができる。	●州や自然、文化、国家群などで地域を区分する方法を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 ●地域区分の概念、意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	●現代世界をいくつかの地域に区分する方法や、地域概念、地域区分の意義、その有用性を基に、地域区分に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、かつ活用しようとしている。	●知識・技能 ・教科書の内容を確認する定期考査の問題 ●思考・判断・表現 ・作成した世界の地域区分図の考察 ●主体的態度	
	①中国	1 経済の改革开放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題	4	●中国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農業について、経済成長と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●中国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農業について、経済成長と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●中国の経済成長に着目し、様々な分野における日本をはじめ世界への影響力について関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●中国の人口や民族に関する課題意識を高め、背景と現状、対策などについて意欲的に追究している。	●知識・技能 ・世界の諸地域にみられる地域的特色や地誌的課題を整理するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題 ●思考・判断・表現 ・三つの地誌的考察方法を活用して諸地域の地域的特色や地誌的課題を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査の問題 ●主体的態度 ・本単元で学んだことを実生活に適切でできるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート	
		②朝鮮半島	2	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係 海洋① 環日本海	●韓国の歴史的背景や、自然や文化、産業、都市や人口に関わる問題について、日本を含む環日本海地域との関係を関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●隣国である韓国の歴史的背景、自然や文化について、日本との関係もふまえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●韓国の経済成長や、都市・人口問題への課題意識を高め、背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。		
	③東南アジア	3	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	●東南アジアの歴史的背景や民族、自然、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●東南アジアの歴史的背景や民族、自然、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●東南アジアの自然、資源、産業について、日本との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●東南アジアの民族問題や居住・都市問題への課題意識を高め、その背景と現状や対策について意欲的に追究しようとしている。		
	④南アジア	3	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	●南アジアの歴史的背景や文化・民族、自然、人口、産業、経済連携について、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●南アジアの歴史的背景や文化・民族、自然、人口、産業、経済連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●南アジアの自然、資源、経済成長にともなう国際連携について、日本との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●南アジアの民族問題や人口問題への課題意識を高め、その背景と現状や対策について意欲的に追究しようとしている。		
	⑤西アジア・中央アジア	3	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化、民族問題、自然、農業、資源について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化、民族問題、自然、農業、資源について、二つの地域を比較しながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●西アジア・中央アジアの自然、資源、産業、文化・生活について、二つの地域を比較しながら関心を高め、その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。 ●西アジア・中央アジアの資源や民族紛争への課題意識を高め、その背景と現状、対策について二つの地域を比較しながら意欲的に追究しようとしている。		

現代世界の地誌的考察	第2章 現代世界の諸地域	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係 海洋② 環インド洋	3	●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族、自然、産業、経済構造について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族、自然、産業、経済構造について、二つの地域を比較しながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの自然や民族・文化について、二つの地域を比較しながら関心を高め、その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。 ●北アフリカ・サブサハラアフリカの経済構造や民族問題への課題意識を高め、その背景と現状、対策について二つの地域を比較しながら意欲的に追究しようとしている。
		⑦ヨーロッパ	1 統合するヨーロッパ 2 統合の背景としての文化の多様性 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5 ヨーロッパの変化と課題	5	●ヨーロッパの歴史的背景や民族、自然、農業、鉱工業、貿易と交通、地域連携について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●ヨーロッパの歴史的背景や民族、自然、農業、鉱工業、貿易と交通、地域連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●ヨーロッパの自然、農業、鉱工業、民族について、日本との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●ヨーロッパの多くの国が加盟するEUへの課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
		⑧ロシア	1 自然環境と民族・文化 2 体制転換と産業の変化 3 ロシアと世界の結びつき	2	●ロシアの歴史的背景や民族、自然、産業の変化、地域格差、交通について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●ロシアの歴史的背景や民族、自然、産業の変化、地域格差、交通について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●ロシアについて、歴史的背景に着目し、産業・生活の変化、世界との結びつきに関して、隣国日本との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●ロシアの環境問題や民族問題への課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
		⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ	4	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●アングロアメリカの自然、産業、民族・文化について、日本との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●アメリカの都市・居住問題や国際関係への課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
		⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族、拡大する都市 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ 海洋③ 環大西洋	3	●ラテンアメリカの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題、経済連携について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●ラテンアメリカの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題について、日本や環大西洋地域との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●ラテンアメリカについて、歴史的背景や民族、貿易について、環大西洋地域との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●ラテンアメリカの自然・産業や、これに関連した環境問題・都市問題への課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
		⑪オーストラリア	1 自然と農業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	2	●オーストラリアの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題、経済連携について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●オーストラリアの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題について、日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●オーストラリアについて、自然、産業、貿易について、日本をはじめ世界各国との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●オーストラリアの歴史的背景や民族、これに関連した産業と開発への課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
		⑫ニュージーランドと島嶼国	1 オセアニアのなかのニュージーランド	1	●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。	●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。 ●地図や統計を活用し、さまざまな課題や今後の日本との関係について多面的・多角的に思考したことを適切に表現することができる。	●ニュージーランドや島嶼国について、歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、日本をはじめ環太平洋諸国との関係を踏まえつつ関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 ●ニュージーランドや島嶼国の経済や災害への課題意識を高め、その背景と現状、対策について意欲的に追究しようとしている。
Ⅲ これから現代世界の国土像		①現代日本に求められる国土像	1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然市街に強い国土をめざすには 2 テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 2 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには 2 テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	4	●自然災害や産業の変化、人口減少、多文化共生社会への対応など、現代世界における日本の国土の特色や諸課題について、個人や国、国際社会などからの多角的で客観的な視点を身に付けることができる。 ●日本がかかえる地理的な諸課題を探究する過程において、主体的に課題を設定して探究し発表するという過程を通し、課題解決への視点や方法を身に付けることができる。	●自然災害や産業の変化、人口減少、多文化共生社会への対応など、日本の国土や社会・経済の特色について、これまでの地図・系統的・地誌的学習をふまえ様々な視点から客観的に考察し、その過程や結果について適切に表現することができる。 ●日本がかかえる地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果、今後の改善策について適切に表現することができる。 ●あるべき国づくりや地域づくりについて考察し、自分なりの国土像・地域像や国際関係を見出し、その過程や結果について適切に表現することができる。	●知識・技能 ・課題の解決に向けて、これまでに学んできたことの整理 ●思考・判断・表現 ・探究した内容について適切に文章化、表・グラフ化すること、発表内容・方法、質疑応答 ●主体的態度 ・授業での取り組みや発言等の学習状況

令和6年度 日本史探究 年間指導計画

令和6年度		学校名	学年	科・コース名	クラス	単位数	担当者	予 定 時 数
年間指導計画		沖縄県立北山高等学校	3	普通科(I組)	I組（普通科）	3		
月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準				
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
				■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	■評価の方法 ・討論や発表 ・ワークシート		
1 学 期 前 半	第1編 原始・古代の日本と東アジア							
	第1章	■第1章のねらい ・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い，原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し，総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・旧石器文化から縄文文化への変化，弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し，原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。		・旧石器文化から縄文文化への変化，弥生文化の成立などを基に，黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成，原始社会の特色を理解している		・自然環境と人間の生活との関わり，中国大陸や朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係，狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して，環境への適応と文化の形成について，多面的・多角的に考察し，表現している。黎明期の日本列島の変化に着目して，原始社会の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。		・時代を通観する問いを表現する学習については，知識・技能や思考・判断・表現力の学習や，原始社会の特色についての考察などを踏まえ，例えば，身近な地域や周辺の地域の縄文や弥生などの時代の遺構や遺物から分かることなどを確認し，生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を交えて，相互に表現する。それらの疑問を基に，教師が問いかけをおこなうなどして，原始社会の特色について課題意識をもって考察するよう指導を工夫する。それらを踏まえて，生徒が，例えば，「集落や国家は何を契機とし，何を目的に形成されたのだろうか」など，原始社会の特色と古代の国家や社会を展望する手がかりを得るための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習をおこなう。
	各節の記入例	○学習課題＝主題 ・●●を考える。	・●●に着目させる。 ・●●に気づかせる。 ・●●について多面的・多角的に考察させる。	・●●について理解している。（知識） ・●●などについて必要な情報を収集し，読み取り，まとめることができる。（技能）	・●●について多面的に考察している。 ・●●の課題についてレポートにまとめるなど，適切に表現している。 ・●●について問いを見いだし，●●の観点などから協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。	・●●について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に，●●について学習したことを社会生活に生かそうとしている。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	1. 列島に暮らしはじめた人々	○日本列島の歴史はいつ、どのようにはじまったのだろうか。 ・人類のはじまりと世界への広がりを考える。 ・日本列島に人々が暮らしはじめた旧石器時代とそのつぎの縄文時代について考える。	・p. 10①の地図を参考に人類がどのようにひろがったのか、私たちの先祖がどこからきたのかに着目させる。 ・地図③をみて、日本列島に住む人々にとり石材が重要であったことに気づかせる。 ・縄文時代がどのような特徴をもっているかを、具体的なものを対象に多面的・多角的に考察させる。	・p. 10図②をみて、人類の進化が一直線ではなかったことを理解している。（知識） ・p. 11図④を使って、縄文時代の人々がどのような1年を過ごしていたのかを衣・食・住に分けて説明することができる。（技能） ・p. 11写真⑤⑥を使って、縄文時代に使用されていたものの特徴や作られた背景を説明することができる。（技能）	・p. 10の地図①を使ってホモ=サピエンスが地図が示すような広がりを見せた理由、図②を使って「頑丈型猿人」が途中で絶滅した理由を多面的・多角的に考察している。 ・トライにある「定住的な暮らしができるようになった理由をまとめてみよう」という問いp. 11の図④や本文の記述を利用して多面的に考察している。 ・旧石器時代の研究がいつからはじまったのか、そして旧石器時代の開始時期をさぐる研究の難しさを、「Topic」の記述を参考にして多面的に考察している。	・縄文時代の開始と温暖化の関係を考え、あわせて今日における地球温暖化が人類に及ぼす影響にも視野を広げることによって社会生活に活かそうとしている。 ・人類の誕生から日本列島に人々が定住するまでの流れを主体的に追究して、人類と地球との共生をいかに図っていくかという今日的な学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	2. 農耕がうまれる	○弥生文化はどのようにしてうまれたのだろうか。 ・縄文文化の時代的な変化や地域的な違いについて考える。 ・縄文時代から弥生時代に移行した経過や理由を考える。	・p. 12の地図①をみて植物の利用の地域差に着目させる。 ・縄文文化と弥生文化の共通点と相違点を多面的・多角的に考察させる。 ・「Link」の記述を読み、教科書に載せられていた記述が学説の変化とともに変わっていくことに気づかせる。	・p. 12の本文と前のp. 11の本文記述を比較して、縄文時代を通じて共通しているところと変化したところの違いをまとめることができる。（技能） ・p. 12～13の本文をみて、縄文文化と弥生文化の違いを指摘し、説明することができる。（技能） ・p. 12の地図④やp. 13の写真⑤を参考に、農耕が日本列島の文化に与えた影響をまとめることができる。（技能）	・p. 12の③を参考に、人間の頭部が丸いものと三角形のものが何を表しているのかを説明し、弥生時代の男女の役割分担について多面的・多角的に考察している。 ・トライの「弥生時代の生活は、縄文時代とどこがちがうだろうか」という問いを教科書の本文を参考にしながら多面的に考察している。 ・寒冷化など地球環境の変化と日本列島で農耕文化が誕生したことの関係を考え、環境が人々に与える影響について多面的・多角的に考察している。	・p. 12地図①やp. 13の本文記述にある北海道や東北北部の続縄文時代や奄美・沖縄の独自の狩猟・採集文化の記述を参考に、今でも残る日本における地域差について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・p. 12の地図④やp. 13写真⑦をみて、日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係や影響について多面的・多角的に考察し、今日における国際関係を考える政治の学習など社会生活に活かそうとしている。	1
	原始・古代のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は、はたらいたりあそんだりするだろうか。原始・古代の人々のはたらきかた、あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・生きるためにはたらくこと、古墳をつくることを題材にはたらくことに着目させる。 ・大人のアソビやものづくりを題材にあそぶことの意味に着目させる。	・はたらくことの目的を写真やグラフをみて説明することができる。古墳をつくることをを通じてこれを支える集団についてまとめることができる。（知識） ・写真③④をみて、この当時のアソビについて説明することができる。（技能）	・TRYの「縄文時代と古墳時代のはたらきかたは、どのような違いがあるだろうか」という問いに対して、さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・縄文時代や古墳時代のはたらきかたやアソビかたと現在のわたしたちを比較して、現代社会に生きるわたしたちのありかたを考えようとする学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3. クニがうまれる	○クニはどのようにしてできたのだろうか。 ・日本列島にクニができたことによる影響について考える。 ・日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係を考える。	・クニができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・日本列島が周りの地域の影響を受けながら変化していったことに着目させる。 ・中国の歴史書の記述と日本の考古学の成果と符合する点に気づかせる。	・クニができたことや戦争がはじまったこと、どのような武器があったかをまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について、日本列島と中国との交流、日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀，1世紀，2世紀，3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「たがいに争っていたクニが，なぜまとまったのだろうか」という問いをさまざまな資料を使って考え，グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・『漢書』地理志・『後漢書』東夷伝・『魏志』倭人伝の記述をみると，『魏志』のみ大陸から人が来ていることがわかる。なぜこの時期に大陸から人が来たのかを当時の国際情勢を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・「時代を通観する問いをたてよう」の「人類誕生から古代の国家や社会が形成されるまでの変化について，あなたはどのような点に疑問をもつか，文章にしてみよう」という問いに答え，学習上の課題を解決しようとしている。また，当時の国際関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	歴史資料と原始・古代の展望	○文字による記録からみえる家族と男女について考えてみよう。	・史料①をみて，中国の歴史書が弥生時代の倭人の社会をどのように記しているか着目させる。 ・史料②をみて，家族の系譜がどのように書かれたのかに着目させる。 ・史料④⑤をみて，戸籍や計帳が家族や男女をどのようにとらえていたのか着目させる。	・史料①の『魏志』倭人伝の内容を3節の記述を参考にしながらまとめることができる。（技能） ・史料②の書かれている内容をまとめ，写真③の古墳が横穴式石室であることとの関連を説明することができる。（知識） ・史料④にp. 19のQ. 2の図に書き込むことができる。（技能）	・史料①のQ. 1の女王の存在に関する問いと王の選任について多面的・多角的に考察することができる。 ・史料②のQにある史料が伝えようとしていることはなにかという問いに多面的に考察できる。 ・史料④⑤のなかで，男性と女性がどのように書き分けられているか多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の原始・古代の社会における男女の役割や家族のあり方について仮説をたて，今日の社会と比較することでこの問題を多面的・多角的に考察できる。	1
	4. ヤマト政権の形成	○古墳の大きさや分布から何がわかるだろうか。 ・古墳時代の特徴について考える。 ・古墳時代の時間的な変化や地域差を考える。	・古墳ができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・古墳が単なる墓ではなく，権力の象徴であることに着目させる。 ・古墳の変化と仏教との関係に気づかせる。	・p. 20地図②を参考に古墳の発生と日本列島への広がり，写真①や表③をみて規模の変化をまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について，日本列島と中国との交流，日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀，1世紀，2世紀，3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「古墳や出土品から古墳時代の社会についてどんなことがわかるか，まとめてみよう」という問いをさまざまな資料を使って考え，グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 20写真1や地図②，表③をみて5世紀の巨大な前方後円墳が大阪湾沿いに造られた理由や縦穴式石室が横穴式に変化していった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 20写真④やp. 21写真⑤⑥⑦，本文記述をみて，大型古墳に女性が埋葬されている事例がたくさんあること，埴輪における男性と女性の分類について考え，今日のジェンダーの視点ともあわせ多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5. 倭の五王と氏姓制度	○倭国は、朝鮮半島諸国や中国とどのように かかわったのだろうか。 ・倭国をはじめとする日本列島の勢力と中国 や朝鮮半島との関係について考える。 ・ヤマト政権の支配構造について考える。	・朝鮮半島の情勢が倭国など 日本列島にある勢力に与えた 影響を多面的に考察させる。 ・倭の五王が中国に使者を派 遣した理由が朝鮮半島と関係 あることに着目させる。 ・ヤマト政権がどのようにし て豪族を管理しようとしたの かに着目させる。	・p. 22地図①と史料③、写真⑤⑥を参考に倭国 が朝鮮半島にどのように進出していたかをまと め、その目的について説明することができる。 （技能） ・写真⑦や「ひと」の筑紫国の君磐井にかんす る文章をみて、ヤマト政権の土地法との関係を 具体的に説明することができる。（技能） ・渡来人がもたらした技術や文化について、道 具、文字、学問など分野ごとに説明することが できる。（知識）	・TRYの「この時期の政治情勢を、中国、朝鮮半 島諸国、倭国それぞれの立場から考えてみよ う」という問いをさまざまな資料を使って考 え、グループワークなどを通じて多面的・多角 的に考察することができる。 ・『宋書』倭国伝で倭王武が求めた称号と宋の 皇帝から与えられた称号には違いがある。その 理由やそれぞれの地名や国名が書かれている意 味について多面的・多角的に考察することがで きる。	・生徒が住んでいる地域とヤマト政権の関係を 考え、たとえば北海道や沖縄ではどのような歴 史があるのかをあわせて考え、ヤマト政権イ コール日本ではないことを多面的・多角的に考 察できる。	1
	歴史のなかの動物 犬と猫	○犬と猫は、どのようにして人間とともに生 きるようになったのか考えてみよう。	・狩りの仲間である犬につい て考える。 ・穀物を守る猫について考え る。	・縄文時代と弥生時代の人間生活における犬の 役割を説明することができる。（技能） ・弥生時代と平安時代の人間生活における猫の 役割を説明することができる。（技能）	・p. 24の写真をみて、縄文時代と弥生時代の犬 と人間との共生について多面的・多角的に考察 することができる。 ・p. 25の写真をみて、弥生時代と平安時代の猫 と人間との共生について多面的・多角的に考察 することができる。	・「人と犬、猫との関係はどのようにかわって きただろうか」という問いに答え、学習上の課 題を解決しようとしている。また、現在の関係 も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	第2章	■第2章のねらい ・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い、原 始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考 察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・古代の国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関 係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の 画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の 育成を図りつつ、古代の日本の国家・社会の展開について理解することをね らいとしている。	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程 と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政 治・社会や文化の特色を理解している。貴族政 治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武 士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、 古代の社会と文化の変容を理解している。	・中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中 国王朝との関係と政治や文化への影響などに着 目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古 代の国家の形成の過程について、事象の意味や 意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを 根拠を示して表現している。地方の諸勢力の成 長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変 化と文化との関係などに着目して、主題を設定 し、古代の国家・社会の変容について、事象の 意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考 察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期 などを根拠を示して表現している。	・原始社会の特色や古代の国家や社会との関わ りの理解や時代を通観する問い、古代を展望す る仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、古 代の国家や社会の展開について、事象の意味や 意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴 史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠 を示して表現する学習を通じて、古代がどのよ うな時代であったかを理解するとともに、思考 力、判断力、表現力等の育成を図る。学習に当 たっては、資料を活用して歴史を考察したりそ の結果を表現したりする力を段階的に高めてい くことが必要であり、様々な資料の特性に着目 して複数の資料の活用を図り、資料に対する批 判的な見方を養うとともに、因果関係を考察し たり、解釈の多様性に気付くようにする。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6．飛鳥の朝廷	○倭国が隋と外交をすすめたのはなぜだろう。 ・ 隋の建国による朝鮮半島と日本列島への影響について考える。 ・ 飛鳥文化とその背景について考える。	・ 隋の建国と朝鮮半島の動き、倭国の外交との関係に着目させる。 ・ 冠位十二階や憲法十七条など倭国の国政改革が隋との関係でおこなわれたことに気づかせる。 ・ 飛鳥文化と朝鮮半島各国とくに百済の影響について多面的に考察させる。	・ p. 26①の法隆寺の伽藍配置、写真②の2つの半跏思惟像、地図③、p. 27の写真⑦をみて、倭国と朝鮮半島との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 26の史料④の『隋書』倭国伝の記載、倭国の国政改革を時系列にならべてまとめることができる。（技能） ・ p. 27の系図⑤を使って、天皇と蘇我氏との関係を具体的に説明することができる。（知識）	・ p. 26史料④で、隋の皇帝が怒ったのにもかかわらず倭国との関係を絶たなかった理由を朝鮮半島情勢とからめて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27写真⑦の「読み解きのツボ」にあるように、2つの瓦の比較、日本の文化への影響についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27「Topic」の「暦と時の支配」にある水時計が権力とどのような関係にあるのか、時を司る信仰がほかの地域でないかなど、時間の支配の重要性を多面的・多角的に考察することができる。	・ かつては聖徳太子という呼び名が主流だったが今日では厩戸王という表記が主体となってきた。呼び名の違いが意味することをグループワークで検討し、今日にも同じ例がないかを考察し学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7．大化改新から壬申の乱へ	○ヤマト政権の政治改革の特徴を東アジアの視点から考えてみよう。 ・ 大化改新の背景、内容、その後の影響について考える。 ・ 壬申の乱の背景、内容、影響について考える。	・ 大化改新が隋が滅んで唐が建国したこと、朝鮮半島情勢の変化の影響によるものであることに着目させる。 ・ 白村江の戦いの敗北がヤマト政権の政策に与えた影響について多面的に考察させる。 ・ 天武・持統朝の政策の背景や内容に着目させる。	・ p. 28地図①をみて唐を中心とした冊封関係、p. 29写真⑧の朝鮮との関係など日本列島をめぐる当時の国際関係について説明することができる。（知識） ・ p. 28史料②の「大化改新の詔」の内容とそれまでの制度との違いを説明することができる。また、「改新の詔」の文章がそのまま当時のものではないことをp. 28写真③で説明することができる。（知識） ・ 7世紀のヤマト政権の政治で、法制度がどのような整備されていったのか、当時のヤマト政権の状況をふまえつつまとめることができる。（技能）	・ p. 28系図④をみて、女性天皇を探し出し、女性天皇が誕生した背景を多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめることができる。 ・ TRYの「壬申の乱を経て、天皇と豪族の関係はどのように変化していったのか、考えてみよう」という問いに対して多面的・多角的に考察することができる。	・ 7世紀の女性に着目して、現在と比較してみよう。そして女性の地位について歴史的背景を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	8．律令国家の形成	○律令国家の政治体制とは、どのようなものだろうか。 ・ 律令国家の成立と政策の内容について考える。 ・ 律令国家の時代の民衆はどのような支配を受けていたのだろうか。	・ 律令の内容を通じて、古代国家がどのような統治をめざしていたのか着目させる。 ・ 律令国家を支える都や地方行政、交通制度について着目させる。 ・ 民衆の負担が多岐にわたることに気づかせる。	・ p. 30「Link」にある長屋王邸宅にかんする記事をみて、当時の有力者の生活をまとめ、説明することができる。（技能） ・ 7世紀の有力豪族が8世紀においてどのような地位にあったのかをp. 30の本文記述や図②を使って説明することができる。（知識） ・ p. 31地図⑤、表紙裏の「国県名対照表」を使って地方の区分について説明することができる。（知識）	・ p. 31地図⑤をみて、古代の都の構造について、宮の場所、貴族の邸宅、寺院、市場、通路などを手がかりにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「律令国家は、民衆にどのような負担を強いたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 31「資料を読みとろう」をみて、赤枠の中身を読み取り、この荷札の内容、上下に切り込みがある理由などを多面的・多角的に考察することができる。	・ 律令国家の制度と現在の日本の象徴を比較して、今日の状況を歴史的に追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	9．東アジアのなかの天平文化	○日本は唐，新羅，渤海とどのような関係をもとうとしたのだろうか。 ・ 東アジアの国際関係について考える。 ・ 天平文化の内容と国際性について考える。	・ 律令国家と唐，新羅，渤海との国際関係，遣唐使の役割に着目させる。 ・ 天平文化には国際的な背景があることに気づかせる。 ・ 8世紀における仏教の役割について多面的に考察させる。	・ p. 32写真①②，地図③を参考に遣唐使が航路を変更した背景，危険性，意義についてまとめることができる。（技能） ・ p. 33写真⑤⑥⑦を使って，天平文化の内容を具体的に説明することができる。（知識） ・ TRYにある「天平文化の特徴をまとめてみよう」という課題に答えることができる。（技能）	・ Link「唐の都でなくなった留学生」を読み，遣唐留学生が派遣された理由，「日本」という国号が使われた意義について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 33写真⑥や⑦について，どのようなルートで日本に来たのか。P. 6～7の地図を活用して日本列島と世界とのつながりを多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「ひと」の行基が弾圧されたのちに律令国家に迎えられた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・ 天平文化の国際性を参考に，今日における日本の文化と外国との関係を比較して，文化の国際性を比較追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	10．奈良時代の政治と社会	○聖武天皇はなぜ，都を転々と移したのだろうか。 ・ 奈良時代の政治情勢について考える。 ・ 土地政策の変化とその後の影響について考える。	・ さまざまな政変を通じて藤原氏が権力を掌握していく過程に着目させる。 ・ 疫病や飢饉などの社会不安が政治に影響を与えることに気づかせる。 ・ 8世紀における政治の役割について多面的に考察させる。	・ p. 34の写真①④を参考に大仏や寺院建設に人々のどのような思いが込められているかまとめることができる。（技能） ・ p. 34の「ひと」の光明皇后，系図③の孝謙天皇など女性の活躍について説明することができる。（知識） ・ 土地制度の変化について，三世一身法，墾田永年私財法，初期荘園などのキーワードを使って説明でき，p. 35史料⑤の三世一身法の20年後に史料⑥の墾田永年私財法が出された理由も説明することができる。（技能）	・ TRY「奈良時代の仏教はどのような役割をはたしていただろうか。」「大仏」や「道鏡」をキーワードに考えてみよう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 34地図②や本文記述を参考に，都を転々とした理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ Topic「東国の民衆と防人」をみて，兵士の負担や東国の人々が選ばれた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・ 今に残る8世紀に関係する地名を探ってみよう。たとえば国分寺は国分寺，国分など，国府があった場所は国府津，国府台，府中などがある。身の回りの地名と歴史との関係について考え，今に残る歴史を追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	原始・古代のたたかう・つながる	○たたかうとはどういうことだろうか。つながるとはどういうことだろうか。古代の人々はどのような場面でたたかい，どのようなときに人とつながろうとしたのか。具体的な事例をもとに考える。	・ 伊治皆麻呂が多賀城を焼きはらった理由に着目させる。 ・ 大仏造営を通じた人々のつながりに着目させる。	・ 古代の蝦夷とヤマト政権との関係を時期ごとに説明することができる。（知識） ・ 仏教が国家仏教となるまでの過程を説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「律令国家はなぜ，東北地方の蝦夷と長い間にわたって戦争を続けたのだろうか」という問いに対して，多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「東大寺の大仏造営を発案した聖武天皇はどうして，みんなの力で大仏をつくることをよびかけたのだろうか」という問いに対し，グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び，現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて，その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し，多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 1．平安時代初期の政治と文化	○桓武天皇はなぜ遷都や東北地方の支配拡大をおしすすめたのだろうか。 ・ 平安時代初頭の政治改革と版図の拡大を考える。 ・ 平安時代初期の文化を考える。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・ 平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・ 藤原北家の当主がどのような方法で権力をにぎっていったのかを説明することができる。（知識） ・ 平安初期の政治改革で律令政治の修正をおこなった。どのような変更をおこなったのか説明することができる。（技能） ・ 平安初期の仏教文化と天平文化との違いをまとめることができる。（技能）	・ p. 38の本文や地図②をみて、東北地方の兵役義務を停止して、健児を置いた理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「平城太上天皇の変は、その後の政治にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 39写真⑥や本文を参考に、この時代の寺院が従来の伽藍配置を踏襲していない理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 39の「ひと」の「阿弔流為」を参考に、律令国家からではなく、東北地方からみた歴史を描いてみて、さまざまな視点から歴史をみることの重要性を現代的な問題と比較して多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 2．摂関政治と国風文化	○摂関政治はどのようにしておこなわれるようになったか。 ・ 藤原北家の発展と摂関政治の確立について考える。 ・ 平安時代中期の国風文化について考える。	・ 藤原北家の当主がどのようにして権力を手にしていったのかを他の時代と比較して多面的に考察させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化に着目させる。 ・ 平安時代中期の国風文化の内容とその背景を考察させる。	・ p. 40の絵①をみて、当時の人々の装束からて気がつくことをp. 41の衣服に関する記載を参考に説明することができる。（技能） ・ p. 40の本文を参考に、幼帝が出現した理由を説明することができる。（技能） ・ p. 41の本文，Topicの「男手と女手」を参考に、当時の男性と女性の文化的違いについて説明することができる。（知識）	・ TRYの「この時期に国風文化がなぜ生まれたのだろうか。東アジアとのかかわりからまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・ 藤原氏が天皇にならず、摂政や関白という地位で権力をにぎった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 41の本文を参考に、この時代に女性による文学作品がたくさん生まれた背景を考え、現在の女性と比較してジェンダー問題を考える学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 3．摂関期の社会と経済	○地方社会はどのように変容したのだろうか。 ・ 平安時代の地方政治と武士の発生について考える。 ・ 平安時代末期の文化について考える。	・ 律令国家の地方支配の方法の変化と地方政治の変容について着目させる。 ・ 武士が発生した背景や武士の活躍に着目させる。 ・ 平安末期の文化と仏教との関係に着目させる。	・ p. 42の写真①②史料③④をみて、当時の地方政治の様子を具体的に説明することができる。（知識） ・ 地方で武士が発生したこと，都におかれた武士，武士の組織や構成について説明することができる。（知識） ・ p. 43の写真⑤の空也の口から出ているものと念仏との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 68の絵②やTopic「尾張国の国司の暴政を訴えた郡司・百姓たち」を読んで、国司が地方におもむいた目的を考え、地方にいた人々がどのように変化していったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「関東一円を支配下においた平将門は、なぜあっけなく鎮圧されてしまったのだろうか」という問いに，p. 43地図⑦を使いながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 43「ひと」の藤原隆家，桓武平氏，清和源氏といった貴族が武士をひきいて戦った背景をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス		○鹿児島県の奄美群島ではどのような交流が	・ 奄美群島とヤコウガイの関係に着目させる。	・ 貝類と人類との関係について説明することができる。（知識）	・ 奄美諸島を中心とした交易について地図①をみながら多面的・多角的に考察することができる。	・ 奄美諸島は，古代から近現代にかけてどのような歴史をたどっていったのか調べ，地域研究

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	奄美群島	おこなわれてきたのか考える。	・ 奄美群島の歴史に着目させる。	・ 江戸時代やその前後の奄美諸島の歴史を説明することができる。（技能）	・ 江戸時代やその前後の奄美諸島の歴史を説明することができる。	をおこなうという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	
1学期後半	さまざまな人生	○古代の人々の人生を考える。	・ 古代の人々の風習や生活について着目させる。	・ 縄文人などの人々の風習について説明することができる。（知識）	・ 古代の税で大人と子どもの違いについて多面的・多角的に考察することができる。	・ 古代の人々の人生とわたしたちの人生を比べ、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	時代と社会を考える「古代」			・ 古代の税や埋葬方法を説明することができる。（技能）			
	第3章	■第3章のねらい ・ 平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・ 古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、中学校社会科歴史的分野での「大観」して「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。		・ 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	・ 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・ 中世の特色についての考察などを踏まえ、例えば、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や、併存する政治勢力がそれぞれの勢力を維持していた状況など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけをおこなうなどして、中世の特色について課題意識をもって考察するように指導を工夫する。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「なぜ中世では、同じ時期に、政治や社会に力をもつ人や集団が複数存在していたのだろうか」など、中世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	
	○平安時代の末期、院政はなぜはじまったのだろうか。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。	・ 院政がどのような構造をもち、どのような政治をおこなったのかを説明することができる。（知識）	・ p. 52の写真①の大きな建物はなんだろうか。そしてp. 41写真②③の藤原摂関家の邸宅と比べ、構造の共通点と相違点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。			

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 4．院政と中世荘園	・ 院政の内容と中世荘園の成立を考える。 ・ 院政期の文化を考える。	・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・ 平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・ 中世荘園や知行国制について歴史的経緯やしくみを説明することができる。（技能） ・ 院政期の仏教文化や庶民文化の内容をまとめることができる。（技能）	・ TRYの「平安時代の終わりに、どのような政治・社会・文化の変化がおきたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 53写真④の荘園絵図をみて、気がついたことをまとめ、とくに「絵画の中の黒い点は何だろう」という問いに答えつつ、中世荘園の特質について多面的・多角的に考察することができる。	・ 14節の院政では父系的なつながりがみられるが、これ以前の天皇家の系譜的なつながりと比較してみよう。そして現在のわたしたちはどのような意識をもっているのか多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 5．奥州藤原氏と平氏	○武士はどのように勢力をひろげていったのだろうか。 ・ 奥州藤原氏の繁栄の様子について考える。 ・ 平氏政権の特質について考える。	・ 奥州藤原氏の繁栄の様子、とくにまわりとのさかんな交易の内容や仏教文化について多面的に考察させる。 ・ 保元・平治の乱をつうじて武士が台頭していく背景に着目させる。 ・ 平氏政権が権力を確立していく背景や日宋貿易について考察させる。	・ p. 54の写真②や地図③をみて、奥州藤原氏の交易の様子、平氏の日宋貿易の交易の様子を比較して、共通点や相違点を説明することができる。（技能） ・ p. 54のTopic「婿入婚」を参考に、この時代の婚姻の形態について説明することができる。（技能） ・ p. 54絵①やp. 55の図⑦を参考に、保元の乱と平治の乱の事件の内容や構図を説明することができる。（知識）	・ TRYの「奥州藤原氏や平氏の繁栄をもたらしたものが何かまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・ p. 55のチェックにある「平氏が信仰した厳島神社はどういうところにあるのだろうか」という問いに答えるとともに、日宋貿易についても多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 55の「時代を通観する問いをたてよう」にある「武士の台頭により、支配の方法もかわっていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と中世の展望	○絵巻や文字による記録からみえる当時の社会について考えてみよう。	・ 絵①や地図②をみて、栗駒山での合戦の様子に着目させる。 ・ 史料①と②をみて、当時の人が自分の生きている時代をどのようにみていたのか着目させる。 ・ 絵③をみて、描かれている情報に着目させる。	・ 絵①をみて、たたかっているのはどのような人たちであるか、身につけているものは何かを指摘することができる。（技能） ・ 史料①と②にある課題の空欄に適切な語句を入れて説明することができる。（知識） ・ 中世の戦乱を描いた作品を取り上げて内容を説明することができる。（技能）	・ 地図②の宇治の位置について栗駒山で合戦がおきたことや当時の都や寺院勢力にも配慮しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ 史料①の「山」や「南京」が何をさしているのかを指摘しこの史料が述べていること、宇治の位置づけ、武士の行動について多面的に考察できる。 ・ p. 57の問い「人々はどのように方法で『平家物語』の内容を知ったのだろうか。また、その方法は中世の社会や文化のどのような特徴をあらわしているのだろうか」にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「政治や社会のしくみ、宗教や文化のあり方などから、中世にはどのような特徴があるのか、あなたの仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問題を多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	1 6．治承・寿永の乱と鎌倉幕府	○鎌倉幕府はどのように成立したのだろうか。 ・源頼朝が鎌倉に政権基盤を形成していく過程について考える。 ・12世紀の仏教の改革について考える。	・源頼朝が鎌倉政権をきずいていく過程を学ぶとともに、鎌倉幕府の成立時期について着目させる。 ・鎌倉幕府の構造に着目させる。 ・12世紀に仏教が改革運動をおこなった理由に着目させる。	・p. 58の地図②をみて、治承・寿永の乱の流れを具体的に説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府の役職名などの構造，地方の役職がおかれた理由について説明することができる。（知識） ・12世紀にどのような僧が出て，どのような改革をおこなったのかを具体的に説明することができる。（技能）	・p. 58の写真①をみて，現在の福島県に大規模な堀をきずいた理由を，地図②も参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「治承・寿永の乱は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 59の「読み解きのツボ」の「①建物にどのような特徴があるのだろうか」「②金剛力士像にはどのような特徴があるだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 7．承久の乱と公武関係	○鎌倉幕府と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか。 ・承久の乱が鎌倉幕府と朝廷との関係にどのように影響したのかを考える。 ・承久の乱の後に鎌倉幕府がおこなった組織改革の内容について考える。	・源頼朝の死後，北条氏が執権として力を得ていく過程に着目させる。 ・承久の乱の経過について着目させる。 ・鎌倉幕府が組織改革とともに法制度を充実させていった点に着目させる。	・p. 60の史料②をみて，北条政子が御家人に何と訴えているのか説明することができる。（技能） ・p. 61の系図④をみて，源氏将軍・摂家将軍・執権北条氏の血縁関係について説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府における北条政子の役割を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 61の史料⑤をみて，御成敗式目における男女の扱いと古代の律令と比較しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「承久の乱は，政治や社会のあり方にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 61の史料⑥「資料を読みとろう」の「①泰時はなぜ御成敗式目を制定したのだろうか」「②泰時は幕府の法と朝廷の法との関係をどのように考えているのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・源頼朝が鎌倉に政権をつくってからの時代を鎌倉時代と呼ぶ。しかし朝廷にも一定の勢力は残っていた。この時代を鎌倉時代と呼ぶことは適当か。問題があるとすれば何と呼べば良いか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	中世のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は，はたらいたりあそんだりするだろうか。中世の人々のはたらきかた，あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・生きるためにはたらくこと，職人の生活を題材にはたらくことに着目させる。 ・仕事とあそぶことははっきり分けられるか否かに着目させる。	・はたらくことについて職人の行動を絵画をみて説明することができる。（知識） ・絵③④⑤をみて，この当時のあそびについて説明することができる。（技能）	・TRYの「中世の人々にとって，はたらくこととあそぶことはどのような営みであったのだろうか。現在のわたしたちの感覚と比べながら考えてみよう」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・いまのわたしたちの生活でしごととあそびがはっきり分けられないものをさぐるという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	18．地頭・御家人と荘園制の変質	○鎌倉幕府の成立は社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 鎌倉幕府の財政基盤と御家人制度について考える。 ・ 武士の組織とネットワークについて考える。	・ 幕府の経済基盤や御家人との関係、非御家人の存在について着目させる。 ・ 地頭の荘園支配、荘園領主との紛争、当時の百姓の実態について着目させる。 ・ 惣領制の構造や御家人のネットワークに着目させる。	・ p. 64の絵①，写真②をみて，武士の館の建物の構成を説明することができる。（技能） ・ p. 65の絵⑤をみて，赤い線の意味と下地中分との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 65図⑦をみて，惣領制のしくみと地図⑧との関係を具体的に説明することができる。（技能）	・ p. 65の史料⑥をみて，地頭はどのような支配をおこなっていたのかという点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「御家人はどのような所領支配をおこなっていたのだろうか」という問いに，本文記述や絵⑤，史料⑥を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 64の絵①に描かれている動物をみつけだし，その役割を考えてみよう。さらにTopic「武士と武芸」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。とくに「猿」の役割についてはさまざまな絵巻物や海外との事例を比較検討することが望ましい。	・ 地頭制度における女性の役割を本文記述を参考に洗いだし，わたしたちがもってきた鎌倉時代の女性像との違いを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	19．鎌倉時代の経済・産業と自然環境	○経済や産業はどのように変化していったのだろうか。 ・ 鎌倉時代の貨幣経済と流通，農業について考える。 ・ 鎌倉時代の仏教について考える。	・ 渡来銭が日本のなかでどのような役割をはたしたのか着目させる。 ・ 商品生産の変化や流通ネットワークの発達について着目させる。 ・ 鎌倉時代に新しく誕生した宗派のそれぞれの特徴に着目させる。	・ p. 66の絵①をみて当時の市場で売られていたもの，絵②をみて市場が今のようにほぼ毎日おこなわれている状況と異なることを説明することができる。（技能） ・ p. 66の絵③をみて，借上とは何か，銭がどのようにもち運びされているのか説明することができる。（知識） ・ p. 67写真⑥をみて，この時代の農業の様子，飢饉との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 66のLinkをみて，いまに残る昔の地名について，それぞれの知っている地域を取り上げてグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「鎌倉時代に入り，経済・産業や信仰のあり方に，なぜ変化が生じたのだろうか」という問いに，絵⑩の日蓮の記事などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 67の「ひと」に書かれている阿仏尼の記事をみて，鎌倉時代の鎌倉と京都との交通の様子，絵⑨の踊念仏が京都でおこなわれていることなどを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 67の本文にあるように，13世紀は気候が冷涼であった。これは日本に限らず，世界全体に影響をもたらした。13世紀であっても，日本史の枠にとらわれず世界史的視野が必要であるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	20. モンゴル襲来と日宋・日元交流	○モンゴル帝国は東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。 ・モンゴル帝国が日本や世界に与えた影響について考える。 ・日本と宋・元との文化的交流、とくに仏教について考える。	・モンゴル帝国がヨーロッパまで到達した大帝国をきずいたこと、世界にどのような影響を与えたのか着目させる。 ・宋・元との貿易やネットワークについて着目させる。 ・鎌倉時代の仏教で、宋・元と関係の深いものについてその内容に着目させる。	・p. 68の史料②をみて、史料の内容をまとめるとともに、フビライは日本に何を期待したのかを説明することができる。（技能） ・p. 68のLink「青花（染付）」、p. 69の写真⑤⑥をみて、宋や元から渡ってきた文物について説明することができる。（知識） ・p. 68Link「水中考古学」をみて、どのようなものが発掘されたのか、水中考古学の可能性について説明することができる。（技能）	・p. 68の地図①史料②本文記述をみて、宋と関係の深い日本に対し元はどのようなことを考えて使者を派遣したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「宋や元との関係はどのようなものだっただろうか」という問いに、本文記述や前の19節を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 69の絵⑦にある頂相にはどのような特徴があるのかという問いに答えるとともに、写真⑧なども参考に日本における中国仏教の影響について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 68の地図①を参考に、いまに残るモンゴル帝国の影響を世界史的視野から考え、日本列島でのできごとだけで日本史を学んではいけないという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 博多	○海外交易や九州支配の中心地となった。博多というまちの誕生と発展から考える。	・外交の拠点が古代の鴻臚館から中世の博多に移ったことに着目させる。 ・博多と福岡の歴史に着目させる。	・p. 70地図①を参考に、博多を中心とした東アジアの海域世界について説明することができる。（知識） ・p. 71の地図⑤⑧をみて、中世から近世にかけての博多のまちの特徴を説明することができる。（技能）	・博多を中心とした中世における海外との貿易や交流についてまとめ、p. 70～71に載せられた写真や絵を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・古代・中世・近世の博多についてまとめるとともに、現在における「ハブ」とはどこで、どのような役割があるのかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	21. 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡	○なぜ鎌倉幕府は滅亡したのだろうか。 ・得宗専制と幕府の勢力について考える。 ・鎌倉幕府の滅亡過程について考える。	・得宗専制が北条氏の権力を集中させた一方、御家人の離反につながることに着目させる。 ・このころの社会の変化と永仁の徳政令の影響について着目させる。 ・両統迭立が朝廷に与えた影響と幕府滅亡の関係に着目させる。	・p. 72の史料③をみて、史料の内容をまとめるとともに、これが出された理由や影響を説明することができる。（技能） ・p. 73の系図⑤をみて、両統迭立によって天皇の即位に与えた影響、後醍醐天皇が倒幕をめざすきっかけについて、「ひと」も参考にして説明することができる。（知識） ・p. 73の地図⑦をみて、鎌倉幕府が滅亡していく過程について説明することができる。（技能）	・p. 72の図②，「ひと」の安達泰盛の記事，本文を参考にして，得宗専制によって御家人の気持ちなどがどのような変化したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「鎌倉時代後期の政治や社会にどのような変化がおり，鎌倉幕府の滅亡につながったのだろうか」という問いに，本文記述や資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 73の史料⑥をみて，悪党が何かを理解し，絵①や地図⑦も参考に，18節の非御家人が西国に多いこととの関係にふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・21節の記述を参考に，勢力争いにおいて自分に都合の良い人々で固めると，結果として組織は弱体化していくことを学び，こんにちの世界におきかえて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート		
	第 4 章	■第 4 章のねらい 					

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	2 2．南北朝の内乱	○南北朝の内乱はなぜおこり，長期化したのだろうか。 ・建武の新政について考える。 ・南北朝内乱期の政治・社会・文化について考える。	・建武の新政の政治構造や失敗した理由に着目させる。 ・南北朝の内乱の実態や背景に着目させる。 ・内乱期の文化の特徴や背景に着目させる。	・p. 74の写真①をみて，足利尊氏の名前の字が変更された理由，当時の武士の名前の付け方の法則について説明することができる。（技能） ・p. 74のTopic「内乱と武家の女性」やp. 75Link「武士の手紙」をみて，当時の武士が大切にしたこと，女性の地位に関して説明することができる。（知識） ・p. 75のTopic「武士の争いと庶民の歌」や本文記述をみて，内乱期の文化の内容や影響について説明することができる。（技能）	・p. 74の史料②の内容は当時のどういった状況を反映しているのだろうか。本文記述を参考にグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「争いのなか，地方の武士や百姓たちは，どのような行動をとったのだろうか」という問いに，史料③やTopic「武士の争いと庶民の歌」などを参考に参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 74～75の本文記述をみて，南北朝の内乱の関係図を朝廷，幕府，大名，国人などの階層別に書きだし，さらに『神皇正統記』の書かれるきっかけにふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・朝廷が2つあった時代，天皇も2人いた。この代数と現在の天皇の代数との関係をみてみよう。北朝の天皇が現在の天皇の代数に数えられていない理由を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	2 3．足利義満と室町幕府	○なぜ，足利義満は金閣をたてたのだろうか。 ・足利義満の政治とこのころの地方政治について考える。 ・室町文化について考える。	・南北朝の合一と京都支配の内容に着目させる。 ・室町文化の内容と国際性に着目させる。 ・幕府の地方支配の内容に着目させる。	・p. 76の図③をみて，室町幕府の機構について説明することができる。（技能） ・室町時代の税制度について具体的に説明することができる。（知識） ・室町文化における中国の影響を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 77の絵⑥の観世能，Topic「能楽「山姥」と曲舞」をみて，湿地の多い京都で橋がかりがつくられた理由，観阿弥・世阿弥の名前に「阿弥」がついている理由をグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「南北朝の合一は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，「ひと」の「足利義満」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 76の図③の室町幕府の機構とp. 59の鎌倉幕府職制表をくらべ，共通点と相違点を洗いだし，室町幕府がこのような組織をつくった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 76の地図②で花の御所が朝廷の御所のそばにたてられた理由，室町幕府と鎌倉府という権力体が並立して対立を生んだことなどを参考に中心地をどこにおくかという現在にも通ずる学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	2 4．東アジアの海をゆきかう人々	○人々は、何のために東アジアの海を行き来していたのだろうか。 ・倭寇と明・朝鮮との交易について考える。 ・琉球と北方の交易について考える。	・倭寇と勘合貿易に着目させる。 ・明や朝鮮王朝とどのような交易をしていたのか着目させる。 ・琉球王国と北方ではどのような支配がおこなわれ、どのような交易をしていたのか着目させる。	・p. 78の絵①をみて、明の軍隊と倭寇の服装や武器の違いを説明することができる。（技能） ・明や朝鮮王朝との交易の開始や内容、衰退について具体的に説明することができる。（知識） ・p. 79の地図⑤や「三浦」の説明をつかって、アジア海域での航路や港湾について説明することができる。（技能）	・p. 78のLink「勘合」がなぜこのような大きさなのかを絵①の様子を参考にして多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「地域の視点にたつと、世界はどのようにみえるだろうか」という問いに、地図⑤や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 79の地図⑤のアジア海域の地図だけでなく、p. 48～49の世界地図も参考にして世界のつながりについて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 79の本文記述を参考に、この当時の日本は一つの国といえるかを考え、日本という国の成り立ちについて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	2 5．惣村と一揆	○なぜ、百姓たちは惣村をつくったのだろうか。 ・惣村について考える。 ・当時の人々の生活の様子について考える。	・惣村の成り立ちやしぐみに着目させる。 ・15世紀の寒冷化のなか、農業がどのように進歩したのか着目させる。 ・一揆が発生した理由や目的に着目させる。	・p. 80の史料③をみて、史料に書いてある内容をまとめ、写真②も参考にしながら惣の掟がどのようなものであるかを説明することができる。（技能） ・p. 80のTopic「村と家」やp. 81の絵⑤をみて、惣村がどのようにして自分たちを守ったのか説明することができる。（知識） ・p. 81の一揆に関する記述をみて、一揆の種類や背景について説明することができる。（技能）	・p. 81の史料⑥と写真⑦の関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「百姓たちが借金帳消しを要求するメリットとデメリットは何だろうか」という問いに、史料⑥や写真⑦、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・気候変動が農業などの産業に与える影響を、p. 80の絵①、p. 81のTopic「飢饉下のぬすみと村」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・p. 80～81の本文記述を参考に、現在の日本の地域産業で室町時代に起源をもつものをさぐり、昔と今との関係を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	中世のたたかう・つながる	○中世はたたかいが絶えない時代であった。たたかいははげしくなった一方、身を守り、たたかいを回避する方法もうみだされた。その様子をみていく。	・ 中世のたたかいの様子や城の役割に着目させる。 ・ 喫茶の風習や助けあった村の事例があることに着目させる。	・ 用水をめぐるたたかいが発生した理由を説明することができる。（知識） ・ 喫茶の風習と中国との関係を説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「そもそも2つの村の争いの原因は何だろうか。争いがひろがっていく様子から、領主同士の争いの背景には、どのような問題があったと考えられるか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「なぜ、同じ川を農業で利用しあう村々は、このような協力関係をきずくことができたのだろうか」という問いに対し自分の意見をまとめ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び、現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて、その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1
	2 6．戦国時代の幕あけ	○室町幕府の衰退は、どのようにしてはじまったのだろうか。 ・ 15世紀中ごろの応仁・文明の乱とその前後のできごとについて考える。 ・ 15世紀後半の一揆の内容や背景について考える。	・ 享徳の乱と応仁・文明の乱の背景、内容、影響に着目させる。 ・ 応仁・文明の乱のころの文化の内容に着目させる。 ・ 国一揆や一向一揆の内容や発生した理由、目的に着目させる。	・ p. 84の表③をみて、応仁・文明の乱の対立関係をまとめ、乱がおきた背景を説明することができる。（技能） ・ p. 85の写真④，絵⑤⑥をみて、応仁・文明の乱のころの文化の特徴を具体的に説明することができる。（知識） ・ p. 85の地図⑦をみて、応仁・文明の乱がどの地域でたたかわれ、どのような被害がでたのかを説明することができる。（技能）	・ p. 84の絵①と史料②を読んで足軽とは何かを考える。とくに絵①で足軽は何をしているのか、単なる破壊者なのか、白い頭巾をかぶっている人物の性別などをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「長引く戦乱は、社会にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 85の史料⑧を読んで、山城の国一揆の内容を確認するとともに、この史料を書いた僧と所属する寺がなぜ一揆をおそれたのかを多面的・多角的に考察することができる。	・ 歴史学者内藤湖南は「応仁の乱について」という文章で、応仁の乱よりも前の歴史は学ぶ必要がないと言っている。インターネットにも掲載されているこの論文を読んで、歴史を学ぶ姿勢を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	2 7．室町・戦国時代の流通経済	○どのような人々が京都に集まっていたのだろうか。 ・ 京都と地方都市の役割について考える。 ・ 室町時代の貨幣流通について考える。	・ 京都に集まる人とモノに着目させる。 ・ 応仁・文明の乱以後の流通経済の変化に着目させる。 ・ 貨幣経済の変化や度量衡の変化に着目させる。	・ p. 86の絵①をみて、室町時代の職業についてまとめ、この時代の産業について説明することができる。（技能） ・ p. 87の地図③をみて、港がおかれた場所の特徴やどのような交流が考えられるかを説明することができる。（知識） ・ p. 87の本文をみて、度量衡を統一させるようになった理由を説明することができる。（技能）	・ p. 87の史料④を読んで、史料の内容まとめ、なぜこのような法令をださなければならなかったのか、p. 87のTopic「明銭と私鑄銭」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「どのようにして都市と地方はむすばれ、経済は動いていたのだろうか」という問いに、地図③や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 86の本文をみて、この時代の関所の乱立と流通経済との関係を多面的・多角的に考察することができる。	・ 地図③の主要な港と航路は、現在どのように変化したのか、または変化していないのか。いまに残る歴史をみていこうとする学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 馬	○中世にはどのような馬が活躍してたのか考えてみよう。 ・ 中世の馬について考える。	・ 中世の馬について考える。 ・ 海を渡ったかもしれない東北の馬について考える。	・ 中世の馬の役割を説明することができる。（技能） ・ 良馬といわれた東北の馬はどのように活用されたのか説明することができる。（技能）	・ p. 88の写真①②をみて中世の馬の特徴、史料③をみて馬の役割について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 89の絵④を見て、京都に東北地方の馬がきていた理由について多面的・多角的に考察することができる。	・ 「中世の武士、商人、町人、農民たちにとって、馬とはどのような存在だったのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	2 8．戦国時代の政治と社会	○なぜ戦国大名が登場したのだろうか。 ・ 戦国大名の支配や当時の町について考える。 ・ 戦国時代の文化と生活について考える。	・ 戦国大名の支配方法に着目させる。 ・ 戦国時代の自治都市、城下町、税制度に着目させる。 ・ 戦国時代に地方に花咲いた文化に着目させる。	・ p. 91の地図④をみて、おもな戦国大名と勢力範囲を説明することができる。（技能） ・ p. 91の史料⑤をみて、史料に書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 91のTopic「戦国大名家の女性」をみて、戦国時代の大名家の女性が果たした役割について説明することができる。（技能）	・ p. 90の戦国時代の略奪に関する絵①をみて、どのような人々が略奪をしているのか、略奪をする理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「あなたが戦国大名の領国の境目に住む住人なら、どうしただろうか」という問いに、図②や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 91の写真⑥の石見銀山の記事を参考に、地図④とp. 87地図③の中世の航路とを比較して多面的・多角的に考察することができる。	・ P. 90の絵③の祇園祭などを手がかりに、戦国時代の京都、博多、堺などの町をいまと比較してみるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	■評価の方法 ・討論や発表 ・ワークシート	
	さまざまな人生 時代と社会を考える「中世」	○中世の人々の人生を考える。	・中世の人々の風習や生活について着目させる。	・中世の人々の風習について説明することができる。（知識） ・中世の人々の悩みや解決方法を説明することができる。（技能）	・中世の人々の結婚、出産、あそび、老いなど人生の営み、日本列島外の人々との交流について多面的・多角的に考察することができる。	・中世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	第5章	■第5章のねらい ・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解している。 ・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。		・織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外関係などを基に，中世から近世への時代の転換を理解している。	・村落や都市の支配の変化，アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して，中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・近世の特色についての考察などを踏まえ，例えば，織豊政権が戦国時代を終わらせることができた理由や，海外から伝わった新たな文化が社会の変化に与えた影響など，生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し，それらの疑問を基に，教師が問いかけを行うなどして，近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて，生徒が，例えば，「なぜ長期間にわたって大きな戦乱が起こらない時代を形成できたのか」など，近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。	

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	29．「南蛮」との出会い	○ヨーロッパ人は、なぜ東アジアに来航したのだろうか。	・ 東アジアにヨーロッパ人が来航した目的や貿易の内容に着目させる。	・ p. 98の写真②をみて、「読み解きのツボ」にある空欄に適切な文字を入れ、内容を説明することができる。あわせてこれがローマ字で書かれた理由についても説明することができる。（技能）	・ p. 98の地図①で、マゼランはなぜ西回り航路を選んだのか、その理由についてスペインとポルトガルの関係や支配地の位置などを参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 鉄砲伝来に関し、なぜポルトガル人は中国の倭寇船に乗ってきたのだろうか。大航海時代という言葉はヨーロッパを中心とする概念だが、これらの問題点を考え、アジアに立脚点をおいて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
		・ 東アジアにおけるヨーロッパ人の活動について考える。	・ 南蛮貿易とキリスト教の伝来の影響に着目させる。	・ p. 98の地図①をみて、当時の世界がどのような勢力分布になっているか説明することができる。（知識）	・ TRYの「南蛮貿易によってもたらされた文化や技術は、人々にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述や掲載された資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。		
		・ 南蛮貿易や南蛮文化、キリスト教の伝来について考える。	・ 南蛮文化の内容と影響に着目させる。	・ p. 99の絵③をみて「資料を読みとろう」の「①南蛮船にはどのような特徴があるだろうか」「②右上の屋根についているものは何だろうか」「③右側の人物について説明することができる。あわせて屏風に描かれている黒人の役割や来歴についても説明することができる。（技能）	・ 鉄砲の製造技術は、堺や根来、国友で広まった。なぜこれらの場所で広がったのか。当時の特産品の生産地について考慮しながら多面的・多角的に考察することができる。		
	30．織豊政権の全国統一	○信長や秀吉の全国統一は、どのようにすすんでいったのだろうか。	・ 織田信長の戦略と政策に着目させる。	・ p. 100の地図③をみて、織田信長と豊臣秀吉がどのような戦いを経験していったのかを順序立てて説明することができる。（技能）	・ p. 101の史料⑤をみて「刀狩令」の内容を説明し、注4の記述も参考に「刀狩令」の意味についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 101の桃山文化の本文記述、写真⑥、絵⑦、⑧などをみて、政治が文化に及ぼす影響、文化が政治と関係していることを考え、現在における政治・社会と文化の関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
		・ 織田信長の政策について考える。	・ 豊臣秀吉の統一の過程や政策に着目させる。	・ p. 100の本文記述、Topic「信長の天下」をみて、織田信長の政策の独自面と他の戦国大名と共通している政策を説明することができる。（知識）	・ TRYの「戦国時代は豊臣秀吉の全国統一によって終わりをとげた。生きるために傭兵となった人々はどうなったのだろうか」という問いに、太閤検地との関係を考えながら多面的・多角的に考察することができる。		
		・ 豊臣秀吉の政策や桃山文化について考える。	・ 桃山文化の内容と背景に着目させる。	・ p. 101の本文記述をみて、豊臣秀吉の政策を政治面、経済面、外交面にわけて説明することができる。（技能）	・ p. 101の絵⑦の「読み解きのツボ」の「①この絵はどこに描かれたのだろうか」「②使われている色で、特徴的な色は何色だろうか」という問いに多面的・多角的に考察することができる。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3 1. 東アジアの変動と豊臣政権	○7年にわたる豊臣秀吉の朝鮮侵略は、なぜおきたのだろうか。 ・豊臣秀吉の外交政策について考える。 ・関ヶ原の合戦の背景や影響について考える。	・パテレン追放令の内容や背景，影響に着目させる。 ・朝鮮侵略の背景，内容，影響に着目させる。 ・関ヶ原の合戦にいたる豊臣氏の弱体化や徳川家康の台頭に着目させる。	・p. 102の地図①，絵②，写真③をみて，豊臣秀吉の朝鮮侵略の過程や内容を説明することができる。（技能） ・p. 103のLink「朝鮮被虜人と降倭」をみて，秀吉の朝鮮侵略が両国および世界の文化に与えた影響を説明することができる。（知識） ・p. 103の本文記述，絵⑤をみて，徳川家康が権力を手中に収める過程を説明することができる。（技能）	・p. 102の史料④の「パテレン追放令」をみて，この法令が禁止していること，反対に禁止していないことをまとめ，豊臣秀吉の外交政策についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「豊臣秀吉の死後，なぜ関ヶ原の戦いがおきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 102の本文記述を参考に，豊臣秀吉の外交政策の意図と問題点を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 103の「時代を通観する問いをたてよう」の「ヨーロッパ文化との接触や，織豊政権による全国統一は，人々の生活をかえていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか，文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近世の展望	○外国人がみた「日本」の近世について考えてみよう。	・絵①をみて，朝鮮通信使がなぜ人気を集めたのかに着目させる。 ・史料①と②，絵③をみて，外国人が近世の日本についてどのような記録を残しているのかに着目させる。 ・「日本」は外国にどのように伝えられていたのかに着目させる。	・絵①をみて，行列の服装，もち物にどのような特徴があるのかを指摘することができる。（技能） ・史料①と②，絵③の内容を説明することができる。（知識） ・絵③の空欄部分をうめて内容を説明することができる。（技能）	・p. 104の絵①に書かれた沿道の人々は，どのように行列をみているのかを予想し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 104の史料①，②，絵③を参考に，近世に戦争がなくなったことは，日本の外交関係や人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを多面的・多角的に考察できる。 ・p. 105の史料③をみて，「シーボルトは日本の政治や対外関係の特徴をどのように読みとったのだろうか，また，その問題点はどこにあると考えたのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の「幕府による支配のしくみ，対外関係をめぐる政策，人々による学問・文化への関心に注目し，近世にはどのような特徴があるか，あなたの仮説をたて，理由も説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3 2．江戸幕府の支配のしくみ	○徳川家は、支配のためにどのような制度をつくったのだろうか。 ・江戸幕府の成立や支配について考える。 ・諸藩の政治について考える。	・江戸幕府の成立過程や政策の内容に着目させる。 ・江戸幕府の全国支配の方法に着目させる。 ・諸藩が江戸幕府とどのような関係を築きながら支配をしていたのかに着目させる。	・p. 107の図③の「江戸幕府の職制」をみて、江戸幕府のしくみを説明することができる。（技能） ・p. 106の史料②「武家諸法度」をみて、江戸幕府の大名管理の方法について説明することができる。（知識） ・p. 107の地図④をみて、日本全国に大名がどのように配置されていたか説明することができる。（技能）	・p. 106の絵①をみて、加賀藩の大名行列はどのくらいの長さであったのか、何のために江戸へいったのか、史料②を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「将軍と大名の関係や、大名と家臣の関係は、徳川家によってどのようにかえられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 107の地図④をみて、江戸幕府を倒すには外様大名がどれくらい結束しなければならないだろうか。シミュレーションをしてみても面的・多角的に考察することができる。	・p. 107の地図④をみて、自分が住んでいる場所が江戸時代にはどのようなになっていたのか調べてみる。あわせて北海道や沖縄ではどのような独自性があったのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 3．江戸時代の対外関係	○江戸時代の日本と外国の関係は、どのようにきずかれたのだろうか。 ・江戸幕府のアジア・西洋諸国との交流やキリスト教対策について考える。 ・「鎖国」の実態や「四つの口」について考える。	・江戸時代初期の積極的な外交に着目させる。 ・幕府のキリスト教対策や反発について着目させる。 ・外交を一切もたないというイメージをもった「鎖国」が本当であったのかに着目させる。	・p. 108の絵①の「朝鮮通信使の図」をみて、朝鮮通信使にどのような人々が参加しているのか説明することができる。（技能） ・p. 108の写真②や地図③をみて、江戸時代初期の外交や航路について説明することができる。（知識） ・p. 109の図⑤をみて、「四つの口」のそれぞれの内容を説明することができる。（技能）	・東アジアの交易の目的、平戸・長崎の役割、幕府の役割などをp. 108の地図③や写真②の朱印状の朱印の位置（高さ）を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「幕府はなぜ対外関係の窓口を限定したのだろうか。また、「鎖国」政策は経済や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 109の絵④や地図⑥をみて出島でのオランダの様子、本文記述の島原・天草一揆でのオランダの役割を参考に、江戸幕府とオランダとの関係を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 109の地図⑥をみて、現在の長崎との位置関係、さらには唐人屋敷と中華街との関係など江戸時代と現在との関係をさぐるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 4．身分制と村・町の生活	○江戸時代の人々の身分には、どのようなものがあっただろうか。 ・江戸時代の身分制や村について考える。 ・江戸時代の都市と町について考える。	・江戸時代の身分制度に着目させる。 ・江戸時代の村や百姓の家の位置について着目させる。 ・江戸時代にさまざまな形態の町があったことに着目させる。	・ p. 110の図②，地図③をみて，江戸時代の村の様子を説明することができる。（技能） ・ p. 111の写真⑤をみて，小倉の城下町の特徴を説明することができる。（知識） ・ p. 111のTopic「成人の仲間入り」をみて，江戸時代の成人について説明することができる。（技能）	・ p. 110の地図②と③をみて，百姓の家の位置，神社の位置，耕作地や入会地の位置から村の景観についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代の村や都市の特徴を，現在の市・区・町・村と比べ，共通点・相違点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 111の写真⑤をみて小倉城の位置を読みとったり海に浮かんでいる物を考えたり，地図⑥をみて城下町や街道の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 110の図①をみて，江戸時代の身分構成からわかることを現在の職業構成と比較していくという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近世のはたらく・あそぶ	○江戸時代の女性はどのように「はたらき」，いかなる「あそび」をしていたのだろうか。ドラマや映画や各種メディアで存在を知られる奥女中を対象に考えてみる。	・奥女中としてはたらく女性たちに着目させる。 ・女性の習い事と大奥でのあそびに着目させる。	・大奥で町人や百姓の娘たちが雇われた理由や奥女中につとめた女性の人生について説明することができる。（知識） ・江戸時代の女性の習い事の種類や動物や昆虫を飼っていたことについて説明することができる。（技能）	・大奥では昆虫を飼っていた人々がいたが，昆虫がいそうな場所はどこかということをヒントにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「近世の「はたらく」・「あそぶ」と現在のそれらには，どのような共通点・相違点があるのだろうか」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	第 6 章	■第 6 章のねらい ・ 第 5 章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い，近世を展望する仮説を踏まえ，資料を扱う技能を活用し，近世の国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的 ・ 多角的に考察できる。 ・ 第 5 章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い，近世を展望する仮説を踏まえ，資料を扱う技能を活用し，近世の国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的 ・ 多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，近世がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図れる。		・ 法や制度による支配秩序の形成と身分制，貿易の統制と対外関係，技術の向上と開発の進展，学問・文化の発展などを基に，幕藩体制の確立，近世の社会と文化の特色を理解している。産業の発達，飢饉や一揆の発生，幕府政治の動揺と諸藩の動向，学問・思想の展開，庶民の生活と文化などを基に，幕藩体制の変容，近世の庶民の生活と文化の特色，近代化の基盤の形成を理解している。	・ 織豊政権との類似と相違，アジアの国際情勢の変化，交通 ・ 流通の発達，都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して，主題を設定し，近世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的 ・ 多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。社会・経済の仕組みの変化，幕府や諸藩の政策の変化，国際情勢の変化と影響，政治・経済と文化との関係などに着目して，主題を設定し，近世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的 ・ 多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ 学習にあたっては，近世の国家・社会の変容について考察するための主題を設定する。その主題を学習上の課題とするために，例えば，「幕藩体制が変容し，維持できなくなったのはなぜだろうか」，「近代化の萌芽はいつごろからみられるのだろうか」など，この項目全体に関わる問いを設定して，生徒に提示し，小項目のねらいに則した学習を展開できるようにすることが大切である。そのために，以下のそれぞれの事象の学習では段階的な課題（問い）を設定することが求められる。このような一連の学習を通して，この項目のねらいである幕藩体制の変容，近世の庶民の生活と文化の特色，近代化の基盤の形成の理解に至るようにする。	
	3 5．幕府政治の転換	○生類憐みの令の意義を東アジアの国際関係の変化のなかでなかで考えてみよう。 ・ 17世紀後半の徳川家綱・綱吉の政治について考える。 ・ 18世紀の幕府政治について考える。	・ 徳川家綱のころの幕府政治と東アジアとの関係に着目させる。 ・ 徳川綱吉の政治について着目させる。 ・ 正徳の治の内容や当時の国際関係に着目させる。	・ p.114の絵①をみて，かぶき者の増えた理由や異様な格好をしている背景を説明することができる。（技能） ・ p.115の絵④をみて，明暦の大火での人々の行動の様子を説明することができる。（知識） ・ p.115のTopic「赤穂事件」をみて，この事件が「忠臣蔵」として当時もてはやされた背景について説明することができる。（技能）	・ p.115の表⑤をみて，江戸時代の金貨成分比の推移が何を示すのか，成分比を変えた理由は何であるのか，1860年に重さが極端に減ったことなどグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「東アジアの平和と安定のなかで，日本の政治と社会はどのように変化したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p.115の本文記述をみて，日本と清や朝鮮との関係の変化について多面的・多角的に考察することができる。	・ p.115の絵④をみて，江戸時代の火事対策を，横浜に大通りを設けるなど近代の火事対策との比較をし，災害に対する姿勢について比較していくという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 6．産業の発展	○江戸時代の人々は，農業，林業，漁業でどのようにふうをしたのだろうか。 ・江戸時代の農業経営について考える。 ・江戸時代の産業の発展について考える。	・新田開発の内容や農具の進歩に着目させる。 ・農業の技術の進歩や交易の内容に着目させる。 ・さまざまな産業や特産物に着目させる。	・ p. 116の絵①をみて，当時の農耕の様子や男女の役割の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 116のTopic「干鰯の産地と消費地」をみて，当時の肥料について説明することができる。（知識） ・ p. 117の表⑥「おもな特産品と産地」をみて，特産品と産地との関係について説明することができる。（技能）	・ p. 117の本文記述をみて，江戸時代の産業や交易の関係，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代における産業の発展は，どのような背景によってうまれたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 117の絵④や表⑤をみて，みたことのある商標をさがし，表⑥とも比較しながら，現在に続く特産品について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 116の絵①やp. 117の絵③をみて，江戸時代の産業における男女の役割の違いについて，現在と比較しながら考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 7．交通網の発達と都市の繁栄	○交通網の発達は，社会をどうかえたのだろうか。 ・交通網の発達や三都の繁栄を考える。 ・元禄文化について考える。	・水陸の交通網の整備の様子に着目させる。 ・三都と流通経済との関連に着目させる。 ・元禄文化の内容，とくに学問の進展に着目させる。	・ p. 118の地図①や絵③をみて，当時の五街道をはじめ幹線道路の発展，河川や会場の交通の発展について説明することができる。（技能） ・ p. 118の絵④をみて，江戸の魚市場と流通について説明することができ，p. 119の絵⑨をみて大坂が「天下の台所」と呼ばれた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 119の表⑤「元禄文化の作者と作品」をみて，元禄文化での文学作品や美術作品について説明することができる。（技能）	・ p. 118の地図①と写真②をみて，江戸時代の交通の発達と貨幣経済の発達の間接的な関係を，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「私たちがくらしている地域は，江戸時代に江戸・大坂・京都とどのようにむすびついていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 119の表⑤，絵⑥や⑧，写真⑦や⑩をみて，元禄文化の特徴や背景について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 119の本文記述をみて，江戸時代に儒学が重用された理由を考え，日本の近代でも重要視されたことの間接的な関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	近世のたたかう・つながる	○近世の村は現在と比べて小規模であったが、人々の生活は、村のなかで完結していなかった。いまの自分と近世の人々の生活を比較していく。 ・ 近世の文化と情報の伝わり方に着目させる。	・ 近世の一揆や権利をめぐる争いに着目させる。 ・ 近世の文化と情報の伝わり方に着目させる。	・ p. 120の写真①をみて、一揆の訴状の内容や村の境界について明することができる。（知識） ・ p. 121の写真③と史料をつかって近世の俳句や短歌のサークル活動やつながりを説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「なぜ、一揆の訴状が手習いの教材の一つとして選ばれたのだろうか」や「山以外に、複数の村の間で資源を得られる範囲が争われたところにはどのような例があるだろうか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「近世には、俳句や短歌を楽しむサークルが各地にできた。どのような条件がととのったからだろうか」や「この百姓は、敦賀から魚肥を仕入れたり、大津で米の取引をしていた。なぜほかの地域の作物の出来を知りたがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「4つの資料のうち一つを選び、その資料が本文のどのページと関連するか、理由もいっしょに考えてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1
	38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題	○吉宗と意次の政治は、どのようなことを背景におこなわれたのだろうか。 ・ 享保の改革を考える。 ・ 田沼意次の政治について考える。	・ 享保の改革の内容や意図に着目させる。 ・ 江戸時代中期の経済の発展に着目させる。 ・ 田沼意次の政治の特徴に着目させる。	・ p. 122のグラフ②をみて、幕府の年貢収穫高の推移の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 122の史料③の内容を説明することができる。さらに「八木」と書いた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 123の表⑦の「徳川氏系図」をみて、将軍家の継承方法について説明することができる。（技能）	・ p. 122のグラフ②の特徴と史料③を出した理由、徳川吉宗の経済政策の特徴について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「徳川吉宗と田沼意次の政治について、共通点と異なる点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 123の絵④、写真⑤、史料⑥をみて、田沼意次の政治の特徴や新しい面について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 123の田沼意次の政治はかつては賄賂政治の代表で評価が低かったが、現在ではロシアとの貿易など新しい面が評価されている。歴史の評価を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3 9．商品経済の発達と民衆の運動	○一揆や打ちこわしは、なぜ増加したのだろうか。 ・工業の発達と都市や村との関係を考える。 ・一揆と打ちこわしの背景や影響について考える。	・手工業の発達と地域の発展に着目させる。 ・産業の発達とともに都市と村がどのように変化したのか着目させる。 ・一揆や打ちこわしなど地域の団結や、幕府や藩の統制が利かなくなる過程に着目させる。	・問屋制家内工業と工場制手工業（マニュファクチュア）の違いを説明することができる。（技能） ・p. 124の地図①をみて、代表的産品と産地を説明することができる。（知識） ・p. 125のLink「災害へのそなえ」をみて、江戸時代の防災について説明することができる。（技能）	・p. 124の写真②や絵③などをみて、問屋制家内工業が工場制手工業に移行していった理由や背景について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「商品経済の発達により、都市や村にはどのような変化がおき、どのような運動がみられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 125の史料⑦で、百姓たちが署名を円形に並べているのはどうしてだろうかという問いに多面的・多角的に考察することができる。	・p. 125のグラフ⑥、史料⑦、絵⑧をみて、一揆がおきた背景を政治や気候の変動との関連で説明する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 ラッコ	○人々がラッコを追い求めた理由を考えてみよう。	・アイヌとラッコとの関係を考える。 ・ラッコの毛皮の交易について考える。	・アイヌの人々はラッコをどのように活用したのか説明することができる。（技能） ・18世紀から19世紀初頭にかけての世界の交易について説明することができる。（技能）	・p. 126の地図①、絵②と③をみて、ラッコが当時の人々にどのように意識されていたのか多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 127の写真④、絵⑤、地図⑥を見て、ラッコの毛皮交易におけるアメリカ船の役割について多面的・多角的に考察することができる。	・「ラッコをめぐる人々の動きは、近世日本の対外関係にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の動物乱獲・保護との関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	4 0．寛政の改革と欧米諸国の日本接近	○寛政の改革時に、江戸幕府が直面した問題は何だったのだろうか。 ・寛政の改革の内容を考える。 ・19世紀後半ごろの外国船の接近について考える。	・寛政の改革の政策内容に着目させる。 ・松平定信がロシアとの関係にどのような判断をしたか着目させる。 ・諸外国の船がどのように接近したか、それに対する外国船への対応に着目させる。	・p. 128の絵①とp. 129の「ひと」の「大黒屋光太夫」をみて、幕府がロシアとどのような関係をきずこうとしたのか説明することができる。（技能） ・p. 129のTopic「現在の天皇家と光格天皇」をみて、江戸時代における天皇家について説明することができる。（知識） ・p. 129の地図③の「幕府の北方探検」をみて、幕府の北方政策について説明することができる。（技能）	・p. 128の絵①をみて、絵に描かれてる旗や人の配置、長崎奉行所など建物について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「国内の問題（「内憂」）と外国の問題（「外患」）、それぞれの内容・背景と幕府の対応を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 129の地図③と④をみて、日本列島にせまるアメリカやロシアとの関係について多面的・多角的に考察することができる。	・この時期にロシアが日本列島に近づいた理由を解明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 1．江戸時代後期の学問・文化	○民衆が学んだ学問と親しんだ文化は、どのようなものだったのだろうか。 ・江戸時代後期の学問の展開を考える。 ・化政文化について考える。	・民衆の生活と文化に着目させる。 ・この時期の学問の展開の内容について着目させる。 ・化政文化の内容や文化のいない手に着目させる。	・p. 130の絵①をみて、寺子屋での学びの様子について説明することができる。（技能） ・p. 130の絵②「おらんだ正月」を祝う蘭学者たちをみて、西洋風のことを指摘して説明することができる。（知識） ・p. 131の図④の「江戸時代後期の文化・芸術」をみて、文化の内容を説明することができる。（技能）	・p. 130の写真③をみて、この時代に日本の古典に注目があつまった理由について、外国船襲来との関係に留意して多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「元禄文化と場所や文化のいない手が異なる化政文化の特徴には、社会のどのような変化が反映されているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 131の絵⑥の浮世絵の手法に対し、絵⑦のような西洋画の影響のある絵も出た。このことから化政文化の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・外国との関係が文化にも影響が出ることを説明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 2．天保の改革	○幕府は、国内外の危機にどのように対応しようとしたのだろうか。 ・内憂外患の深刻化を考える。 ・天保の改革の内容と影響を考える。	・江戸時代後期の国内の混乱と外国での戦争の影響に着目させる。 ・天保の改革の政策内容に着目させる。 ・天保の改革の影響と雄藩の台頭に着目させる。	・p. 132の地図①をみて、三方領知替えの内容について説明することができる。（技能） ・p. 133の地図⑤「印旛沼掘割工事」をみて、掘割をおこなった理由や現代への影響を説明することができる。（知識） ・p. 133のTopic「砂糖あるところに奴隷あり」をみて、江戸時代の琉球や奄美大島の様子を説明することができる。（技能）	・p. 132の地図①、絵②をみて、三方領知替えの何が問題だったか、幕府の統制力に対する影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「天保の改革はなぜ失敗したのだろうか。また、改革の失敗は幕府と藩にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 133の絵④に描かれている風刺について抽出し、何を表しているのかグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・経済力が政治力にむすびつくことを示す事例から、政治と経済の関係について考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 八王子	○黒船来航と八王子、開港地横浜と八王子をむすぶ「絹の道」にも注目して考える。	・「絹の道」と八王子との関係に着目させる。 ・「格差」の拡大と武州世直し一揆に着目させる。	・p. 134の地図③を参考に、八王子と養蚕（生糸）との関係について説明することができる。（知識） ・p. 135の絵⑥をみて、武蔵国で世直し一揆が発生した理由を説明することができる。（技能）	・「貿易開始をきっかけに拡大した経済的格差は、社会に何をもたらしたのだろうか」という問いをp. 135の本文記述などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・八王子から横浜まで横浜線が通っている。そして八王子から北の高崎まで八高線が通っている。この2つの路線と絹との関係について多面的・多角的に考察することができる。	1
	近代がやってくる	○近代前夜の世界と日本との関係をみてみよう	・18世紀～19世紀前半の世界を経済という視点で着目させる。	・p. 136の資料Aと資料Bの内容を説明することができる。（知識）	・p. 136のQ. 1の1700年からヨーロッパのGDPがのびている理由、Q. 2の中国のGDPの失速の理由について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 137の下段のQ. 1の伝統的な国際関係の特徴、Q. 2の近代的な国際関係の特徴と日本の対応	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
		う。	・ 琉球をめぐる国際関係や世界全体の関係に着目させる。	・ p. 137の資料C～Fの内容を説明することができる。（技能）	・ p. 137上段のQ. 1のペリー艦隊が琉球や小笠原諸島に立ち寄った理由，Q. 2のペリーが琉米修好通商条約をむすんだ理由について多面的・多角的に考察することができる。	を追究する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生 時代と社会を考える「近世」	○近世の人々の人生を考える。	・ 近世の武士と百姓の生活について着目させる。	・ 近世の武士の風習や生活について説明することができる。（知識） ・ 近世の百姓の風習や生活について説明することができる。（知識）	・ 近世の人々の結婚，出産，あそび，老いなど人生の営み，武士と百姓の関係性についても多面的・多角的に考察することができる。	・ 近世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて，人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
2 学 期 後 半	第 7 章	■第 7 章のねらい ・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに，近世から近代への時代の転換を理解することをねらいとしている。 ・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現すること。近世から近代への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，対外的な環境や交流，中学校社会科歴史的分野での「大観し」て「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ，前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し，探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習を行う。		・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に，近世から近代への時代の転換を理解している。	・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・ 時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習については，小項目（7）の近世から近代への転換の理解や，「中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用する」（内容の取扱い）とともに，「歴史総合」の学習で獲得した概念などを活用し，近世との比較や他地域や他国との比較などを通して，例えば，当時の我が国が直面していた国内外における諸課題やその対応，政治や経済など諸側面の変化などから，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習などが考えられる。時代を通観する問いを表現する学習については，小項目（7）の学習や，近代の特色についての考察などから生じた様々な疑問を相互に表現する活動などを通じて，それらの疑問をもとに，教師が問いかけをおこなうなどして，近代の特色について課題意識をもって考察できるように指導を工夫する。それらをふまえて，生徒が，例えば，「日本は，どのような契機によって，近代的な社会の形成に向かったのだろうか」など，近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 3．開国	○ペリーはなぜ来航し，幕府や大名はどのように対応したのだろうか。 ・ペリー来航の背景やできごとについて考える。 ・開国の影響を考える。	・ペリー艦隊の経路や目的，日米和親条約の内容に着目させる。 ・安政の五か国条約の内容や影響に着目させる。 ・貿易がはじまったことによる日本国内への影響に着目させる。	・p. 144の絵①と②をみて，日本の人々がアメリカ人をどう考えていたのか，罫に書かれている品目について説明することができる。（技能） ・p. 145の史料③「日米修好通商条約」をみて，条約の内容や問題点を説明することができる。（知識） ・p. 145のグラフ④と⑤の内容を説明することができる。（技能）	・p. 145の「資料を読みとろう」をみて，「開国後の貿易で輸出の大半を占めていたものはなんだろう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「開国によって，日本の政治と社会はどのように変容したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 145のグラフ④にある横浜港の位置づけ，輸出入の増加，グラフ⑤で生糸の輸出が多い理由，イギリスの割合が高くアメリカが低い理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・外交が国内政治に与える影響について，幕末と現代とを比較検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 4．倒幕と「ええじゃないか」	○徳川幕府は，どのようにして倒れたのだろうか。 ・倒幕に至る過程について考える。 ・徳川幕府の滅亡と新政権の動きを考える。	・尊王攘夷運動と倒幕運動の関連に着目させる。 ・倒幕運動の動きに着目させる。 ・世直し一揆など民衆の動きと徳川幕府滅亡の関連に着目させる。	・p. 146の絵①をみて，描かれている内容，書かれている神号や神社について説明することができる。（技能） ・p. 147の表②「倒幕の動き」を，絵③や④を使いながら説明することができる。（知識） ・p. 147の表②をみて，幕府・長州藩・薩摩藩の動向やねらいについて本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 146の注「生麦事件」の説明，p. 147絵③をみて，生麦事件が薩摩藩とイギリスとの関係に与えた影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「徳川幕府から新政府への政権交代を，人々は「御一新」とよんだ。そこには，どのような思いがこめられていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 147のTopic「三浦命助と世直し一揆」の文章を読んで，三浦が仙台藩の協力を得られたことの理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・幕末の動きは大河ドラマでも数年おきに扱われるなど人気の時期である。それはなぜなのだろうか。現代人の歴史意識を検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 5．明治維新	○天皇はなぜ京都から江戸に移ったのだろうか。 ・ 戊辰戦争と新政府の始動について考える。 ・ 新政府の体制づくりの内容を考える。	・ 戊辰戦争の経過やその過程での混乱の様子に着目させる。 ・ 新政府が戊辰戦争のさなかでどのようにつくられはじめたのかに着目させる。 ・ 新政府が中央集権制をめざす過程に着目させる。	・ p. 148の絵①をみて、風刺画に描かれている人物や描かれている内容について説明することができる。（技能） ・ p. 148の絵②「東京府御酒頂戴 江戸橋日本橋風景」をみて、描かれている内容について説明することができる。（知識） ・ p. 149の史料③をみて、書かれている内容や新政府の意図について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 148の絵①と②を比較して、天皇の描き方の違いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「新政府はなぜ、人々に江戸時代とかわらない生活を求めたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 149の地図④「廃藩置県後の全国地図」とp. 107地図④「主要大名の配置図」を比較して、共通点や相違点、気がついたことなどをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 149のTopic「『夜明け前』の世界」を読んで、文学が同時代をどのように省察しているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 6．文明開化	○文明開化の背景には、どのような事情があったのだろうか。 ・ 人々の編成替えや文明の変化について考える。 ・ 岩倉使節団の内容や意義を考える。	・ 「四民平等」の内容や問題点に着目させる。 ・ 岩倉使節団の経路や派遣された留学生に着目させる。 ・ 文明開化の内容に着目させる。	・ p. 150の絵①をみて、風刺画に描かれている禁止事項の内容や絵が描かれた背景について説明することができる。（技能） ・ p. 151の史料③「岩倉使節団の視察レポート」をみて、史料が述べている内容について説明することができる。（知識） ・ p. 151の「ひと 福沢諭吉」をみて、福沢の思想やその背景について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 150の地図②の「岩倉使節団の経路」をみて、このような経路や経由地をたどった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々にとって、文明開化とはどのようなものだったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 151のTopic「神と仏の明治維新」を読んで、明治新政府の宗教政策を徳川幕府の政策との比較をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 151の「文明開化」を読んで、現代への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 7．富国強兵	○新政府は、どのような国づくりをめざしたのだろうか。 ・ 地租改正や殖産興業などの政府の政策について考える。 ・ 国民皆兵と政府への反発について考える。	・ 地租改正の意味と問題点に着目させる。 ・ 殖産興業など新しい政策に着目させる。 ・ 軍隊が誕生したことによる影響に着目させる。	・ p. 152の絵①をみて、描かれている欧米の先進文明について説明することができる。（技能） ・ p. 152の「ひと 渋沢栄一」をみて、渋沢栄一と殖産興業との関連を説明することができる。（知識） ・ p. 153の絵③「西南戦争の様子を描いた錦絵」をみて、西郷軍と新政府軍の装備の違い、描かれ方など本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 153の史料④の「徴兵告諭」をみて、内容とともに、軍人勅諭や徴兵令との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「政府に異を唱えた人々は、なぜ一気や武力反乱といった手段をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 152～153の「殖産興業」で、鉄道・郵便・電信などのネットワークをきずくことがなぜ重要であったのかを「歴史総合」で学んだイギリスの事例と比較して、それをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 153の「時代を通観する問いをたてよう」の「欧米諸国のアジア進出は日本にも影響を与え、幕府の崩壊と新政府の成立にいたった。新政府は幕府とは異なる国づくりをすすめた。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近代の展望	○軍隊と戦争から日本の近代社会について考えてみよう。	・ グラフや当時の書籍をみて、人々の生き方に着目させる。 ・ 錦絵や絵すごろくに描かれた軍隊や兵士の姿に着目させる。 ・ 当時の軍隊の組織図や写真をみて、軍隊のおかれた場所に着目させる。	・ p. 154のグラフ①の特徴を指摘することができる。（技能） ・ p. 154～155の絵③と④に描かれた軍人や兵士の姿を指摘して説明することができる。（知識） ・ p. 155の表⑤で、師団が配置されている場所の特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 154の写真②の『徴兵免役心得』で「甲種合格、クジのがれ」を願った人が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 154～155の絵③と④をみて、軍隊や兵士が描かれている理由や作者の意図を多面的・多角的に考察できる。 ・ p. 155の写真⑥をみて、女性がどのような役割をになったのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「徴兵制が存在した戦前に生きた男性の経験と徴兵の対象外だった女性の経験、軍隊のおかれた地域の傾向などに着目して、日本の近代にはどのような特徴があるか、仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 8．国境の画定	○日本はなぜ，朝鮮を開国させたのだろうか。 ・ 東アジアとの外交関係について考える。 ・ 蝦夷地と琉球について考える。	・ 日本と清や朝鮮などの東アジア地域との関係に着目させる。 ・ 蝦夷地から北海道編入の流れに着目させる。 ・ 琉球国を日本の一部とした琉球処分に着目させる。	・ p. 156の絵①や絵②をみて，江華島事件の様子や場所を説明することができる。（技能） ・ p. 157の地図③をみて，国境の画定の様子を説明することができる。（知識） ・ p. 157の絵④「那覇港に帰った琉球使節」をみて，何が描かれているのかを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 156のTopic「朝貢から条約へ」をみて，冊封体制と新しい国家関係を比較して両者の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日本はいそいで国境を画定するために，どのような方法をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 156の絵①の「永宗島や江華島にきずかれた砲台は，どこを守るためのものだったのでしょうか」という問いに地図②を使いながらグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 157の地図③や⑥を使って領土とは何かという問題について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 9．自由民権運動	○演説している人は，何を訴えているのだろうか。 ・ 自由民権運動がはじまるきっかけを考える。 ・ 自由民権運動の展開を考える。	・ 自由民権運動の誕生と国家統制との関係に着目させる。 ・ 結社の役割に着目させる。 ・ 自由民権運動のひろがりに着目させる。	・ p. 158の絵②をみて，着物姿の女性が何を考えているのか，とくに服装の違いに着目して説明することができる。（技能） ・ p. 159の史料③をみて，書かれている内容やこの建白書が与えた影響を説明することができる。（知識） ・ p. 159の表④「自由党と立憲改進黨の比較」をみて，２つの政党の違いを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 158の絵①の「資料を読みとろう」をみて，２人の人物が語っていることを想像し，自由民権運動と国家統制との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「自由民権運動には，どのような人々が，どのような期待をいだきながら参加していたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 158の絵①や②，p. 159の「ひと 植木枝盛」，本文記述を参考に，自由民権運動における男女の違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 159の史料③や本文記述を参考に，自由民権運動が現代に与えた影響について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 0．激化事件	○松方デフレは，どのような成果や問題をうみだしたのだろうか。 ・ 松方財政について考える。 ・ 激化事件や困民党の動きを考える。	・ 松方正義のデフレ政策の内容や影響に着目させる。 ・ 激化事件の内容と政府の弾圧に着目させる。 ・ 困民党の運動とその影響に着目させる。	・ p. 160の絵①をみて，どのようなものの価格が下がったのかを説明することができる。（技能） ・ p. 161の絵②「法廷の被告」をみて，描かれている内容やこの絵が表現したかった事柄を説明することができる。（知識） ・ p. 161の「ひと 井上伝蔵と謝花昇」をみて，２つの思想の共通点と行動の違いを説明することができる。（技能）	・ p. 160の絵①「松方デフレで下落する物価」をみて，物価の下落による影響とくに民権運動との関連を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「民権派と困民党はなぜすれちがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 161の困民党の記述で，民権運動が激化した場所の共通点についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 160～161の「激化事件」の本文記述をみて，経済政策が与える影響について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 1. 大日本帝国憲法	○民権派や困民党の運動は、憲法制定にどのようなにつながったのだろうか。 ・ 憲法制定と近代天皇について考える。 ・ 選挙と議会の動きを考える。	・ 大日本帝国憲法の制定過程や内容に着目させる。 ・ 近代の天皇制に着目させる。 ・ 初期議会と選挙の動向に着目させる。	・ p. 162の写真①・②・③をみて、3枚の肖像画はそれぞれいつごろ（明治天皇が何歳くらい）のものだろうかという問いを説明することができる。（技能） ・ p. 163の史料③の「大日本帝国憲法」をみて、憲法の内容について説明することができる。（知識） ・ p. 163のTopic「天皇と家族規範」をみて、当時考えられた「家」のあり方、洋装と和装の違いを説明することができる。（技能）	・ p. 162の写真①・②・③、絵④・⑤をみて、④と⑤で天皇がどこにいるのか、5つの写真や絵での明治天皇の服装や描かれ方、天皇にどのようなイメージを与えようと考えられたのかといった問題を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「天皇は、当時の人々にとってどのような存在だったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 161のTopic「天皇と家族規範」や絵⑤、絵②「憲法発布の式典の様子」などの女性の描かれ方についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 163の史料③「大日本帝国憲法」の本文記述をみて、現行の日本国憲法と比較して現代を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	第8章	■第8章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえることをねらいとしている。 ・ 日清・日露戦争、第一次世界大戦については、戦争が及ぼした影響などに着目して、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し、それぞれの講和条件などから、形成される国際秩序と我が国の関わり、近隣諸国、諸地域との関係について確認する。さらに、日清・日露戦争前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配をすすめたことや、第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化を確認するなどの学習をおこなう。		・ 明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	・ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ この小項目の内容の確かな理解をはかるためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、当時の様々な立場の人々が日本のおかれた状況やあるべき姿をどのように意識していたと考えるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、世界を認識したこの時代の人々の意識や判断を考察する学習や、「あなたは、地域社会が近代をむかえたのはいつだと考えるか、またそれはなぜか」、「あなたは、対外的な戦争は日本の近代化の過程の中で、どのような意味をもったと考えるか」などの問い（課題）を設定して、地域における近代国家の形成についてそれぞれの考えを表現して根拠をもとに議論したり、戦争がもたらした国内的、国際的な変化それぞれの重要性や相互の関係について根拠をもとに考察したことを表現したりするといった学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 2．日清戦争	○なぜ日本は、清と戦争をしたのだろうか。 ・ 日清戦争前の東アジア情勢について考える。 ・ 日清戦争の内容を考える。	・ 日本政府の欧化政策と国内での国粋主義の動きに着目させる。 ・ 1880年代の朝鮮半島をめぐる動きに着目させる。 ・ 日清戦争の原因，経過，講和と台湾征服戦争に着目させる。	・ p. 164の絵①をみて，鹿鳴館の建物の様子，参加している人の服装の特徴を説明することができる。（技能） ・ p. 164の表③の「条約改正のあゆみ」をみて，条約改正の責任者や交渉内容について説明することができる。（知識） ・ p. 165の地図⑤「日清戦争と台湾の征服」をみて，日清戦争のおもな戦場や日本軍の進路を説明することができる。（技能）	・ p. 164の表③「条約改正のあゆみ」，絵④「ノルマントン号事件」をみて，条約改正交渉のきっかけ，途中でイギリスが日本に協力的になった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日清戦争は，これまで日本がおこなった戦争と何がちがうのか，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 165の絵⑥「征清海陸進軍双六」をみて，広島に大本営がおかれた理由，海路が佐世保が起点になっている理由，北京が「あがり」となっている理由をおもな戦場がどこであったのかに注意しつつグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 165の絵⑦「台湾の割譲に反対する会議」，台湾征服戦争に関する本文記述をみて，台湾の人々が日本にどのような歴史的意識をもっているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 3．1900年前後の世界と東アジア	○日清戦争後，日本・中国・朝鮮の関係はどうか変わっただろうか。 ・ 世界と日本の帝国主義について考える。 ・ 1900年前後の東アジア情勢を考える。	・ 欧米と日本の帝国主義の動きに着目させる。 ・ 日本人の中国や朝鮮に対する意識の変化に着目させる。 ・ 義和団戦争と当時の国際情勢に着目させる。	・ p. 166の絵①「列強による中国分割」をみて，どのような国が中国に進出したのか説明することができる。（技能） ・ p. 166の表④の割譲や租借，それに借款といった用語を具体的事例を用いながら説明することができる。（知識） ・ p. 167の絵⑤「日本人の中国観の変化」をみて，ここに描かれている中国人への侮蔑意識とその背景を説明することができる。（技能）	・ p. 166の絵②「分割される中国の風刺画」をみて，この絵に描かれている人物，右手の女性が左の男性の肩に触れている理由，中国人の描かれ方などを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「帝国主義時代の国と国との関係の特徴は何か，話しあってみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 167の写真⑤「沖縄県の『国語』の教科書」をみて，このような構成になった理由を琉球処分との関係も考慮に入れグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 166～167の本文記述をみて，中国分割の影響は現在どのように残っているのかを考えるとという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 4．日露戦争	○日清戦争後，日本では戦争に対してどのような意見が出てきただろうか。 ・日露戦争の前後の世界と日本の帝国主義について考える。 ・日本の韓国併合について考える。	・日露戦争前の国内世論や戦争の全体，日本の朝鮮侵略に着目させる。 ・ポーツマス条約の内容やその後の日本の行動に着目させる。 ・韓国併合にいたる過程に着目させる。	・p. 168の絵①「日本とロシアの対立の風刺画」をみて，描かれている内容や描かれている国々がどこかを説明することができる。（技能） ・p. 168の地図②「日露戦争関係図」をみて，日本軍の進路や戦場について説明することができる。（知識） ・p. 169の表⑤「20世紀初頭の日韓関係」をみて，韓国併合にいたる過程を説明することができる。（技能）	・p. 168の地図②「日露戦争関係図」とp. 169の地図④を比べ，地名や地図の書き方などの違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「日露戦争と日清戦争の違いは何か，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 169の「ひと　内村鑑三」や本文記述を参考に，日露戦争をめぐる国内世論の動向についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 169の南満洲鉄道株式会社について，今日の鉄道会社の事業と比較して，共通点と相違点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 5．社会問題と地域社会	○産業革命は，人々に何をもたらしたのだろうか。 ・日本の産業革命について考える。 ・20世紀初頭を中心とした日本の社会問題について考える。	・日本の産業革命の内容と地域への影響に着目させる。 ・労働者のはたらく時間や賃金などの社会問題の認識に着目させる。 ・社会主義の冬の時代に着目させる。	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」をみて，日本の鉄道網について説明することができる。（技能） ・p. 170の史料②「工女節の一節」をみて，歌詞の内容を説明することができる。（知識） ・p. 170の表③「1897年の輸出入の内訳」をみて，日本の輸出入の産品について説明することができる。（技能）	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」と本文記述を参考に，日本が鉄道建設を積極的におこなった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「女工は，どのような背景のもとでうみだされ，どのような役割をになったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 171の絵④，写真⑤，Topic「足尾暴動と友子同盟」をみて，鉱夫が暴動をおこした理由を本文記述を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 171の工場法の内容を調べ，現在の労働法規との違い，現在の労働法規の問題点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5 6．大正デモクラシー	○都市の人々は、なぜポーツマス条約の締結に反対したのだろうか。 ・日露戦争後の社会や民衆の様子について考える。 ・大正デモクラシーについて考える。	・日露戦争後の民衆の行動や桂園時代の世相について着目させる。 ・第1次護憲運動に着目させる。 ・大正デモクラシーと中国の動向に着目させる。	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」をみて、焼き打ちに参加した人を姿や持ち物などから説明することができる。（技能） ・p. 173の史料③「吉野の民本主義」をみて、史料の内容を説明することができる。（知識） ・p. 173の表④「20世紀はじめの内閣と出来事」をみて、このころの政治状況を説明することができる。（技能）	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」と本文記述を参考に、焼打ち事件が発生した背景、人々が政治的な主張をするようになった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「大日本帝国憲法のもとでのデモクラシーには、どのような課題があったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 173のTopic「大正教養主義」をみて、江戸時代の人々の考え方と比較するグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 172～173の大正デモクラシーの考え方が現代にどのような影響を与えたのか探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 7．第一次世界大戦と日本	○第一次世界大戦によって、日本と世界はどのようにかわったのだろうか。 ・第一次世界大戦と日本との関係について考える。 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制と日本との関係について考える。	・第一次世界大戦の全体像に着目させる。 ・帝国日本の膨張に着目させる。 ・ロシア革命と大戦終結後の世界に着目させる。	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」をみて、連合国側と同盟国側の構成を説明することができる。（技能） ・p. 174の地図②「第一次世界大戦中の日本の進出」をみて、日本の進出の様子を説明することができる。（知識） ・p. 175の史料⑥「元老井上馨の進言」をみて、井上の「天佑」という言葉の意味や発言の趣旨を説明することができる。（技能）	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」と本文記述を参考に、同盟国と連合国がまとまった理由やイタリアが三国同盟を離脱した理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「第一次世界大戦とその後の国際秩序のなかで、日本はどのような立場にあったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 175の「ひと ウィルソン・レーニン」やTopic「国際連盟」をみて、2人の人物が戦後構想をどのように考え、実際にどのようなになったのか、あなたならどう考えるかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 174の地図①・②をみて、どうして世界大戦とよぶようになったのかを考え、戦争が各国を巻き込む過程を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 8．資本主義の成長	○第一次世界大戦後の日本経済はどのように かわっていったのだろうか。 ・ 日本の資本主義の発達について考える。 ・ 日本の都市と農村の実態について考える。	・ 大戦景気の内容に着目させる。 ・ 日本の資本主義の発展の様 子に着目させる。 ・ 都市の発達の様子と農村の 実態，都市と農村との関係に 着目させる。	・ p. 176のグラフ①「貿易額の推移」をみて，第 一次世界大戦中と戦後の貿易額の違いを説明す ることができる。（技能） ・ p. 177のグラフ④「荷車・人力車・自転車・自 動車の数」をみて，日本人の移動手段の変化を 説明することができる。（知識） ・ p. 177の写真⑦「講義録」をみて，書かれてい る内容を説明することができる。（技能）	・ p. 176のグラフ①「貿易額の推移」， グラフ② 「産業構造の変化」， 写真③と本文記述を参考 に，日本の産業構造の変化を多面的・多角的に 考察することができる。 ・ TRYの「資本主義の成長は都市・農村の社会を どのようにかえていったのだろうか」という問 いに対し多面的・多角的に考察することができ る。 ・ p. 176のTopic「労働者の姿」やp. 177のグラフ ④「荷車・人力車・自転車・自動車の数」， 写 真⑥の金沢の様子をみて，都市と農村の関係， 農村のかかえる問題，交通機関の発達との関係 をグループワークを通じて多面的・多角的に考 察することができる。	・ p. 177の本文記述をみて，都市の農村との関係 を100年前と現在を比較して考察するという学習 上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のはたらく・あそぶ	○近現代では，はたらくことでむすびあう 人々の関係はどのようにかわったのか。子ど もの権利条約の「あそぶ権利」も参考に，こ の条約がうまれた背景も考えてみる。	・ 都市と農村での労働に着目 させる。 ・ 祝祭日やあそびの変化に着 目させる。	・ p. 178の絵①「筑豊炭坑絵巻」や史料②「女工 小唄」をみて，当時の労働実態について説明す ることができる。（知識） ・ p. 179の絵④「新板子供遊尽し」をみて，あそ びの内容を説明することができる。（技能）	・ p. 178の本文や図版をみて，都市と農村の労働 の違いをグループワークを通じて多面的・多角 的に考察することができる。	・ TRYの「江戸時代から明治時代になって，「休 む」ことにおこった変化は何だろう」という問 いに対して，さまざまな図版を利用して多面 的・多角的に考察することができる。	1
	5 9．改造の時代	○米騒動はなぜおこり，参加した人々は何を 求めたのだろうか。 ・ 米騒動など社会運動の高まりについて考え る。 ・ 被差別部落や女性解放の動きについて考え る。	・ 米騒動の内容や背景に着目 させる。 ・ 社会運動の高まりを分野別 の観点から着目させる。 ・ 女性解放について現在との 比較の観点から着目させる。	・ p. 180の絵①「米騒動絵巻」， 絵③「ヤマの米 騒動」をみて，描かれている内容を説明すること ができる。（技能） ・ p. 181の写真④「さまざまな『改造』」をみ て，それぞれの特徴や違いを説明することができ る。（知識） ・ p. 181の写真⑤「娼婦運動に関連する論説」を みて，書かれている内容を説明することができ る。（技能）	・ p. 181の絵①「米騒動絵巻」， 写真②の新聞記 事， 絵③「ヤマの米騒動」をみて，米騒動が都 市，漁村，炭鉱でおきた理由や背景の違いを多 面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「それぞれの社会運動にとって『改造』 とは何を意味していたのだろうか。まとめてみ よう」という問いに対し多面的・多角的に考察 することができる。 ・ p. 181の写真⑤の新聞記事，注「母性保護論 争」， 写真⑤の雑誌の表紙，本文記述を参考 に，当時の女性解放運動の内容，問題点をグ ループワークを通じて多面的・多角的に考察す ることができる。	・ p. 180～181の記述をみて，今日の社会運動と の共通点や相違点を比較考察するという学習上 の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6 0．植民地	○植民地をもつことで、日本はどのようにかわったのだろうか。 ・日本の植民地と解放運動について考える。 ・人々の移動について考える。	・日本の植民地の特徴や「内地」との違いに着目させる。 ・日本の植民地でおきた民族解放運動や独立運動に着目させる。 ・植民地間、「内地」と植民地での人の移動に着目させる。	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」をみて、日本の植民地獲得の過程を説明することができる。（技能） ・p. 182の写真②「朝鮮銀行券と台湾銀行券」、写真③「植民地の産業」、本文記述をみて、日本の植民地支配の内容を説明することができる。（知識） ・p. 183の地図⑥「日本からの移民」をみて、人の移動の様子や数値を説明することができる。（技能）	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」，注①の記述を参考に日本の各植民地の支配方法の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「台湾や朝鮮では、どのような植民地支配がおこなわれたのか、調べてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 183の表⑤「都道府県別の海外移民数」を参考に「資料を読みとろう」に答え、その地域が多い理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 182～183の記述をみて、日本の植民地支配がこんにちに与えている影響を考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 京城(ソウル)	○日本の植民地であったころの「京城」，その後の大韓民国のソウルの歴史を考える。	・「漢城」と「京城」の歴史と特徴に着目させる。 ・「ソウル」の発展や特徴に着目させる。	・p. 184の地図①，写真②・③を参考に，「漢城」・「京城」の特徴を説明することができる。（知識） ・p. 185のグラフ④をみて，「京城」の人口の推移を説明することができる。（技能）	・「台北（台湾），大連（関東州），豊原（樺太）など，日本のほかの植民地都市についても調べてみよう」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・日本の東京と韓国のソウルの歴史や街の構成を比較して両者の共通点や相違点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	第9章	■第9章のねらい ・近代から現代に至る国家や社会の展開について，主題を設定し，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力，判断力，表現力等の育成を図りつつ，近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い，近代を展望する仮説を踏まえるとともに，「歴史総合」での学習の成果を活用して，近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し，多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。その際，大項目AからCまでの前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し，近代から現代にいたる国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，近現代がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図ることをねらいとしている。	・恐慌と国際関係，軍部の台頭と対外政策，戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに，第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会，国民生活の変容を理解している。	・国際社会やアジア近隣諸国との関係，政治・経済体制の変化，戦争の推移と国民生活への影響などに着目して，主題を設定し，第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・内容の確かな理解を図るためには，生徒が上記の意味や意義，関係性などの考察をふまえて，考察の結果を根拠や論理をもって筋道を立てて説明したり，歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や，歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば，「あなたは，国際連盟を脱退した時期の情勢のなかで，日本が国際的孤立を避けるために，どのような外交関係をむすぶことが有効であったと考えられるか」などの，諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して，日本が国際的孤立を回避するために，アメリカ合衆国やソヴィエト連邦など国際連盟未加入国やドイツ・イタリアとの関係を，どのように構築しようとしたかを考察したり，「あなたは，戦争が不可避となった画期について，どの出来事がそれにあたると考えるか，当時，どのような根拠にもとづいてそれが選択されたと考えるか，現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して，世界恐慌を契機とした保護貿易主義のひろがりや全体主義の台頭，中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして，当時の国際状況，国内状況		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
						についての考察をふまえ、歴史のなかで、どのような判断が何を根拠におこなわれたのかについて、根拠をもとに考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。その際、当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の回顧録などから、当時どのような観点で議論がすすめられたのかなどについて考察したりして、現代の視点と比較しながら議論するなどの学習も考えられる。また、第二次世界大戦の学習については、この戦争が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらし、人類の文化と生活を破壊したこと、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国においても各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下をはじめ空前の戦禍を被ったことに着目させ、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚させるようにする。	
	6 1. 普通選挙と治安維持法	○震災の前後で都市はどのようにかわっていったのだろうか。 ・都市の変容と関東大震災について考える。 ・1920年代前半の日本の政治を考える。	・都市の変容と関東大震災の影響、人々の生活の変化に着目させる。 ・政党内閣の動きに着目させる。 ・普通選挙法と治安維持法の内容や影響に着目させる。	・ p. 186の絵①と写真②をみて、関東大震災でどのような経験の人々がしたのか説明することができる。（技能） ・ p. 187の写真④「文化住宅」と写真⑤「阪急百貨店」、本文記述を参考にして、当時の人々の生活の様子を説明することができる。（知識） ・ p. 187の「ひと 市川房枝」をみて、女性運動について説明することができる。（技能）	・ p. 186の絵①「小学生が描いた関東大震災」、本文記述をみて、関東大震災の混乱のなかで朝鮮人・中国人虐殺や社会運動の指導者が殺害された理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「普通選挙の導入によって政治と民衆の関係はどのように変化したのだろうか」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 187の普通選挙法の問題点、治安維持法が普通選挙法と同時に制定された理由、ソ連との国交樹立との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・新聞や雑誌、ラジオやテレビ、そしてSNS社会といった情報伝達装置の発達が人々の生活にどのような影響をもたらすのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 2．大日本帝国の選択肢	○大日本帝国はどのような国内政治・外交をおこなったのだろうか。 ・国際協調と軍縮について考える。 ・日本の中国進出と昭和恐慌について考える。	・軍縮条約や不戦条約などの意義に着目させる。 ・政党政治の動向と対中政策の動きに着目させる。 ・世界恐慌と昭和恐慌が与えた影響に着目させる。	・p. 188の写真①東方会議と写真②ロンドン海軍軍縮会議をみて、それぞれの会議で何が議論されたのかを説明することができる。（技能） ・p. 189の地図③「北伐と山東出兵」をみて、中国国内の動向と日本との関係を説明することができる。（知識） ・p. 189の写真⑥の人々がなぜ預金を引き出そうとしたのか、理由を説明することができる。（技能）	・p. 188の「ひと 石橋湛山」をみて、石橋の小日本主義がどのように画期的であったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「経済のたてなおしのためどのような選択肢が考えられたのか、調べてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 189の世界恐慌と昭和恐慌の影響を都市部と農村に分けて調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 189の写真④と⑤をみて、選挙権をもった人の割合、女性と政治の関係を現在の18歳選挙権との関係もあわせて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 3．満洲事変とモダニズム	○満洲事変はどのようにして人々の支持を集めたのだろうか。 ・満洲事変の内容とその後の状況について考える。 ・二・二六事件の内容とその影響について考える。	・満洲事変の原因、日本の対応、国際連盟脱退の一連の動きに着目させる。 ・戦争と文化・社会の関連に着目させる。 ・五・一五事件や二・二六事件など軍部が暴走する時代に着目させる。	・p. 190の写真①とマンガ②の関係を説明することができる。（技能） ・p. 190の地図③「満洲事変関係要図」をみて、満洲事変の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 191の写真⑥の人々がおこなっている千人針がどういうものか、そして誰がお願いしているのかを説明することができる。（技能）	・p. 190のTopic「国防婦人会」をみて、女性と戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「戦争はどのような社会状況のもとでおこなわれていたのだろうか。まとめてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 191の「ひと ヒトラーとムッソリーニ」をみて、日本との共通点と相違点を調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 190の満洲事変の記述をみて、軍隊は政府と同一でないことを確認するとともに、現在の文民統制（シビリアン・コントロール）がなぜ重要なのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 4．日中戦争と総力戦	○日中戦争はなぜ長期化していったのだろうか。 ・盧溝橋事件とその後の日本の中国進出について考える。 ・日本の新体制について考える。	・盧溝橋事件と日中戦争、第二次国共合作など一連の動きに着目させる。 ・日中戦争が長期化した理由に着目させる。 ・日本は長期化した戦争を継続するためどのような政策をおこなったかに着目させる。	・p. 192の写真①と②から、戦争と民衆との関係について説明することができる。（技能） ・p. 192の地図③「日中戦争関係図」をみて、日中戦争の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 193の写真⑥について、「読み解きのツボ」にある人文字の数字が何を表しているのか説明することができる。（技能）	・p. 193のグラフ④「村の応召者」をみて、赤紙応召者、現役入隊、志願の割合の変化とその理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「兵士たちはどのような思いで戦場に向かったのだろうか。話しあってみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 193の「ひと 火野葦平と宮柊二」をみて、文学と戦争との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 192のLink「南京事件」をみて、いろいろと見解の分かれる歴史的な問題に冷静に学問的にどのように対応すべきか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 5．アジア太平洋戦争	○この戦争をアジア太平洋戦争とよぶのはなぜだろうか。 ・第二次世界大戦直後の日本の動向について考える。 ・アジア太平洋戦争の実態を考える。	・第二次世界大戦がはじまったころの日本の南進やソ連との関係に着目させる。 ・アジア太平洋戦争の前半の動向に着目させる。 ・大東亜共栄圏の内容に着目させる。	・p. 194～195の本文記述をみて、アジア太平洋戦争の流れを説明することができる。（技能） ・p. 194の史料③「南方占領地行政実施要領」をみて、史料に書かれていることを説明することができる。（知識） ・p. 195の地図④「アジア太平洋戦争の展開」に表されている内容を時間の経過とともに説明することができる。（技能）	・p. 194の写真①「大東亜共栄圏すごろく」をみて、どの地域が描かれているか、「上り」と「ゴール」の位置、このすごろくが作られた目的について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「「大東亜共栄圏」のもと、人々はどのような暮らしをしていたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 194の写真②，Topic「中国戦線の日本軍」をみて、日本の中国における植民地政策の内容や問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 194～195のアジア太平洋戦争には太平洋戦争という呼び方もあり、戦時中は大東亜戦争とも呼ばれていた。戦争の呼称について何が適切であるのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 6．敗戦	○総力戦は、民間人をどのような危険にさらしたのだろうか。 ・国民生活や戦線が破綻していく様子について考える。 ・日本の敗戦を考える。	・国民生活の破綻に着目させる。 ・戦線の崩壊の様子に着目させる。 ・日本の降伏への流れに着目させる。	・p. 196の写真③や本文記述をみて、戦争によって戦闘員以外の民間人がどのような生活していたのかを説明することができる。（技能） ・p. 196のポスター②，p. 197のポスター④，⑤，写真⑥をみて、10代半ばの少年が戦時中にどのような生活をしていたのか説明することができる。（知識） ・p. 197のTopic「8.15で終わらなかった戦争」をみて、日本が降伏した後でもどのような戦闘や悲劇が繰り返されたのかを説明することができる。（技能）	・p. 196の地図①「全国主要都市での空襲・艦砲射撃」をみて、どの地域に空襲が多かったのか、空襲や艦砲射撃が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「戦局が悪化しはじめてから日本が降伏するまで、長い時間がかかったのはなぜだろう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 197の本文で、「集団自決」と「強制集団死」の2つの言葉の違いは何か、どちらの言葉（もしくはさらに別の言葉）を使うのが良いのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 196～197の本文や資料をみて、戦争によって人々の生活はどうなるのか、原子爆弾の被害をどのように継承するのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 広島	○被爆以前の広島はどのような地域だったのか、原爆と平和だけでない広島の歴史を考える。	・水の豊かな城下町から軍事都市への変貌に着目させる。 ・移民を送り出した背景や原爆投下の実態に着目させる。	・p. 198の地図①，写真②・③を参考に、広島 of 歴史を説明することができる。（知識） ・p. 199のグラフ④をみて、移民を多く送り出した都道府県の特徴を説明することができる。（技能）	・「あなたの街や地域の性格は、どのようなことをきっかけに決まったり、かわったりしてきたのだろうか」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・原爆が投下されたもうひとつの街、長崎と広島との共通点と相違点を考え、戦争で街がねらわれるというのはどういうことかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート	・ 準拠ノート	・ 討論や発表	
				・ 定期テスト問題	・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題）	・ ワークシート	
			・ 一問一答問題		・ ワークシート		
	第 1 0 章	■第 1 0 章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 ・ これまでの学習をふまえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりをふまえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習をおこなう。持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が地域社会や身の回りの事象と関連させた主題を設定して探究する。			・ 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、いままでの学習でみいだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察することができる。	
	6 7．世界のなかの日本占領	○戦後の国際関係は、占領にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 戦後世界の状況について考える。 ・ 日本の民主化や戦争責任の追及について考える。	・ 国際連合や冷戦など戦後世界の形成過程に着目させる。 ・ GHQの間接統治の内容に着目させる。 ・ 戦争責任の追及と女性の参政権に着目させる。	・ p. 200の地図①をみて、旧大日本帝国領のどこを連合国側が占領したのかを説明することができる。（技能） ・ p. 200の図③をみて、GHQの間接統治のしくみを説明することができる。（知識） ・ p. 200～201の本文をみて、GHQのすすめた改革について説明することができる。（技能）	・ p. 200の図③「連合国軍の日本占領管理・統治機構図」をみて、日本の「本土」と沖縄との違い、さらに「本土」と朝鮮半島の違いについてその理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「占領政策によって、敗戦までの日本の何が否定され、どこまでかわれたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 201のLink「戦争を裁く」をみて、パリ不戦条約との関係、ニュルンベルク裁判と東京裁判の比較をして、戦争犯罪を裁く意味をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 201の女性参政権の本文記述を参考に、女性の権利が戦前と戦後でどのように変化し、さらに現代との比較をすることによって女性の権利を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 8．占領改革と日本国憲法	○改革のなかで、人々は新たな権利をどのように獲得したのか。 ・ 経済の改革と日本国憲法の制定について考える。 ・ 社会の改革や民主化について考える。	・ 経済の改革や労働三法の制定に着目させる。 ・ 日本国憲法の制定と教育改革に着目させる。 ・ 地方の政治や男女の同権に着目させる。	・ p. 202の写真①をみて、当時の文部省が日本国憲法をどのように考えていたのか説明することができる。（技能） ・ p. 202の史料②「日本国憲法（抜粋）」をみて、書かれている内容や制定の経緯について説明することができる。（知識） ・ p. 203の表④「占領期のおもな政治、戦後改革の動き」をみて、日本の戦後改革の流れを説明することができる。（技能）	・ p. 202のグラフ③「農地改革前後の地主・自作・小作農の変化」をみて、農地改革の成果について、その理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は民主化をどう受け止めたのだろうか。日本国憲法制定の過程を通して考えてみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 203の絵⑤「ブロンディ」や絵⑥「シンチュウグンノヘイタイサン」が描いている内容や描かれた意図をp. 190ののらくろとの比較を通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 203のTopic「男女同権への取り組み」や本文記述をみて、女性の地位の変化や啓蒙する動きについて、その意義と現代につながる問題点を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6 9．朝鮮戦争	○朝鮮戦争は、どのような戦争だったのだろうか。 ・ 第二次世界大戦後の朝鮮半島情勢について考える。 ・ 朝鮮戦争とその後の世界の動きについて考える。	・ 朝鮮半島や中国の分断状況に着目させる。 ・ 朝鮮戦争と日本の関係に着目させる。 ・ G H Q の占領政策の転換に着目させる。	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、朝鮮戦争の戦場や前線基地について説明することができる。（技能） ・ p. 204の注「ドッジ=ライン」をみて、描かれている内容や日本経済への影響について説明することができる。（知識） ・ p. 204～205の本文記述をみて、朝鮮と日本との関係を時間順に説明することができる。（技能）	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、アメリカ軍の空軍基地の位置と朝鮮戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「朝鮮戦争は、戦後の日本にどのような影響を及ぼしたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 205のグラフ⑤「特需物資品目」と「輸出額に対する特需収入」をみて、年ごとに品目がかわっていく理由、輸出額と特需収入との比率の変化についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 204～205の本文記述をみて、いまだに続く朝鮮半島分断や中国の分断をいかに解決するかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のたたかう・つながる	○近現代史では戦争についてたくさん学んできた戦争はなぜ起こるのかという「問い」を考えていく。	・ 戦争の姿と民衆の感情に着目させる。 ・ 戦争をいかに語り継ぐのかに着目させる。	・ p. 206のポスター②をみて、ポスターに描かれている人物が誰であるか、ポスターが表現しようとしていることを説明することができる。（知識） ・ p. 207の写真③、④をみて、戦争体験の継承の動きや内容を説明することができる。（技能）	・ p. 206の「考えてみよう」の「戦争の原因、そして、人々が戦争を支持した理由について、これまでどのような説明がなされてきたか、調べてみよう」という課題に対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 207の「考えてみよう」の「教科書を読んでいると、「つながる」かたちにも多様な姿があることがわかる。たとえば戦争で孤児になった子どもは、たった一人にいるときにはどのような「つながり」を感じていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「地域には多くの戦争体験記集がある。内容に加え、つくった人々のつながりにも注目して読んでみよう」という課題に対し、多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 0．日米安保体制と 5 5 年体制	○独立後の日本はどのような政治体制で運営されたのだろうか。 ・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約について考える。 ・ 独立後の日本の情勢について考える。	・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約の内容とアメリカとの関係に着目させる。 ・ 日本の 5 5 年体制と国際社会への復帰に着目させる。 ・ 原水爆禁止運動と安保闘争に着目させる。	・ p. 204の地図④「在日アメリカ軍基地」をみて，日本にある米軍基地や施設の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 208の写真⑤，p. 209の写真⑥，ポスター⑧や⑨をみて，基地反対や原水爆反対の動きについて説明することができる。（技能）	・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容や問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は，独立後の日本や国際関係にどのような問題を感じて，運動にたちあがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 209の絵⑦鉄腕アトム，ポスター⑧ゴジラ，ポスター⑨などをみて，原子力に対する意識や違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 208～209の本文記述をみて， 5 5 年体制の今日への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 1．高度経済成長	○急激な経済成長は，日本社会をどのようにかえたのだろうか。 ・ 日本の高度経済成長について考える。 ・ 高度経済成長の問題点について考える。	・ 高度経済成長で中心となった地域や産業に着目させる。 ・ 日本の社会構造の転換に着目させる。 ・ 高度経済成長の矛盾と対策に着目させる。	・ p. 210の地図①「コンビナートと四大公害病」をみて，日本の公害がおきた地域と主要な工業地帯との関連について説明することができる。（技能） ・ p. 210のグラフ④「産業別就業人口の推移」をみて，日本の社会構造の変化を説明することができる。（知識） ・ p. 211の「ひと 石牟礼道子」をみて，水俣病の告発の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 210の写真③の「建設中の高速道路」，p. 211の写真⑦と⑧をみて，高度経済成長と人の移動との関係について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「経済成長の負の側面を克服するため，どのような対策がたてられてきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 211の写真⑥や本文記述をみて，公害と環境保全との関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 211の写真⑤をみて，高度経済成長で核家族化がすすんだが，このことが現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 2．ベトナム戦争とアジア	○アジアの熱戦は冷戦下の日本と世界をどうかえたのだろうか。 ・ 1960年代の日本とアジアの関係について考える。 ・ 1970年代の日本とアジアの関係について考える。	・ 韓国をはじめアジアとの関係修復の歴史に着目させる。 ・ ベトナム戦争と日本との関係に着目させる。 ・ 沖縄返還と日中国交正常化の歴史に着目させる。	・ p. 212のTopic「日韓条約の焦点」をみて，日本と朝鮮半島の関係について説明することができる。（技能） ・ p. 213の地図③「沖縄のアメリカ軍基地」をみて，宜野湾市と嘉手納町に占める基地の割合を説明することができる。（知識） ・ p. 213の年表「1970～90年代の日中関係」をみて，日本と中国の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 212の写真①と②をみて，日韓条約に反対する理由，ベトナム戦争に反対する理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日本と周辺諸国との関係回復に，戦争はどのように影響したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 213のグラフ⑤「沖縄と日本本土のアメリカ軍基地面積の割合の推移」をみて，沖縄の基地問題についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 213の写真④をみて，沖縄の本土復帰について問題点は何か，本土復帰が現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	7 3．経済大国	○「大国」としての日本に求められた役割は何だったのだろうか。 ・高度経済成長の終わりについて考える。 ・経済大国となった日本について考える。	・高度経済成長が終わった理由や影響に着目させる。 ・日本が経済大国になった理由に着目させる。 ・日本の新自由主義に着目させる。	・p. 214のグラフ②「賃金と物価の推移」をみて、物価と賃金の上がり方の違いと生活への影響について説明することができる。（技能） ・p. 214の写真④「日本車をこわすアメリカの労働者」をみて、このようなことがおきた背景を説明することができる。（知識） ・p. 215のグラフ「長時間労働の推移」をみて、日本の男性労働者の労働時間の特徴について説明することができる。（技能）	・p. 214の本文記述，p. 215の写真⑦や⑧をみて，地価の高騰や土地の買い占めなど土地が経済に与える影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「石油危機後の日本の不況脱出策には，どのような長所と短所がみられるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 215のTopic「女性のはたらき方の変化」をみて，女性の雇用の問題，グラフ⑨の男性の長時間労働の問題と比較してグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 215の本文記述をみて，日本の新自由主義や民営化にはどのような問題があり，現在にどのような影響を与えているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 牛	○牛はいつから「食べ物」になったのだろうか。	・「耕す」「運ぶ」存在から「食べる」存在になった過程を考える。 ・「和牛」とは何か考える。	・p. 216の絵①「牛鍋を食べる人」に描かれた様子，男女の描かれ方の違いを説明することができる。（技能） ・「和牛」が誕生した経緯について説明することができる。（技能）	・p. 216の史料①，②，③をみて，書いてある内容を説明するとともに，牛に対する意識の変化について多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 217の写真⑤をみて，人間も牛も国境をこえた感染症をどうするのかという問題について多面的・多角的に考察することができる。	・「近現代を通じた牛の役割の変化は，私たちの生活や食卓のどのような変化を映しだしているのだろうか」という問いに答え，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 4．世界の転換と日本社会	○冷戦崩壊後の変化に日本はどのように対処したのだろうか。 ・冷戦体制の崩壊と日本について考える。 ・日本政治の転換点について考える。	・冷戦体制の崩壊の内容に着目させる。 ・湾岸戦争と日本の関与について着目させる。 ・5 5 年体制の転換と日本政治の変化について着目させる。	・p. 218のグラフ③「在日アメリカ軍駐留経費に対する日本側負担額の推移」をみて，日本側負担の推移について説明することができる。（技能） ・p. 218の本文記述をみて，冷戦体制の崩壊の様子やアジアの民主化の動きの流れを説明することができる。（知識） ・p. 219の本文記述やp. 230～231の「歴代内閣の歩み」をみて，55年体制発足時から転換期までの流れを説明することができる。（技能）	・p. 218～219の本文記述，写真④を参考に，自衛隊の海外派遣など国際紛争への協力のあり方について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「1990年代の政治改革や平成不況への対処の仕方は，現在にどのようにつながっているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 219のTopic「歴史認識問題」をみて，日本が東アジア諸国と歴史認識を共有する試みについて，その必要性と難しさについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 219の写真⑤や⑥をみて，戦後処理をどのようにすべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 5．グローバル化する世界と日本	○世界はどのような方向に向かって変化しているのだろうか。 ・ グローバル経済と構造改革の問題について考える。 ・ 9. 11とそれ以降の日本と世界について考える。	・ グローバル経済と構造改革の内容に着目させる。 ・ 9. 11事件とその後のイラク戦争への日本の関与について着目させる。 ・ 格差の拡大と政権交代について着目させる。	・ p. 220の写真①やグラフ③「在日外国人数の地域別推移」をみて、日本にいる外国人の国籍や居住地域の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 220のグラフ④「平成の大合併」をみて、合併の歴史と問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 221のグラフ⑧「年齢別失業率の推移」をみて、グラフが示す特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 220のグラフ②「日本の自動車メーカーの地域別海外生産台数」をみて、地域で生産台数の変化がちがうのはなぜだろうかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「グローバル化は、私たちの生活をどのようにかえつつあるのか、またそれに対する身近な対処の例を探してみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 221のグラフ⑨「正規・非正規労働者の人数の推移」をみて、グラフの特徴を理解するとともに、問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 221の写真⑤・⑥・⑦をみて、沖縄と米軍との関係を考え、日本の安全保障をどうするべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 6．「わたし」たちの社会と世界	○友だちや恋人、地域、家族など人々の関係はどのようにかわっているのだろうか。 ・ 災害とどのように向き合っていくのか考える。 ・ 現在の日本社会や世界の問題点について考える。	・ 震災と私たちとの関係に着目させる。 ・ 社会のあり方に着目させる。 ・ 私たちと未来について着目させる。	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災の内容や影響について説明することができる。（技能） ・ p. 222の本文記述をみて、現在の日本社会がかえる問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 223の写真⑧「インターネットカフェ」や本文記述をみて、SNSの時代の特徴と問題点を説明することができる。（技能）	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災によっておきたさまざまな問題点をいかに解決すべきかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「歴史を学んだわたしたちは、どのような社会、人間関係のありかたを構想できるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 223の写真⑥「ソーシャル・ディスタンス」をみて、新型コロナウイルスが日本に与えた影響や、いかに解決していくのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 222～223をみて、日本社会がかかえる問題点をあげ、これらをいかに解決し未来につなげるかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生 時代と社会を考える「近現代」	○近現代の人々の人生を考える。	・ 近現代の庶民の生活について着目させる。	・ 近現代の日本の人々の生活について説明することができる。（知識） ・ 近現代の労働者の生活について説明することができる。（知識）	・ 近現代の人々の学校生活、軍隊経験、結婚、労働、定年という営みについて多面的・多角的に考察することができる。	・ 近代の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	現代の日本の課題の探究	○地域のいまと歴史から様々な課題をさぐる	・ 東日本大震災から学ぶエネルギー問題に着目させる。	・ p. 226の写真①をみて、原子力の活用の問題点について説明することができる。（技能） ・ p. 226の写真②をみて、さまざまな代替エネルギーについて説明することができる。（知識）	・ p. 226の記述を参考に、エネルギー問題をどのように解決すべきか、公害との関係も視野に入れて多面的・多角的に考察することができる。	・ わたしたちの課題をみずから選び、探究活動を通じて未来につなげていくという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	2
	わたしたちの課題を探してみよう①	○自然環境から文化を考えるー伝統や文化の継承と創造	・ 環境と人間との関係に着目させる。	・ p. 227のグラフ⑤をみて、地球温暖化の問題点を説明することができる。（知識） ・ p227のコラム「感染症」をみて、感染症と人類の関係の歴史を説明することができる。（知識）	・ p. 227の記述を参考に、地球環境の変化に対し、人類はどのように対処すべきかを多面的・多角的に考察することができる。		
	現代の日本の課題の探究	○世界からの視点で歴史を考えるー世界のなかの日本	・ 子どもの権利と世界紛争に着目させる。	・ p. 228の写真②「さまざまな歴史教材」をみて、歴史認識の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 228の地図③「第二次世界大戦後の地域紛争」をみて、地域紛争の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 229の表④「男女格差の少ない国の順位」をみて、上位の国の特徴や日本がなぜ順位が低いのか説明することができる。（技能） ・ p. 229の写真⑤「ハンセン病訴訟の判決」をみて、日本における「格差」について説明することができる。（技能）	・ p. 228の記述を参考に、日本が世界のなかでいかに行動すべきかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 229の記述を参考に、いろいろな背景をもった個人が尊重される社会をどのようにつくるのかを多面的・多角的に考察することができる。		
	わたしたちの課題を探してみよう②	○認め合う社会へー社会や集団と個人	・ 共生社会のあり方に着目させる。				

令和6年度 日本史探究 年間指導計画

令和6年度		学校名	学年	科・コース名	クラス	単位数		
年間指導計画		沖縄県立北山高等学校	3	普通科(2組)	2組（普通科）	3		
月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数	
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
				■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	■評価の方法 ・討論や発表 ・ワークシート		
1 学 期 前 半	第1編 原始・古代の日本と東アジア							
	第1章	■第1章のねらい 						

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1. 列島に暮らしはじめた人々	○日本列島の歴史はいつ、どのようにはじまったのだろうか。 ・ 人類のはじまりと世界への広がりを考える。 ・ 日本列島に人々が暮らしはじめた旧石器時代とそのつぎの縄文時代について考える。	・ p. 10①の地図を参考に人類がどのようにひろがったのか、私たちの先祖がどこからきたのかに着目させる。 ・ 地図③をみて、日本列島に住む人々にとり石材が重要であったことに気づかせる。 ・ 縄文時代がどのような特徴をもっているかを、具体的なものを対象に多面的・多角的に考察させる。	・ p. 10図②をみて、人類の進化が一直線ではなかったことを理解している。（知識） ・ p. 11図④を使って、縄文時代の人々がどのような1年を過ごしていたのかを衣・食・住に分けて説明することができる。（技能） ・ p. 11写真⑤⑥を使って、縄文時代に使用されていたものの特徴や作られた背景を説明することができる。（技能）	・ p. 10の地図①を使ってホモ=サピエンスが地図が示すような広がりを見せた理由、図②を使って「頑丈型猿人」が途中で絶滅した理由を多面的・多角的に考察している。 ・ トライにある「定住的な暮らしができるようになった理由をまとめてみよう」という問い p. 11の図④や本文の記述を利用して多面的に考察している。 ・ 旧石器時代の研究がいつからはじまったのか、そして旧石器時代の開始時期をさぐる研究の難しさを、「Topic」の記述を参考にして多面的に考察している。	・ 縄文時代の開始と温暖化の関係を考え、あわせて今日における地球温暖化が人類に及ぼす影響にも視野を広げることによって社会生活に活かそうとしている。 ・ 人類の誕生から日本列島に人々が定住するまでの流れを主体的に追究して、人類と地球との共生をいかに図っていくかという今日的な学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	2. 農耕がうまれる	○弥生文化はどのようにしてうまれたのだろうか。 ・ 縄文文化の時代的な変化や地域的な違いについて考える。 ・ 縄文時代から弥生時代に移行した経過や理由を考える。	・ p. 12の地図①をみて植物の利用の地域差に着目させる。 ・ 縄文文化と弥生文化の共通点と相違点を多面的・多角的に考察させる。 ・ 「Link」の記述を読み、教科書に載せられていた記述が学説の変化とともに変わっていくことに気づかせる。	・ p. 12の本文と前のp. 11の本文記述を比較して、縄文時代を通じて共通しているところと変化したところの違いをまとめることができる。（技能） ・ p. 12～13の本文をみて、縄文文化と弥生文化の違いを指摘し、説明することができる。（技能） ・ p. 12の地図④やp. 13の写真⑤を参考に、農耕が日本列島の文化に与えた影響をまとめることができる。（技能）	・ p. 12の③を参考に、人間の頭部が丸いものと三角形のものが何を表しているのかを説明し、弥生時代の男女の役割分担について多面的・多角的に考察している。 ・ トライの「弥生時代の生活は、縄文時代とどこがちがうだろうか」という問いを教科書の本文を参考にしながら多面的に考察している。 ・ 寒冷化など地球環境の変化と日本列島で農耕文化が誕生したことの関係を考え、環境が人々に与える影響について多面的・多角的に考察している。	・ p. 12地図①やp. 13の本文記述にある北海道や東北北部の続縄文時代や奄美・沖縄の独自の狩猟・採集文化の記述を参考に、今でも残る日本における地域差について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ p. 12の地図④やp. 13写真⑦をみて、日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係や影響について多面的・多角的に考察し、今日における国際関係を考える政治の学習など社会生活に活かそうとしている。	1
	原始・古代のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は、はたらいたりあそんだりするだろうか。原始・古代の人々のはたらきかた、あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・ 生きるためにはたらくこと、古墳をつくることを題材にはたらくことに着目させる。 ・ 大人のあそびやものづくりを題材にあそぶことの意味に着目させる。	・ はたらくことの目的を写真やグラフをみて説明することができる。古墳をつくることをを通じてこれを支える集団についてまとめることができる。（知識） ・ 写真③④をみて、この当時のあそびについて説明することができる。（技能）	・ TRYの「縄文時代と古墳時代のはたらきかたは、どのような違いがあるだろうか」という問いに対して、さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・ 縄文時代や古墳時代のはたらきかたやあそびかたと現在のわたしたちを比較して、現代社会に生きるわたしたちのありかたを考えようとする学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3. クニがうまれる	○クニはどのようにしてできたのだろうか。 ・日本列島にクニができたことによる影響について考える。 ・日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係を考える。	・クニができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・日本列島が周りの地域の影響を受けながら変化していったことに着目させる。 ・中国の歴史書の記述と日本の考古学の成果と符合する点に気づかせる。	・クニができたことや戦争がはじまったこと、どのような武器があったかをまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について、日本列島と中国との交流、日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀、1世紀、2世紀、3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「たがいに争っていたクニが、なぜまとまったのだろうか」という問いをさまざまな資料を使って考え、グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・『漢書』地理志・『後漢書』東夷伝・『魏志』倭人伝の記述をみると、『魏志』のみ大陸から人が来ていることがわかる。なぜこの時期に大陸から人が来たのかを当時の国際情勢を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・「時代を通観する問いをたてよう」の「人類誕生から古代の国家や社会が形成されるまでの変化について、あなたはどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、当時の国際関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	歴史資料と原始・古代の展望	○文字による記録からみえる家族と男女について考えてみよう。	・史料①をみて、中国の歴史書が弥生時代の倭人の社会をどのように記しているか着目させる。 ・史料②をみて、家族の系譜がどのように書かれたのかに着目させる。 ・史料④⑤をみて、戸籍や計帳が家族や男女をどのようにとらえていたのか着目させる。	・史料①の『魏志』倭人伝の内容を3節の記述を参考にしながらまとめることができる。（技能） ・史料②の書かれている内容をまとめ、写真③の古墳が横穴式石室であることとの関連を説明することができる。（知識） ・史料④にp.19のQ. 2の図に書き込むことができる。（技能）	・史料①のQ. 1の女王の存在に関する問いと王の選任について多面的・多角的に考察することができる。 ・史料②のQにある史料が伝えようとしていることはなにかという問いに多面的に考察できる。 ・史料④⑤のなかで、男性と女性がどのように書き分けられているか多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の原始・古代の社会における男女の役割や家族のあり方について仮説をたて、今日の社会と比較することでこの問題を多面的・多角的に考察できる。	1
	4. ヤマト政権の形成	○古墳の大きさや分布から何がわかるだろうか。 ・古墳時代の特徴について考える。 ・古墳時代の時間的な変化や地域差を考える。	・古墳ができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・古墳が単なる墓ではなく、権力の象徴であることに着目させる。 ・古墳の変化と仏教との関係に気づかせる。	・p.20地図②を参考に古墳の発生と日本列島への広がり、写真①や表③をみて規模の変化をまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について、日本列島と中国との交流、日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀、1世紀、2世紀、3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「古墳や出土品から古墳時代の社会についてどんなことがわかるか、まとめてみよう」という問いをさまざまな資料を使って考え、グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・p.20写真1や地図②、表③をみて5世紀の巨大な前方後円墳が大阪湾沿いに造られた理由や縦穴式石室が横穴式に変化していった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p.20写真④やp.21写真⑤⑥⑦、本文記述をみて、大型古墳に女性が埋葬されている事例がたくさんあること、埴輪における男性と女性の分類について考え、今日のジェンダーの視点ともあわせ多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5. 倭の五王と氏姓制度	○倭国は、朝鮮半島諸国や中国とどのようにかわったのだろうか。 ・倭国をはじめとする日本列島の勢力と中国や朝鮮半島との関係について考える。 ・ヤマト政権の支配構造について考える。	・朝鮮半島の情勢が倭国など日本列島にある勢力に与えた影響を多面的に考察させる。 ・倭の五王が中国に使者を派遣した理由が朝鮮半島と関係あることに着目させる。 ・ヤマト政権がどのようにして豪族を管理しようとしたのかに着目させる。	・p. 22地図①と史料③、写真⑤⑥を参考に倭国が朝鮮半島にどのように進出していたかをまとめ、その目的について説明することができる。（技能） ・写真⑦や「ひと」の筑紫国の君磐井にかんする文章をみて、ヤマト政権の土地法との関係を具体的に説明することができる。（技能） ・渡来人がもたらした技術や文化について、道具、文字、学問など分野ごとに説明することができる。（知識）	・TRYの「この時期の政治情勢を、中国、朝鮮半島諸国、倭国それぞれの立場から考えてみよう」という問いをさまざまな資料を使って考え、グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・『宋書』倭国伝で倭王武が求めた称号と宋の皇帝から与えられた称号には違いがある。その理由やそれぞれの地名や国名が書かれている意味について多面的・多角的に考察することができる。	・生徒が住んでいる地域とヤマト政権の関係を考え、たとえば北海道や沖縄ではどのような歴史があるのかをあわせて考え、ヤマト政権イコール日本ではないことを多面的・多角的に考察できる。	1
	歴史のなかの動物 犬と猫	○犬と猫は、どのようにして人間とともに生きるようになったのか考えてみよう。	・狩りの仲間である犬について考える。 ・穀物を守る猫について考える。	・縄文時代と弥生時代の人間生活における犬の役割を説明することができる。（技能） ・弥生時代と平安時代の人間生活における猫の役割を説明することができる。（技能）	・p. 24の写真をみて、縄文時代と弥生時代の犬と人間との共生について多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 25の写真をみて、弥生時代と平安時代の猫と人間との共生について多面的・多角的に考察することができる。	・「人と犬、猫との関係はどのようにかわってきただろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	第2章	■第2章のねらい ・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・古代の国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、古代の日本の国家・社会の展開について理解することをねらいとしている。	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。	・中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりの理解や時代を通観する問い、古代を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、古代の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、古代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。学習に当たっては、資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする力を段階的に高めていくことが必要であり、様々な資料の特性に着目して複数の資料の活用を図り、資料に対する批判的な見方を養うとともに、因果関係を考察したり、解釈の多様性に気付くようにする。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6．飛鳥の朝廷	○倭国が隋と外交をすすめたのはなぜだろう。 ・ 隋の建国による朝鮮半島と日本列島への影響について考える。 ・ 飛鳥文化とその背景について考える。	・ 隋の建国と朝鮮半島の動き、倭国の外交との関係に着目させる。 ・ 冠位十二階や憲法十七条など倭国の国政改革が隋との関係でおこなわれたことに気づかせる。 ・ 飛鳥文化と朝鮮半島各国とくに百済の影響について多面的に考察させる。	・ p. 26①の法隆寺の伽藍配置、写真②の2つの半跏思惟像、地図③、p. 27の写真⑦をみて、倭国と朝鮮半島との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 26の史料④の『隋書』倭国伝の記載、倭国の国政改革を時系列にならべてまとめることができる。（技能） ・ p. 27の系図⑤を使って、天皇と蘇我氏との関係を具体的に説明することができる。（知識）	・ p. 26史料④で、隋の皇帝が怒ったのにもかかわらず倭国との関係を絶たなかった理由を朝鮮半島情勢とからめて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27写真⑦の「読み解きのツボ」にあるように、2つの瓦の比較、日本の文化への影響についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27「Topic」の「暦と時の支配」にある水時計が権力とどのような関係にあるのか、時を司る信仰がほかの地域でないかなど、時間の支配の重要性を多面的・多角的に考察することができる。	・ かつては聖徳太子という呼び名が主流だったが今日では厩戸王という表記が主体となってきた。呼び名の違いが意味することをグループワークで検討し、今日にも同じ例がないかを考察し学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7．大化改新から壬申の乱へ	○ヤマト政権の政治改革の特徴を東アジアの視点から考えてみよう。 ・ 大化改新の背景、内容、その後の影響について考える。 ・ 壬申の乱の背景、内容、影響について考える。	・ 大化改新が隋が滅んで唐が建国したこと、朝鮮半島情勢の変化の影響によるものであることに着目させる。 ・ 白村江の戦いの敗北がヤマト政権の政策に与えた影響について多面的に考察させる。 ・ 天武・持統朝の政策の背景や内容に着目させる。	・ p. 28地図①をみて唐を中心とした冊封関係、p. 29写真⑧の朝鮮との関係など日本列島をめぐる当時の国際関係について説明することができる。（知識） ・ p. 28史料②の「大化改新の詔」の内容とそれまでの制度との違いを説明することができる。また、「改新の詔」の文章がそのまま当時のものではないことをp. 28写真③で説明することができる。（知識） ・ 7世紀のヤマト政権の政治で、法制度がどのような整備されていったのか、当時のヤマト政権の状況をふまえつつまとめることができる。（技能）	・ p. 28系図④をみて、女性天皇を探し出し、女性天皇が誕生した背景を多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめることができる。 ・ TRYの「壬申の乱を経て、天皇と豪族の関係はどのように変化していったのか、考えてみよう」という問いに対して多面的・多角的に考察することができる。	・ 7世紀の女性に着目して、現在と比較してみよう。そして女性の地位について歴史的背景を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	8．律令国家の形成	○律令国家の政治体制とは、どのようなものだろうか。 ・ 律令国家の成立と政策の内容について考える。 ・ 律令国家の時代の民衆はどのような支配を受けていたのだろうか。	・ 律令の内容を通じて、古代国家がどのような統治をめざしていたのか着目させる。 ・ 律令国家を支える都や地方行政、交通制度について着目させる。 ・ 民衆の負担が多岐にわたることに気づかせる。	・ p. 30「Link」にある長屋王邸宅にかんする記事をみて、当時の有力者の生活をまとめ、説明することができる。（技能） ・ 7世紀の有力豪族が8世紀においてどのような地位にあったのかをp. 30の本文記述や図②を使って説明することができる。（知識） ・ p. 31地図⑤、表紙裏の「国県名対照表」を使って地方の区分について説明することができる。（知識）	・ p. 31地図⑤をみて、古代の都の構造について、宮の場所、貴族の邸宅、寺院、市場、通路などを手がかりにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「律令国家は、民衆にどのような負担を強いたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 31「資料を読みとろう」をみて、赤枠の中身を読み取り、この荷札の内容、上下に切り込みがある理由などを多面的・多角的に考察することができる。	・ 律令国家の制度と現在の日本の象徴を比較して、今日の状況を歴史的に追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	9．東アジアのなかの天平文化	○日本は唐，新羅，渤海とどのような関係をもとうとしたのだろうか。 ・東アジアの国際関係について考える。 ・天平文化の内容と国際性について考える。	・律令国家と唐，新羅，渤海との国際関係，遣唐使の役割に着目させる。 ・天平文化には国際的な背景があることに気づかせる。 ・8世紀における仏教の役割について多面的に考察させる。	・p. 32写真①②，地図③を参考に遣唐使が航路を変更した背景，危険性，意義についてまとめることができる。（技能） ・p. 33写真⑤⑥⑦を使って，天平文化の内容を具体的に説明することができる。（知識） ・TRYにある「天平文化の特徴をまとめてみよう」という課題に答えることができる。（技能）	・Link「唐の都でなくなった留学生」を読み，遣唐留学生が派遣された理由，「日本」という国号が使われた意義について多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 33写真⑥や⑦について，どのようなルートで日本に来たのか。P. 6～7の地図を活用して日本列島と世界とのつながりを多面的・多角的に考察することができる。 ・「ひと」の行基が弾圧されたのちに律令国家に迎えられた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・天平文化の国際性を参考に，今日における日本の文化と外国との関係を比較して，文化の国際性を比較追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	10．奈良時代の政治と社会	○聖武天皇はなぜ，都を転々と移したのだろうか。 ・奈良時代の政治情勢について考える。 ・土地政策の変化とその後の影響について考える。	・さまざまな政変を通じて藤原氏が権力を掌握していく過程に着目させる。 ・疫病や飢饉などの社会不安が政治に影響を与えることに気づかせる。 ・8世紀における政治の役割について多面的に考察させる。	・p. 34の写真①④を参考に大仏や寺院建設に人々のどのような思いが込められているかまとめることができる。（技能） ・p. 34の「ひと」の光明皇后，系図③の孝謙天皇など女性の活躍について説明することができる。（知識） ・土地制度の変化について，三世一身法，墾田永年私財法，初期荘園などのキーワードを使って説明でき，p. 35史料⑤の三世一身法の20年後に史料⑥の墾田永年私財法が出された理由も説明することができる。（技能）	・TRY「奈良時代の仏教はどのような役割をはたしていただろうか。「大仏」や「道鏡」をキーワードに考えてみよう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 34地図②や本文記述を参考に，都を転々とした理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・Topic「東国の民衆と防人」をみて，兵士の負担や東国の人々が選ばれた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・今に残る8世紀に関係する地名を探ってみよう。たとえば国分寺は国分寺，国分など，国府があった場所は国府津，国府台，府中などがある。身の回りの地名と歴史との関係について考え，今に残る歴史を追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	原始・古代のたたかう・つながる	○たたかうとはどういうことだろうか。つながるとはどういうことだろうか。古代の人々はどのような場面でたたかい，どのようなときに人とつながろうとしたのか。具体的な事例をもとに考える。	・伊治皆麻呂が多賀城を焼きはらった理由に着目させる。 ・大仏造営を通じた人々のつながりに着目させる。	・古代の蝦夷とヤマト政権との関係を時期ごとに説明することができる。（知識） ・仏教が国家仏教となるまでの過程を説明することができる。（技能）	・「考えてみよう」の「律令国家はなぜ，東北地方の蝦夷と長い間にわたって戦争を続けたのだろうか」という問いに対して，多面的・多角的に考察することができる。 ・「考えてみよう」の「東大寺の大仏造営を発案した聖武天皇はどうして，みんなの力で大仏をつくることをよびかけたのだろうか」という問いに対し，グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び，現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて，その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し，多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 1．平安時代初期の政治と文化	○桓武天皇はなぜ遷都や東北地方の支配拡大をおしすすめたのだろうか。 ・ 平安時代初頭の政治改革と版図の拡大を考える。 ・ 平安時代初期の文化を考える。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・ 平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・ 藤原北家の当主がどのような方法で権力をにぎっていったのかを説明することができる。（知識） ・ 平安初期の政治改革で律令政治の修正をおこなった。どのような変更をおこなったのか説明することができる。（技能） ・ 平安初期の仏教文化と天平文化との違いをまとめることができる。（技能）	・ p. 38の本文や地図②をみて、東北地方の兵役義務を停止して、健児を置いた理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「平城太上天皇の変は、その後の政治にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 39写真⑥や本文を参考に、この時代の寺院が従来の伽藍配置を踏襲していない理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 39の「ひと」の「阿弔流為」を参考に、律令国家からではなく、東北地方からみた歴史を描いてみて、さまざまな視点から歴史をみることの重要性を現代的な問題と比較して多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 2．摂関政治と国風文化	○摂関政治はどのようにしておこなわれるようになったか。 ・ 藤原北家の発展と摂関政治の確立について考える。 ・ 平安時代中期の国風文化について考える。	・ 藤原北家の当主がどのようにして権力を手にしていったのかを他の時代と比較して多面的に考察させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化に着目させる。 ・ 平安時代中期の国風文化の内容とその背景を考察させる。	・ p. 40の絵①をみて、当時の人々の装束からて気がつくことをp. 41の衣服に関する記載を参考に説明することができる。（技能） ・ p. 40の本文を参考に、幼帝が出現した理由を説明することができる。（技能） ・ p. 41の本文，Topicの「男手と女手」を参考に、当時の男性と女性の文化的違いについて説明することができる。（知識）	・ TRYの「この時期に国風文化がなぜ生まれたのだろうか。東アジアとのかかわりからまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・ 藤原氏が天皇にならず、摂政や関白という地位で権力をにぎった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 41の本文を参考に、この時代に女性による文学作品がたくさん生まれた背景を考え、現在の女性と比較してジェンダー問題を考える学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 3．摂関期の社会と経済	○地方社会はどのように変容したのだろうか。 ・ 平安時代の地方政治と武士の発生について考える。 ・ 平安時代末期の文化について考える。	・ 律令国家の地方支配の方法の変化と地方政治の変容について着目させる。 ・ 武士が発生した背景や武士の活躍に着目させる。 ・ 平安末期の文化と仏教との関係に着目させる。	・ p. 42の写真①②史料③④をみて、当時の地方政治の様子を具体的に説明することができる。（知識） ・ 地方で武士が発生したこと，都におかれた武士，武士の組織や構成について説明することができる。（知識） ・ p. 43の写真⑤の空也の口から出ているものと念仏との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 68の絵②やTopic「尾張国の国司の暴政を訴えた郡司・百姓たち」を読んで、国司が地方におもむいた目的を考え、地方にいた人々がどのように変化していったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「関東一円を支配下においた平将門は、なぜあっけなく鎮圧されてしまったのだろうか」という問いに，p. 43地図⑦を使いながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 43「ひと」の藤原隆家，桓武平氏，清和源氏といった貴族が武士をひきいて戦った背景をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス	○鹿児島県の奄美群島ではどのような交流が	・ 奄美群島とヤコウガイの関係に着目させる。	・ 貝類と人類との関係について説明することができる。（知識）	・ 奄美諸島を中心とした交易について地図①をみながら多面的・多角的に考察することができる。	・ 奄美諸島は，古代から近現代にかけてどのような歴史をたどっていったのか調べ，地域研究	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	奄美群島	おこなわれてきたのか考える。	・ 奄美群島の歴史に着目させる。	・ 江戸時代やその前後の奄美諸島の歴史を説明することができる。（技能）	・ おこなうという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。		
	さまざまな人生	○古代の人々の人生を考える。	・ 古代の人々の風習や生活について着目させる。	・ 縄文人などの人々の風習について説明することができる。（知識）	・ 古代の税で大人と子どもの違いについて多面的・多角的に考察することができる。	・ 古代の人々の人生とわたしたちの人生を比べ、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	時代と社会を考える「古代」			・ 古代の税や埋葬方法を説明することができる。（技能）			
1学期後半	第3章	■第3章のねらい ・ 平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・ 古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、中学校社会科歴史的分野での「大観」して「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。		・ 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	・ 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・ 中世の特色についての考察などを踏まえ、例えば、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や、併存する政治勢力がそれぞれの勢力を維持していた状況など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけをおこなうなどして、中世の特色について課題意識をもって考察するように指導を工夫する。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「なぜ中世では、同じ時期に、政治や社会に力をもつ人や集団が複数存在していたのだろうか」など、中世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	
		○平安時代の末期、院政はなぜはじまったのだろうか。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。	・ 院政がどのような構造をもち、どのような政治をおこなったのかを説明することができる。（知識）	・ p. 52の写真①の大きな建物はなんだろうか。そしてp. 41写真②③の藤原摂関家の邸宅と比べ、構造の共通点と相違点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 4．院政と中世荘園	・ 院政の内容と中世荘園の成立を考える。 ・ 院政期の文化を考える。	・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・ 平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・ 中世荘園や知行国制について歴史的経緯やしくみを説明することができる。（技能） ・ 院政期の仏教文化や庶民文化の内容をまとめることができる。（技能）	・ TRYの「平安時代の終わりに、どのような政治・社会・文化の変化がおきたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 53写真④の荘園絵図をみて、気がついたことをまとめ、とくに「絵画の中の黒い点は何だろう」という問いに答えつつ、中世荘園の特質について多面的・多角的に考察することができる。	・ 14節の院政では父系的なつながりがみられるが、これ以前の天皇家の系譜的なつながりと比較してみよう。そして現在のわたしたちはどのような意識をもっているのか多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 5．奥州藤原氏と平氏	○武士はどのように勢力をひろげていったのだろうか。 ・ 奥州藤原氏の繁栄の様子について考える。 ・ 平氏政権の特質について考える。	・ 奥州藤原氏の繁栄の様子、とくにまわりとのさかんな交易の内容や仏教文化について多面的に考察させる。 ・ 保元・平治の乱をつうじて武士が台頭していく背景に着目させる。 ・ 平氏政権が権力を確立していく背景や日宋貿易について考察させる。	・ p. 54の写真②や地図③をみて、奥州藤原氏の交易の様子、平氏の日宋貿易の交易の様子を比較して、共通点や相違点を説明することができる。（技能） ・ p. 54のTopic「婿入婚」を参考に、この時代の婚姻の形態について説明することができる。（技能） ・ p. 54絵①やp. 55の図⑦を参考に、保元の乱と平治の乱の事件の内容や構図を説明することができる。（知識）	・ TRYの「奥州藤原氏や平氏の繁栄をもたらしたものが何かまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・ p. 55のチェックにある「平氏が信仰した厳島神社はどういうところにあるのだろうか」という問いに答えるとともに、日宋貿易についても多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 55の「時代を通観する問いをたてよう」にある「武士の台頭により、支配の方法もかわっていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と中世の展望	○絵巻や文字による記録からみえる当時の社会について考えてみよう。	・ 絵①や地図②をみて、栗駒山での合戦の様子に着目させる。 ・ 史料①と②をみて、当時の人が自分の生きている時代をどのようにみていたのか着目させる。 ・ 絵③をみて、描かれている情報に着目させる。	・ 絵①をみて、たたかっているのはどのような人たちであるか、身につけているものは何かを指摘することができる。（技能） ・ 史料①と②にある課題の空欄に適切な語句を入れて説明することができる。（知識） ・ 中世の戦乱を描いた作品を取り上げて内容を説明することができる。（技能）	・ 地図②の宇治の位置について栗駒山で合戦がおきたことや当時の都や寺院勢力にも配慮しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ 史料①の「山」や「南京」が何をさしているのかを指摘しこの史料が述べていること、宇治の位置づけ、武士の行動について多面的に考察できる。 ・ p. 57の問い「人々はどのように方法で『平家物語』の内容を知ったのだろうか。また、その方法は中世の社会や文化のどのような特徴をあらわしているのだろうか」にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「政治や社会のしくみ、宗教や文化のあり方などから、中世にはどのような特徴があるのか、あなたの仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問題を多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	1 6．治承・寿永の乱と鎌倉幕府	○鎌倉幕府はどのように成立したのだろうか。 ・源頼朝が鎌倉に政権基盤を形成していく過程について考える。 ・12世紀の仏教の改革について考える。	・源頼朝が鎌倉政権をきずいていく過程を学ぶとともに、鎌倉幕府の成立時期について着目させる。 ・鎌倉幕府の構造に着目させる。 ・12世紀に仏教が改革運動をおこなった理由に着目させる。	・p. 58の地図②をみて、治承・寿永の乱の流れを具体的に説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府の役職名などの構造，地方の役職がおかれた理由について説明することができる。（知識） ・12世紀にどのような僧が出て，どのような改革をおこなったのかを具体的に説明することができる。（技能）	・p. 58の写真①をみて，現在の福島県に大規模な堀をきずいた理由を，地図②も参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「治承・寿永の乱は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 59の「読み解きのツボ」の「①建物にどのような特徴があるのだろうか」「②金剛力士像にはどのような特徴があるだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 7．承久の乱と公武関係	○鎌倉幕府と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか。 ・承久の乱が鎌倉幕府と朝廷との関係にどのように影響したのかを考える。 ・承久の乱の後に鎌倉幕府がおこなった組織改革の内容について考える。	・源頼朝の死後，北条氏が執権として力を得ていく過程に着目させる。 ・承久の乱の経過について着目させる。 ・鎌倉幕府が組織改革とともに法制度を充実させていった点に着目させる。	・p. 60の史料②をみて，北条政子が御家人に何と訴えているのか説明することができる。（技能） ・p. 61の系図④をみて，源氏将軍・摂家将軍・執権北条氏の血縁関係について説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府における北条政子の役割を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 61の史料⑤をみて，御成敗式目における男女の扱いと古代の律令と比較しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「承久の乱は，政治や社会のあり方にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 61の史料⑥「資料を読みとろう」の「①泰時はなぜ御成敗式目を制定したのだろうか」「②泰時は幕府の法と朝廷の法との関係をどのように考えているのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・源頼朝が鎌倉に政権をつくってからの時代を鎌倉時代と呼ぶ。しかし朝廷にも一定の勢力は残っていた。この時代を鎌倉時代と呼ぶことは適当か。問題があるとすれば何と呼べば良いか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	中世のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は，はたらいたりあそんだりするだろうか。中世の人々のはたらきかた，あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・生きるためにはたらくこと，職人の生活を題材にはたらくことに着目させる。 ・仕事とあそぶことははっきり分けられるか否かに着目させる。	・はたらくことについて職人の行動を絵画をみて説明することができる。（知識） ・絵③④⑤をみて，この当時のあそびについて説明することができる。（技能）	・TRYの「中世の人々にとって，はたらくこととあそぶことはどのような営みであったのだろうか。現在のわたしたちの感覚と比べながら考えてみよう」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・いまのわたしたちの生活でしごととあそびがはっきり分けられないものをさぐるという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	18．地頭・御家人と荘園制の変質	○鎌倉幕府の成立は社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 鎌倉幕府の財政基盤と御家人制度について考える。 ・ 武士の組織とネットワークについて考える。	・ 幕府の経済基盤や御家人との関係、非御家人の存在について着目させる。 ・ 地頭の荘園支配、荘園領主との紛争、当時の百姓の実態について着目させる。 ・ 惣領制の構造や御家人のネットワークに着目させる。	・ p. 64の絵①，写真②をみて，武士の館の建物の構成を説明することができる。（技能） ・ p. 65の絵⑤をみて，赤い線の意味と下地中分との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 65図⑦をみて，惣領制のしくみと地図⑧との関係を具体的に説明することができる。（技能）	・ p. 65の史料⑥をみて，地頭はどのような支配をおこなっていたのかという点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「御家人はどのような所領支配をおこなっていたのだろうか」という問いに，本文記述や絵⑤，史料⑥を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 64の絵①に描かれている動物をみつけだし，その役割を考えてみよう。さらにTopic「武士と武芸」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。とくに「猿」の役割についてはさまざまな絵巻物や海外との事例を比較検討することが望ましい。	・ 地頭制度における女性の役割を本文記述を参考に洗いだし，わたしたちがもってきた鎌倉時代の女性像との違いを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	19．鎌倉時代の経済・産業と自然環境	○経済や産業はどのように変化していったのだろうか。 ・ 鎌倉時代の貨幣経済と流通，農業について考える。 ・ 鎌倉時代の仏教について考える。	・ 渡来銭が日本のなかでどのような役割をはたしたのか着目させる。 ・ 商品生産の変化や流通ネットワークの発達について着目させる。 ・ 鎌倉時代に新しく誕生した宗派のそれぞれの特徴に着目させる。	・ p. 66の絵①をみて当時の市場で売られていたもの，絵②をみて市場が今のようにほぼ毎日おこなわれている状況と異なることを説明することができる。（技能） ・ p. 66の絵③をみて，借上とは何か，銭がどのようにもち運びされているのか説明することができる。（知識） ・ p. 67写真⑥をみて，この時代の農業の様子，飢饉との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 66のLinkをみて，いまに残る昔の地名について，それぞれの知っている地域を取り上げてグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「鎌倉時代に入り，経済・産業や信仰のあり方に，なぜ変化が生じたのだろうか」という問いに，絵⑩の日蓮の記事などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 67の「ひと」に書かれている阿仏尼の記事をみて，鎌倉時代の鎌倉と京都との交通の様子，絵⑨の踊念仏が京都でおこなわれていることなどを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 67の本文にあるように，13世紀は気候が冷涼であった。これは日本に限らず，世界全体に影響をもたらした。13世紀であっても，日本史の枠にとらわれず世界史的視野が必要であるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	20. モンゴル襲来と日宋・日元交流	○モンゴル帝国は東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。 ・モンゴル帝国が日本や世界に与えた影響について考える。 ・日本と宋・元との文化的交流、とくに仏教について考える。	・モンゴル帝国がヨーロッパまで到達した大帝国をきずいたこと、世界にどのような影響を与えたのか着目させる。 ・宋・元との貿易やネットワークについて着目させる。 ・鎌倉時代の仏教で、宋・元と関係の深いものについてその内容に着目させる。	・p. 68の史料②をみて、史料の内容をまとめるとともに、フビライは日本に何を期待したのかを説明することができる。（技能） ・p. 68のLink「青花（染付）」、p. 69の写真⑤⑥をみて、宋や元から渡ってきた文物について説明することができる。（知識） ・p. 68Link「水中考古学」をみて、どのようなものが発掘されたのか、水中考古学の可能性について説明することができる。（技能）	・p. 68の地図①史料②本文記述をみて、宋と関係の深い日本に対し元はどのようなことを考えて使者を派遣したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「宋や元との関係はどのようなものだっただろうか」という問いに、本文記述や前の19節を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 69の絵⑦にある頂相にはどのような特徴があるのかという問いに答えるとともに、写真⑧なども参考に日本における中国仏教の影響について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 68の地図①を参考に、いまに残るモンゴル帝国の影響を世界史的視野から考え、日本列島のできごとだけで日本史を学んではいけないという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 博多	○海外交易や九州支配の中心地となった。博多というまちの誕生と発展から考える。	・外交の拠点が古代の鴻臚館から中世の博多に移ったことに着目させる。 ・博多と福岡の歴史に着目させる。	・p. 70地図①を参考に、博多を中心とした東アジアの海域世界について説明することができる。（知識） ・p. 71の地図⑤⑧をみて、中世から近世にかけての博多のまちの特徴を説明することができる。（技能）	・博多を中心とした中世における海外との貿易や交流についてまとめ、p. 70～71に載せられた写真や絵を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・古代・中世・近世の博多についてまとめるとともに、現在における「ハブ」とはどこで、どのような役割があるのかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	21. 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡	○なぜ鎌倉幕府は滅亡したのだろうか。 ・得宗専制と幕府の勢力について考える。 ・鎌倉幕府の滅亡過程について考える。	・得宗専制が北条氏の権力を集中させた一方、御家人の離反につながることに着目させる。 ・このころの社会の変化と永仁の徳政令の影響について着目させる。 ・両統迭立が朝廷に与えた影響と幕府滅亡の関係に着目させる。	・p. 72の史料③をみて、史料の内容をまとめるとともに、これが出された理由や影響を説明することができる。（技能） ・p. 73の系図⑤をみて、両統迭立によって天皇の即位に与えた影響、後醍醐天皇が倒幕をめざすきっかけについて、「ひと」も参考にして説明することができる。（知識） ・p. 73の地図⑦をみて、鎌倉幕府が滅亡していく過程について説明することができる。（技能）	・p. 72の図②，「ひと」の安達泰盛の記事，本文を参考にして，得宗専制によって御家人の気持ちなどがどのような変化したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「鎌倉時代後期の政治や社会にどのような変化がおり，鎌倉幕府の滅亡につながったのだろうか」という問いに，本文記述や資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 73の史料⑥をみて，悪党が何かを理解し，絵①や地図⑦も参考に，18節の非御家人が西国に多いこととの関係にふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・21節の記述を参考に，勢力争いにおいて自分に都合の良い人々で固めると，結果として組織は弱体化していくことを学び，こんにちの世界におきかえて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート		
	第 4 章	■第 4 章のねらい ・ 平安時代末から戦国時代までを扱い，中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し，総合的にとらえて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・ 古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，対外的な環境や交流，中学校社会科歴史的分野での「大観し」て「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ，前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し，探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。	・ 武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解している。武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などをもとに，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解している。	・ 公武関係の変化，宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ この小項目の内容の確かな理解をはかるためには，生徒が上記の意味や意義，関係性などの考察をふまえて，考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり，歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や，歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば，「あなたは，15 世紀から 16 世紀にかけて争乱が多発した最も大きな理由は何だと考えるか」，「あなたは，国の領域について，当時の交易に従事する人々の意識は，現代とどのような違いがあると考えるか」などの，諸事象の解釈や画期を考察して表現することをうながすための課題（問い）を設定して，長期化する争乱が幕府政治にもたらした変容や，海外貿易の発展とそれが国内に与えた影響や国家間の交易と私貿易のそれぞれの意味，室町時代の宗教や文化の特色と影響について考察し，根拠を示して考察した結果を表現する学習などが考えられる。また，「あなたは，この時期に成立した村や町の運営は，現代の私たちが考える自治とどのような類似点と相違点があると考えるか」，「あなたは，室町時代の宗教や文化について，現代の文化や生活習慣，考え方などどのような関係を指摘することができるか」などの課題（問い）を設定して，当時の庶民の経済的・政治的な成長とともに，各地に残る芸能や祭礼など，生徒の視点からみいだすことができる現代との関係性についても考察して，根拠を示して考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。また，課題（問い）を設定する際には，大項目 C への学習のつながりを踏まえ，近世につながる諸要素がどのように現れてくるのかという点にも留意することも大切である。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	2 2．南北朝の内乱	○南北朝の内乱はなぜおこり，長期化したのだろうか。 ・建武の新政について考える。 ・南北朝内乱期の政治・社会・文化について考える。	・建武の新政の政治構造や失敗した理由に着目させる。 ・南北朝の内乱の実態や背景に着目させる。 ・内乱期の文化の特徴や背景に着目させる。	・p. 74の写真①をみて，足利尊氏の名前の字が変更された理由，当時の武士の名前の付け方の法則について説明することができる。（技能） ・p. 74のTopic「内乱と武家の女性」やp. 75Link「武士の手紙」をみて，当時の武士が大切にしたこと，女性の地位に関して説明することができる。（知識） ・p. 75のTopic「武士の争いと庶民の歌」や本文記述をみて，内乱期の文化の内容や影響について説明することができる。（技能）	・p. 74の史料②の内容は当時のどういった状況を反映しているのだろうか。本文記述を参考にグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「争いのなか，地方の武士や百姓たちは，どのような行動をとったのだろうか」という問いに，史料③やTopic「武士の争いと庶民の歌」などを参考に参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 74～75の本文記述をみて，南北朝の内乱の関係図を朝廷，幕府，大名，国人などの階層別に書きだし，さらに『神皇正統記』の書かれるきっかけにふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・朝廷が2つあった時代，天皇も2人いた。この代数と現在の天皇の代数との関係をみてみよう。北朝の天皇が現在の天皇の代数に数えられていない理由を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	2 3．足利義満と室町幕府	○なぜ，足利義満は金閣をたてたのだろうか。 ・足利義満の政治とこのころの地方政治について考える。 ・室町文化について考える。	・南北朝の合一と京都支配の内容に着目させる。 ・室町文化の内容と国際性に着目させる。 ・幕府の地方支配の内容に着目させる。	・p. 76の図③をみて，室町幕府の機構について説明することができる。（技能） ・室町時代の税制度について具体的に説明することができる。（知識） ・室町文化における中国の影響を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 77の絵⑥の観世能，Topic「能楽「山姥」と曲舞」をみて，湿地の多い京都で橋がかりがつくられた理由，観阿弥・世阿弥の名前に「阿弥」がついている理由をグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「南北朝の合一は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，「ひと」の「足利義満」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 76の図③の室町幕府の機構とp. 59の鎌倉幕府職制表をくらべ，共通点と相違点を洗いだし，室町幕府がこのような組織をつくった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 76の地図②で花の御所が朝廷の御所のそばにたてられた理由，室町幕府と鎌倉府という権力体が並立して対立を生んだことなどを参考に中心地をどこにおくかという現在にも通ずる学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	24. 東アジアの海をゆきかう人々	○人々は、何のために東アジアの海を行き来していたのだろうか。 ・倭寇と明・朝鮮との交易について考える。 ・琉球と北方の交易について考える。	・倭寇と勘合貿易に着目させる。 ・明や朝鮮王朝とどのような交易をしていたのか着目させる。 ・琉球王国と北方ではどのような支配がおこなわれ、どのような交易をしていたのか着目させる。	・p.78の絵①をみて、明の軍隊と倭寇の服装や武器の違いを説明することができる。（技能） ・明や朝鮮王朝との交易の開始や内容、衰退について具体的に説明することができる。（知識） ・p.79の地図⑤や「三浦」の説明をつかって、アジア海域での航路や港湾について説明することができる。（技能）	・p.78のLink「勘合」がなぜこのような大きさなのかを絵①の様子を参考にして多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「地域の視点にたつと、世界はどのようにみえるだろうか」という問いに、地図⑤や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p.79の地図⑤のアジア海域の地図だけでなく、p.48～49の世界地図も参考にして世界のつながりについて多面的・多角的に考察することができる。	・p.79の本文記述を参考に、この当時の日本は一つの国といえるかを考え、日本という国の成り立ちについて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	25. 惣村と一揆	○なぜ、百姓たちは惣村をつくったのだろうか。 ・惣村について考える。 ・当時の人々の生活の様子について考える。	・惣村の成り立ちやしぐみに着目させる。 ・15世紀の寒冷化のなか、農業がどのように進歩したのか着目させる。 ・一揆が発生した理由や目的に着目させる。	・p.80の史料③をみて、史料に書いてある内容をまとめ、写真②も参考にしながら惣の掟がどのようなものであるかを説明することができる。（技能） ・p.80のTopic「村と家」やp.81の絵⑤をみて、惣村がどのようにして自分たちを守ったのか説明することができる。（知識） ・p.81の一揆に関する記述をみて、一揆の種類や背景について説明することができる。（技能）	・p.81の史料⑥と写真⑦の関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「百姓たちが借金帳消しを要求するメリットとデメリットは何だろうか」という問いに、史料⑥や写真⑦、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・気候変動が農業などの産業に与える影響を、p.80の絵①、p.81のTopic「飢饉下のぬすみと村」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・p.80～81の本文記述を参考に、現在の日本の地域産業で室町時代に起源をもつものをさぐり、昔と今との関係を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	中世のたたかう・つながる	○中世はたたかいが絶えない時代であった。たたかいははげしくなった一方、身を守り、たたかいを回避する方法もうみだされた。その様子をみていく。	・ 中世のたたかいの様子や城の役割に着目させる。 ・ 喫茶の風習や助けあった村の事例があることに着目させる。	・ 用水をめぐるたたかいが発生した理由を説明することができる。（知識） ・ 喫茶の風習と中国との関係を説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「そもそも2つの村の争いの原因は何だろうか。争いがひろがっていく様子から、領主同士の争いの背景には、どのような問題があったと考えられるか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「なぜ、同じ川を農業で利用しあう村々は、このような協力関係をきずくことができたのだろうか」という問いに対し自分の意見をまとめ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び、現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて、その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1
	2 6．戦国時代の幕あけ	○室町幕府の衰退は、どのようにしてはじまったのだろうか。 ・ 15世紀中ごろの応仁・文明の乱とその前後のできごとについて考える。 ・ 15世紀後半の一揆の内容や背景について考える。	・ 享徳の乱と応仁・文明の乱の背景、内容、影響に着目させる。 ・ 応仁・文明の乱のころの文化の内容に着目させる。 ・ 国一揆や一向一揆の内容や発生した理由、目的に着目させる。	・ p. 84の表③をみて、応仁・文明の乱の対立関係をまとめ、乱がおきた背景を説明することができる。（技能） ・ p. 85の写真④，絵⑤⑥をみて、応仁・文明の乱のころの文化の特徴を具体的に説明することができる。（知識） ・ p. 85の地図⑦をみて、応仁・文明の乱がどの地域でたたかわれ、どのような被害がでたのかを説明することができる。（技能）	・ p. 84の絵①と史料②を読んで足軽とは何かを考える。とくに絵①で足軽は何をしているのか、単なる破壊者なのか、白い頭巾をかぶっている人物の性別などをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「長引く戦乱は、社会にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 85の史料⑧を読んで、山城の国一揆の内容を確認するとともに、この史料を書いた僧と所属する寺がなぜ一揆をおそれたのかを多面的・多角的に考察することができる。	・ 歴史学者内藤湖南は「応仁の乱について」という文章で、応仁の乱よりも前の歴史は学ぶ必要がないと言っている。インターネットにも掲載されているこの論文を読んで、歴史を学ぶ姿勢を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	2 7．室町・戦国時代の流通経済	○どのような人々が京都に集まっていたのだろうか。 ・ 京都と地方都市の役割について考える。 ・ 室町時代の貨幣流通について考える。	・ 京都に集まる人とモノに着目させる。 ・ 応仁・文明の乱以後の流通経済の変化に着目させる。 ・ 貨幣経済の変化や度量衡の変化に着目させる。	・ p. 86の絵①をみて、室町時代の職業についてまとめ、この時代の産業について説明することができる。（技能） ・ p. 87の地図③をみて、港がおかれた場所の特徴やどのような交流が考えられるかを説明することができる。（知識） ・ p. 87の本文をみて、度量衡を統一させるようになった理由を説明することができる。（技能）	・ p. 87の史料④を読んで、史料の内容まとめ、なぜこのような法令をださなければならなかったのか、p. 87のTopic「明銭と私鑄銭」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「どのようにして都市と地方はむすばれ、経済は動いていたのだろうか」という問いに、地図③や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 86の本文をみて、この時代の関所の乱立と流通経済との関係を多面的・多角的に考察することができる。	・ 地図③の主要な港と航路は、現在どのように変化したのか、または変化していないのか。いまに残る歴史をみていこうとする学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 馬	○中世にはどのような馬が活躍してたのか考えてみよう。 ・ 中世の馬について考える。	・ 中世の馬について考える。 ・ 海を渡ったかもしれない東北の馬について考える。	・ 中世の馬の役割を説明することができる。（技能） ・ 良馬といわれた東北の馬はどのように活用されたのか説明することができる。（技能）	・ p. 88の写真①②をみて中世の馬の特徴、史料③をみて馬の役割について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 89の絵④を見て、京都に東北地方の馬がきていた理由について多面的・多角的に考察することができる。	・ 「中世の武士、商人、町人、農民たちにとって、馬とはどのような存在だったのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	2 8．戦国時代の政治と社会	○なぜ戦国大名が登場したのだろうか。 ・ 戦国大名の支配や当時の町について考える。 ・ 戦国時代の文化と生活について考える。	・ 戦国大名の支配方法に着目させる。 ・ 戦国時代の自治都市、城下町、税制度に着目させる。 ・ 戦国時代に地方に花咲いた文化に着目させる。	・ p. 91の地図④をみて、おもな戦国大名と勢力範囲を説明することができる。（技能） ・ p. 91の史料⑤をみて、史料に書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 91のTopic「戦国大名家の女性」をみて、戦国時代の大名家の女性が果たした役割について説明することができる。（技能）	・ p. 90の戦国時代の略奪に関する絵①をみて、どのような人々が略奪をしているのか、略奪をする理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「あなたが戦国大名の領国の境目に住む住人なら、どうしただろうか」という問いに、図②や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 91の写真⑥の石見銀山の記事を参考に、地図④とp. 87地図③の中世の航路とを比較して多面的・多角的に考察することができる。	・ P. 90の絵③の祇園祭などを手がかりに、戦国時代の京都、博多、堺などの町をいまと比較してみるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	■評価の方法 ・討論や発表 ・ワークシート	
	さまざまな人生	○中世の人々の人生を考える。	・中世の人々の風習や生活について着目させる。	・中世の人々の風習について説明することができる。（知識）	・中世の人々の結婚、出産、あそび、老いなど人生の営み、日本列島外の人々との交流について多面的・多角的に考察することができる。	・中世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	時代と社会を考える「中世」			・中世の人々の悩みや解決方法を説明することができる。（技能）			
	第5章	■第5章のねらい ・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解している。 ・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。		・織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外関係などを基に，中世から近世への時代の転換を理解している。	・村落や都市の支配の変化，アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して，中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・近世の特色についての考察などを踏まえ，例えば，織豊政権が戦国時代を終わらせることができた理由や，海外から伝わった新たな文化が社会の変化に与えた影響など，生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し，それらの疑問を基に，教師が問いかけを行うなどして，近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて，生徒が，例えば，「なぜ長期間にわたって大きな戦乱が起こらない時代を形成できたのか」など，近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。	

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
29	「南蛮」との出会い	○ヨーロッパ人は、なぜ東アジアに来航したのだろうか。	・ 東アジアにヨーロッパ人が来航した目的や貿易の内容に着目させる。	・ p. 98の写真②をみて、「読み解きのツボ」にある空欄に適切な文字を入れ、内容を説明することができる。あわせてこれがローマ字で書かれた理由についても説明することができる。（技能）	・ p. 98の地図①で、マゼランはなぜ西回り航路を選んだのか、その理由についてスペインとポルトガルの関係や支配地の位置などを参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 鉄砲伝来に関し、なぜポルトガル人は中国の倭寇船に乗ってきたのだろうか。大航海時代という言葉はヨーロッパを中心とする概念だが、これらの問題点を考え、アジアに立脚点をおいて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
		・ 東アジアにおけるヨーロッパ人の活動について考える。	・ 南蛮貿易とキリスト教の伝来の影響に着目させる。	・ p. 98の地図①をみて、当時の世界がどのような勢力分布になっているか説明することができる。（知識）	・ TRYの「南蛮貿易によってもたらされた文化や技術は、人々にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述や掲載された資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。		
		・ 南蛮貿易や南蛮文化、キリスト教の伝来について考える。	・ 南蛮文化の内容と影響に着目させる。	・ p. 99の絵③をみて「資料を読みとろう」の「①南蛮船にはどのような特徴があるだろうか」「②右上の屋根についているものは何だろう」を説明することができる。あわせて屏風に描かれている黒人の役割や来歴についても説明することができる。（技能）	・ 鉄砲の製造技術は、堺や根来、国友で広まった。なぜこれらの場所で広がったのか。当時の特産品の生産地について考慮しながら多面的・多角的に考察することができる。		
30	織豊政権の全国統一	○信長や秀吉の全国統一は、どのようにすすんでいったのだろうか。	・ 織田信長の戦略と政策に着目させる。	・ p. 100の地図③をみて、織田信長と豊臣秀吉がどのような戦いを経験していったのかを順序立てて説明することができる。（技能）	・ p. 101の史料⑤をみて「刀狩令」の内容を説明し、注4の記述も参考に「刀狩令」の意味についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 101の桃山文化の本文記述、写真⑥、絵⑦、⑧などをみて、政治が文化に及ぼす影響、文化が政治と関係していることを考え、現在における政治・社会と文化の関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
		・ 織田信長の政策について考える。	・ 豊臣秀吉の統一の過程や政策に着目させる。	・ p. 100の本文記述、Topic「信長の天下」をみて、織田信長の政策の独自面と他の戦国大名と共通している政策を説明することができる。（知識）	・ TRYの「戦国時代は豊臣秀吉の全国統一によって終わりをとげた。生きるために傭兵となった人々はどうなったのだろうか」という問いに、太閤検地との関係を考えながら多面的・多角的に考察することができる。		
		・ 豊臣秀吉の政策や桃山文化について考える。	・ 桃山文化の内容と背景に着目させる。	・ p. 101の本文記述をみて、豊臣秀吉の政策を政治面、経済面、外交面にわけて説明することができる。（技能）	・ p. 101の絵⑦の「読み解きのツボ」の「①この絵はどこに描かれたのだろうか」「②使われている色で、特徴的な色は何色だろうか」という問いに多面的・多角的に考察することができる。		

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 1. 東アジアの変動と豊臣政権	○ 7 年にわたる豊臣秀吉の朝鮮侵略は、なぜおきたのだろうか。 ・ 豊臣秀吉の外交政策について考える。 ・ 関ヶ原の合戦の背景や影響について考える。	・ バテレン追放令の内容や背景，影響に着目させる。 ・ 朝鮮侵略の背景，内容，影響に着目させる。 ・ 関ヶ原の合戦にいたる豊臣氏の弱体化や徳川家康の台頭に着目させる。	・ p. 102の地図①，絵②，写真③をみて，豊臣秀吉の朝鮮侵略の過程や内容を説明することができる。（技能） ・ p. 103のLink「朝鮮被虜人と降倭」をみて，秀吉の朝鮮侵略が両国および世界の文化に与えた影響を説明することができる。（知識） ・ p. 103の本文記述，絵⑤をみて，徳川家康が権力を手中に収める過程を説明することができる。（技能）	・ p. 102の史料④の「バテレン追放令」をみて，この法令が禁止していること，反対に禁止していないことをまとめ，豊臣秀吉の外交政策についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「豊臣秀吉の死後，なぜ関ヶ原の戦いがおきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 102の本文記述を参考に，豊臣秀吉の外交政策の意図と問題点を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 103の「時代を通観する問いをたてよう」の「ヨーロッパ文化との接触や，織豊政権による全国統一は，人々の生活をかえていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか，文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近世の展望	○外国人がみた「日本」の近世について考えてみよう。	・ 絵①をみて，朝鮮通信使がなぜ人気を集めたのかに着目させる。 ・ 史料①と②，絵③をみて，外国人が近世の日本についてどのような記録を残しているのかに着目させる。 ・ 「日本」は外国にどのように伝えられていたのかに着目させる。	・ 絵①をみて，行列の服装，もち物にどのような特徴があるのかを指摘することができる。（技能） ・ 史料①と②，絵③の内容を説明することができる。（知識） ・ 絵③の空欄部分をうめて内容を説明することができる。（技能）	・ p. 104の絵①に書かれた沿道の人々は，どのように行列をみているのかを予想し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 104の史料①，②，絵③を参考に，近世に戦争がなくなったことは，日本の外交関係や人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを多面的・多角的に考察できる。 ・ p. 105の史料③をみて，「シーボルトは日本の政治や対外関係の特徴をどのように読みとったのだろうか，また，その問題点はどこにあると考えたのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「幕府による支配のしくみ，対外関係をめぐる政策，人々による学問・文化への関心に注目し，近世にはどのような特徴があるか，あなたの仮説をたて，理由も説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 2. 江戸幕府の支配のしくみ	○徳川家は、支配のためにどのような制度をつくったのだろうか。 ・ 江戸幕府の成立や支配について考える。 ・ 諸藩の政治について考える。	・ 江戸幕府の成立過程や政策の内容に着目させる。 ・ 江戸幕府の全国支配の方法に着目させる。 ・ 諸藩が江戸幕府とどのような関係を築きながら支配をしていたのかに着目させる。	・ p. 107の図③の「江戸幕府の職制」をみて、江戸幕府のしくみを説明することができる。（技能） ・ p. 106の史料②「武家諸法度」をみて、江戸幕府の大名管理の方法について説明することができる。（知識） ・ p. 107の地図④をみて、日本全国に大名がどのように配置されていたか説明することができる。（技能）	・ p. 106の絵①をみて、加賀藩の大名行列はどのくらいの長さであったのか、何のために江戸へいったのか、史料②を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「将軍と大名の関係や、大名と家臣の関係は、徳川家によってどのようにかえられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 107の地図④をみて、江戸幕府を倒すには外様大名がどれくらい結束しなければならないだろうか。シミュレーションをしてみても面的・多角的に考察することができる。	・ p. 107の地図④をみて、自分が住んでいる場所が江戸時代にはどのようなになっていたのか調べてみる。あわせて北海道や沖縄ではどのような独自性があったのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 3. 江戸時代の対外関係	○江戸時代の日本と外国の関係は、どのようにきずかれたのだろうか。 ・ 江戸幕府のアジア・西洋諸国との交流やキリスト教対策について考える。 ・ 「鎖国」の実態や「四つの口」について考える。	・ 江戸時代初期の積極的な外交に着目させる。 ・ 幕府のキリスト教対策や反発について着目させる。 ・ 外交を一切もたないというイメージをもった「鎖国」が本当であったのかに着目させる。	・ p. 108の絵①の「朝鮮通信使の図」をみて、朝鮮通信使にどのような人々が参加しているのか説明することができる。（技能） ・ p. 108の写真②や地図③をみて、江戸時代初期の外交や航路について説明することができる。（知識） ・ p. 109の図⑤をみて、「四つの口」のそれぞれの内容を説明することができる。（技能）	・ 東アジアの交易の目的、平戸・長崎の役割、幕府の役割などをp. 108の地図③や写真②の朱印状の朱印の位置（高さ）を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「幕府はなぜ対外関係の窓口を限定したのだろうか。また、「鎖国」政策は経済や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 109の絵④や地図⑥をみて出島でのオランダの様子、本文記述の島原・天草一揆でのオランダの役割を参考に、江戸幕府とオランダとの関係を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 109の地図⑥をみて、現在の長崎との位置関係、さらには唐人屋敷と中華街との関係など江戸時代と現在との関係をさぐるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 4．身分制と村・町の生活	○江戸時代の人々の身分には、どのようなものがあっただろうか。 ・江戸時代の身分制や村について考える。 ・江戸時代の都市と町について考える。	・江戸時代の身分制度に着目させる。 ・江戸時代の村や百姓の家の位置について着目させる。 ・江戸時代にさまざまな形態の町があったことに着目させる。	・ p. 110の図②，地図③をみて，江戸時代の村の様子を説明することができる。（技能） ・ p. 111の写真⑤をみて，小倉の城下町の特徴を説明することができる。（知識） ・ p. 111のTopic「成人の仲間入り」をみて，江戸時代の成人について説明することができる。（技能）	・ p. 110の地図②と③をみて，百姓の家の位置，神社の位置，耕作地や入会地の位置から村の景観についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代の村や都市の特徴を，現在の市・区・町・村と比べ，共通点・相違点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 111の写真⑤をみて小倉城の位置を読みとったり海に浮かんでいる物を考えたり，地図⑥をみて城下町や街道の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 110の図①をみて，江戸時代の身分構成からわかることを現在の職業構成と比較していくという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近世のはたらく・あそぶ	○江戸時代の女性はどのように「はたらき」，いかなる「あそび」をしていたのだろうか。ドラマや映画や各種メディアで存在を知られる奥女中を対象に考えてみる。	・奥女中としてはたらく女性たちに着目させる。 ・女性の習い事と大奥でのあそびに着目させる。	・大奥で町人や百姓の娘たちが雇われた理由や奥女中につとめた女性の人生について説明することができる。（知識） ・江戸時代の女性の習い事の種類や動物や昆虫を飼っていたことについて説明することができる。（技能）	・大奥では昆虫を飼っていた人々がいたが，昆虫がいそうな場所はどこかということをヒントにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「近世の「はたらく」・「あそぶ」と現在のそれらには，どのような共通点・相違点があるのだろうか」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・ 論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
第 6 章	■第 6 章のねらい 						

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 6．産業の発展	○江戸時代の人々は，農業，林業，漁業でどのようにふうをしたのだろうか。 ・江戸時代の農業経営について考える。 ・江戸時代の産業の発展について考える。	・新田開発の内容や農具の進歩に着目させる。 ・農業の技術の進歩や交易の内容に着目させる。 ・さまざまな産業や特産物に着目させる。	・ p. 116の絵①をみて，当時の農耕の様子や男女の役割の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 116のTopic「干鰯の産地と消費地」をみて，当時の肥料について説明することができる。（知識） ・ p. 117の表⑥「おもな特産品と産地」をみて，特産品と産地との関係について説明することができる。（技能）	・ p. 117の本文記述をみて，江戸時代の産業や交易の関係，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代における産業の発展は，どのような背景によってうまれたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 117の絵④や表⑤をみて，みたことのある商標をさがし，表⑥とも比較しながら，現在に続く特産品について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 116の絵①やp. 117の絵③をみて，江戸時代の産業における男女の役割の違いについて，現在と比較しながら考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 7．交通網の発達と都市の繁栄	○交通網の発達は，社会をどうかえたのだろうか。 ・交通網の発達や三都の繁栄を考える。 ・元禄文化について考える。	・水陸の交通網の整備の様子に着目させる。 ・三都と流通経済との関連に着目させる。 ・元禄文化の内容，とくに学問の進展に着目させる。	・ p. 118の地図①や絵③をみて，当時の五街道をはじめ幹線道路の発展，河川や会場の交通の発展について説明することができる。（技能） ・ p. 118の絵④をみて，江戸の魚市場と流通について説明することができ，p. 119の絵⑨をみて大坂が「天下の台所」と呼ばれた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 119の表⑤「元禄文化の作者と作品」をみて，元禄文化での文学作品や美術作品について説明することができる。（技能）	・ p. 118の地図①と写真②をみて，江戸時代の交通の発達と貨幣経済の発達の間接的な関係を，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「私たちがくらしている地域は，江戸時代に江戸・大坂・京都とどのようにむすびついていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 119の表⑤，絵⑥や⑧，写真⑦や⑩をみて，元禄文化の特徴や背景について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 119の本文記述をみて，江戸時代に儒学が重用された理由を考え，日本の近代でも重要視されたことの間接的な関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	近世のたたかう・つながる	○近世の村は現在と比べて小規模であったが、人々の生活は、村のなかで完結していなかった。いまの自分と近世の人々の生活を比較していく。 ・ 近世の文化と情報の伝わり方に着目させる。	・ 近世の一揆や権利をめぐる争いに着目させる。 ・ 近世の文化と情報の伝わり方に着目させる。	・ p. 120の写真①をみて、一揆の訴状の内容や村の境界について明することができる。（知識） ・ p. 121の写真③と史料をつかって近世の俳句や短歌のサークル活動やつながりを説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「なぜ、一揆の訴状が手習いの教材の一つとして選ばれたのだろうか」や「山以外に、複数の村の間で資源を得られる範囲が争われたところにはどのような例があるだろうか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「近世には、俳句や短歌を楽しむサークルが各地にできた。どのような条件がととのったからだろうか」や「この百姓は、敦賀から魚肥を仕入れたり、大津で米の取引をしていた。なぜほかの地域の作物の出来を知りたがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「4つの資料のうち一つを選び、その資料が本文のどのページと関連するか、理由もいっしょに考えてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1
	38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題	○吉宗と意次の政治は、どのようなことを背景におこなわれたのだろうか。 ・ 享保の改革を考える。 ・ 田沼意次の政治について考える。	・ 享保の改革の内容や意図に着目させる。 ・ 江戸時代中期の経済の発展に着目させる。 ・ 田沼意次の政治の特徴に着目させる。	・ p. 122のグラフ②をみて、幕府の年貢収穫高の推移の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 122の史料③の内容を説明することができる。さらに「八木」と書いた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 123の表⑦の「徳川氏系図」をみて、将軍家の継承方法について説明することができる。（技能）	・ p. 122のグラフ②の特徴と史料③を出した理由、徳川吉宗の経済政策の特徴について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「徳川吉宗と田沼意次の政治について、共通点と異なる点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 123の絵④、写真⑤、史料⑥をみて、田沼意次の政治の特徴や新しい面について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 123の田沼意次の政治はかつては賄賂政治の代表で評価が低かったが、現在ではロシアとの貿易など新しい面が評価されている。歴史の評価を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 9．商品経済の発達と民衆の運動	○一揆や打ちこわしは、なぜ増加したのだろうか。 ・ 工業の発達と都市や村との関係を考える。 ・ 一揆と打ちこわしの背景や影響について考える。	・ 手工業の発達と地域の発展に着目させる。 ・ 産業の発達とともに都市と村がどのように変化したのか着目させる。 ・ 一揆や打ちこわしなど地域の団結や、幕府や藩の統制が利かなくなる過程に着目させる。	・ 問屋制家内工業と工場制手工業（マニュファクチュア）の違いを説明することができる。（技能） ・ p. 124の地図①をみて、代表的産品と産地を説明することができる。（知識） ・ p. 125のLink「災害へのそなえ」をみて、江戸時代の防災について説明することができる。（技能）	・ p. 124の写真②や絵③などをみて、問屋制家内工業が工場制手工業に移行していった理由や背景について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「商品経済の発達により、都市や村にはどのような変化がおき、どのような運動がみられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 125の史料⑦で、百姓たちが署名を円形に並べているのはどうしてだろうかという問いに多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 125のグラフ⑥、史料⑦、絵⑧をみて、一揆がおきた背景を政治や気候の変動との関連で説明する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 ラッコ	○人々がラッコを追い求めた理由を考えてみよう。 ・ アイヌとラッコとの関係を考える。 ・ ラッコの毛皮の交易について考える。	・ アイヌの人々はラッコをどのように活用したのか説明することができる。（技能） ・ 18世紀から19世紀初頭にかけての世界の交易について説明することができる。（技能）	・ p. 126の地図①、絵②と③をみて、ラッコが当時の人々にどのように意識されていたのか多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 127の写真④、絵⑤、地図⑥を見て、ラッコの毛皮交易におけるアメリカ船の役割について多面的・多角的に考察することができる。	・ 「ラッコをめぐる人々の動きは、近世日本の対外関係にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の動物乱獲・保護との関係も含めて多面的・多角的に考察できる。		1
	4 0．寛政の改革と欧米諸国の日本接近	○寛政の改革時に、江戸幕府が直面した問題は何だったのだろうか。 ・ 寛政の改革の内容を考える。 ・ 19世紀後半ごろの外国船の接近について考える。	・ 寛政の改革の政策内容に着目させる。 ・ 松平定信がロシアとの関係にどのような判断をしたか着目させる。 ・ 諸外国の船がどのように接近したか、それに対する外国船への対応に着目させる。	・ p. 128の絵①とp. 129の「ひと」の「大黒屋光太夫」をみて、幕府がロシアとどのような関係をきずこうとしたのか説明することができる。（技能） ・ p. 129のTopic「現在の天皇家と光格天皇」をみて、江戸時代における天皇家について説明することができる。（知識） ・ p. 129の地図③の「幕府の北方探検」をみて、幕府の北方政策について説明することができる。（技能）	・ p. 128の絵①をみて、絵に描かれてる旗や人の配置、長崎奉行所など建物について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「国内の問題（「内憂」）と外国の問題（「外患」）、それぞれの内容・背景と幕府の対応を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 129の地図③と④をみて、日本列島にせまるアメリカやロシアとの関係について多面的・多角的に考察することができる。	・ この時期にロシアが日本列島に近づいた理由を解明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 1．江戸時代後期の学問・文化	○民衆が学んだ学問と親しんだ文化は、どのようなものだったのだろうか。 ・江戸時代後期の学問の展開を考える。 ・化政文化について考える。	・民衆の生活と文化に着目させる。 ・この時期の学問の展開の内容について着目させる。 ・化政文化の内容や文化のいない手に着目させる。	・p. 130の絵①をみて、寺子屋での学びの様子について説明することができる。（技能） ・p. 130の絵②「おらんだ正月」を祝う蘭学者たちをみて、西洋風のことを指摘して説明することができる。（知識） ・p. 131の図④の「江戸時代後期の文化・芸術」をみて、文化の内容を説明することができる。（技能）	・p. 130の写真③をみて、この時代に日本の古典に注目があつまった理由について、外国船襲来との関係に留意して多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「元禄文化と場所や文化のいない手が異なる化政文化の特徴には、社会のどのような変化が反映されているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 131の絵⑥の浮世絵の手法に対し、絵⑦のような西洋画の影響のある絵も出た。このことから化政文化の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・外国との関係が文化にも影響が出ることを説明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 2．天保の改革	○幕府は、国内外の危機にどのように対応しようとしたのだろうか。 ・内憂外患の深刻化を考える。 ・天保の改革の内容と影響を考える。	・江戸時代後期の国内の混乱と外国での戦争の影響に着目させる。 ・天保の改革の政策内容に着目させる。 ・天保の改革の影響と雄藩の台頭に着目させる。	・p. 132の地図①をみて、三方領知替えの内容について説明することができる。（技能） ・p. 133の地図⑤「印旛沼掘割工事」をみて、掘割をおこなった理由や現代への影響を説明することができる。（知識） ・p. 133のTopic「砂糖あるところに奴隷あり」をみて、江戸時代の琉球や奄美大島の様子を説明することができる。（技能）	・p. 132の地図①、絵②をみて、三方領知替えの何が問題だったか、幕府の統制力に対する影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「天保の改革はなぜ失敗したのだろうか。また、改革の失敗は幕府と藩にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 133の絵④に描かれている風刺について抽出し、何を表しているのかグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・経済力が政治力にむすびつくことを示す事例から、政治と経済の関係について考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 八王子	○黒船来航と八王子、開港地横浜と八王子をむすぶ「絹の道」にも注目して考える。	・「絹の道」と八王子との関係に着目させる。 ・「格差」の拡大と武州世直し一揆に着目させる。	・p. 134の地図③を参考に、八王子と養蚕（生糸）との関係について説明することができる。（知識） ・p. 135の絵⑥をみて、武蔵国で世直し一揆が発生した理由を説明することができる。（技能）	・「貿易開始をきっかけに拡大した経済的格差は、社会に何をもたらしたのだろうか」という問いをp. 135の本文記述などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・八王子から横浜まで横浜線が通っている。そして八王子から北の高崎まで八高線が通っている。この2つの路線と絹との関係について多面的・多角的に考察することができる。	1
	近代がやってくる	○近代前夜の世界と日本との関係をみてみよう	・18世紀～19世紀前半の世界を経済という視点で着目させる。	・p. 136の資料Aと資料Bの内容を説明することができる。（知識）	・p. 136のQ. 1の1700年からヨーロッパのGDPがのびている理由、Q. 2の中国のGDPの失速の理由について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 137の下段のQ. 1の伝統的な国際関係の特徴、Q. 2の近代的な国際関係の特徴と日本の対応	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
		う。	・ 琉球をめぐる国際関係や世界全体の関係に着目させる。	・ p. 137の資料C～Fの内容を説明することができる。（技能）	・ p. 137上段のQ. 1のペリー艦隊が琉球や小笠原諸島に立ち寄った理由，Q. 2のペリーが琉米修好通商条約をむすんだ理由について多面的・多角的に考察することができる。	を追究する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生 時代と社会を考える「近世」	○近世の人々の人生を考える。	・ 近世の武士と百姓の生活について着目させる。	・ 近世の武士の風習や生活について説明することができる。（知識） ・ 近世の百姓の風習や生活について説明することができる。（知識）	・ 近世の人々の結婚，出産，あそび，老いなど人生の営み，武士と百姓の関係性についても多面的・多角的に考察することができる。	・ 近世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて，人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
2 学 期 後 半	第 7 章	■第 7 章のねらい ・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに，近世から近代への時代の転換を理解することをねらいとしている。 ・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現すること。近世から近代への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，対外的な環境や交流，中学校社会科歴史的分野での「大観し」て「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ，前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し，探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習を行う。		・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に，近世から近代への時代の転換を理解している。	・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・ 時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習については，小項目（7）の近世から近代への転換の理解や，「中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用する」（内容の取扱い）とともに，「歴史総合」の学習で獲得した概念などを活用し，近世との比較や他地域や他国との比較などを通して，例えば，当時の我が国が直面していた国内外における諸課題やその対応，政治や経済など諸側面の変化などから，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習などが考えられる。時代を通観する問いを表現する学習については，小項目（7）の学習や，近代の特色についての考察などから生じた様々な疑問を相互に表現する活動などを通じて，それらの疑問をもとに，教師が問いかけをおこなうなどして，近代の特色について課題意識をもって考察できるように指導を工夫する。それらをふまえて，生徒が，例えば，「日本は，どのような契機によって，近代的な社会の形成に向かったのだろうか」など，近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 3．開国	○ペリーはなぜ来航し，幕府や大名はどのように対応したのだろうか。 ・ペリー来航の背景やできごとについて考える。 ・開国の影響を考える。	・ペリー艦隊の経路や目的，日米和親条約の内容に着目させる。 ・安政の五か国条約の内容や影響に着目させる。 ・貿易がはじまったことによる日本国内への影響に着目させる。	・p. 144の絵①と②をみて，日本の人々がアメリカ人をどう考えていたのか，罫に書かれている品目について説明することができる。（技能） ・p. 145の史料③「日米修好通商条約」をみて，条約の内容や問題点を説明することができる。（知識） ・p. 145のグラフ④と⑤の内容を説明することができる。（技能）	・p. 145の「資料を読みとろう」をみて，「開国後の貿易で輸出の大半を占めていたものはなんだろう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「開国によって，日本の政治と社会はどのように変容したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 145のグラフ④にある横浜港の位置づけ，輸出入の増加，グラフ⑤で生糸の輸出が多い理由，イギリスの割合が高くアメリカが低い理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・外交が国内政治に与える影響について，幕末と現代とを比較検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 4．倒幕と「ええじゃないか」	○徳川幕府は，どのようにして倒れたのだろうか。 ・倒幕に至る過程について考える。 ・徳川幕府の滅亡と新政権の動きを考える。	・尊王攘夷運動と倒幕運動の関連に着目させる。 ・倒幕運動の動きに着目させる。 ・世直し一揆など民衆の動きと徳川幕府滅亡の関連に着目させる。	・p. 146の絵①をみて，描かれている内容，書かれている神号や神社について説明することができる。（技能） ・p. 147の表②「倒幕の動き」を，絵③や④を使いながら説明することができる。（知識） ・p. 147の表②をみて，幕府・長州藩・薩摩藩の動向やねらいについて本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 146の注「生麦事件」の説明，p. 147絵③をみて，生麦事件が薩摩藩とイギリスとの関係に与えた影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「徳川幕府から新政府への政権交代を，人々は「御一新」とよんだ。そこには，どのような思いがこめられていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 147のTopic「三浦命助と世直し一揆」の文章を読んで，三浦が仙台藩の協力を得られたことの理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・幕末の動きは大河ドラマでも数年おきに扱われるなど人気の時期である。それはなぜなのだろうか。現代人の歴史意識を検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 5．明治維新	○天皇はなぜ京都から江戸に移ったのだろうか。 ・戊辰戦争と新政府の始動について考える。 ・新政府の体制づくりの内容を考える。	・戊辰戦争の経過やその過程での混乱の様子に着目させる。 ・新政府が戊辰戦争のさなかでどのようにつくられはじめたのかに着目させる。 ・新政府が中央集権制をめざす過程に着目させる。	・p. 148の絵①をみて、風刺画に描かれている人物や描かれている内容について説明することができる。（技能） ・p. 148の絵②「東京府御酒頂戴 江戸橋日本橋風景」をみて、描かれている内容について説明することができる。（知識） ・p. 149の史料③をみて、書かれている内容や新政府の意図について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 148の絵①と②を比較して、天皇の描き方の違いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「新政府はなぜ、人々に江戸時代とかわらない生活を求めたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 149の地図④「廃藩置県後の全国地図」とp. 107地図④「主要大名の配置図」を比較して、共通点や相違点、気がついたことなどをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 149のTopic「『夜明け前』の世界」を読んで、文学が同時代をどのように省察しているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 6．文明開化	○文明開化の背景には、どのような事情があったのだろうか。 ・人々の編成替えや文明の変化について考える。 ・岩倉使節団の内容や意義を考える。	・「四民平等」の内容や問題点に着目させる。 ・岩倉使節団の経路や派遣された留学生に着目させる。 ・文明開化の内容に着目させる。	・p. 150の絵①をみて、風刺画に描かれている禁止事項の内容や絵が描かれた背景について説明することができる。（技能） ・p. 151の史料③「岩倉使節団の視察レポート」をみて、史料が述べている内容について説明することができる。（知識） ・p. 151の「ひと 福沢諭吉」をみて、福沢の思想やその背景について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 150の地図②の「岩倉使節団の経路」をみて、このような経路や経由地をたどった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「人々にとって、文明開化とはどのようなものだったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 151のTopic「神と仏の明治維新」を読んで、明治新政府の宗教政策を徳川幕府の政策との比較をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 151の「文明開化」を読んで、現代への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 7．富国強兵	○新政府は、どのような国づくりをめざしたのだろうか。 ・ 地租改正や殖産興業などの政府の政策について考える。 ・ 国民皆兵と政府への反発について考える。	・ 地租改正の意味と問題点に着目させる。 ・ 殖産興業など新しい政策に着目させる。 ・ 軍隊が誕生したことによる影響に着目させる。	・ p. 152の絵①をみて、描かれている欧米の先進文明について説明することができる。（技能） ・ p. 152の「ひと 渋沢栄一」をみて、渋沢栄一と殖産興業との関連を説明することができる。（知識） ・ p. 153の絵③「西南戦争の様子を描いた錦絵」をみて、西郷軍と新政府軍の装備の違い、描かれ方など本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 153の史料④の「徴兵告諭」をみて、内容とともに、軍人勅諭や徴兵令との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「政府に異を唱えた人々は、なぜ一気や武力反乱といった手段をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 152～153の「殖産興業」で、鉄道・郵便・電信などのネットワークをきずくことがなぜ重要であったのかを「歴史総合」で学んだイギリスの事例と比較して、それをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 153の「時代を通観する問いをたてよう」の「欧米諸国のアジア進出は日本にも影響を与え、幕府の崩壊と新政府の成立にいたった。新政府は幕府とは異なる国づくりをすすめた。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近代の展望	○軍隊と戦争から日本の近代社会について考えてみよう。	・ グラフや当時の書籍をみて、人々の生き方に着目させる。 ・ 錦絵や絵すごろくに描かれた軍隊や兵士の姿に着目させる。 ・ 当時の軍隊の組織図や写真をみて、軍隊のおかれた場所に着目させる。	・ p. 154のグラフ①の特徴を指摘することができる。（技能） ・ p. 154～155の絵③と④に描かれた軍人や兵士の姿を指摘して説明することができる。（知識） ・ p. 155の表⑤で、師団が配置されている場所の特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 154の写真②の『徴兵免役心得』で「甲種合格、クジのがれ」を願った人が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 154～155の絵③と④をみて、軍隊や兵士が描かれている理由や作者の意図を多面的・多角的に考察できる。 ・ p. 155の写真⑥をみて、女性がどのような役割をになったのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「徴兵制が存在した戦前に生きた男性の経験と徴兵の対象外だった女性の経験、軍隊のおかれた地域の傾向などに着目して、日本の近代にはどのような特徴があるか、仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 8．国境の画定	○日本はなぜ、朝鮮を開国させたのだろうか。 ・東アジアとの外交関係について考える。 ・蝦夷地と琉球について考える。	・日本と清や朝鮮などの東アジア地域との関係に着目させる。 ・蝦夷地から北海道編入の流れに着目させる。 ・琉球国を日本の一部とした琉球処分に着目させる。	・p. 156の絵①や絵②をみて、江華島事件の様子や場所を説明することができる。（技能） ・p. 157の地図③をみて、国境の画定の様子を説明することができる。（知識） ・p. 157の絵④「那覇港に帰った琉球使節」をみて、何が描かれているのかを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 156のTopic「朝貢から条約へ」をみて、冊封体制と新しい国家関係を比較して両者の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「日本はいそいで国境を画定するために、どのような方法をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 156の絵①の「永宗島や江華島にきずかれた砲台は、どこを守るためのものだったのでしょうか」という問いに地図②を使いながらグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 157の地図③や⑥を使って領土とは何かという問題について、あなたはどうかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 9．自由民権運動	○演説している人は、何を訴えているのだろうか。 ・自由民権運動がはじまるきっかけを考える。 ・自由民権運動の展開を考える。	・自由民権運動の誕生と国家統制との関係に着目させる。 ・結社の役割に着目させる。 ・自由民権運動のひろがりに着目させる。	・p. 158の絵②をみて、着物姿の女性が何を考えているのか、とくに服装の違いに着目して説明することができる。（技能） ・p. 159の史料③をみて、書かれている内容やこの建白書が与えた影響を説明することができる。（知識） ・p. 159の表④「自由党と立憲改進黨の比較」をみて、2つの政党の違いを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 158の絵①の「資料を読みとろう」をみて、2人の人物が語っていることを想像し、自由民権運動と国家統制との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「自由民権運動には、どのような人々が、どのような期待をいだきながら参加していたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 158の絵①や②、p. 159の「ひと 植木枝盛」、本文記述を参考に、自由民権運動における男女の違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 159の史料③や本文記述を参考に、自由民権運動が現代に与えた影響について、あなたはどうかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 0．激化事件	○松方デフレは、どのような成果や問題をうみだしたのだろうか。 ・松方財政について考える。 ・激化事件や困民党の動きを考える。	・松方正義のデフレ政策の内容や影響に着目させる。 ・激化事件の内容と政府の弾圧に着目させる。 ・困民党の運動とその影響に着目させる。	・p. 160の絵①をみて、どのようなものの価格が下がったのかを説明することができる。（技能） ・p. 161の絵②「法廷の被告」をみて、描かれている内容やこの絵が表現したかった事柄を説明することができる。（知識） ・p. 161の「ひと 井上伝蔵と謝花昇」をみて、2つの思想の共通点と行動の違いを説明することができる。（技能）	・p. 160の絵①「松方デフレで下落する物価」をみて、物価の下落による影響とくに民権運動との関連を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「民権派と困民党はなぜすれちがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 161の困民党の記述で、民権運動が激化した場所の共通点についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 160～161の「激化事件」の本文記述をみて、経済政策が与える影響について、あなたはどうかという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 1. 大日本帝国憲法	○民権派や困民党の運動は、憲法制定にどのようなにつながったのだろうか。 ・ 憲法制定と近代天皇について考える。 ・ 選挙と議会の動きを考える。	・ 大日本帝国憲法の制定過程や内容に着目させる。 ・ 近代の天皇制に着目させる。 ・ 初期議会と選挙の動向に着目させる。	・ p. 162の写真①・②・③をみて、3枚の肖像画はそれぞれいつごろ（明治天皇が何歳くらい）のものだろうかという問いを説明することができる。（技能） ・ p. 163の史料③の「大日本帝国憲法」をみて、憲法の内容について説明することができる。（知識） ・ p. 163のTopic「天皇と家族規範」をみて、当時考えられた「家」のあり方、洋装と和装の違いを説明することができる。（技能）	・ p. 162の写真①・②・③、絵④・⑤をみて、④と⑤で天皇がどこにいるのか、5つの写真や絵での明治天皇の服装や描かれ方、天皇にどのようなイメージを与えようと考えられたのかといった問題を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「天皇は、当時の人々にとってどのような存在だったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 161のTopic「天皇と家族規範」や絵⑤、絵②「憲法発布の式典の様子」などの女性の描かれ方についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 163の史料③「大日本帝国憲法」の本文記述をみて、現行の日本国憲法と比較して現代を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	第8章	■第8章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえることをねらいとしている。 ・ 日清・日露戦争、第一次世界大戦については、戦争が及ぼした影響などに着目して、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し、それぞれの講和条件などから、形成される国際秩序と我が国の関わり、近隣諸国、諸地域との関係について確認する。さらに、日清・日露戦争前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配をすすめたことや、第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化を確認するなどの学習をおこなう。		・ 明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	・ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ この小項目の内容の確かな理解をはかるためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、当時の様々な立場の人々が日本のおかれた状況やあるべき姿をどのように意識していたと考えるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、世界を認識したこの時代の人々の意識や判断を考察する学習や、「あなたは、地域社会が近代をむかえたのはいつだと考えるか、またそれはなぜか」、「あなたは、対外的な戦争は日本の近代化の過程の中で、どのような意味をもったと考えるか」などの問い（課題）を設定して、地域における近代国家の形成についてそれぞれの考えを表現して根拠をもとに議論したり、戦争がもたらした国内的、国際的な変化それぞれの重要性や相互の関係について根拠をもとに考察したことを表現したりするといった学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 2．日清戦争	○なぜ日本は、清と戦争をしたのだろうか。 ・ 日清戦争前の東アジア情勢について考える。 ・ 日清戦争の内容を考える。	・ 日本政府の欧化政策と国内での国粋主義の動きに着目させる。 ・ 1880年代の朝鮮半島をめぐる動きに着目させる。 ・ 日清戦争の原因，経過，講和と台湾征服戦争に着目させる。	・ p. 164の絵①をみて，鹿鳴館の建物の様子，参加している人の服装の特徴を説明することができる。（技能） ・ p. 164の表③の「条約改正のあゆみ」をみて，条約改正の責任者や交渉内容について説明することができる。（知識） ・ p. 165の地図⑤「日清戦争と台湾の征服」をみて，日清戦争のおもな戦場や日本軍の進路を説明することができる。（技能）	・ p. 164の表③「条約改正のあゆみ」， 絵④「ノルマントン号事件」をみて，条約改正交渉のきっかけ，途中でイギリスが日本に協力的になった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日清戦争は，これまで日本がおこなった戦争と何がちがうのか，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 165の絵⑥「征清海陸進軍双六」をみて，広島に大本営がおかれた理由，海路が佐世保が起点になっている理由，北京が「あがり」となっている理由をおもな戦場がどこであったのかに注意しつつグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 165の絵⑦「台湾の割譲に反対する会議」，台湾征服戦争に関する本文記述をみて，台湾の人々が日本にどのような歴史的意識をもっているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 3．1900年前後の世界と東アジア	○日清戦争後，日本・中国・朝鮮の関係はどうか変わっただろうか。 ・ 世界と日本の帝国主義について考える。 ・ 1900年前後の東アジア情勢を考える。	・ 欧米と日本の帝国主義の動きに着目させる。 ・ 日本人の中国や朝鮮に対する意識の変化に着目させる。 ・ 義和団戦争と当時の国際情勢に着目させる。	・ p. 166の絵①「列強による中国分割」をみて，どのような国が中国に進出したのか説明することができる。（技能） ・ p. 166の表④の割譲や租借，それに借款といった用語を具体的事例を用いながら説明することができる。（知識） ・ p. 167の絵⑤「日本人の中国観の変化」をみて，ここに描かれている中国人への侮蔑意識とその背景を説明することができる。（技能）	・ p. 166の絵②「分割される中国の風刺画」をみて，この絵に描かれている人物，右手の女性が左の男性の肩に触れている理由，中国人の描かれ方などを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「帝国主義時代の国と国との関係の特徴は何か，話しあってみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 167の写真⑤「沖縄県の『国語』の教科書」をみて，このような構成になった理由を琉球処分との関係も考慮に入れグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 166～167の本文記述をみて，中国分割の影響は現在どのように残っているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 4．日露戦争	○日清戦争後，日本では戦争に対してどのような意見が出てきただろうか。 ・日露戦争の前後の世界と日本の帝国主義について考える。 ・日本の韓国併合について考える。	・日露戦争前の国内世論や戦争の全体，日本の朝鮮侵略に着目させる。 ・ポーツマス条約の内容やその後の日本の行動に着目させる。 ・韓国併合にいたる過程に着目させる。	・p. 168の絵①「日本とロシアの対立の風刺画」をみて，描かれている内容や描かれている国々がどこかを説明することができる。（技能） ・p. 168の地図②「日露戦争関係図」をみて，日本軍の進路や戦場について説明することができる。（知識） ・p. 169の表⑤「20世紀初頭の日韓関係」をみて，韓国併合にいたる過程を説明することができる。（技能）	・p. 168の地図②「日露戦争関係図」とp. 169の地図④を比べ，地名や地図の書き方などの違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「日露戦争と日清戦争の違いは何か，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 169の「ひと　内村鑑三」や本文記述を参考に，日露戦争をめぐる国内世論の動向についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 169の南満洲鉄道株式会社について，今日の鉄道会社の事業と比較して，共通点と相違点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 5．社会問題と地域社会	○産業革命は，人々に何をもたらしたのだろうか。 ・日本の産業革命について考える。 ・20世紀初頭を中心とした日本の社会問題について考える。	・日本の産業革命の内容と地域への影響に着目させる。 ・労働者のはたらく時間や賃金などの社会問題の認識に着目させる。 ・社会主義の冬の時代に着目させる。	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」をみて，日本の鉄道網について説明することができる。（技能） ・p. 170の史料②「工女節の一節」をみて，歌詞の内容を説明することができる。（知識） ・p. 170の表③「1897年の輸出入の内訳」をみて，日本の輸出入の産品について説明することができる。（技能）	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」と本文記述を参考に，日本が鉄道建設を積極的におこなった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「女工は，どのような背景のもとでうみだされ，どのような役割をになったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 171の絵④，写真⑤，Topic「足尾暴動と友子同盟」をみて，鉱夫が暴動をおこした理由を本文記述を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 171の工場法の内容を調べ，現在の労働法規との違い，現在の労働法規の問題点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5 6．大正デモクラシー	○都市の人々は、なぜポーツマス条約の締結に反対したのだろうか。 ・日露戦争後の社会や民衆の様子について考える。 ・大正デモクラシーについて考える。	・日露戦争後の民衆の行動や桂園時代の世相について着目させる。 ・第1次護憲運動に着目させる。 ・大正デモクラシーと中国の動向に着目させる。	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」をみて、焼き打ちに参加した人を姿や持ち物などから説明することができる。（技能） ・p. 173の史料③「吉野の民本主義」をみて、史料の内容を説明することができる。（知識） ・p. 173の表④「20世紀はじめの内閣と出来事」をみて、このころの政治状況を説明することができる。（技能）	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」と本文記述を参考に、焼打ち事件が発生した背景、人々が政治的な主張をするようになった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「大日本帝国憲法のもとでのデモクラシーには、どのような課題があったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 173のTopic「大正教養主義」をみて、江戸時代の人々の考え方と比較するグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 172～173の大正デモクラシーの考え方が現代にどのような影響を与えたのか探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 7．第一次世界大戦と日本	○第一次世界大戦によって、日本と世界はどのようにかわったのだろうか。 ・第一次世界大戦と日本との関係について考える。 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制と日本との関係について考える。	・第一次世界大戦の全体像に着目させる。 ・帝国日本の膨張に着目させる。 ・ロシア革命と大戦終結後の世界に着目させる。	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」をみて、連合国側と同盟国側の構成を説明することができる。（技能） ・p. 174の地図②「第一次世界大戦中の日本の進出」をみて、日本の進出の様子を説明することができる。（知識） ・p. 175の史料⑥「元老井上馨の進言」をみて、井上の「天佑」という言葉の意味や発言の趣旨を説明することができる。（技能）	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」と本文記述を参考に、同盟国と連合国がまとまった理由やイタリアが三国同盟を離脱した理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「第一次世界大戦とその後の国際秩序のなかで、日本はどのような立場にあったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 175の「ひと ウィルソン・レーニン」やTopic「国際連盟」をみて、2人の人物が戦後構想をどのように考え、実際にどのようなになったのか、あなたならどう考えるかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 174の地図①・②をみて、どうして世界大戦とよぶようになったのかを考え、戦争が各国を巻き込む過程を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5 8．資本主義の成長	○第一次世界大戦後の日本経済はどのようにかわっていったのだろうか。 ・日本の資本主義の発達について考える。 ・日本の都市と農村の実態について考える。	・大戦景気の内容に着目させる。 ・日本の資本主義の発展の様子に着目させる。 ・都市の発達の様子と農村の実態、都市と農村との関係に着目させる。	・p. 176のグラフ①「貿易額の推移」をみて、第一次世界大戦中と戦後の貿易額の違いを説明することができる。（技能） ・p. 177のグラフ④「荷車・人力車・自転車・自動車の数」をみて、日本人の移動手段の変化を説明することができる。（知識） ・p. 177の写真⑦「講義録」をみて、書かれている内容を説明することができる。（技能）	・p. 176のグラフ①「貿易額の推移」，グラフ②「産業構造の変化」，写真③と本文記述を参考に，日本の産業構造の変化を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「資本主義の成長は都市・農村の社会をどのようにかえていったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 176のTopic「労働者の姿」やp. 177のグラフ④「荷車・人力車・自転車・自動車の数」，写真⑥の金沢の様子をみて，都市と農村の関係，農村のかかえる問題，交通機関の発達との関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 177の本文記述をみて，都市の農村との関係を100年前と現在を比較して考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のはたらく・あそぶ	○近現代では，はたらくことでむすびあう人々の関係はどのようにかわったのか。子どもの権利条約の「あそぶ権利」も参考に，この条約がうまれた背景も考えてみる。	・都市と農村での労働に着目させる。 ・祝祭日やあそびの変化に着目させる。	・p. 178の絵①「筑豊炭坑絵巻」や史料②「女工小唄」をみて，当時の労働実態について説明することができる。（知識） ・p. 179の絵④「新板子供遊尽し」をみて，あそびの内容を説明することができる。（技能）	・p. 178の本文や図版をみて，都市と農村の労働の違いをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「江戸時代から明治時代になって，「休む」ことにおこった変化は何だろう」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	1
	5 9．改造の時代	○米騒動はなぜおこり，参加した人々は何を求めたのだろうか。 ・米騒動など社会運動の高まりについて考える。 ・被差別部落や女性解放の動きについて考える。	・米騒動の内容や背景に着目させる。 ・社会運動の高まりを分野別の観点から着目させる。 ・女性解放について現在との比較の観点から着目させる。	・p. 180の絵①「米騒動絵巻」，絵③「ヤマの米騒動」をみて，描かれている内容を説明することができる。（技能） ・p. 181の写真④「さまざまな『改造』」をみて，それぞれの特徴や違いを説明することができる。（知識） ・p. 181の写真⑤「娼婦運動に関連する論説」をみて，書かれている内容を説明することができる。（技能）	・p. 181の絵①「米騒動絵巻」，写真②の新聞記事，絵③「ヤマの米騒動」をみて，米騒動が都市，漁村，炭鉱でおきた理由や背景の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「それぞれの社会運動にとって「改造」とは何を意味していたのだろうか。まとめてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 181の写真⑤の新聞記事，注「母性保護論争」，写真⑤の雑誌の表紙，本文記述を参考に，当時の女性解放運動の内容，問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 180～181の記述をみて，今日の社会運動との共通点や相違点を比較考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 0．植民地	○植民地をもつことで、日本はどのようにかわったのだろうか。 ・日本の植民地と解放運動について考える。 ・人々の移動について考える。	・日本の植民地の特徴や「内地」との違いに着目させる。 ・日本の植民地でおきた民族解放運動や独立運動に着目させる。 ・植民地間、「内地」と植民地での人の移動に着目させる。	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」をみて、日本の植民地獲得の過程を説明することができる。（技能） ・p. 182の写真②「朝鮮銀行券と台湾銀行券」、写真③「植民地の産業」、本文記述をみて、日本の植民地支配の内容を説明することができる。（知識） ・p. 183の地図⑥「日本からの移民」をみて、人の移動の様子や数値を説明することができる。（技能）	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」、注①の記述を参考に日本の各植民地の支配方法の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「台湾や朝鮮では、どのような植民地支配がおこなわれたのか、調べてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 183の表⑤「都道府県別の海外移民数」を参考に「資料を読みとろう」に答え、その地域が多い理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 182～183の記述をみて、日本の植民地支配がこんにちに与えている影響を考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 京城(ソウル)	○日本の植民地であったころの「京城」、その後の大韓民国のソウルの歴史を考える。	・「漢城」と「京城」の歴史と特徴に着目させる。 ・「ソウル」の発展や特徴に着目させる。	・p. 184の地図①、写真②・③を参考に、「漢城」・「京城」の特徴を説明することができる。（知識） ・p. 185のグラフ④をみて、「京城」の人口の推移を説明することができる。（技能）	・「台北（台湾）、大連（関東州）、豊原（樺太）など、日本のほかの植民地都市についても調べてみよう」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・日本の東京と韓国のソウルの歴史や街の構成を比較して両者の共通点や相違点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	第 9 章	■第 9 章のねらい ・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、近代を展望する仮説を踏まえるとともに、「歴史総合」での学習の成果を活用して、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。その際、大項目 A から C までの前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近現代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。		・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	・国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・内容の確かな理解を図るためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道を立てて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、国際連盟を脱退した時期の情勢のなかで、日本が国際的孤立を避けるために、どのような外交関係をむすぶことが有効であったと考えられるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、日本が国際的孤立を回避するために、アメリカ合衆国やソヴィエト連邦など国際連盟未加入国やドイツ・イタリアとの関係を、どのように構築しようとしたかを考察したり、「あなたは、戦争が不可避となった画期について、どの出来事がそれにあたると考えるか、当時、どのような根拠にもとづいてそれが選択されたと考えるか、現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して、世界恐慌を契機とした保護貿易主義のひろがりや全体主義の台頭、中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして、当時の国際状況、国内状況	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
						についての考察をふまえ、歴史のなかで、どのような判断が何を根拠におこなわれたのかについて、根拠をもとに考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。その際、当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の回顧録などから、当時どのような観点で議論がすすめられたのかなどについて考察したりして、現代の視点と比較しながら議論するなどの学習も考えられる。また、第二次世界大戦の学習については、この戦争が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらし、人類の文化と生活を破壊したこと、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国においても各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下をはじめ空前の戦禍を被ったことに着目させ、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚させるようにする。	
	6 1. 普通選挙と治安維持法	○震災の前後で都市はどのようにかわっていったのだろうか。 ・都市の変容と関東大震災について考える。 ・1920年代前半の日本の政治を考える。	・都市の変容と関東大震災の影響，人々の生活の変化に着目させる。 ・政党内閣の動きに着目させる。 ・普通選挙法と治安維持法の内容や影響に着目させる。	・ p. 186の絵①と写真②をみて，関東大震災でどのような経験の人々がしたのか説明することができる。（技能） ・ p. 187の写真④「文化住宅」と写真⑤「阪急百貨店」，本文記述を参考にして，当時の人々の生活の様子を説明することができる。（知識） ・ p. 187の「ひと　市川房枝」をみて，女性運動について説明することができる。（技能）	・ p. 186の絵①「小学生が描いた関東大震災」，本文記述をみて，関東大震災の混乱のなかで朝鮮人・中国人虐殺や社会運動の指導者が殺害された理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「普通選挙の導入によって政治と民衆の関係はどのように変化したのだろうか」という問いに対し，多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 187の普通選挙法の問題点，治安維持法が普通選挙法と同時に制定された理由，ソ連との国交樹立との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・新聞や雑誌，ラジオやテレビ，そしてSNS社会といった情報伝達装置の発達が人々の生活にどのような影響をもたらすのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 2．大日本帝国の選択肢	○大日本帝国はどのような国内政治・外交をおこなったのだろうか。 ・国際協調と軍縮について考える。 ・日本の中国進出と昭和恐慌について考える。	・軍縮条約や不戦条約などの意義に着目させる。 ・政党政治の動向と対中政策の動きに着目させる。 ・世界恐慌と昭和恐慌が与えた影響に着目させる。	・p. 188の写真①東方会議と写真②ロンドン海軍軍縮会議をみて、それぞれの会議で何が議論されたのかを説明することができる。（技能） ・p. 189の地図③「北伐と山東出兵」をみて、中国国内の動向と日本との関係を説明することができる。（知識） ・p. 189の写真⑥の人々がなぜ預金を引き出そうとしたのか、理由を説明することができる。（技能）	・p. 188の「ひと 石橋湛山」をみて、石橋の小日本主義がどのように画期的であったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「経済のたてなおしのためどのような選択肢が考えられたのか、調べてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 189の世界恐慌と昭和恐慌の影響を都市部と農村に分けて調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 189の写真④と⑤をみて、選挙権をもった人の割合、女性と政治の関係を現在の18歳選挙権との関係もあわせて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 3．満洲事変とモダニズム	○満洲事変はどのようにして人々の支持を集めたのだろうか。 ・満洲事変の内容とその後の状況について考える。 ・二・二六事件の内容とその影響について考える。	・満洲事変の原因、日本の対応、国際連盟脱退の一連の動きに着目させる。 ・戦争と文化・社会の関連に着目させる。 ・五・一五事件や二・二六事件など軍部が暴走する時代に着目させる。	・p. 190の写真①とマンガ②の関係を説明することができる。（技能） ・p. 190の地図③「満洲事変関係要図」をみて、満洲事変の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 191の写真⑥の人々がおこなっている千人針がどういうものか、そして誰がお願いしているのかを説明することができる。（技能）	・p. 190のTopic「国防婦人会」をみて、女性と戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「戦争はどのような社会状況のもとでおこなわれていたのだろうか。まとめてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 191の「ひと ヒトラーとムッソリーニ」をみて、日本との共通点と相違点を調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 190の満洲事変の記述をみて、軍隊は政府と同一でないことを確認するとともに、現在の文民統制（シビリアン・コントロール）がなぜ重要なのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 4．日中戦争と総力戦	○日中戦争はなぜ長期化していったのだろうか。 ・盧溝橋事件とその後の日本の中国進出について考える。 ・日本の新体制について考える。	・盧溝橋事件と日中戦争、第二次国共合作など一連の動きに着目させる。 ・日中戦争が長期化した理由に着目させる。 ・日本は長期化した戦争を継続するためどのような政策をおこなったかに着目させる。	・p. 192の写真①と②から、戦争と民衆との関係について説明することができる。（技能） ・p. 192の地図③「日中戦争関係図」をみて、日中戦争の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 193の写真⑥について、「読み解きのツボ」にある人文字の数字が何を表しているのか説明することができる。（技能）	・p. 193のグラフ④「村の応召者」をみて、赤紙応召者、現役入隊、志願の割合の変化とその理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「兵士たちはどのような思いで戦場に向かったのだろうか。話しあってみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 193の「ひと 火野葦平と宮柊二」をみて、文学と戦争との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 192のLink「南京事件」をみて、いろいろと見解の分かれる歴史的な問題に冷静に学問的にどのように対応すべきか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 5．アジア太平洋戦争	○この戦争をアジア太平洋戦争とよぶのはなぜだろうか。 ・第二次世界大戦直後の日本の動向について考える。 ・アジア太平洋戦争の実態を考える。	・第二次世界大戦がはじまったころの日本の南進やソ連との関係に着目させる。 ・アジア太平洋戦争の前半の動向に着目させる。 ・大東亜共栄圏の内容に着目させる。	・p. 194～195の本文記述をみて、アジア太平洋戦争の流れを説明することができる。（技能） ・p. 194の史料③「南方占領地行政実施要領」をみて、史料に書かれていることを説明することができる。（知識） ・p. 195の地図④「アジア太平洋戦争の展開」に表されている内容を時間の経過とともに説明することができる。（技能）	・p. 194の写真①「大東亜共栄圏すごろく」をみて、どの地域が描かれているか、「上り」と「ゴール」の位置、このすごろくが作られた目的について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「「大東亜共栄圏」のもと、人々はどのような暮らしをしていたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 194の写真②，Topic「中国戦線の日本軍」をみて、日本の中国における植民地政策の内容や問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 194～195のアジア太平洋戦争には太平洋戦争という呼び方もあり、戦時中は大東亜戦争とも呼ばれていた。戦争の呼称について何が適切であるのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 6．敗戦	○総力戦は、民間人をどのような危険にさらしたのだろうか。 ・国民生活や戦線が破綻していく様子について考える。 ・日本の敗戦を考える。	・国民生活の破綻に着目させる。 ・戦線の崩壊の様子に着目させる。 ・日本の降伏への流れに着目させる。	・p. 196の写真③や本文記述をみて、戦争によって戦闘員以外の民間人がどのような生活していたのかを説明することができる。（技能） ・p. 196のポスター②，p. 197のポスター④，⑤，写真⑥をみて、10代半ばの少年が戦時中にどのような生活をしていたのか説明することができる。（知識） ・p. 197のTopic「8.15で終わらなかった戦争」をみて、日本が降伏した後でもどのような戦闘や悲劇が繰り返されたのかを説明することができる。（技能）	・p. 196の地図①「全国主要都市での空襲・艦砲射撃」をみて、どの地域に空襲が多かったのか、空襲や艦砲射撃が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「戦局が悪化しはじめてから日本が降伏するまで、長い時間がかかったのはなぜだろう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 197の本文で、「集団自決」と「強制集団死」の2つの言葉の違いは何か、どちらの言葉（もしくはさらに別の言葉）を使うのが良いのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 196～197の本文や資料をみて、戦争によって人々の生活はどうなるのか、原子爆弾の被害をどのように継承するのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 広島	○被爆以前の広島はどのような地域だったのか、原爆と平和だけでない広島の歴史を考える。	・水の豊かな城下町から軍事都市への変貌に着目させる。 ・移民を送り出した背景や原爆投下の実態に着目させる。	・p. 198の地図①，写真②・③を参考に、広島 of 歴史を説明することができる。（知識） ・p. 199のグラフ④をみて、移民を多く送り出した都道府県の特徴を説明することができる。（技能）	・「あなたの街や地域の性格は、どのようなことをきっかけに決まったり、かわったりしてきたのだろうか」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・原爆が投下されたもうひとつの街、長崎と広島との共通点と相違点を考え、戦争で街がねらわれるというのはどういうことかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート	・ 準拠ノート	・ 討論や発表	
				・ 定期テスト問題	・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題）	・ ワークシート	
			・ 一問一答問題				
	第 1 0 章	■第 1 0 章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 ・ これまでの学習をふまえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりをふまえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習をおこなう。持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が地域社会や身の回りの事象と関連させた主題を設定して探究する。		・ 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の状況、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、いままでの学習でみいだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察することができる。		
	6 7．世界のなかの日本占領	○戦後の国際関係は、占領にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 戦後世界の状況について考える。 ・ 日本の民主化や戦争責任の追及について考える。	・ 国際連合や冷戦など戦後世界の形成過程に着目させる。 ・ GHQの間接統治の内容に着目させる。 ・ 戦争責任の追及と女性の参政権に着目させる。	・ p. 200の地図①をみて、旧大日本帝国領のどこを連合国側が占領したのかを説明することができる。（技能） ・ p. 200の図③をみて、GHQの間接統治のしくみを説明することができる。（知識） ・ p. 200～201の本文をみて、GHQのすすめた改革について説明することができる。（技能）	・ p. 200の図③「連合国軍の日本占領管理・統治機構図」をみて、日本の「本土」と沖縄との違い、さらに「本土」と朝鮮半島の違いについてその理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「占領政策によって、敗戦までの日本の何が否定され、どこまでかわれたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 201のLink「戦争を裁く」をみて、パリ不戦条約との関係、ニュルンベルク裁判と東京裁判の比較をして、戦争犯罪を裁く意味をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 201の女性参政権の本文記述を参考に、女性の権利が戦前と戦後でどのように変化し、さらに現代との比較をすることによって女性の権利を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 8．占領改革と日本国憲法	○改革のなかで、人々は新たな権利をどのように獲得したのか。 ・ 経済の改革と日本国憲法の制定について考える。 ・ 社会の改革や民主化について考える。	・ 経済の改革や労働三法の制定に着目させる。 ・ 日本国憲法の制定と教育改革に着目させる。 ・ 地方の政治や男女の同権に着目させる。	・ p. 202の写真①をみて、当時の文部省が日本国憲法をどのように考えていたのか説明することができる。（技能） ・ p. 202の史料②「日本国憲法（抜粋）」をみて、書かれている内容や制定の経緯について説明することができる。（知識） ・ p. 203の表④「占領期のおもな政治、戦後改革の動き」をみて、日本の戦後改革の流れを説明することができる。（技能）	・ p. 202のグラフ③「農地改革前後の地主・自作・小作農の変化」をみて、農地改革の成果について、その理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は民主化をどう受け止めたのだろうか。日本国憲法制定の過程を通して考えてみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 203の絵⑤「ブロンディ」や絵⑥「シンチュウグンノヘイタイサン」が描いている内容や描かれた意図をp. 190ののらくろとの比較を通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 203のTopic「男女同権への取り組み」や本文記述をみて、女性の地位の変化や啓蒙する動きについて、その意義と現代につながる問題点を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6 9．朝鮮戦争	○朝鮮戦争は、どのような戦争だったのだろうか。 ・ 第二次世界大戦後の朝鮮半島情勢について考える。 ・ 朝鮮戦争とその後の世界の動きについて考える。	・ 朝鮮半島や中国の分断状況に着目させる。 ・ 朝鮮戦争と日本の関係に着目させる。 ・ G H Q の占領政策の転換に着目させる。	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、朝鮮戦争の戦場や前線基地について説明することができる。（技能） ・ p. 204の注「ドッジ=ライン」をみて、描かれている内容や日本経済への影響について説明することができる。（知識） ・ p. 204～205の本文記述をみて、朝鮮と日本との関係を時間順に説明することができる。（技能）	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、アメリカ軍の空軍基地の位置と朝鮮戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「朝鮮戦争は、戦後の日本にどのような影響を及ぼしたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 205のグラフ⑤「特需物資品目」と「輸出額に対する特需収入」をみて、年ごとに品目がかわっていく理由、輸出額と特需収入との比率の変化についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 204～205の本文記述をみて、いまだに続く朝鮮半島分断や中国の分断をいかに解決するかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のたたかう・つながる	○近現代史では戦争についてたくさん学んできた戦争はなぜ起こるのかという「問い」を考えていく。	・ 戦争の姿と民衆の感情に着目させる。 ・ 戦争をいかに語り継ぐのかに着目させる。	・ p. 206のポスター②をみて、ポスターに描かれている人物が誰であるか、ポスターが表現しようとしていることを説明することができる。（知識） ・ p. 207の写真③、④をみて、戦争体験の継承の動きや内容を説明することができる。（技能）	・ p. 206の「考えてみよう」の「戦争の原因、そして、人々が戦争を支持した理由について、これまでどのような説明がなされてきたか、調べてみよう」という課題に対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 207の「考えてみよう」の「教科書を読んでいると、「つながる」かたちにも多様な姿があることがわかる。たとえば戦争で孤児になった子どもは、たった一人にいるときにはどのような「つながり」を感じていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「地域には多くの戦争体験記集がある。内容に加え、つくった人々のつながりにも注目して読んでみよう」という課題に対し、多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 0．日米安保体制と 5 5 年体制	○独立後の日本はどのような政治体制で運営されたのだろうか。 ・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約について考える。 ・ 独立後の日本の情勢について考える。	・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約の内容とアメリカとの関係に着目させる。 ・ 日本の 5 5 年体制と国際社会への復帰に着目させる。 ・ 原水爆禁止運動と安保闘争に着目させる。	・ p. 204の地図④「在日アメリカ軍基地」をみて，日本にある米軍基地や施設の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 208の写真⑤，p. 209の写真⑥，ポスター⑧や⑨をみて，基地反対や原水爆反対の動きについて説明することができる。（技能）	・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容や問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は，独立後の日本や国際関係にどのような問題を感じて，運動にたちあがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 209の絵⑦鉄腕アトム，ポスター⑧ゴジラ，ポスター⑨などをみて，原子力に対する意識や違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 208～209の本文記述をみて， 5 5 年体制の今日への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 1．高度経済成長	○急激な経済成長は，日本社会をどのようにかえたのだろうか。 ・ 日本の高度経済成長について考える。 ・ 高度経済成長の問題点について考える。	・ 高度経済成長で中心となった地域や産業に着目させる。 ・ 日本の社会構造の転換に着目させる。 ・ 高度経済成長の矛盾と対策に着目させる。	・ p. 210の地図①「コンビナートと四大公害病」をみて，日本の公害がおきた地域と主要な工業地帯との関連について説明することができる。（技能） ・ p. 210のグラフ④「産業別就業人口の推移」をみて，日本の社会構造の変化を説明することができる。（知識） ・ p. 211の「ひと 石牟礼道子」をみて，水俣病の告発の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 210の写真③の「建設中の高速道路」，p. 211の写真⑦と⑧をみて，高度経済成長と人の移動との関係について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「経済成長の負の側面を克服するため，どのような対策がたてられてきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 211の写真⑥や本文記述をみて，公害と環境保全との関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 211の写真⑤をみて，高度経済成長で核家族化がすすんだが，このことが現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 2．ベトナム戦争とアジア	○アジアの熱戦は冷戦下の日本と世界をどうかえたのだろうか。 ・ 1960年代の日本とアジアの関係について考える。 ・ 1970年代の日本とアジアの関係について考える。	・ 韓国をはじめアジアとの関係修復の歴史に着目させる。 ・ ベトナム戦争と日本との関係に着目させる。 ・ 沖縄返還と日中国交正常化の歴史に着目させる。	・ p. 212のTopic「日韓条約の焦点」をみて，日本と朝鮮半島の関係について説明することができる。（技能） ・ p. 213の地図③「沖縄のアメリカ軍基地」をみて，宜野湾市と嘉手納町に占める基地の割合を説明することができる。（知識） ・ p. 213の年表「1970～90年代の日中関係」をみて，日本と中国の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 212の写真①と②をみて，日韓条約に反対する理由，ベトナム戦争に反対する理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日本と周辺諸国との関係回復に，戦争はどのように影響したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 213のグラフ⑤「沖縄と日本本土のアメリカ軍基地面積の割合の推移」をみて，沖縄の基地問題についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 213の写真④をみて，沖縄の本土復帰について問題点は何か，本土復帰が現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 3．経済大国	○「大国」としての日本に求められた役割は何だったのだろうか。 ・ 高度経済成長の終わりについて考える。 ・ 経済大国となった日本について考える。	・ 高度経済成長が終わった理由や影響に着目させる。 ・ 日本が経済大国になった理由に着目させる。 ・ 日本の新自由主義に着目させる。	・ p. 214のグラフ②「賃金と物価の推移」をみて、物価と賃金の上がり方の違いと生活への影響について説明することができる。（技能） ・ p. 214の写真④「日本車をこわすアメリカの労働者」をみて、このようなことがおきた背景を説明することができる。（知識） ・ p. 215のグラフ「長時間労働の推移」をみて、日本の男性労働者の労働時間の特徴について説明することができる。（技能）	・ p. 214の本文記述，p. 215の写真⑦や⑧をみて，地価の高騰や土地の買い占めなど土地が経済に与える影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「石油危機後の日本の不況脱出策には，どのような長所と短所がみられるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 215のTopic「女性のはたらき方の変化」をみて，女性の雇用の問題，グラフ⑨の男性の長時間労働の問題と比較してグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 215の本文記述をみて，日本の新自由主義や民営化にはどのような問題があり，現在にどのような影響を与えているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 牛	○牛はいつから「食べ物」になったのだろうか。	・ 「耕す」「運ぶ」存在から「食べる」存在になった過程を考える。 ・ 「和牛」とは何か考える。	・ p. 216の絵①「牛鍋を食べる人」に描かれた様子，男女の描かれ方の違いを説明することができる。（技能） ・ 「和牛」が誕生した経緯について説明することができる。（技能）	・ p. 216の史料①，②，③をみて，書いてある内容を説明するとともに，牛に対する意識の変化について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 217の写真⑤をみて，人間も牛も国境をこえた感染症をどうするのかという問題について多面的・多角的に考察することができる。	・ 「近現代を通じた牛の役割の変化は，私たちの生活や食卓のどのような変化を映しだしているのだろうか」という問いに答え，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 4．世界の転換と日本社会	○冷戦崩壊後の変化に日本はどのように対処したのだろうか。 ・ 冷戦体制の崩壊と日本について考える。 ・ 日本政治の転換点について考える。	・ 冷戦体制の崩壊の内容に着目させる。 ・ 湾岸戦争と日本の関与について着目させる。 ・ 5 5 年体制の転換と日本政治の変化について着目させる。	・ p. 218のグラフ③「在日アメリカ軍駐留経費に対する日本側負担額の推移」をみて，日本側負担の推移について説明することができる。（技能） ・ p. 218の本文記述をみて，冷戦体制の崩壊の様子やアジアの民主化の動きの流れを説明することができる。（知識） ・ p. 219の本文記述やp. 230～231の「歴代内閣の歩み」をみて，55年体制発足時から転換期までの流れを説明することができる。（技能）	・ p. 218～219の本文記述，写真④を参考に，自衛隊の海外派遣など国際紛争への協力のあり方について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「1990年代の政治改革や平成不況への対処の仕方は，現在にどのようにつながっているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 219のTopic「歴史認識問題」をみて，日本が東アジア諸国と歴史認識を共有する試みについて，その必要性和難しさについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 219の写真⑤や⑥をみて，戦後処理をどのようにすべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 5．グローバル化する世界と日本	○世界はどのような方向に向かって変化しているのだろうか。 ・ グローバル経済と構造改革の問題について考える。 ・ 9. 11とそれ以降の日本と世界について考える。	・ グローバル経済と構造改革の内容に着目させる。 ・ 9. 11事件とその後のイラク戦争への日本の関与について着目させる。 ・ 格差の拡大と政権交代について着目させる。	・ p. 220の写真①やグラフ③「在日外国人数の地域別推移」をみて、日本にいる外国人の国籍や居住地域の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 220のグラフ④「平成の大合併」をみて、合併の歴史と問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 221のグラフ⑧「年齢別失業率の推移」をみて、グラフが示す特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 220のグラフ②「日本の自動車メーカーの地域別海外生産台数」をみて、地域で生産台数の変化がちがうのはなぜだろうかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「グローバル化は、私たちの生活をどのようにかえつつあるのか、またそれに対する身近な対処の例を探してみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 221のグラフ⑨「正規・非正規労働者の人数の推移」をみて、グラフの特徴を理解するとともに、問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 221の写真⑤・⑥・⑦をみて、沖縄と米軍との関係を考え、日本の安全保障をどうするべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 6．「わたし」たちの社会と世界	○友だちや恋人、地域、家族など人々の関係はどのようにかわっているのだろうか。 ・ 災害とどのように向き合っていくのか考える。 ・ 現在の日本社会や世界の問題点について考える。	・ 震災と私たちとの関係に着目させる。 ・ 社会のあり方に着目させる。 ・ 私たちと未来について着目させる。	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災の内容や影響について説明することができる。（技能） ・ p. 222の本文記述をみて、現在の日本社会がかえる問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 223の写真⑧「インターネットカフェ」や本文記述をみて、SNSの時代の特徴と問題点を説明することができる。（技能）	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災によっておきたさまざまな問題点をいかに解決すべきかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「歴史を学んだわたしたちは、どのような社会、人間関係のありかたを構想できるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 223の写真⑥「ソーシャル・ディスタンス」をみて、新型コロナウイルスが日本に与えた影響や、いかに解決していくのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 222～223をみて、日本社会がかかえる問題点をあげ、これらをいかに解決し未来につなげるかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生 時代と社会を考える「近現代」	○近現代の人々の人生を考える。	・ 近現代の庶民の生活について着目させる。	・ 近現代の日本の人々の生活について説明することができる。（知識） ・ 近現代の労働者の生活について説明することができる。（知識）	・ 近現代の人々の学校生活、軍隊経験、結婚、労働、定年という営みについて多面的・多角的に考察することができる。	・ 近代の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	現代の日本の課題の探究	○地域のいまと歴史から様々な課題をさぐる	・ 東日本大震災から学ぶエネルギー問題に着目させる。	・ p. 226の写真①をみて、原子力の活用の問題点について説明することができる。（技能） ・ p. 226の写真②をみて、さまざまな代替エネルギーについて説明することができる。（知識）	・ p. 226の記述を参考に、エネルギー問題をどのように解決すべきか、公害との関係も視野に入れて多面的・多角的に考察することができる。	・ わたしたちの課題をみずから選び、探究活動を通じて未来につなげていくという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	2
	わたしたちの課題を探してみよう①	○自然環境から文化を考えるー伝統や文化の継承と創造	・ 環境と人間との関係に着目させる。	・ p. 227のグラフ⑤をみて、地球温暖化の問題点を説明することができる。（知識） ・ p227のコラム「感染症」をみて、感染症と人類の関係の歴史を説明することができる。（知識）	・ p. 227の記述を参考に、地球環境の変化に対し、人類はどのように対処すべきかを多面的・多角的に考察することができる。		
	現代の日本の課題の探究	○世界からの視点で歴史を考えるー世界のなかの日本	・ 子どもの権利と世界紛争に着目させる。	・ p. 228の写真②「さまざまな歴史教材」をみて、歴史認識の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 228の地図③「第二次世界大戦後の地域紛争」をみて、地域紛争の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 229の表④「男女格差の少ない国の順位」をみて、上位の国の特徴や日本がなぜ順位が低いのか説明することができる。（技能） ・ p. 229の写真⑤「ハンセン病訴訟の判決」をみて、日本における「格差」について説明することができる。（技能）	・ p. 228の記述を参考に、日本が世界のなかでいかに行動すべきかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 229の記述を参考に、いろいろな背景をもった個人が尊重される社会をどのようにつくるのかを多面的・多角的に考察することができる。		
	わたしたちの課題を探してみよう②	○認め合う社会へー社会や集団と個人	・ 共生社会のあり方に着目させる。				

令和6年度 公民探究 年間指導計画

教科	公民
科目	公民探究
単位数	3
対象学年	3年理数科

科目	公民探究	単位	3	学年	3	普通科
使用教科書	「高等学校 改訂版 現代社会」(第一学習社)			副教材等	「最新現代社会資料集」(第一学習社)	

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。時事問題に関する小論対策や演習を通して実践力を身につける。
---------	--

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	知	思	態	評価方法
1学期	4	1 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制	- 民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 - 法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解する。 - 基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の国際的な広がりについて考察する。 - 民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 小論文課題 - 提出課題
	5	④日本国憲法の基本原則 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権	- 日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原理について理解する。 - 大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察し、それぞれの憲法の本質について理解する。 - 天皇の地位と役割について、国民主権と関連させて理解する。 - 日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 - 個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について把握しながら、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について理解する。 - 自由権や社会権、参政権などの基本的人権や新しい人権について理解を深め、その本質を把握する。 - 人権に関する判例を活用しながら、権利と義務との関係や、「公共の福祉」の概念について理解する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
	6	⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利	- 国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高めるとともに、それぞれの役割について理解する。 - 日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。 - 二院制の意義や法律の制定過程、衆議院の優越など、国会に関する基本的事項について把握しながら、国会の課題についても関心を高める。 - 現代の福祉国家の下では、国家機能が複雑化・大規模化して、行政府の役割が増大したことを理解する。 - 裁判員制度について理解し、報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに、刑罰の意義や犯罪被害者の救済、犯罪者の更生について関心を高める。 - 地方自治の本旨を把握しながら、地方分権と住民の権利について理解し、国と地方の関係を考察する。 - 地方財政の現状と地方自治の課題について関心を深め、報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題

期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	7	⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割	- 日本の選挙制度について把握しながら、政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。 - 政党政治や選挙、国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解しながら、政治への関心を高める。 - 選挙結果や投票率の分析・動向などを、さまざまな情報手段を活用して調査し、主権者としての参政のあり方について考察する。 - マス・メディアの役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて理解する。 - 特定の政治的志向をもたない人々の増大や、政治的無関心の広がりについて考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 定期考査
		2 現代の国際政治と日本 ①国際社会と国際法 ②国際連合の組織と役割 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤国際平和と日本の役割	- 国際社会の成立過程を把握しながら、実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。 - 国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 - グローバル化の進展により、国際社会ではNPOや多国籍企業など国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。 - 国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 - 冷戦終結後の国際社会の動向について把握するとともに、冷戦終結後の世界が冷戦時代と比べてどのように変化したのか理解する。 - 民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに、国際社会における文化や宗教の多様性について理解する。 - 国際平和に関する問題について、メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
2	10	3 現代の経済 第1章現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動 ③市場経済の機能と限界 ④経済成長と景気変動	- 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解する。 - 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。 - 株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について関心を高める。 - 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 - 独占、寡占状態の市場での消費者に対する影響と、その弊害を排除するための措置について理解する。 - 国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
		⑤財政のしくみとはたらき ⑥金融のしくみとはたらき ⑦物価の動き ⑧日本経済の歩み	- 財政の基本的なしくみや役割、租税の意義について理解しながら、その使途について関心を高める。 - 日本の財政の現状について、報道資料などから調査し、公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。 - 金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 - 物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 - 人々の生活が豊かになる一方で、公害などの社会問題が発生したことを認識する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題 - 小論文課題
		⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題	- 大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 - 日本の農業が直面している課題について理解する。 - 消費者問題の現状や消費者運動、さまざまな法制度について、諸資料を利用して調査する。 - クレジットやローンなどが日常生活で果たしている役割と、多重債務問題について理解する。 - 情報化が政治・経済・国民生活に及ぼす影響や、高度情報社会の課題について理解する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 提出課題

期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
3	1	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題	- 労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義を理解する。 - メディアを利用して、若年層・女性・中高年・障害者・外国人労働者など最近の労働問題をさまざまな視点で調査する。 - 日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 - すべての人が社会に参画するための方法を、諸資料を利用して調査する。 - 化石燃料・原子力発電・新エネルギーのそれぞれの違いとメリット・デメリットを理解する。 - 深刻化している地球的規模の環境問題に関心をもち、どのように乗り越えるべきか考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小テスト - 小論文課題 - 定期考査
	2	4 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③国際経済の諸問題と日本の役割	- 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 - 国際収支の基本的な構成を把握しながら、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 - 為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 - グローバリゼーションにともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。 - 地域的経済統合やF T A・E P Aについて関心をもち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 - 先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 小論文課題 - 演習

●『公民研究』年間指導計画

教科	公民
科目	公民研究
単位数	3
対象学年	3年理数科

科目	公民研究	単位	3	学年	3	理数科
使用教科書	「高等学校 改訂版 現代社会」(第一学習社)				副教材等	「最新現代社会資料集」(第一学習社)

■評価の観点

公 民	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
	思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用の技能	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

■学習の到達目標

- ①民主主義の本質について理論的・体系的に理解を深める。
- ②現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、現実の情勢を主体的に探究する態度を身につける。
- ③日本国憲法の基本原理、日本の政治機構などについて理解し、現代の政治の諸課題について考察を深める。
- ④「法の支配」の意義について理解を深めるとともに、現実の社会における法の機能について学び、国民の司法参加の意義や課題について考察する。
- ⑤現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに、国民経済の動向および、政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察する。
- ⑥国際社会の現状と諸課題について理解し、国際社会に生きる日本の役割について考察する。
- ⑦以上の理解や考察を踏まえて、現代社会の諸課題について主体的に考察するとともに公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。

月	時間	大単元 (学習項目)	小単元 (学習内容)	指導・評価の観点
第1編 現代の政治				
4	5	第1章 民主政治の基本 原理と日本 国憲法	第1節 民主政治の基本 原理 1 政治と法 2 民主政治のあ ゆみ 3 民主政治の基 本原理とその 展開 4 政治体制の比 較	- 日常生活の中で、政治や法との関わりを実感することができる《関心》 - 市民革命以降の民主政治の歴史的なあゆみを理解できる《知識》 - 民主政治の基本原理を、身近な集団生活の中で活用できる《技能》 - 現代の社会における民主政治の価値やその必要性を評価できる《思考》 - 日本と各国の政治体制を比較して、その違いを理解できる《知識》
5	7		第2節 日本国憲法と基 本的人権 1 日本国憲法の 基本的性格 2 基本的人権の 保障 3 日本国憲法の 平和主義	- 日本国憲法と明治憲法を比較して、それぞれの特徴を理解できる《知識》 - 日本国憲法が、明治憲法よりいかに民主的であるかを考えることができる《思考》 - 主権者として、どのように政治に関われるかを意識することができる《関心》 - 日本国憲法にある権利を、身近な事例で示すことができる《技能》 - 日常生活における事例を、憲法の条文と関連づけて考えることができる《関心》 - 自衛隊や日米安保のあゆみと現状とを関連づけて理解できる《知識》 - 日本国憲法の平和主義を、現在の日本をとりまく国際情勢の中で評価できる《思考》
6	7		第3節 日本の政治機 構 1 国会のしくみ と役割 2 内閣と行政機 構 3 裁判所のしく みと人権保障 4 地方自治のし くみと住民生 活	- 国会・内閣・裁判所のしくみとその役割・関係を理解できる《知識》 - 国会での審議や内閣の閣議など、時事問題に関心を持つことができる《関心》 - 司法権の独立と違憲審査権など司法の特徴を理解できる《知識》 - 裁判員制度の導入によって、司法がどう変わったか考えることができる《思考》 - 地方自治のしくみを理解し《知識》、実際の地方自治を点検する《関心》ことができる - 近年の地方分権政策によって、地方がどう変わったか考えることができる《思考》
7	3		第4節 政治参加と民 主政治の課題 1 戦後政治と政 党 2 選挙制度のし くみ 3 世論と情報化 社会	- 現実の選挙に対して、その争点や結果についてコメントできる《関心》 - 小選挙区、大選挙区、比例代表などの選挙の方法を比較できる《技能》 - 戦後の日本の政党政治のあゆみと「55年体制」を理解できる《知識》 - 望ましい選挙制度について、自分なりの考えを提示できる《思考》 - マスコミの報道等が、世論の形成に与える影響を分析できる《技能》 - マスコミのあり方とそれに対する個人のあり方について考えることができる《思考》
9	5	第2章 現代の国際政 治	第1節 国際政治の動 向 1 国際社会の特 質 2 国際社会と国 際法 3 国際社会の組 織化 4 戦後国際政治 の展開	- 主権国家と国際社会を比較して、国際社会の特質を理解できる《知識》 - 国際社会における国際法の意義を考え、具体的な例をあげることができる《思考》 - 国際連合設立の必然性を理解し《知識》、その課題を考える《思考》ことができる - 第二次世界大戦後の国際政治のあゆみを、概観して理解できる《知識》
9・10	3		第2節 国際社会の課 題と日本の役 割 1 核兵器の廃絶 と軍縮問題 2 地域紛争と人 種・民族問題 3 日本の国際的 地位と役割	- 第二次世界大戦後の米ソの軍拡競争と軍縮のあゆみを理解できる《知識》 - 民族・地域紛争の背景を知り、その展開と結果を確認できる《知識》 - 国際社会における日本の地位や立場の変化を把握できる《技能》 - 国際社会が、日本に対して期待している役割について考えることができる《思考》

月	時間	大単元 (学習項目)	小単元 (学習内容)	指導・評価の観点
第2編 現代の経済				
10	3	第1章 現代経済のしくみと特質	第1節 経済活動の意義と経済体制 1 人間と経済活動 2 資本主義経済の発展と変容 3 経済活動の主体	- 資本主義経済と社会主義経済のしくみと特徴を比較・理解できる《知識》 - 資本主義経済の歴史的発展過程を把握して、現状を認識できる《知識》 - 経済活動の主体が、現実にとどのような活動をしているか考えることができる《思考》
10・11	9		第2節 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ 2 物価の動向 3 国民所得と経済成長 4 財政のしくみと租税 5 金融のしくみと働き	- 市場機構を理解して、市場経済に関する基本的知識を理解できる《知識》 - 習得した経済用語で現実の経済問題を説明できる《関心》《技能》 - アルバイトなどの経験を通し《技能》、企業や経済に関心を持つ《関心》ことができる - 物価の動向に対して敏感で、その変動の背景を推察して考えることができる《関心》 - 国民所得や経済成長を理解し《知識》、豊かさとは何かを考える《思考》ことができる - 景気循環の要因を理解し《知識》、有効な経済政策を考える《思考》ことができる - 財政・租税と金融のしくみとその役割について理解できる《知識》 - 日常の経済生活における、財政や金融の具体的な働きを考えることができる《関心》
11・12・1	10		第3節 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ 2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障	- 高度経済成長からの産業構造の変化を資料等で確認し《技能》、その問題点について討論する《思考》《関心》ことができる - 中小企業は、どのような企業活動を行っているか考えることができる《思考》 - 公害問題について、過去の歴史を振り返り、その取り組みを確認することができる《知識》 - 消費者問題の具体例をあげ《技能》、消費者のあり方について考える《思考》ことができる - 日本の労使関係を理解し《知識》、労働問題について考える《思考》ことができる - 日常生活に見られる高齢化や少子化の具体的な影響について考えることができる《思考》
1・2	3	第2章 国民経済と国際経済	第1節 国際経済の動向 1 貿易と国際収支 2 国際経済のしくみ	- ボーダレス化やグローバル化を、話題にすることができる《関心》 - 貿易のしくみと国際収支の各項目の内容を理解できる《知識》 - 第二次世界大戦後の国際経済のあゆみとその特徴を理解できる《知識》
2	4		第2節 国際経済の課題と国際協力 1 地球環境と資源・エネルギー問題 2 発展途上国の経済と経済協力 3 国際経済における日本	- 地球環境問題に対して、個人ができることを考えて実践できる《関心》 - 国際経済の実態を把握し《技能》、南北問題に有効な方策を考える《思考》ことができる - 日本経済の位置を統計資料で把握し《技能》、国際貢献について考える《思考》ことができる - 日本のこれまでの貿易摩擦の実態を時期別に比較して発表できる《技能》《思考》

月	時間	大単元 (学習項目)	小単元 (学習内容)	指導・評価の観点
第3編 現代社会の諸課題				
3	2	(第1節および第2節のそれぞれにおいていくつかの項目を選択して学習)	第1節 現代日本の諸課題 1 少子高齢社会と社会保障 2 地域社会の変貌と住民生活 3 雇用と労働をめぐる問題 4 産業構造の変化と中小企業 5 農業と食料問題 6 大規模自然災害とエネルギー問題	- 現代日本が抱える諸課題に対して、積極的に関心を持ち、解決することへの意欲があり、その方法を考える態度が備わっている《関心》 - 少子高齢化の現状を把握し《技能》、社会保障の維持について考える《思考》ことができる - 身近な事例を取り上げて《関心》、住民生活の変化について考える《思考》ことができる - 具体例から現状を把握し《技能》、雇用環境の改善について考える《思考》ことができる - 産業構造の変化を理解し《知識》、中小企業の存続について考える《思考》ことができる - 現状を統計などで把握し《技能》、これからの農業について考える《思考》ことができる - 東日本大震災を思い起こし《関心》、今後日本がどのようにエネルギーを確保していくのか、具体的に考える《思考》ことができる
3	2		第2節 国際社会の諸課題 1 地球環境と資源・エネルギー問題 2 国際経済格差の是正と国際協力 3 人種・民族問題と地域紛争 4 国際社会における日本の立場と役割	- 地球規模の諸課題に対して、積極的に関心を持ち、解決することへの意欲があり、その方法を考える態度が備わっている《関心》 - 地球環境問題の現状を調べ、わかりやすく発表できる《技能》 - 地球規模の環境問題に対して、日本が果たすべき役割について考え、自分たちには何ができるのかを考えて実践できる《思考》《関心》 - 南北問題の実態を把握し《技能》、その解決方法を考える《思考》ことができる - ODAなど格差を是正する動きと、その成果を評価できる《思考》 - 民族問題や地域紛争の背景を知り《知識》、その関連について考える《思考》ことができる - 国際社会における現在の日本の立場を、多面的に考察できる《関心》 - 国際社会に対する興味を高め《関心》、日本の役割を考える《思考》ことができる

令和6年度 地理探究 年間指導計画

令和6年度	学校名	学年	科・コース名	クラス	単位数	
年間指導計画	沖縄県立北山高等学校	3	理数科(3組)	3組(理数科)	3	

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 使用教科書・副教材

教科書：「地理探究」(二宮書店)，「詳解現代地図 最新版」(二宮書店)

3 年間指導計画例

学期 3 学期制	月	授業 時数	編 配 当 時 数	編	節	項	学 習 内 容 と ね ら い	節 配 当 時 数	考 査 範 囲	
1 学期	4 月	9	64	第Ⅰ編 現代世界の 系統地理的 考察	第1章 自然環境			23	単 元 テ ス ト	
					①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレーートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	6		
	②気候と生態系	1 水の循環と利用 2 海洋の循環 3 大気の大循環と気候 4 気候の地域性 5 植生と土壌 新しい視点 自然環境と生態系			気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	5				
	③世界各地の自然と生活	1 世界の気候区分 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 4 温帯の自然と生活 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 新しい視点 高山地域の自然と生活			世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	5				
	④日本の自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災			日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	3				
	⑤地球環境問題	1 環境問題に関する大観 2 越境する汚染 3 地球温暖化の現状 4 地球温暖化への対策 新しい視点 環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス			地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4				
	5 月	10			第2章 資源と産業			17	1 学 期 期 末	
					①農林水産業	1 農業の諸条件 2 社会の発展と農業の変化 新しい視点 都市とその周辺で営まれる農業 3 グローバル化・技術革新と農業 4 林業 5 水産業 6 食料問題 日本を知る 日本の農林水産業とその課題	農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	6		
	6 月	12			②資源・エネルギー	1 社会の発展と資源の利用 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化 日本を知る 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4		
					③工業	1 社会の発展と世界の工業化 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 新しい視点 知識集約型産業の発展 日本を知る 日本の工業 変化と課題	工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	6		
					④第3次産業	1 サービス経済化と社会の変化	第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	1		
第3章 人・モノ・金のつながり							7			
7 月	9	①交通・通信			1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信 新しい視点 交通・通信の発達と買い物行動の変化 日本を知る 日本の暮らしを支える交通とその課題	交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して、「交通と通信の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	3			
		②貿易・観光			1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題 日本を知る 日本の観光とその課題	運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4			
9 月	11								2	

2 学期	10 月	11			第4章 人口、村落・都市		9	学 期 中 間			
					①人口	1 人口の推移と分布 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 4 人口増加地域、減少地域の人口問題 日本を知る 日本の人口問題	人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			5	
					②村落・都市	1 集落の成り立ちと機能 2 都市の成り立ちと機能 新しい視点 都市の拡大と都市システム 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 日本を知る 日本の都市・居住問題と解決への努力	村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4	
					第5章 文化と国家		8				
					①生活文化と言語・宗教	1 生活文化と地域 2 世界の衣服 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 6 世界の宗教	生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4	
						②国家とその領域	1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 新しい視点 北極圏と南極圏 5 国際連合の役割と課題	国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4	後 期 中 間	2 学 期 期 末
						第1章 地域区分	1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法	地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	2		
						第2章 現代世界の諸地域		35			
						①中国	1 経済の改革開放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題	世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	4		
						②朝鮮半島	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係	隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2		
	12 月	8			海洋① 環日本海		日本を含む環日本海諸国との関係について探究させる。		3 学 期 期 末	後 期 期 末	
					③東南アジア	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多様な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の発展的変化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。	3			
					④南アジア	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	3			
					⑤西アジア・中央アジア	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係	乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3			
					⑥北アフリカ・サブサハラ アフリカ	1 自然環境と農業 2 歴史と文化 3 産業と経済発展 4 地域紛争と国際関係	広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3			
3 学期	1 月	10		第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察	海洋② 環インド洋		環インド洋地域の変化や世界各地への影響、日本が貢献できることを探究させる。		3 学 期 期 末	後 期 期 末	
					⑦ヨーロッパ	1 統合するヨーロッパ 2 統合の背景としての文化の多様性 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5 ヨーロッパの変化と課題	地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。	5			
					⑧ロシア	1 自然環境と民族・文化 2 体制転換と産業の変化 3 ロシアと世界の結びつき	世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2			
					⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ	広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	4			
					⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族、拡大する都市 3 鉱工業の移り変わり 4 地域内外との政治的・経済的関係	南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	3			
	2 月	10				海洋③ 環大西洋		地域開発と経済発展について環大西洋地域の結びつきについて探究させる。		3 学 期 期 末	後 期 期 末
						⑪オーストラリア	1 自然と農牧業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。	2		
						⑫ニュージーランドと島嶼 国	1 オセアニアのなかのニュージーランド	日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	1		
						海洋④ 環太平洋		日本をはじめ環太平洋地域との結びつきについて探究させる。			
						①現代日本に求められる国土像	1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然市街に強い国土をめざすには 2 テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 2 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには 2 テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身に付けさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第Ⅰ編で学んだ基本的な知識や、第Ⅱ編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について	4		

令和6年度 日本史探究 年間指導計画

令和6年度 年間指導計画		学校名	学年	科・コース名	クラス	単位数			
		沖縄県立北山高等学校	3	理数科(3組)	3組(理数科)	3			
月	学習項目	○学習課題 ・学習活動		指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数	
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
					■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	■評価の方法 ・準拠ノート ・定期テスト問題(資料読解・論述問題) ・ワークシート	■評価の方法 ・討論や発表 ・ワークシート		
1 学 期 前 半	第1編 原始・古代の日本と東アジア								
	第1章	■第1章のねらい							
		・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 <							

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1. 列島に暮らしはじめた人々	○日本列島の歴史はいつ、どのようにはじまったのだろうか。 ・ 人類のはじまりと世界への広がりを考える。 ・ 日本列島に人々が暮らしはじめた旧石器時代とそのつぎの縄文時代について考える。	・ p. 10①の地図を参考に人類がどのようにひろがったのか、私たちの先祖がどこからきたのかに着目させる。 ・ 地図③をみて、日本列島に住む人々にとり石材が重要であったことに気づかせる。 ・ 縄文時代がどのような特徴をもっているかを、具体的なものを対象に多面的・多角的に考察させる。	・ p. 10図②をみて、人類の進化が一直線ではなかったことを理解している。（知識） ・ p. 11図④を使って、縄文時代の人々がどのような1年を過ごしていたのかを衣・食・住に分けて説明することができる。（技能） ・ p. 11写真⑤⑥を使って、縄文時代に使用されていたものの特徴や作られた背景を説明することができる。（技能）	・ p. 10の地図①を使ってホモ=サピエンスが地図が示すような広がりを見せた理由、図②を使って「頑丈型猿人」が途中で絶滅した理由を多面的・多角的に考察している。 ・ トライにある「定住的な暮らしができるようになった理由をまとめてみよう」という問い p. 11の図④や本文の記述を利用して多面的に考察している。 ・ 旧石器時代の研究がいつからはじまったのか、そして旧石器時代の開始時期をさぐる研究の難しさを、「Topic」の記述を参考にして多面的に考察している。	・ 縄文時代の開始と温暖化の関係を考え、あわせて今日における地球温暖化が人類に及ぼす影響にも視野を広げることによって社会生活に活かそうとしている。 ・ 人類の誕生から日本列島に人々が定住するまでの流れを主体的に追究して、人類と地球との共生をいかに図っていくかという今日的な学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	2. 農耕がうまれる	○弥生文化はどのようにしてうまれたのだろうか。 ・ 縄文文化の時代的な変化や地域的な違いについて考える。 ・ 縄文時代から弥生時代に移行した経過や理由を考える。	・ p. 12の地図①をみて植物の利用の地域差に着目させる。 ・ 縄文文化と弥生文化の共通点と相違点を多面的・多角的に考察させる。 ・ 「Link」の記述を読み、教科書に載せられていた記述が学説の変化とともに変わっていくことに気づかせる。	・ p. 12の本文と前のp. 11の本文記述を比較して、縄文時代を通じて共通しているところと変化したところの違いをまとめることができる。（技能） ・ p. 12～13の本文をみて、縄文文化と弥生文化の違いを指摘し、説明することができる。（技能） ・ p. 12の地図④やp. 13の写真⑤を参考に、農耕が日本列島の文化に与えた影響をまとめることができる。（技能）	・ p. 12の③を参考に、人間の頭部が丸いものと三角形のものが何を表しているのかを説明し、弥生時代の男女の役割分担について多面的・多角的に考察している。 ・ トライの「弥生時代の生活は、縄文時代とどこがちがうだろうか」という問いを教科書の本文を参考にしながら多面的に考察している。 ・ 寒冷化など地球環境の変化と日本列島で農耕文化が誕生したことの関係を考え、環境が人々に与える影響について多面的・多角的に考察している。	・ p. 12地図①やp. 13の本文記述にある北海道や東北北部の続縄文時代や奄美・沖縄の独自の狩猟・採集文化の記述を参考に、今でも残る日本における地域差について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ p. 12の地図④やp. 13写真⑦をみて、日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係や影響について多面的・多角的に考察し、今日における国際関係を考える政治の学習など社会生活に活かそうとしている。	1
	原始・古代のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は、はたらいたりあそんだりするだろうか。原始・古代の人々のはたらきかた、あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・ 生きるためにはたらくこと、古墳をつくることを題材にはたらくことに着目させる。 ・ 大人のあそびやものづくりを題材にあそぶことの意味に着目させる。	・ はたらくことの目的を写真やグラフをみて説明することができる。古墳をつくることをを通じてこれを支える集団についてまとめることができる。（知識） ・ 写真③④をみて、この当時のあそびについて説明することができる。（技能）	・ TRYの「縄文時代と古墳時代のはたらきかたは、どのような違いがあるだろうか」という問いに対して、さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・ 縄文時代や古墳時代のはたらきかたやあそびかたと現在のわたしたちを比較して、現代社会に生きるわたしたちのありかたを考えようとする学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3. クニがうまれる	○クニはどのようにしてできたのだろうか。 ・日本列島にクニができたことによる影響について考える。 ・日本列島と中国大陸・朝鮮半島との関係を考える。	・クニができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・日本列島が周りの地域の影響を受けながら変化していったことに着目させる。 ・中国の歴史書の記述と日本の考古学の成果と符合する点に気づかせる。	・クニができたことや戦争がはじまったこと、どのような武器があったかをまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について、日本列島と中国との交流、日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀、1世紀、2世紀、3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「たがいに争っていたクニが、なぜまとまったのだろうか」という問いをさまざまな資料を使って考え、グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・『漢書』地理志・『後漢書』東夷伝・『魏志』倭人伝の記述をみると、『魏志』のみ大陸から人が来ていることがわかる。なぜこの時期に大陸から人が来たのかを当時の国際情勢を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・「時代を通観する問いをたてよう」の「人類誕生から古代の国家や社会が形成されるまでの変化について、あなたはどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、当時の国際関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	歴史資料と原始・古代の展望	○文字による記録からみえる家族と男女について考えてみよう。	・史料①をみて、中国の歴史書が弥生時代の倭人の社会をどのように記しているか着目させる。 ・史料②をみて、家族の系譜がどのように書かれたのかに着目させる。 ・史料④⑤をみて、戸籍や計帳が家族や男女をどのようにとらえていたのか着目させる。	・史料①の『魏志』倭人伝の内容を3節の記述を参考にしながらまとめることができる。（技能） ・史料②の書かれている内容をまとめ、写真③の古墳が横穴式石室であることとの関連を説明することができる。（知識） ・史料④にp.19のQ. 2の図に書き込むことができる。（技能）	・史料①のQ. 1の女王の存在に関する問いと王の選任について多面的・多角的に考察することができる。 ・史料②のQにある史料が伝えようとしていることはなにかという問いに多面的に考察できる。 ・史料④⑤のなかで、男性と女性がどのように書き分けられているか多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の原始・古代の社会における男女の役割や家族のあり方について仮説をたて、今日の社会と比較することでこの問題を多面的・多角的に考察できる。	1
	4. ヤマト政権の形成	○古墳の大きさや分布から何がわかるだろうか。 ・古墳時代の特徴について考える。 ・古墳時代の時間的な変化や地域差を考える。	・古墳ができた理由やできたことによる影響を多面的に考察させる。 ・古墳が単なる墓ではなく、権力の象徴であることに着目させる。 ・古墳の変化と仏教との関係に気づかせる。	・p.20地図②を参考に古墳の発生と日本列島への広がり、写真①や表③をみて規模の変化をまとめることができる。（技能） ・クニの交流と対立について、日本列島と中国との交流、日本列島内で戦闘がおこなわれた事例を具体的に説明することができる。（技能） ・中国の歴史書に書かれた日本列島の様子を紀元前1世紀、1世紀、2世紀、3世紀のそれぞれの段階で説明することができる。（知識）	・TRYの「古墳や出土品から古墳時代の社会についてどんなことがわかるか、まとめてみよう」という問いをさまざまな資料を使って考え、グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・p.20写真1や地図②、表③をみて5世紀の巨大な前方後円墳が大阪湾沿いに造られた理由や竪穴式石室が横穴式に変化していった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p.20写真④やp.21写真⑤⑥⑦、本文記述をみて、大型古墳に女性が埋葬されている事例がたくさんあること、埴輪における男性と女性の分類について考え、今日のジェンダーの視点ともあわせ多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5．倭の五王と氏姓制度	○倭国は、朝鮮半島諸国や中国とどのようにかわったのだろうか。 ・倭国をはじめとする日本列島の勢力と中国や朝鮮半島との関係について考える。 ・ヤマト政権の支配構造について考える。	・朝鮮半島の情勢が倭国など日本列島にある勢力に与えた影響を多面的に考察させる。 ・倭の五王が中国に使者を派遣した理由が朝鮮半島と関係あることに着目させる。 ・ヤマト政権がどのようにして豪族を管理しようとしたのかに着目させる。	・p. 22地図①と史料③、写真⑤⑥を参考に倭国が朝鮮半島にどのように進出していたかをまとめ、その目的について説明することができる。（技能） ・写真⑦や「ひと」の筑紫国の君磐井にかんする文章をみて、ヤマト政権の土地法との関係を具体的に説明することができる。（技能） ・渡来人がもたらした技術や文化について、道具，文字，学問など分野ごとに説明することができる。（知識）	・TRYの「この時期の政治情勢を，中国，朝鮮半島諸国，倭国それぞれの立場から考えてみよう」という問いをさまざまな資料を使って考え，グループワークなどを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・『宋書』倭国伝で倭王武が求めた称号と宋の皇帝から与えられた称号には違いがある。その理由やそれぞれの地名や国名が書かれている意味について多面的・多角的に考察することができる。	・生徒が住んでいる地域とヤマト政権の関係を考え，たとえば北海道や沖縄ではどのような歴史があるのかをあわせて考え，ヤマト政権イコール日本ではないことを多面的・多角的に考察できる。	1
	歴史のなかの動物 犬と猫	○犬と猫は，どのようにして人間とともに生きるようになったのか考えてみよう。	・狩りの仲間である犬について考える。 ・穀物を守る猫について考える。	・縄文時代と弥生時代の人間生活における犬の役割を説明することができる。（技能） ・弥生時代と平安時代の人間生活における猫の役割を説明することができる。（技能）	・p. 24の写真をみて，縄文時代と弥生時代の犬と人間との共生について多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 25の写真をみて，弥生時代と平安時代の猫と人間との共生について多面的・多角的に考察することができる。	・「人と犬，猫との関係はどのようにかわってきただろうか」という問いに答え，学習上の課題を解決しようとしている。また，現在の関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	第2章	■第2章のねらい ・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代から平安時代までを扱い，原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し，総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・古代の国家や社会の展開について，主題を設定し，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力，判断力，表現力等の育成を図りつつ，古代の日本の国家・社会の展開について理解することをねらいとしている。	・国家の形成と古墳文化，律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に，原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。貴族政治の展開，平安期の文化，地方支配の変化や武士の出現などを基に，律令体制の再編と変容，古代の社会と文化の変容を理解している。	・中国大陸・朝鮮半島との関係，隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して，主題を設定し，小国の形成と連合，古代の国家の形成の過程について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。地方の諸勢力の成長と影響，東アジアとの関係の変化，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，古代の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりの理解や時代を通観する問い，古代を展望する仮説を踏まえ，資料を扱う技能を活用し，古代の国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，古代がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図る。学習に当たっては，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする力を段階的に高めていくことが必要であり，様々な資料の特性に着目して複数の資料の活用を図り，資料に対する批判的な見方を養うとともに，因果関係を考察したり，解釈の多様性に気付くようにする。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6．飛鳥の朝廷	○倭国が隋と外交をすすめたのはなぜだろう。 ・ 隋の建国による朝鮮半島と日本列島への影響について考える。 ・ 飛鳥文化とその背景について考える。	・ 隋の建国と朝鮮半島の動き、倭国の外交との関係に着目させる。 ・ 冠位十二階や憲法十七条など倭国の国政改革が隋との関係でおこなわれたことに気づかせる。 ・ 飛鳥文化と朝鮮半島各国とくに百済の影響について多面的に考察させる。	・ p. 26①の法隆寺の伽藍配置、写真②の2つの半跏思惟像、地図③、p. 27の写真⑦をみて、倭国と朝鮮半島との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 26の史料④の『隋書』倭国伝の記載、倭国の国政改革を時系列にならべてまとめることができる。（技能） ・ p. 27の系図⑤を使って、天皇と蘇我氏との関係を具体的に説明することができる。（知識）	・ p. 26史料④で、隋の皇帝が怒ったのにもかかわらず倭国との関係を絶たなかった理由を朝鮮半島情勢とからめて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27写真⑦の「読み解きのツボ」にあるように、2つの瓦の比較、日本の文化への影響についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 27「Topic」の「暦と時の支配」にある水時計が権力とどのような関係にあるのか、時を司る信仰がほかの地域でないかなど、時間の支配の重要性を多面的・多角的に考察することができる。	・ かつては聖徳太子という呼び名が主流だったが今日では厩戸王という表記が主体となってきた。呼び名の違いが意味することをグループワークで検討し、今日にも同じ例がないかを考察し学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7．大化改新から壬申の乱へ	○ヤマト政権の政治改革の特徴を東アジアの視点から考えてみよう。 ・ 大化改新の背景、内容、その後の影響について考える。 ・ 壬申の乱の背景、内容、影響について考える。	・ 大化改新が隋が滅んで唐が建国したこと、朝鮮半島情勢の変化の影響によるものであることに着目させる。 ・ 白村江の戦いの敗北がヤマト政権の政策に与えた影響について多面的に考察させる。 ・ 天武・持統朝の政策の背景や内容に着目させる。	・ p. 28地図①をみて唐を中心とした冊封関係、p. 29写真⑧の朝鮮との関係など日本列島をめぐる当時の国際関係について説明することができる。（知識） ・ p. 28史料②の「大化改新の詔」の内容とそれまでの制度との違いを説明することができる。また、「改新の詔」の文章がそのまま当時のものではないことをp. 28写真③で説明することができる。（知識） ・ 7世紀のヤマト政権の政治で、法制度がどのような整備されていったのか、当時のヤマト政権の状況をふまえつつまとめることができる。（技能）	・ p. 28系図④をみて、女性天皇を探し出し、女性天皇が誕生した背景を多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめることができる。 ・ TRYの「壬申の乱を経て、天皇と豪族の関係はどのように変化していったのか、考えてみよう」という問いに対して多面的・多角的に考察することができる。	・ 7世紀の女性に着目して、現在と比較してみよう。そして女性の地位について歴史的背景を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	8．律令国家の形成	○律令国家の政治体制とは、どのようなものだろうか。 ・ 律令国家の成立と政策の内容について考える。 ・ 律令国家の時代の民衆はどのような支配を受けていたのだろうか。	・ 律令の内容を通じて、古代国家がどのような統治をめざしていたのか着目させる。 ・ 律令国家を支える都や地方行政、交通制度について着目させる。 ・ 民衆の負担が多岐にわたることに気づかせる。	・ p. 30「Link」にある長屋王邸宅にかんする記事をみて、当時の有力者の生活をまとめ、説明することができる。（技能） ・ 7世紀の有力豪族が8世紀においてどのような地位にあったのかをp. 30の本文記述や図②を使って説明することができる。（知識） ・ p. 31地図⑤、表紙裏の「国県名対照表」を使って地方の区分について説明することができる。（知識）	・ p. 31地図⑤をみて、古代の都の構造について、宮の場所、貴族の邸宅、寺院、市場、通路などを手がかりにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「律令国家は、民衆にどのような負担を強いたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 31「資料を読みとろう」をみて、赤枠の中身を読み取り、この荷札の内容、上下に切り込みがある理由などを多面的・多角的に考察することができる。	・ 律令国家の制度と現在の日本の象徴を比較して、今日の状況を歴史的に追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	9．東アジアのなかの天平文化	○日本は唐，新羅，渤海とどのような関係をもとうとしたのだろうか。 ・ 東アジアの国際関係について考える。 ・ 天平文化の内容と国際性について考える。	・ 律令国家と唐，新羅，渤海との国際関係，遣唐使の役割に着目させる。 ・ 天平文化には国際的な背景があることに気づかせる。 ・ 8世紀における仏教の役割について多面的に考察させる。	・ p. 32写真①②，地図③を参考に遣唐使が航路を変更した背景，危険性，意義についてまとめることができる。（技能） ・ p. 33写真⑤⑥⑦を使って，天平文化の内容を具体的に説明することができる。（知識） ・ TRYにある「天平文化の特徴をまとめてみよう」という課題に答えることができる。（技能）	・ Link「唐の都でなくなった留学生」を読み，遣唐留学生が派遣された理由，「日本」という国号が使われた意義について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 33写真⑥や⑦について，どのようなルートで日本に来たのか。P. 6～7の地図を活用して日本列島と世界とのつながりを多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「ひと」の行基が弾圧されたのちに律令国家に迎えられた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・ 天平文化の国際性を参考に，今日における日本の文化と外国との関係を比較して，文化の国際性を比較追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	10．奈良時代の政治と社会	○聖武天皇はなぜ，都を転々と移したのだろうか。 ・ 奈良時代の政治情勢について考える。 ・ 土地政策の変化とその後の影響について考える。	・ さまざまな政変を通じて藤原氏が権力を掌握していく過程に着目させる。 ・ 疫病や飢饉などの社会不安が政治に影響を与えることに気づかせる。 ・ 8世紀における政治の役割について多面的に考察させる。	・ p. 34の写真①④を参考に大仏や寺院建設に人々のどのような思いが込められているかまとめることができる。（技能） ・ p. 34の「ひと」の光明皇后，系図③の孝謙天皇など女性の活躍について説明することができる。（知識） ・ 土地制度の変化について，三世一身法，墾田永年私財法，初期荘園などのキーワードを使って説明でき，p. 35史料⑤の三世一身法の20年後に史料⑥の墾田永年私財法が出された理由も説明することができる。（技能）	・ TRY「奈良時代の仏教はどのような役割をはたしていただろうか。「大仏」や「道鏡」をキーワードに考えてみよう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 34地図②や本文記述を参考に，都を転々とした理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ Topic「東国の民衆と防人」をみて，兵士の負担や東国の人々が選ばれた理由をグループワークを通じて多面的に考察できる。	・ 今に残る8世紀に関係する地名を探ってみよう。たとえば国分寺は国分寺，国分など，国府があった場所は国府津，国府台，府中などがある。身の回りの地名と歴史との関係について考え，今に残る歴史を追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	原始・古代のたたかう・つながる	○たたかうとはどういうことだろうか。つながるとはどういうことだろうか。古代の人々はどのような場面でたたかい，どのようなときに人とつながろうとしたのか。具体的な事例をもとに考える。	・ 伊治皆麻呂が多賀城を焼きはらった理由に着目させる。 ・ 大仏造営を通じた人々のつながりに着目させる。	・ 古代の蝦夷とヤマト政権との関係を時期ごとに説明することができる。（知識） ・ 仏教が国家仏教となるまでの過程を説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「律令国家はなぜ，東北地方の蝦夷と長い間にわたって戦争を続けたのだろうか」という問いに対して，多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「東大寺の大仏造営を発案した聖武天皇はどうして，みんなの力で大仏をつくることをよびかけたのだろうか」という問いに対し，グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び，現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて，その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し，多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 1．平安時代初期の政治と文化	○桓武天皇はなぜ遷都や東北地方の支配拡大をおしすすめたのだろうか。 ・ 平安時代初頭の政治改革と版図の拡大を考える。 ・ 平安時代初期の文化を考える。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・ 平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・ 藤原北家の当主がどのような方法で権力をにぎっていったのかを説明することができる。（知識） ・ 平安初期の政治改革で律令政治の修正をおこなった。どのような変更をおこなったのか説明することができる。（技能） ・ 平安初期の仏教文化と天平文化との違いをまとめることができる。（技能）	・ p. 38の本文や地図②をみて、東北地方の兵役義務を停止して、健児を置いた理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「平城太上天皇の変は、その後の政治にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 39写真⑥や本文を参考に、この時代の寺院が従来の伽藍配置を踏襲していない理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 39の「ひと」の「阿弔流為」を参考に、律令国家からではなく、東北地方からみた歴史を描いてみて、さまざまな視点から歴史をみることの重要性を現代的な問題と比較して多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 2．摂関政治と国風文化	○摂関政治はどのようにしておこなわれるようになったか。 ・ 藤原北家の発展と摂関政治の確立について考える。 ・ 平安時代中期の国風文化について考える。	・ 藤原北家の当主がどのようにして権力を手にしていったのかを他の時代と比較して多面的に考察させる。 ・ 平安時代中期の東アジア情勢の変化に着目させる。 ・ 平安時代中期の国風文化の内容とその背景を考察させる。	・ p. 40の絵①をみて、当時の人々の装束からて気がつくことをp. 41の衣服に関する記載を参考に説明することができる。（技能） ・ p. 40の本文を参考に、幼帝が出現した理由を説明することができる。（技能） ・ p. 41の本文，Topicの「男手と女手」を参考に、当時の男性と女性の文化的違いについて説明することができる。（知識）	・ TRYの「この時期に国風文化がなぜ生まれたのだろうか。東アジアとのかかわりからまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・ 藤原氏が天皇にならず、摂政や関白という地位で権力をにぎった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 41の本文を参考に、この時代に女性による文学作品がたくさん生まれた背景を考え、現在の女性と比較してジェンダー問題を考える学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 3．摂関期の社会と経済	○地方社会はどのように変容したのだろうか。 ・ 平安時代の地方政治と武士の発生について考える。 ・ 平安時代末期の文化について考える。	・ 律令国家の地方支配の方法の変化と地方政治の変容について着目させる。 ・ 武士が発生した背景や武士の活躍に着目させる。 ・ 平安末期の文化と仏教との関係に着目させる。	・ p. 42の写真①②史料③④をみて、当時の地方政治の様子を具体的に説明することができる。（知識） ・ 地方で武士が発生したこと、都におかれた武士，武士の組織や構成について説明することができる。（知識） ・ p. 43の写真⑤の空也の口から出ているものと念仏との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 68の絵②やTopic「尾張国の国司の暴政を訴えた郡司・百姓たち」を読んで、国司が地方におもむいた目的を考え、地方にいた人々がどのように変化していったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「関東一円を支配下においた平将門は、なぜあつけなく鎮圧されてしまったのだろうか」という問いに，p. 43地図⑦を使いながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 43「ひと」の藤原隆家，桓武平氏，清和源氏といった貴族が武士をひきいて戦った背景をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス		○鹿児島県の奄美群島ではどのような交流が	・ 奄美群島とヤコウガイの関係に着目させる。	・ 貝類と人類との関係について説明することができる。（知識）	・ 奄美諸島を中心とした交易について地図①をみながら多面的・多角的に考察することができる。	・ 奄美諸島は，古代から近現代にかけてどのような歴史をたどっていったのか調べ，地域研究

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	奄美群島	おこなわれてきたのか考える。	・ 奄美群島の歴史に着目させる。	・ 江戸時代やその前後の奄美諸島の歴史を説明することができる。（技能）	・ 江戸時代やその前後の奄美諸島の歴史を説明することができる。	をおこなうという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	さまざまな人生	○古代の人々の人生を考える。	・ 古代の人々の風習や生活について着目させる。	・ 縄文人などの人々の風習について説明することができる。（知識）	・ 古代の税で大人と子どもの違いについて多面的・多角的に考察することができる。	・ 古代の人々の人生とわたしたちの人生を比べ、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	
	時代と社会を考える「古代」			・ 古代の税や埋葬方法を説明することができる。（技能）			
1学期後半	第3章	■第3章のねらい ・ 平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・ 古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、中学校社会科歴史的分野での「大観」して「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。		・ 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	・ 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・ 中世の特色についての考察などを踏まえ、例えば、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や、併存する政治勢力がそれぞれの勢力を維持していた状況など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけをおこなうなどして、中世の特色について課題意識をもって考察するように指導を工夫する。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「なぜ中世では、同じ時期に、政治や社会に力をもつ人や集団が複数存在していたのだろうか」など、中世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	
		○平安時代の末期、院政はなぜはじまったのだろうか。	・ 藤原北家が台頭した理由や藤原道長の権力確立の方法に着目させる。	・ 院政がどのような構造をもち、どのような政治をおこなったのかを説明することができる。（知識）	・ p. 52の写真①の大きな建物はなんだろうか。そしてp. 41写真②③の藤原摂関家の邸宅と比べ、構造の共通点と相違点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	1 4．院政と中世荘園	・院政の内容と中世荘園の成立を考える。 ・院政期の文化を考える。	・平安時代中期の東アジア情勢の変化が日本にも影響をもたらしたことに気づかせる。 ・平安時代中期の国風文化が当時の国際情勢と関係することに着目させる。	・中世荘園や知行国制について歴史的経緯やしくみを説明することができる。（技能） ・院政期の仏教文化や庶民文化の内容をまとめることができる。（技能）	・TRYの「平安時代の終わりに、どのような政治・社会・文化の変化がおきたのだろうか」という問いに具体例を示しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 53写真④の荘園絵図をみて、気がついたことをまとめ、とくに「絵画の中の黒い点は何だろう」という問いに答えつつ、中世荘園の特質について多面的・多角的に考察することができる。	・14節の院政では父系的なつながりがみられるが、これ以前の天皇家の系譜的なつながりと比較してみよう。そして現在のわたしたちはどのような意識をもっているのか多面的・多角的に考察することができる。	1
	1 5．奥州藤原氏と平氏	○武士はどのように勢力をひろげていったのだろうか。 ・奥州藤原氏の繁栄の様子について考える。 ・平氏政権の特質について考える。	・奥州藤原氏の繁栄の様子、とくにまわりとのさかんな交易の内容や仏教文化について多面的に考察させる。 ・保元・平治の乱をつうじて武士が台頭していく背景に着目させる。 ・平氏政権が権力を確立していく背景や日宋貿易について考察させる。	・p. 54の写真②や地図③をみて、奥州藤原氏の交易の様子、平氏の日宋貿易の交易の様子を比較して、共通点や相違点を説明することができる。（技能） ・p. 54のTopic「婿入婚」を参考に、この時代の婚姻の形態について説明することができる。（技能） ・p. 54絵①やp. 55の図⑦を参考に、保元の乱と平治の乱の事件の内容や構図を説明することができる。（知識）	・TRYの「奥州藤原氏や平氏の繁栄をもたらしたものが何かまとめてみよう」という問いを多面的・多角的に考察し、レポートなどにまとめ表現する。 ・p. 55のチェックにある「平氏が信仰した厳島神社はどういうところにあるのだろうか」という問いに答えるとともに、日宋貿易についても多面的・多角的に考察することができる。	・p. 55の「時代を通観する問いをたてよう」にある「武士の台頭により、支配の方法もかわっていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と中世の展望	○絵巻や文字による記録からみえる当時の社会について考えてみよう。	・絵①や地図②をみて、栗駒山での合戦の様子に着目させる。 ・史料①と②をみて、当時の人が自分の生きている時代をどのようにみていたのか着目させる。 ・絵③をみて、描かれている情報に着目させる。	・絵①をみて、たたかっているのはどのような人たちであるか、身につけているものは何かを指摘することができる。（技能） ・史料①と②にある課題の空欄に適切な語句を入れて説明することができる。（知識） ・中世の戦乱を描いた作品を取り上げて内容を説明することができる。（技能）	・地図②の宇治の位置について栗駒山で合戦がおきたことや当時の都や寺院勢力にも配慮しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・史料①の「山」や「南京」が何をさしているのかを指摘しこの史料が述べていること、宇治の位置づけ、武士の行動について多面的に考察できる。 ・p. 57の問い「人々はどのように方法で『平家物語』の内容を知ったのだろうか。また、その方法は中世の社会や文化のどのような特徴をあらわしているのだろうか」にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の「政治や社会のしくみ、宗教や文化のあり方などから、中世にはどのような特徴があるのか、あなたの仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問題を多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	1 6．治承・寿永の乱と鎌倉幕府	○鎌倉幕府はどのように成立したのだろうか。 ・源頼朝が鎌倉に政権基盤を形成していく過程について考える。 ・12世紀の仏教の改革について考える。	・源頼朝が鎌倉政権をきずいていく過程を学ぶとともに、鎌倉幕府の成立時期について着目させる。 ・鎌倉幕府の構造に着目させる。 ・12世紀に仏教が改革運動をおこなった理由に着目させる。	・p. 58の地図②をみて、治承・寿永の乱の流れを具体的に説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府の役職名などの構造，地方の役職がおかれた理由について説明することができる。（知識） ・12世紀にどのような僧が出て，どのような改革をおこなったのかを具体的に説明することができる。（技能）	・p. 58の写真①をみて，現在の福島県に大規模な堀をきずいた理由を，地図②も参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「治承・寿永の乱は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 59の「読み解きのツボ」の「①建物にどのような特徴があるのだろうか」「②金剛力士像にはどのような特徴があるだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・奈良時代と同じく平安末期も疫病など社会不安に襲われた。2つの時期の共通点や相違点をあげて，時代を通観するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	1 7．承久の乱と公武関係	○鎌倉幕府と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか。 ・承久の乱が鎌倉幕府と朝廷との関係にどのように影響したのかを考える。 ・承久の乱の後に鎌倉幕府がおこなった組織改革の内容について考える。	・源頼朝の死後，北条氏が執権として力を得ていく過程に着目させる。 ・承久の乱の経過について着目させる。 ・鎌倉幕府が組織改革とともに法制度を充実させていった点に着目させる。	・p. 60の史料②をみて，北条政子が御家人に何と訴えているのか説明することができる。（技能） ・p. 61の系図④をみて，源氏将軍・摂家将軍・執権北条氏の血縁関係について説明することができる。（知識） ・鎌倉幕府における北条政子の役割を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 61の史料⑤をみて，御成敗式目における男女の扱いと古代の律令と比較しながら多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「承久の乱は，政治や社会のあり方にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，本文記述を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 61の史料⑥「資料を読みとろう」の「①泰時はなぜ御成敗式目を制定したのだろうか」「②泰時は幕府の法と朝廷の法との関係をどのように考えているのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・源頼朝が鎌倉に政権をつくってからの時代を鎌倉時代と呼ぶ。しかし朝廷にも一定の勢力は残っていた。この時代を鎌倉時代と呼ぶことは適当か。問題があるとすれば何と呼べば良いか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	中世のはたらく・あそぶ	○はたらくとはどういうことだろうか。あそぶとはどういうことであろうか。人間以外の動物は，はたらいたりあそんだりするだろうか。中世の人々のはたらきかた，あそびかたをわたしたちの生活と比べてみる。	・生きるためにはたらくこと，職人の生活を題材にはたらくことに着目させる。 ・仕事とあそぶことははっきり分けられるか否かに着目させる。	・はたらくことについて職人の行動を絵画をみて説明することができる。（知識） ・絵③④⑤をみて，この当時のあそびについて説明することができる。（技能）	・TRYの「中世の人々にとって，はたらくこととあそぶことはどのような営みであったのだろうか。現在のわたしたちの感覚と比べながら考えてみよう」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	・いまのわたしたちの生活でしごととあそびがはっきり分けられないものをさぐるという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	18．地頭・御家人と荘園制の変質	○鎌倉幕府の成立は社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 鎌倉幕府の財政基盤と御家人制度について考える。 ・ 武士の組織とネットワークについて考える。	・ 幕府の経済基盤や御家人との関係、非御家人の存在について着目させる。 ・ 地頭の荘園支配、荘園領主との紛争、当時の百姓の実態について着目させる。 ・ 惣領制の構造や御家人のネットワークに着目させる。	・ p. 64の絵①，写真②をみて，武士の館の建物の構成を説明することができる。（技能） ・ p. 65の絵⑤をみて，赤い線の意味と下地中分との関係を説明することができる。（知識） ・ p. 65図⑦をみて，惣領制のしくみと地図⑧との関係を具体的に説明することができる。（技能）	・ p. 65の史料⑥をみて，地頭はどのような支配をおこなっていたのかという点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「御家人はどのような所領支配をおこなっていたのだろうか」という問いに，本文記述や絵⑤，史料⑥を参考にしながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 64の絵①に描かれている動物をみつけだし，その役割を考えてみよう。さらにTopic「武士と武芸」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。とくに「猿」の役割についてはさまざまな絵巻物や海外との事例を比較検討することが望ましい。	・ 地頭制度における女性の役割を本文記述を参考に洗いだし，わたしたちがもってきた鎌倉時代の女性像との違いを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	19．鎌倉時代の経済・産業と自然環境	○経済や産業はどのように変化していったのだろうか。 ・ 鎌倉時代の貨幣経済と流通，農業について考える。 ・ 鎌倉時代の仏教について考える。	・ 渡来銭が日本のなかでどのような役割をはたしたのか着目させる。 ・ 商品生産の変化や流通ネットワークの発達について着目させる。 ・ 鎌倉時代に新しく誕生した宗派のそれぞれの特徴に着目させる。	・ p. 66の絵①をみて当時の市場で売られていたもの，絵②をみて市場が今のようにほぼ毎日おこなわれている状況と異なることを説明することができる。（技能） ・ p. 66の絵③をみて，借上とは何か，銭がどのようにもち運びされているのか説明することができる。（知識） ・ p. 67写真⑥をみて，この時代の農業の様子，飢饉との関係を説明することができる。（技能）	・ p. 66のLinkをみて，いまに残る昔の地名について，それぞれの知っている地域を取り上げてグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「鎌倉時代に入り，経済・産業や信仰のあり方に，なぜ変化が生じたのだろうか」という問いに，絵⑩の日蓮の記事などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 67の「ひと」に書かれている阿仏尼の記事をみて，鎌倉時代の鎌倉と京都との交通の様子，絵⑨の踊念仏が京都でおこなわれていることなどを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 67の本文にあるように，13世紀は気候が冷涼であった。これは日本に限らず，世界全体に影響をもたらした。13世紀であっても，日本史の枠にとらわれず世界史的視野が必要であるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	20．モンゴル襲来と日宋・日元交流	○モンゴル帝国は東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。 ・モンゴル帝国が日本や世界に与えた影響について考える。 ・日本と宋・元との文化的交流、とくに仏教について考える。	・モンゴル帝国がヨーロッパまで到達した大帝国をきずいたこと、世界にどのような影響を与えたのか着目させる。 ・宋・元との貿易やネットワークについて着目させる。 ・鎌倉時代の仏教で、宋・元と関係の深いものについてその内容に着目させる。	・p. 68の史料②をみて、史料の内容をまとめるとともに、フビライは日本に何を期待したのかを説明することができる。（技能） ・p. 68のLink「青花（染付）」，p. 69の写真⑤⑥をみて、宋や元から渡ってきた文物について説明することができる。（知識） ・p. 68Link「水中考古学」をみて、どのようなものが発掘されたのか、水中考古学の可能性について説明することができる。（技能）	・p. 68の地図①史料②本文記述をみて、宋と関係の深い日本に対し元はどのようなことを考えて使者を派遣したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「宋や元との関係はどのようなものだっただろうか」という問いに、本文記述や前の19節を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 69の絵⑦にある頂相にはどのような特徴があるのかという問いに答えるとともに、写真⑧なども参考に日本における中国仏教の影響について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 68の地図①を参考に、いまに残るモンゴル帝国の影響を世界史的視野から考え、日本列島でのできごとだけで日本史を学んではいけないという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 博多	○海外交易や九州支配の中心地となった。博多というまちの誕生と発展から考える。	・外交の拠点が古代の鴻臚館から中世の博多に移ったことに着目させる。 ・博多と福岡の歴史に着目させる。	・p. 70地図①を参考に、博多を中心とした東アジアの海域世界について説明することができる。（知識） ・p. 71の地図⑤⑧をみて、中世から近世にかけての博多のまちの特徴を説明することができる。（技能）	・博多を中心とした中世における海外との貿易や交流についてまとめ、p. 70～71に載せられた写真や絵を参考に多面的・多角的に考察することができる。	・古代・中世・近世の博多についてまとめるとともに、現在における「ハブ」とはどこで、どのような役割があるのかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	21．社会の変動と鎌倉幕府の滅亡	○なぜ鎌倉幕府は滅亡したのだろうか。 ・得宗専制と幕府の勢力について考える。 ・鎌倉幕府の滅亡過程について考える。	・得宗専制が北条氏の権力を集中させた一方、御家人の離反につながることに着目させる。 ・このころの社会の変化と永仁の徳政令の影響について着目させる。 ・両統迭立が朝廷に与えた影響と幕府滅亡の関係に着目させる。	・p. 72の史料③をみて、史料の内容をまとめるとともに、これが出された理由や影響を説明することができる。（技能） ・p. 73の系図⑤をみて、両統迭立によって天皇の即位に与えた影響、後醍醐天皇が倒幕をめざすきっかけについて、「ひと」も参考にして説明することができる。（知識） ・p. 73の地図⑦をみて、鎌倉幕府が滅亡していく過程について説明することができる。（技能）	・p. 72の図②，「ひと」の安達泰盛の記事、本文を参考にして、得宗専制によって御家人の気持ちなどがどのような変化したのだろうか。グループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「鎌倉時代後期の政治や社会にどのような変化がおり、鎌倉幕府の滅亡につながったのだろうか」という問いに、本文記述や資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 73の史料⑥をみて、悪党が何かを理解し、絵①や地図⑦も参考に、18節の非御家人が西国に多いこととの関係にふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・21節の記述を参考に、勢力争いにおいて自分に都合の良い人々で固めると、結果として組織は弱体化していくことを学び、こんにちの世界におきかえて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題		■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート		
	第 4 章	■第 4 章のねらい ・ 平安時代末から戦国時代までを扱い，中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し，総合的にとらえて理解できるようにすることをねらいとしている。 ・ 古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，対外的な環境や交流，中学校社会科歴史的分野での「大観し」て「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ，前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し，探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習をおこなう。	・ 武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解している。武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などをもとに，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解している。	・ 公武関係の変化，宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ この小項目の内容の確かな理解をはかるためには，生徒が上記の意味や意義，関係性などの考察をふまえて，考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり，歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や，歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば，「あなたは，15 世紀から 16 世紀にかけて争乱が多発した最も大きな理由は何だと考えるか」，「あなたは，国の領域について，当時の交易に従事する人々の意識は，現代とどのような違いがあると考えるか」などの，諸事象の解釈や画期を考察して表現することをうながすための課題（問い）を設定して，長期化する争乱が幕府政治にもたらした変容や，海外貿易の発展とそれが国内に与えた影響や国家間の交易と私貿易のそれぞれの意味，室町時代の宗教や文化の特色と影響について考察し，根拠を示して考察した結果を表現する学習などが考えられる。また，「あなたは，この時期に成立した村や町の運営は，現代の私たちが考える自治とどのような類似点と相違点があると考えるか」，「あなたは，室町時代の宗教や文化について，現代の文化や生活習慣，考え方などどのような関係を指摘することができるか」などの課題（問い）を設定して，当時の庶民の経済的・政治的な成長とともに，各地に残る芸能や祭礼など，生徒の視点からみいだすことができる現代との関係性についても考察して，根拠を示して考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。また，課題（問い）を設定する際には，大項目 C への学習のつながりを踏まえ，近世につながる諸要素がどのように現れてくるのかという点にも留意することも大切である。		

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	2 2．南北朝の内乱	○南北朝の内乱はなぜおこり，長期化したのだろうか。 ・建武の新政について考える。 ・南北朝内乱期の政治・社会・文化について考える。	・建武の新政の政治構造や失敗した理由に着目させる。 ・南北朝の内乱の実態や背景に着目させる。 ・内乱期の文化の特徴や背景に着目させる。	・p. 74の写真①をみて，足利尊氏の名前の字が変更された理由，当時の武士の名前の付け方の法則について説明することができる。（技能） ・p. 74のTopic「内乱と武家の女性」やp. 75Link「武士の手紙」をみて，当時の武士が大切にしたこと，女性の地位に関して説明することができる。（知識） ・p. 75のTopic「武士の争いと庶民の歌」や本文記述をみて，内乱期の文化の内容や影響について説明することができる。（技能）	・p. 74の史料②の内容は当時のどういった状況を反映しているのだろうか。本文記述を参考にグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「争いのなか，地方の武士や百姓たちは，どのような行動をとったのだろうか」という問いに，史料③やTopic「武士の争いと庶民の歌」などを参考に参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 74～75の本文記述をみて，南北朝の内乱の関係図を朝廷，幕府，大名，国人などの階層別に書きだし，さらに『神皇正統記』の書かれるきっかけにふれながら多面的・多角的に考察することができる。	・朝廷が2つあった時代，天皇も2人いた。この代数と現在の天皇の代数との関係をみてみよう。北朝の天皇が現在の天皇の代数に数えられていない理由を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	2 3．足利義満と室町幕府	○なぜ，足利義満は金閣をたてたのだろうか。 ・足利義満の政治とこのころの地方政治について考える。 ・室町文化について考える。	・南北朝の合一と京都支配の内容に着目させる。 ・室町文化の内容と国際性に着目させる。 ・幕府の地方支配の内容に着目させる。	・p. 76の図③をみて，室町幕府の機構について説明することができる。（技能） ・室町時代の税制度について具体的に説明することができる。（知識） ・室町文化における中国の影響を具体的に説明することができる。（技能）	・p. 77の絵⑥の観世能，Topic「能楽「山姥」と曲舞」をみて，湿地の多い京都で橋がかりがつくられた理由，観阿弥・世阿弥の名前に「阿弥」がついている理由をグループワークをするなど多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「南北朝の合一は，政治や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに，「ひと」の「足利義満」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 76の図③の室町幕府の機構とp. 59の鎌倉幕府職制表をくらべ，共通点と相違点を洗いだし，室町幕府がこのような組織をつくった理由を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 76の地図②で花の御所が朝廷の御所のそばにたてられた理由，室町幕府と鎌倉府という権力体が並立して対立を生んだことなどを参考に中心地をどこにおくかという現在にも通ずる学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	2 4．東アジアの海をゆきかう人々	○人々は、何のために東アジアの海を行き来していたのだろうか。 ・ 倭寇と明・朝鮮との交易について考える。 ・ 琉球と北方の交易について考える。	・ 倭寇と勘合貿易に着目させる。 ・ 明や朝鮮王朝とどのような交易をしていたのか着目させる。 ・ 琉球王国と北方ではどのような支配がおこなわれ、どのような交易をしていたのか着目させる。	・ p. 78の絵①をみて、明の軍隊と倭寇の服装や武器の違いを説明することができる。（技能） ・ 明や朝鮮王朝との交易の開始や内容、衰退について具体的に説明することができる。（知識） ・ p. 79の地図⑤や「三浦」の説明をつかって、アジア海域での航路や港湾について説明することができる。（技能）	・ p. 78のLink「勘合」がなぜこのような大きさなのかを絵①の様子を参考にして多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「地域の視点にたつと、世界はどのようにみえるだろうか」という問いに、地図⑤や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 79の地図⑤のアジア海域の地図だけでなく、p. 48～49の世界地図も参考にして世界のつながりについて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 79の本文記述を参考に、この当時の日本は一つの国といえるかを考え、日本という国の成り立ちについて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	2 5．惣村と一揆	○なぜ、百姓たちは惣村をつくったのだろうか。 ・ 惣村について考える。 ・ 当時の人々の生活の様子について考える。	・ 惣村の成り立ちやしぐみに着目させる。 ・ 15世紀の寒冷化のなか、農業がどのように進歩したのか着目させる。 ・ 一揆が発生した理由や目的に着目させる。	・ p. 80の史料③をみて、史料に書いてある内容をまとめ、写真②も参考にしながら惣の掟がどのようなものであるかを説明することができる。（技能） ・ p. 80のTopic「村と家」やp. 81の絵⑤をみて、惣村がどのようにして自分たちを守ったのか説明することができる。（知識） ・ p. 81の一揆に関する記述をみて、一揆の種類や背景について説明することができる。（技能）	・ p. 81の史料⑥と写真⑦の関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「百姓たちが借金帳消しを要求するメリットとデメリットは何だろうか」という問いに、史料⑥や写真⑦、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ 気候変動が農業などの産業に与える影響を、p. 80の絵①、p. 81のTopic「飢饉下のぬすみと村」などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 80～81の本文記述を参考に、現在の日本の地域産業で室町時代に起源をもつものをさぐり、昔と今との関係を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	中世のたたかう・つながる	○中世はたたかいが絶えない時代であった。たたかいははげしくなった一方、身を守り、たたかいを回避する方法もうみだされた。その様子をみていく。	・中世のたたかいの様子や城の役割に着目させる。 ・喫茶の風習や助けあった村の事例があることに着目させる。	・用水をめぐるたたかいが発生した理由を説明することができる。（知識） ・喫茶の風習と中国との関係を説明することができる。（技能）	・「考えてみよう」の「そもそも2つの村の争いの原因は何だろうか。争いがひろがっていく様子から、領主同士の争いの背景には、どのような問題があったと考えられるか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・「考えてみよう」の「なぜ、同じ川を農業で利用しあう村々は、このような協力関係をきずくことができたのだろうか」という問いに対し自分の意見をまとめ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「「はたらく」「あそぶ」「たたかう」「つながる」の4つのテーマのなかから一つを選び、現在のわたしたちの社会との共通点や相違点などをみつけて、その時代の特徴をあなたの言葉でまとめてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1
	2 6．戦国時代の幕あけ	○室町幕府の衰退は、どのようにしてはじまったのだろうか。 ・15世紀中ごろの応仁・文明の乱とその前後のできごとについて考える。 ・15世紀後半の一揆の内容や背景について考える。	・享徳の乱と応仁・文明の乱の背景、内容、影響に着目させる。 ・応仁・文明の乱のころの文化の内容に着目させる。 ・国一揆や一向一揆の内容や発生した理由、目的に着目させる。	・p. 84の表③をみて、応仁・文明の乱の対立関係をまとめ、乱がおきた背景を説明することができる。（技能） ・p. 85の写真④，絵⑤⑥をみて、応仁・文明の乱のころの文化の特徴を具体的に説明することができる。（知識） ・p. 85の地図⑦をみて、応仁・文明の乱がどの地域でたたかわれ、どのような被害がでたのかを説明することができる。（技能）	・p. 84の絵①と史料②を読んで足軽とは何かを考える。とくに絵①で足軽は何をしているのか、単なる破壊者なのか、白い頭巾をかぶっている人物の性別などをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「長引く戦乱は、社会にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 85の史料⑧を読んで、山城の国一揆の内容を確認するとともに、この史料を書いた僧と所属する寺がなぜ一揆をおそれたのかを多面的・多角的に考察することができる。	・歴史学者内藤湖南は「応仁の乱について」という文章で、応仁の乱よりも前の歴史は学ぶ必要がないと言っている。インターネットにも掲載されているこの論文を読んで、歴史を学ぶ姿勢を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	2 7．室町・戦国時代の流通経済	○どのような人々が京都に集まっていたのだろうか。 ・ 京都と地方都市の役割について考える。 ・ 室町時代の貨幣流通について考える。	・ 京都に集まる人とモノに着目させる。 ・ 応仁・文明の乱以後の流通経済の変化に着目させる。 ・ 貨幣経済の変化や度量衡の変化に着目させる。	・ p. 86の絵①をみて、室町時代の職業についてまとめ、この時代の産業について説明することができる。（技能） ・ p. 87の地図③をみて、港がおかれた場所の特徴やどのような交流が考えられるかを説明することができる。（知識） ・ p. 87の本文をみて、度量衡を統一させるようになった理由を説明することができる。（技能）	・ p. 87の史料④を読んで、史料の内容まとめ、なぜこのような法令をださなければならなかったのか、p. 87のTopic「明銭と私鑄銭」を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「どのようにして都市と地方はむすばれ、経済は動いていたのだろうか」という問いに、地図③や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 86の本文をみて、この時代の関所の乱立と流通経済との関係を多面的・多角的に考察することができる。	・ 地図③の主要な港と航路は、現在どのように変化したのか、または変化していないのか。いまに残る歴史をみていこうとする学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 馬	○中世にはどのような馬が活躍してたのか考えてみよう。 ・ 中世の馬について考える。	・ 中世の馬について考える。 ・ 海を渡ったかもしれない東北の馬について考える。	・ 中世の馬の役割を説明することができる。（技能） ・ 良馬といわれた東北の馬はどのように活用されたのか説明することができる。（技能）	・ p. 88の写真①②をみて中世の馬の特徴、史料③をみて馬の役割について多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 89の絵④を見て、京都に東北地方の馬がきていた理由について多面的・多角的に考察することができる。	・ 「中世の武士、商人、町人、農民たちにとって、馬とはどのような存在だったのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	2 8．戦国時代の政治と社会	○なぜ戦国大名が登場したのだろうか。 ・ 戦国大名の支配や当時の町について考える。 ・ 戦国時代の文化と生活について考える。	・ 戦国大名の支配方法に着目させる。 ・ 戦国時代の自治都市、城下町、税制度に着目させる。 ・ 戦国時代に地方に花咲いた文化に着目させる。	・ p. 91の地図④をみて、おもな戦国大名と勢力範囲を説明することができる。（技能） ・ p. 91の史料⑤をみて、史料に書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 91のTopic「戦国大名家の女性」をみて、戦国時代の大名家の女性が果たした役割について説明することができる。（技能）	・ p. 90の戦国時代の略奪に関する絵①をみて、どのような人々が略奪をしているのか、略奪をする理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「あなたが戦国大名の領国の境目に住む住人なら、どうしただろうか」という問いに、図②や本文記述を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 91の写真⑥の石見銀山の記事を参考に、地図④とp. 87地図③の中世の航路とを比較して多面的・多角的に考察することができる。	・ P. 90の絵③の祇園祭などを手がかりに、戦国時代の京都、博多、堺などの町をいまと比較してみるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	さまざまな人生 時代と社会を考える「中世」	○中世の人々の人生を考える。	・ 中世の人々の風習や生活について着目させる。	・ 中世の人々の風習について説明することができる。（知識） ・ 中世の人々の悩みや解決方法を説明することができる。（技能）	・ 中世の人々の結婚，出産，あそび，老いなど人生の営み，日本列島外の人々との交流について多面的・多角的に考察することができる。	・ 中世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて，人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1
	第5章	■第5章のねらい ・ 織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解している。 ・ 織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，近世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。		・ 織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外関係などを基に，中世から近世への時代の転換を理解している。	・ 村落や都市の支配の変化，アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して，中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・ 近世の特色についての考察などを踏まえ，例えば，織豊政権が戦国時代を終わらせることができた理由や，海外から伝わった新たな文化が社会の変化に与えた影響など，生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し，それらの疑問を基に，教師が問いかけを行うなどして，近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて，生徒が，例えば，「なぜ長期間にわたって大きな戦乱が起こらない時代を形成できたのか」など，近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。	

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	29．「南蛮」との出会い	○ヨーロッパ人は、なぜ東アジアに来航したのだろうか。 ・ 東アジアにおけるヨーロッパ人の活動について考える。 ・ 南蛮貿易や南蛮文化、キリスト教の伝来について考える。	・ 東アジアにヨーロッパ人が来航した目的や貿易の内容に着目させる。 ・ 南蛮貿易とキリスト教の伝来の影響に着目させる。 ・ 南蛮文化の内容と影響に着目させる。	・ p. 98の写真②をみて、「読み解きのツボ」にある空欄に適切な文字を入れ、内容を説明することができる。あわせてこれがローマ字で書かれた理由についても説明することができる。（技能） ・ p. 98の地図①をみて、当時の世界がどのような勢力分布になっているか説明することができる。（知識） ・ p. 99の絵③をみて「資料を読みとろう」の「①南蛮船にはどのような特徴があるだろうか」「②右上の屋根についているものは何だろうか」「③を説明することができる。あわせて屏風に描かれている黒人の役割や来歴についても説明することができる。（技能）	・ p. 98の地図①で、マゼランはなぜ西回り航路を選んだのか、その理由についてスペインとポルトガルの関係や支配地の位置などを参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「南蛮貿易によってもたらされた文化や技術は、人々にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに、本文記述や掲載された資料を参考に多面的・多角的に考察することができる。 ・ 鉄砲の製造技術は、堺や根来、国友で広まった。なぜこれらの場所で広がったのか。当時の特産品の生産地について考慮しながら多面的・多角的に考察することができる。	・ 鉄砲伝来に関し、なぜポルトガル人は中国の倭寇船に乗ってきたのだろうか。大航海時代という言葉はヨーロッパを中心とする概念だが、これらの問題点を考え、アジアに立脚点をおいて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	30．織豊政権の全国統一	○信長や秀吉の全国統一は、どのようにすすんでいったのだろうか。 ・ 織田信長の政策について考える。 ・ 豊臣秀吉の政策や桃山文化について考える。	・ 織田信長の戦略と政策に着目させる。 ・ 豊臣秀吉の統一の過程や政策に着目させる。 ・ 桃山文化の内容と背景に着目させる。	・ p. 100の地図③をみて、織田信長と豊臣秀吉がどのような戦いを経験していったのかを順序立てて説明することができる。（技能） ・ p. 100の本文記述、Topic「信長の天下」をみて、織田信長の政策の独自面と他の戦国大名と共通している政策を説明することができる。（知識） ・ p. 101の本文記述をみて、豊臣秀吉の政策を政治面、経済面、外交面にわけて説明することができる。（技能）	・ p. 101の史料⑤をみて「刀狩令」の内容を説明し、注4の記述も参考に「刀狩令」の意味についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「戦国時代は豊臣秀吉の全国統一によって終わりをとげた。生きるために傭兵となった人々はどうなったのだろうか」という問いに、太閤検地との関係を考えながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 101の絵⑦の「読み解きのツボ」の「①この絵はどこに描かれたのだろうか」「②使われている色で、特徴的な色は何色だろうか」という問いに多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 101の桃山文化の本文記述、写真⑥、絵⑦、⑧などをみて、政治が文化に及ぼす影響、文化が政治と関係していることを考え、現在における政治・社会と文化の関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3 1. 東アジアの変動と豊臣政権	○7年にわたる豊臣秀吉の朝鮮侵略は、なぜおきたのだろうか。 ・豊臣秀吉の外交政策について考える。 ・関ヶ原の合戦の背景や影響について考える。	・パテレン追放令の内容や背景，影響に着目させる。 ・朝鮮侵略の背景，内容，影響に着目させる。 ・関ヶ原の合戦にいたる豊臣氏の弱体化や徳川家康の台頭に着目させる。	・p. 102の地図①，絵②，写真③をみて，豊臣秀吉の朝鮮侵略の過程や内容を説明することができる。（技能） ・p. 103のLink「朝鮮被虜人と降倭」をみて，秀吉の朝鮮侵略が両国および世界の文化に与えた影響を説明することができる。（知識） ・p. 103の本文記述，絵⑤をみて，徳川家康が権力を手中に収める過程を説明することができる。（技能）	・p. 102の史料④の「パテレン追放令」をみて，この法令が禁止していること，反対に禁止していないことをまとめ，豊臣秀吉の外交政策についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「豊臣秀吉の死後，なぜ関ヶ原の戦いがおきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 102の本文記述を参考に，豊臣秀吉の外交政策の意図と問題点を多面的・多角的に考察することができる。	・p. 103の「時代を通観する問いをたてよう」の「ヨーロッパ文化との接触や，織豊政権による全国統一は，人々の生活をかえていった。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか，文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近世の展望	○外国人がみた「日本」の近世について考えてみよう。	・絵①をみて，朝鮮通信使がなぜ人気を集めたのかに着目させる。 ・史料①と②，絵③をみて，外国人が近世の日本についてどのような記録を残しているのかに着目させる。 ・「日本」は外国にどのように伝えられていたのかに着目させる。	・絵①をみて，行列の服装，もち物にどのような特徴があるのかを指摘することができる。（技能） ・史料①と②，絵③の内容を説明することができる。（知識） ・絵③の空欄部分をうめて内容を説明することができる。（技能）	・p. 104の絵①に書かれた沿道の人々は，どのように行列をみているのかを予想し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 104の史料①，②，絵③を参考に，近世に戦争がなくなったことは，日本の外交関係や人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを多面的・多角的に考察できる。 ・p. 105の史料③をみて，「シーボルトは日本の政治や対外関係の特徴をどのように読みとったのだろうか，また，その問題点はどこにあると考えたのだろうか」という問いにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・「仮説をたてよう」の「幕府による支配のしくみ，対外関係をめぐる政策，人々による学問・文化への関心に注目し，近世にはどのような特徴があるか，あなたの仮説をたて，理由も説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 2. 江戸幕府の支配のしくみ	○徳川家は、支配のためにどのような制度をつくったのだろうか。 ・ 江戸幕府の成立や支配について考える。 ・ 諸藩の政治について考える。	・ 江戸幕府の成立過程や政策の内容に着目させる。 ・ 江戸幕府の全国支配の方法に着目させる。 ・ 諸藩が江戸幕府とどのような関係を築きながら支配をしていたのかに着目させる。	・ p. 107の図③の「江戸幕府の職制」をみて、江戸幕府のしくみを説明することができる。（技能） ・ p. 106の史料②「武家諸法度」をみて、江戸幕府の大名管理の方法について説明することができる。（知識） ・ p. 107の地図④をみて、日本全国に大名がどのように配置されていたか説明することができる。（技能）	・ p. 106の絵①をみて、加賀藩の大名行列はどのくらいの長さであったのか、何のために江戸へいったのか、史料②を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「将軍と大名の関係や、大名と家臣の関係は、徳川家によってどのようにかえられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 107の地図④をみて、江戸幕府を倒すには外様大名がどれくらい結束しなければならないだろうか。シミュレーションをしてみても面的・多角的に考察することができる。	・ p. 107の地図④をみて、自分が住んでいる場所が江戸時代にはどのようなになっていたのか調べてみる。あわせて北海道や沖縄ではどのような独自性があったのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 3. 江戸時代の対外関係	○江戸時代の日本と外国の関係は、どのようにきずかれたのだろうか。 ・ 江戸幕府のアジア・西洋諸国との交流やキリスト教対策について考える。 ・ 「鎖国」の実態や「四つの口」について考える。	・ 江戸時代初期の積極的な外交に着目させる。 ・ 幕府のキリスト教対策や反発について着目させる。 ・ 外交を一切もたないというイメージをもった「鎖国」が本当であったのかに着目させる。	・ p. 108の絵①の「朝鮮通信使の図」をみて、朝鮮通信使にどのような人々が参加しているのか説明することができる。（技能） ・ p. 108の写真②や地図③をみて、江戸時代初期の外交や航路について説明することができる。（知識） ・ p. 109の図⑤をみて、「四つの口」のそれぞれの内容を説明することができる。（技能）	・ 東アジアの交易の目的、平戸・長崎の役割、幕府の役割などをp. 108の地図③や写真②の朱印状の朱印の位置（高さ）を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「幕府はなぜ対外関係の窓口を限定したのだろうか。また、「鎖国」政策は経済や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 109の絵④や地図⑥をみて出島でのオランダの様子、本文記述の島原・天草一揆でのオランダの役割を参考に、江戸幕府とオランダとの関係を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 109の地図⑥をみて、現在の長崎との位置関係、さらには唐人屋敷と中華街との関係など江戸時代と現在との関係をさぐるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 4．身分制と村・町の生活	○江戸時代の人々の身分には、どのようなものがあっただろうか。 ・江戸時代の身分制や村について考える。 ・江戸時代の都市と町について考える。	・江戸時代の身分制度に着目させる。 ・江戸時代の村や百姓の家の位置について着目させる。 ・江戸時代にさまざまな形態の町があったことに着目させる。	・ p. 110の図②，地図③をみて，江戸時代の村の様子を説明することができる。（技能） ・ p. 111の写真⑤をみて，小倉の城下町の特徴を説明することができる。（知識） ・ p. 111のTopic「成人の仲間入り」をみて，江戸時代の成人について説明することができる。（技能）	・ p. 110の地図②と③をみて，百姓の家の位置，神社の位置，耕作地や入会地の位置から村の景観についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代の村や都市の特徴を，現在の市・区・町・村と比べ，共通点・相違点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 111の写真⑤をみて小倉城の位置を読みとったり海に浮かんでいる物を考えたり，地図⑥をみて城下町や街道の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 110の図①をみて，江戸時代の身分構成からわかることを現在の職業構成と比較していくという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近世のはたらく・あそぶ	○江戸時代の女性はどのように「はたらき」，いかなる「あそび」をしていたのだろうか。ドラマや映画や各種メディアで存在を知られる奥女中を対象に考えてみる。	・奥女中としてはたらく女性たちに着目させる。 ・女性の習い事と大奥でのあそびに着目させる。	・大奥で町人や百姓の娘たちが雇われた理由や奥女中につとめた女性の人生について説明することができる。（知識） ・江戸時代の女性の習い事の種類や動物や昆虫を飼っていたことについて説明することができる。（技能）	・大奥では昆虫を飼っていた人々がいたが，昆虫がいそうな場所はどこかということをヒントにグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「近世の「はたらく」・「あそぶ」と現在のそれらには，どのような共通点・相違点があるのだろうか」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
第 6 章		■第 6 章のねらい <					

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	3 6．産業の発展	○江戸時代の人々は，農業，林業，漁業でどのようにふうをしたのだろうか。 ・江戸時代の農業経営について考える。 ・江戸時代の産業の発展について考える。	・新田開発の内容や農具の進歩に着目させる。 ・農業の技術の進歩や交易の内容に着目させる。 ・さまざまな産業や特産物に着目させる。	・ p. 116の絵①をみて，当時の農耕の様子や男女の役割の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 116のTopic「干鰯の産地と消費地」をみて，当時の肥料について説明することができる。（知識） ・ p. 117の表⑥「おもな特産品と産地」をみて，特産品と産地との関係について説明することができる。（技能）	・ p. 117の本文記述をみて，江戸時代の産業や交易の関係，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「江戸時代における産業の発展は，どのような背景によってうまれたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 117の絵④や表⑤をみて，みたことのある商標をさがし，表⑥とも比較しながら，現在に続く特産品について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 116の絵①やp. 117の絵③をみて，江戸時代の産業における男女の役割の違いについて，現在と比較しながら考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	3 7．交通網の発達と都市の繁栄	○交通網の発達は，社会をどうかえたのだろうか。 ・交通網の発達や三都の繁栄を考える。 ・元禄文化について考える。	・水陸の交通網の整備の様子に着目させる。 ・三都と流通経済との関連に着目させる。 ・元禄文化の内容，とくに学問の進展に着目させる。	・ p. 118の地図①や絵③をみて，当時の五街道をはじめ幹線道路の発展，河川や会場の交通の発展について説明することができる。（技能） ・ p. 118の絵④をみて，江戸の魚市場と流通について説明することができ，p. 119の絵⑨をみて大坂が「天下の台所」と呼ばれた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 119の表⑤「元禄文化の作者と作品」をみて，元禄文化での文学作品や美術作品について説明することができる。（技能）	・ p. 118の地図①と写真②をみて，江戸時代の交通の発達と貨幣経済の発達の間接的な関係を，自分が住んでいる地域にもふれながら多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「私たちがくらしている地域は，江戸時代に江戸・大坂・京都とどのようにむすびついていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 119の表⑤，絵⑥や⑧，写真⑦や⑩をみて，元禄文化の特徴や背景について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 119の本文記述をみて，江戸時代に儒学が重用された理由を考え，日本の近代でも重要視されたことの間接的な関係を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	近世のたたかう・つながる	○近世の村は現在と比べて小規模であったが、人々の生活は、村のなかで完結していなかった。いまの自分と近世の人々の生活を比較していく。 ・ 近世の文化と情報の伝わり方に着目させる。	・ 近世の一揆や権利をめぐる争いに着目させる。 ・ p. 120の写真①をみて、一揆の訴状の内容や村の境界について明することができる。（知識） ・ p. 121の写真③と史料をつかって近世の俳句や短歌のサークル活動やつながりを説明することができる。（技能）	・ 「考えてみよう」の「なぜ、一揆の訴状が手習いの教材の一つとして選ばれたのだろうか」や「山以外に、複数の村の間で資源を得られる範囲が争われたところにはどのような例があるだろうか」という問いに対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ 「考えてみよう」の「近世には、俳句や短歌を楽しむサークルが各地にできた。どのような条件がととのったからだろうか」や「この百姓は、敦賀から魚肥を仕入れたり、大津で米の取引をしていた。なぜほかの地域の作物の出来を知りたがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「4つの資料のうち一つを選び、その資料が本文のどのページと関連するか、理由もいっしょに考えてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。	1	
	38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題	○吉宗と意次の政治は、どのようなことを背景におこなわれたのだろうか。 ・ 享保の改革を考える。 ・ 田沼意次の政治について考える。	・ 享保の改革の内容や意図に着目させる。 ・ 江戸時代中期の経済の発展に着目させる。 ・ 田沼意次の政治の特徴に着目させる。	・ p. 122のグラフ②をみて、幕府の年貢収穫高の推移の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 122の史料③の内容を説明することができる。さらに「八木」と書いた理由についても説明することができる。（知識） ・ p. 123の表⑦の「徳川氏系図」をみて、将軍家の継承方法について説明することができる。（技能）	・ p. 122のグラフ②の特徴と史料③を出した理由、徳川吉宗の経済政策の特徴について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「徳川吉宗と田沼意次の政治について、共通点と異なる点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 123の絵④、写真⑤、史料⑥をみて、田沼意次の政治の特徴や新しい面について多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 123の田沼意次の政治はかつては賄賂政治の代表で評価が低かったが、現在ではロシアとの貿易など新しい面が評価されている。歴史の評価を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	3 9．商品経済の発達と民衆の運動	○一揆や打ちこわしは、なぜ増加したのだろうか。 ・工業の発達と都市や村との関係を考える。 ・一揆と打ちこわしの背景や影響について考える。	・手工業の発達と地域の発展に着目させる。 ・産業の発達とともに都市と村がどのように変化したのか着目させる。 ・一揆や打ちこわしなど地域の団結や、幕府や藩の統制が利かなくなる過程に着目させる。	・問屋制家内工業と工場制手工業（マニュファクチュア）の違いを説明することができる。（技能） ・p. 124の地図①をみて、代表的産品と産地を説明することができる。（知識） ・p. 125のLink「災害へのそなえ」をみて、江戸時代の防災について説明することができる。（技能）	・p. 124の写真②や絵③などをみて、問屋制家内工業が工場制手工業に移行していった理由や背景について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「商品経済の発達により、都市や村にはどのような変化がおき、どのような運動がみられたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 125の史料⑦で、百姓たちが署名を円形に並べているのはどうしてだろうかという問いに多面的・多角的に考察することができる。	・p. 125のグラフ⑥、史料⑦、絵⑧をみて、一揆がおきた背景を政治や気候の変動との関連で説明する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 ラッコ	○人々がラッコを追い求めた理由を考えてみよう。	・アイヌとラッコとの関係を考える。 ・ラッコの毛皮の交易について考える。	・アイヌの人々はラッコをどのように活用したのか説明することができる。（技能） ・18世紀から19世紀初頭にかけての世界の交易について説明することができる。（技能）	・p. 126の地図①、絵②と③をみて、ラッコが当時の人々にどのように意識されていたのか多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 127の写真④、絵⑤、地図⑥を見て、ラッコの毛皮交易におけるアメリカ船の役割について多面的・多角的に考察することができる。	・「ラッコをめぐる人々の動きは、近世日本の対外関係にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに答え、学習上の課題を解決しようとしている。また、現在の動物乱獲・保護との関係も含めて多面的・多角的に考察できる。	1
	4 0．寛政の改革と欧米諸国の日本接近	○寛政の改革時に、江戸幕府が直面した問題は何だったのだろうか。 ・寛政の改革の内容を考える。 ・19世紀後半ごろの外国船の接近について考える。	・寛政の改革の政策内容に着目させる。 ・松平定信がロシアとの関係にどのような判断をしたか着目させる。 ・諸外国の船がどのように接近したか、それに対する外国船への対応に着目させる。	・p. 128の絵①とp. 129の「ひと」の「大黒屋光太夫」をみて、幕府がロシアとどのような関係をきずこうとしたのか説明することができる。（技能） ・p. 129のTopic「現在の天皇家と光格天皇」をみて、江戸時代における天皇家について説明することができる。（知識） ・p. 129の地図③の「幕府の北方探検」をみて、幕府の北方政策について説明することができる。（技能）	・p. 128の絵①をみて、絵に描かれてる旗や人の配置、長崎奉行所など建物について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「国内の問題（「内憂」）と外国の問題（「外患」）、それぞれの内容・背景と幕府の対応を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 129の地図③と④をみて、日本列島にせまるアメリカやロシアとの関係について多面的・多角的に考察することができる。	・この時期にロシアが日本列島に近づいた理由を解明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 1．江戸時代後期の学問・文化	○民衆が学んだ学問と親しんだ文化は、どのようなものだったのだろうか。 ・江戸時代後期の学問の展開を考える。 ・化政文化について考える。	・民衆の生活と文化に着目させる。 ・この時期の学問の展開の内容について着目させる。 ・化政文化の内容や文化のいない手に着目させる。	・p. 130の絵①をみて、寺子屋での学びの様子について説明することができる。（技能） ・p. 130の絵②「おらんだ正月」を祝う蘭学者たちをみて、西洋風のことを指摘して説明することができる。（知識） ・p. 131の図④の「江戸時代後期の文化・芸術」をみて、文化の内容を説明することができる。（技能）	・p. 130の写真③をみて、この時代に日本の古典に注目があつまった理由について、外国船襲来との関係に留意して多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「元禄文化と場所や文化のいない手が異なる化政文化の特徴には、社会のどのような変化が反映されているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 131の絵⑥の浮世絵の手法に対し、絵⑦のような西洋画の影響のある絵も出た。このことから化政文化の特徴を多面的・多角的に考察することができる。	・外国との関係が文化にも影響が出ることを説明するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 2．天保の改革	○幕府は、国内外の危機にどのように対応しようとしたのだろうか。 ・内憂外患の深刻化を考える。 ・天保の改革の内容と影響を考える。	・江戸時代後期の国内の混乱と外国での戦争の影響に着目させる。 ・天保の改革の政策内容に着目させる。 ・天保の改革の影響と雄藩の台頭に着目させる。	・p. 132の地図①をみて、三方領知替えの内容について説明することができる。（技能） ・p. 133の地図⑤「印旛沼掘割工事」をみて、掘割をおこなった理由や現代への影響を説明することができる。（知識） ・p. 133のTopic「砂糖あるところに奴隷あり」をみて、江戸時代の琉球や奄美大島の様子を説明することができる。（技能）	・p. 132の地図①、絵②をみて、三方領知替えの何が問題だったか、幕府の統制力に対する影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「天保の改革はなぜ失敗したのだろうか。また、改革の失敗は幕府と藩にどのような影響を与えたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 133の絵④に描かれている風刺について抽出し、何を表しているのかグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・経済力が政治力にむすびつくことを示す事例から、政治と経済の関係について考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 八王子	○黒船来航と八王子、開港地横浜と八王子をむすぶ「絹の道」にも注目して考える。	・「絹の道」と八王子との関係に着目させる。 ・「格差」の拡大と武州世直し一揆に着目させる。	・p. 134の地図③を参考に、八王子と養蚕（生糸）との関係について説明することができる。（知識） ・p. 135の絵⑥をみて、武蔵国で世直し一揆が発生した理由を説明することができる。（技能）	・「貿易開始をきっかけに拡大した経済的格差は、社会に何をもたらしたのだろうか」という問いをp. 135の本文記述などを参考に多面的・多角的に考察することができる。	・八王子から横浜まで横浜線が通っている。そして八王子から北の高崎まで八高線が通っている。この2つの路線と絹との関係について多面的・多角的に考察することができる。	1
	近代がやってくる	○近代前夜の世界と日本との関係をみてみよう	・18世紀～19世紀前半の世界を経済という視点で着目させる。	・p. 136の資料Aと資料Bの内容を説明することができる。（知識）	・p. 136のQ. 1の1700年からヨーロッパのGDPがのびている理由、Q. 2の中国のGDPの失速の理由について多面的・多角的に考察することができる。	・p. 137の下段のQ. 1の伝統的な国際関係の特徴、Q. 2の近代的な国際関係の特徴と日本の対応	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
		う。	・ 琉球をめぐる国際関係や世界全体の関係に着目させる。	・ p. 137の資料C～Fの内容を説明することができる。（技能）	・ p. 137上段のQ. 1のペリー艦隊が琉球や小笠原諸島に立ち寄った理由，Q. 2のペリーが琉米修好通商条約をむすんだ理由について多面的・多角的に考察することができる。	を追究する学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生	○近世の人々の人生を考える。	・ 近世の武士と百姓の生活について着目させる。	・ 近世の武士の風習や生活について説明することができる。（知識）	・ 近世の人々の結婚，出産，あそび，老いなど人生の営み，武士と百姓の関係性についても多面的・多角的に考察することができる。	・ 近世の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて，人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	
	時代と社会を考える「近世」			・ 近世の百姓の風習や生活について説明することができる。（知識）			
2 学 期 後 半	第 7 章	■第 7 章のねらい ・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに，近世から近代への時代の転換を理解することをねらいとしている。 ・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現すること。近世から近代への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，対外的な環境や交流，中学校社会科歴史的分野での「大観し」て「時代の特色」を考察し表現する学習を踏まえ，前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し，探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習を行う。		・ 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に，近世から近代への時代の転換を理解している。	・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現している。時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現している。	・ 時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習については，小項目（7）の近世から近代への転換の理解や，「中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用する」（内容の取扱い）とともに，「歴史総合」の学習で獲得した概念などを活用し，近世との比較や他地域や他国との比較などを通して，例えば，当時の我が国が直面していた国内外における諸課題やその対応，政治や経済など諸側面の変化などから，近代の特色について多面的・多角的に考察する学習などが考えられる。時代を通観する問いを表現する学習については，小項目（7）の学習や，近代の特色についての考察などから生じた様々な疑問を相互に表現する活動などを通じて，それらの疑問をもとに，教師が問いかけをおこなうなどして，近代の特色について課題意識をもって考察できるように指導を工夫する。それらをふまえて，生徒が，例えば，「日本は，どのような契機によって，近代的な社会の形成に向かったのだろうか」など，近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 3．開国	○ペリーはなぜ来航し，幕府や大名はどのように対応したのだろうか。 ・ペリー来航の背景やできごとについて考える。 ・開国の影響を考える。	・ペリー艦隊の経路や目的，日米和親条約の内容に着目させる。 ・安政の五か国条約の内容や影響に着目させる。 ・貿易がはじまったことによる日本国内への影響に着目させる。	・p. 144の絵①と②をみて，日本の人々がアメリカ人をどう考えていたのか，罫に書かれている品目について説明することができる。（技能） ・p. 145の史料③「日米修好通商条約」をみて，条約の内容や問題点を説明することができる。（知識） ・p. 145のグラフ④と⑤の内容を説明することができる。（技能）	・p. 145の「資料を読みとろう」をみて，「開国後の貿易で輸出の大半を占めていたものはなんだろう」という問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「開国によって，日本の政治と社会はどのように変容したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 145のグラフ④にある横浜港の位置づけ，輸出入の増加，グラフ⑤で生糸の輸出が多い理由，イギリスの割合が高くアメリカが低い理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・外交が国内政治に与える影響について，幕末と現代とを比較検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 4．倒幕と「ええじゃないか」	○徳川幕府は，どのようにして倒れたのだろうか。 ・倒幕に至る過程について考える。 ・徳川幕府の滅亡と新政権の動きを考える。	・尊王攘夷運動と倒幕運動の関連に着目させる。 ・倒幕運動の動きに着目させる。 ・世直し一揆など民衆の動きと徳川幕府滅亡の関連に着目させる。	・p. 146の絵①をみて，描かれている内容，書かれている神号や神社について説明することができる。（技能） ・p. 147の表②「倒幕の動き」を，絵③や④を使いながら説明することができる。（知識） ・p. 147の表②をみて，幕府・長州藩・薩摩藩の動向やねらいについて本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 146の注「生麦事件」の説明，p. 147絵③をみて，生麦事件が薩摩藩とイギリスとの関係に与えた影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「徳川幕府から新政府への政権交代を，人々は「御一新」とよんだ。そこには，どのような思いがこめられていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 147のTopic「三浦命助と世直し一揆」の文章を読んで，三浦が仙台藩の協力を得られたことの理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・幕末の動きは大河ドラマでも数年おきに扱われるなど人気の時期である。それはなぜなのだろうか。現代人の歴史意識を検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	4 5．明治維新	○天皇はなぜ京都から江戸に移ったのだろうか。 ・戊辰戦争と新政府の始動について考える。 ・新政府の体制づくりの内容を考える。	・戊辰戦争の経過やその過程での混乱の様子に着目させる。 ・新政府が戊辰戦争のさなかでどのようにつくられはじめたのかに着目させる。 ・新政府が中央集権制をめざす過程に着目させる。	・p. 148の絵①をみて、風刺画に描かれている人物や描かれている内容について説明することができる。（技能） ・p. 148の絵②「東京府御酒頂戴 江戸橋日本橋風景」をみて、描かれている内容について説明することができる。（知識） ・p. 149の史料③をみて、書かれている内容や新政府の意図について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 148の絵①と②を比較して、天皇の描き方の違いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「新政府はなぜ、人々に江戸時代とかわらない生活を求めたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 149の地図④「廃藩置県後の全国地図」とp. 107地図④「主要大名の配置図」を比較して、共通点や相違点、気がついたことなどをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 149のTopic「『夜明け前』の世界」を読んで、文学が同時代をどのように省察しているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 6．文明開化	○文明開化の背景には、どのような事情があったのだろうか。 ・人々の編成替えや文明の変化について考える。 ・岩倉使節団の内容や意義を考える。	・「四民平等」の内容や問題点に着目させる。 ・岩倉使節団の経路や派遣された留学生に着目させる。 ・文明開化の内容に着目させる。	・p. 150の絵①をみて、風刺画に描かれている禁止事項の内容や絵が描かれた背景について説明することができる。（技能） ・p. 151の史料③「岩倉使節団の視察レポート」をみて、史料が述べている内容について説明することができる。（知識） ・p. 151の「ひと 福沢諭吉」をみて、福沢の思想やその背景について本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・p. 150の地図②の「岩倉使節団の経路」をみて、このような経路や経由地をたどった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「人々にとって、文明開化とはどのようなものだったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 151のTopic「神と仏の明治維新」を読んで、明治新政府の宗教政策を徳川幕府の政策との比較をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 151の「文明開化」を読んで、現代への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 7．富国強兵	○新政府は、どのような国づくりをめざしたのだろうか。 ・ 地租改正や殖産興業などの政府の政策について考える。 ・ 国民皆兵と政府への反発について考える。	・ 地租改正の意味と問題点に着目させる。 ・ 殖産興業など新しい政策に着目させる。 ・ 軍隊が誕生したことによる影響に着目させる。	・ p. 152の絵①をみて、描かれている欧米の先進文明について説明することができる。（技能） ・ p. 152の「ひと 渋沢栄一」をみて、渋沢栄一と殖産興業との関連を説明することができる。（知識） ・ p. 153の絵③「西南戦争の様子を描いた錦絵」をみて、西郷軍と新政府軍の装備の違い、描かれ方など本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 153の史料④の「徴兵告諭」をみて、内容とともに、軍人勅諭や徴兵令との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「政府に異を唱えた人々は、なぜ一気や武力反乱といった手段をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 152～153の「殖産興業」で、鉄道・郵便・電信などのネットワークをきずくことがなぜ重要であったのかを「歴史総合」で学んだイギリスの事例と比較して、それをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 153の「時代を通観する問いをたてよう」の「欧米諸国のアジア進出は日本にも影響を与え、幕府の崩壊と新政府の成立にいたった。新政府は幕府とは異なる国づくりをすすめた。あなたはこの変化のどのような点に疑問をもつか、文章にしてみよう」という学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史資料と近代の展望	○軍隊と戦争から日本の近代社会について考えてみよう。	・ グラフや当時の書籍をみて、人々の生き方に着目させる。 ・ 錦絵や絵すごろくに描かれた軍隊や兵士の姿に着目させる。 ・ 当時の軍隊の組織図や写真をみて、軍隊のおかれた場所に着目させる。	・ p. 154のグラフ①の特徴を指摘することができる。（技能） ・ p. 154～155の絵③と④に描かれた軍人や兵士の姿を指摘して説明することができる。（知識） ・ p. 155の表⑤で、師団が配置されている場所の特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 154の写真②の『徴兵免役心得』で「甲種合格、クジのがれ」を願った人が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 154～155の絵③と④をみて、軍隊や兵士が描かれている理由や作者の意図を多面的・多角的に考察できる。 ・ p. 155の写真⑥をみて、女性がどのような役割をになったのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ 「仮説をたてよう」の「徴兵制が存在した戦前に生きた男性の経験と徴兵の対象外だった女性の経験、軍隊のおかれた地域の傾向などに着目して、日本の近代にはどのような特徴があるか、仮説をたててみよう。また、その理由を説明してみよう」という問いに多面的・多角的に考察できる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	4 8．国境の画定	○日本はなぜ，朝鮮を開国させたのだろうか。 ・ 東アジアとの外交関係について考える。 ・ 蝦夷地と琉球について考える。	・ 日本と清や朝鮮などの東アジア地域との関係に着目させる。 ・ 蝦夷地から北海道編入の流れに着目させる。 ・ 琉球国を日本の一部とした琉球処分に着目させる。	・ p. 156の絵①や絵②をみて，江華島事件の様子や場所を説明することができる。（技能） ・ p. 157の地図③をみて，国境の画定の様子を説明することができる。（知識） ・ p. 157の絵④「那覇港に帰った琉球使節」をみて，何が描かれているのかを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 156のTopic「朝貢から条約へ」をみて，冊封体制と新しい国家関係を比較して両者の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日本はいそいで国境を画定するために，どのような方法をとったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 156の絵①の「永宗島や江華島にきずかれた砲台は，どこを守るためのものだったのでしょうか」という問いに地図②を使いながらグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 157の地図③や⑥を使って領土とは何かという問題について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	4 9．自由民権運動	○演説している人は，何を訴えているのだろうか。 ・ 自由民権運動がはじまるきっかけを考える。 ・ 自由民権運動の展開を考える。	・ 自由民権運動の誕生と国家統制との関係に着目させる。 ・ 結社の役割に着目させる。 ・ 自由民権運動のひろがりに着目させる。	・ p. 158の絵②をみて，着物姿の女性が何を考えているのか，とくに服装の違いに着目して説明することができる。（技能） ・ p. 159の史料③をみて，書かれている内容やこの建白書が与えた影響を説明することができる。（知識） ・ p. 159の表④「自由党と立憲改進黨の比較」をみて，２つの政党の違いを本文記述を参考に説明することができる。（技能）	・ p. 158の絵①の「資料を読みとろう」をみて，２人の人物が語っていることを想像し，自由民権運動と国家統制との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「自由民権運動には，どのような人々が，どのような期待をいだきながら参加していたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 158の絵①や②，p. 159の「ひと 植木枝盛」，本文記述を参考に，自由民権運動における男女の違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 159の史料③や本文記述を参考に，自由民権運動が現代に与えた影響について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 0．激化事件	○松方デフレは，どのような成果や問題をうみだしたのだろうか。 ・ 松方財政について考える。 ・ 激化事件や困民党の動きを考える。	・ 松方正義のデフレ政策の内容や影響に着目させる。 ・ 激化事件の内容と政府の弾圧に着目させる。 ・ 困民党の運動とその影響に着目させる。	・ p. 160の絵①をみて，どのようなものの価格が下がったのかを説明することができる。（技能） ・ p. 161の絵②「法廷の被告」をみて，描かれている内容やこの絵が表現したかった事柄を説明することができる。（知識） ・ p. 161の「ひと 井上伝蔵と謝花昇」をみて，２つの思想の共通点と行動の違いを説明することができる。（技能）	・ p. 160の絵①「松方デフレで下落する物価」をみて，物価の下落による影響とくに民権運動との関連を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「民権派と困民党はなぜすれちがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 161の困民党の記述で，民権運動が激化した場所の共通点についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 160～161の「激化事件」の本文記述をみて，経済政策が与える影響について，あなたはどうか考えるのかという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 1. 大日本帝国憲法	○民権派や困民党の運動は、憲法制定にどのようなにつながったのだろうか。 ・ 憲法制定と近代天皇について考える。 ・ 選挙と議会の動きを考える。	・ 大日本帝国憲法の制定過程や内容に着目させる。 ・ 近代の天皇制に着目させる。 ・ 初期議会と選挙の動向に着目させる。	・ p. 162の写真①・②・③をみて、3枚の肖像画はそれぞれいつごろ（明治天皇が何歳くらい）のものだろうかという問いを説明することができる。（技能） ・ p. 163の史料③の「大日本帝国憲法」をみて、憲法の内容について説明することができる。（知識） ・ p. 163のTopic「天皇と家族規範」をみて、当時考えられた「家」のあり方、洋装と和装の違いを説明することができる。（技能）	・ p. 162の写真①・②・③、絵④・⑤をみて、④と⑤で天皇がどこにいるのか、5つの写真や絵での明治天皇の服装や描かれ方、天皇にどのようなイメージを与えようと考えられたのかといった問題を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「天皇は、当時の人々にとってどのような存在だったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 161のTopic「天皇と家族規範」や絵⑤、絵②「憲法発布の式典の様子」などの女性の描かれ方についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 163の史料③「大日本帝国憲法」の本文記述をみて、現行の日本国憲法と比較して現代を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	第8章	■第8章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえることをねらいとしている。 ・ 日清・日露戦争、第一次世界大戦については、戦争が及ぼした影響などに着目して、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し、それぞれの講和条件などから、形成される国際秩序と我が国の関わり、近隣諸国、諸地域との関係について確認する。さらに、日清・日露戦争前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配をすすめたことや、第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化を確認するなどの学習をおこなう。		・ 明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	・ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ この小項目の内容の確かな理解をはかるためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、当時の様々な立場の人々が日本のおかれた状況やあるべき姿をどのように意識していたと考えるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、世界を認識したこの時代の人々の意識や判断を考察する学習や、「あなたは、地域社会が近代をむかえたのはいつだと考えるか、またそれはなぜか」、「あなたは、対外的な戦争は日本の近代化の過程の中で、どのような意味をもったと考えるか」などの問い（課題）を設定して、地域における近代国家の形成についてそれぞれの考えを表現して根拠をもとに議論したり、戦争がもたらした国内的、国際的な変化それぞれの重要性や相互の関係について根拠をもとに考察したことを表現したりするといった学習が考えられる。	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 2．日清戦争	○なぜ日本は、清と戦争をしたのだろうか。 ・ 日清戦争前の東アジア情勢について考える。 ・ 日清戦争の内容を考える。	・ 日本政府の欧化政策と国内での国粋主義の動きに着目させる。 ・ 1880年代の朝鮮半島をめぐる動きに着目させる。 ・ 日清戦争の原因，経過，講和と台湾征服戦争に着目させる。	・ p. 164の絵①をみて，鹿鳴館の建物の様子，参加している人の服装の特徴を説明することができる。（技能） ・ p. 164の表③の「条約改正のあゆみ」をみて，条約改正の責任者や交渉内容について説明することができる。（知識） ・ p. 165の地図⑤「日清戦争と台湾の征服」をみて，日清戦争のおもな戦場や日本軍の進路を説明することができる。（技能）	・ p. 164の表③「条約改正のあゆみ」，絵④「ノルマントン号事件」をみて，条約改正交渉のきっかけ，途中でイギリスが日本に協力的になった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日清戦争は，これまで日本がおこなった戦争と何がちがうのか，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 165の絵⑥「征清海陸進軍双六」をみて，広島に大本営がおかれた理由，海路が佐世保が起点になっている理由，北京が「あがり」となっている理由をおもな戦場がどこであったのかに注意しつつグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 165の絵⑦「台湾の割譲に反対する会議」，台湾征服戦争に関する本文記述をみて，台湾の人々が日本にどのような歴史的意識をもっているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 3．1900年前後の世界と東アジア	○日清戦争後，日本・中国・朝鮮の関係はどうか変わっただろうか。 ・ 世界と日本の帝国主義について考える。 ・ 1900年前後の東アジア情勢を考える。	・ 欧米と日本の帝国主義の動きに着目させる。 ・ 日本人の中国や朝鮮に対する意識の変化に着目させる。 ・ 義和団戦争と当時の国際情勢に着目させる。	・ p. 166の絵①「列強による中国分割」をみて，どのような国が中国に進出したのか説明することができる。（技能） ・ p. 166の表④の割譲や租借，それに借款といった用語を具体的事例を用いながら説明することができる。（知識） ・ p. 167の絵⑤「日本人の中国観の変化」をみて，ここに描かれている中国人への侮蔑意識とその背景を説明することができる。（技能）	・ p. 166の絵②「分割される中国の風刺画」をみて，この絵に描かれている人物，右手の女性が左の男性の肩に触れている理由，中国人の描かれ方などを多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「帝国主義時代の国と国との関係の特徴は何か，話しあってみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 167の写真⑤「沖縄県の『国語』の教科書」をみて，このような構成になった理由を琉球処分との関係も考慮に入れグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 166～167の本文記述をみて，中国分割の影響は現在どのように残っているのかを考えるとという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 4．日露戦争	○日清戦争後，日本では戦争に対してどのような意見が出てきただろうか。 ・日露戦争の前後の世界と日本の帝国主義について考える。 ・日本の韓国併合について考える。	・日露戦争前の国内世論や戦争の全体，日本の朝鮮侵略に着目させる。 ・ポーツマス条約の内容やその後の日本の行動に着目させる。 ・韓国併合にいたる過程に着目させる。	・p. 168の絵①「日本とロシアの対立の風刺画」をみて，描かれている内容や描かれている国々がどこかを説明することができる。（技能） ・p. 168の地図②「日露戦争関係図」をみて，日本軍の進路や戦場について説明することができる。（知識） ・p. 169の表⑤「20世紀初頭の日韓関係」をみて，韓国併合にいたる過程を説明することができる。（技能）	・p. 168の地図②「日露戦争関係図」とp. 169の地図④を比べ，地名や地図の書き方などの違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「日露戦争と日清戦争の違いは何か，考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 169の「ひと　内村鑑三」や本文記述を参考に，日露戦争をめぐる国内世論の動向についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 169の南満洲鉄道株式会社について，今日の鉄道会社の事業と比較して，共通点と相違点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 5．社会問題と地域社会	○産業革命は，人々に何をもたらしたのだろうか。 ・日本の産業革命について考える。 ・20世紀初頭を中心とした日本の社会問題について考える。	・日本の産業革命の内容と地域への影響に着目させる。 ・労働者のはたらく時間や賃金などの社会問題の認識に着目させる。 ・社会主義の冬の時代に着目させる。	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」をみて，日本の鉄道網について説明することができる。（技能） ・p. 170の史料②「工女節の一節」をみて，歌詞の内容を説明することができる。（知識） ・p. 170の表③「1897年の輸出入の内訳」をみて，日本の輸出入の産品について説明することができる。（技能）	・p. 170の地図①「20世紀はじめの鉄道網」と本文記述を参考に，日本が鉄道建設を積極的におこなった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「女工は，どのような背景のもとでうみだされ，どのような役割をになったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 171の絵④，写真⑤，Topic「足尾暴動と友子同盟」をみて，鉱夫が暴動をおこした理由を本文記述を参考にグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 171の工場法の内容を調べ，現在の労働法規との違い，現在の労働法規の問題点を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	5 6．大正デモクラシー	○都市の人々は、なぜポーツマス条約の締結に反対したのだろうか。 ・日露戦争後の社会や民衆の様子について考える。 ・大正デモクラシーについて考える。	・日露戦争後の民衆の行動や桂園時代の世相について着目させる。 ・第1次護憲運動に着目させる。 ・大正デモクラシーと中国の動向に着目させる。	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」をみて、焼き打ちに参加した人を姿や持ち物などから説明することができる。（技能） ・p. 173の史料③「吉野の民本主義」をみて、史料の内容を説明することができる。（知識） ・p. 173の表④「20世紀はじめの内閣と出来事」をみて、このころの政治状況を説明することができる。（技能）	・p. 172の絵①「日比谷焼打ち事件」と本文記述を参考に、焼打ち事件が発生した背景、人々が政治的な主張をするようになった理由を産業革命との関係をまじえ多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「大日本帝国憲法のもとでのデモクラシーには、どのような課題があったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 173のTopic「大正教養主義」をみて、江戸時代の人々の考え方と比較するグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 172～173の大正デモクラシーの考え方が現代にどのような影響を与えたのか探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	5 7．第一次世界大戦と日本	○第一次世界大戦によって、日本と世界はどのようにかわったのだろうか。 ・第一次世界大戦と日本との関係について考える。 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制と日本との関係について考える。	・第一次世界大戦の全体像に着目させる。 ・帝国日本の膨張に着目させる。 ・ロシア革命と大戦終結後の世界に着目させる。	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」をみて、連合国側と同盟国側の構成を説明することができる。（技能） ・p. 174の地図②「第一次世界大戦中の日本の進出」をみて、日本の進出の様子を説明することができる。（知識） ・p. 175の史料⑥「元老井上馨の進言」をみて、井上の「天佑」という言葉の意味や発言の趣旨を説明することができる。（技能）	・p. 174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」と本文記述を参考に、同盟国と連合国がまとまった理由やイタリアが三国同盟を離脱した理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「第一次世界大戦とその後の国際秩序のなかで、日本はどのような立場にあったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 175の「ひと ウィルソン・レーニン」やTopic「国際連盟」をみて、2人の人物が戦後構想をどのように考え、実際にどのようなになったのか、あなたならどう考えるかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 174の地図①・②をみて、どうして世界大戦とよぶようになったのかを考え、戦争が各国を巻き込む過程を探るという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	5 8．資本主義の成長	○第一次世界大戦後の日本経済はどのようにかわっていったのだろうか。 ・日本の資本主義の発達について考える。 ・日本の都市と農村の実態について考える。	・大戦景気の内容に着目させる。 ・日本の資本主義の発展の様子に着目させる。 ・都市の発達の様子と農村の実態、都市と農村との関係に着目させる。	・p. 176のグラフ①「貿易額の推移」をみて、第一次世界大戦中と戦後の貿易額の違いを説明することができる。（技能） ・p. 177のグラフ④「荷車・人力車・自転車・自動車の数」をみて、日本人の移動手段の変化を説明することができる。（知識） ・p. 177の写真⑦「講義録」をみて、書かれている内容を説明することができる。（技能）	・p. 176のグラフ①「貿易額の推移」，グラフ②「産業構造の変化」，写真③と本文記述を参考に，日本の産業構造の変化を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「資本主義の成長は都市・農村の社会をどのようにかえていったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 176のTopic「労働者の姿」やp. 177のグラフ④「荷車・人力車・自転車・自動車の数」，写真⑥の金沢の様子をみて，都市と農村の関係，農村のかかえる問題，交通機関の発達との関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 177の本文記述をみて，都市の農村との関係を100年前と現在を比較して考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のはたらく・あそぶ	○近現代では，はたらくことでむすびあう人々の関係はどのようにかわったのか。子どもの権利条約の「あそぶ権利」も参考に，この条約がうまれた背景も考えてみる。	・都市と農村での労働に着目させる。 ・祝祭日やあそびの変化に着目させる。	・p. 178の絵①「筑豊炭坑絵巻」や史料②「女工小唄」をみて，当時の労働実態について説明することができる。（知識） ・p. 179の絵④「新板子供遊尽し」をみて，あそびの内容を説明することができる。（技能）	・p. 178の本文や図版をみて，都市と農村の労働の違いをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・TRYの「江戸時代から明治時代になって，「休む」ことにおこった変化は何だろう」という問いに対して，さまざまな図版を利用して多面的・多角的に考察することができる。	1
	5 9．改造の時代	○米騒動はなぜおこり，参加した人々は何を求めたのだろうか。 ・米騒動など社会運動の高まりについて考える。 ・被差別部落や女性解放の動きについて考える。	・米騒動の内容や背景に着目させる。 ・社会運動の高まりを分野別の観点から着目させる。 ・女性解放について現在との比較の観点から着目させる。	・p. 180の絵①「米騒動絵巻」，絵③「ヤマの米騒動」をみて，描かれている内容を説明することができる。（技能） ・p. 181の写真④「さまざまな『改造』」をみて，それぞれの特徴や違いを説明することができる。（知識） ・p. 181の写真⑤「娼婦運動に関連する論説」をみて，書かれている内容を説明することができる。（技能）	・p. 181の絵①「米騒動絵巻」，写真②の新聞記事，絵③「ヤマの米騒動」をみて，米騒動が都市，漁村，炭鉱でおきた理由や背景の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「それぞれの社会運動にとって「改造」とは何を意味していたのだろうか。まとめてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 181の写真⑤の新聞記事，注「母性保護論争」，写真⑤の雑誌の表紙，本文記述を参考に，当時の女性解放運動の内容，問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 180～181の記述をみて，今日の社会運動との共通点や相違点を比較考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 0．植民地	○植民地をもつことで、日本はどのようにかわったのだろうか。 ・日本の植民地と解放運動について考える。 ・人々の移動について考える。	・日本の植民地の特徴や「内地」との違いに着目させる。 ・日本の植民地でおきた民族解放運動や独立運動に着目させる。 ・植民地間、「内地」と植民地での人の移動に着目させる。	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」をみて、日本の植民地獲得の過程を説明することができる。（技能） ・p. 182の写真②「朝鮮銀行券と台湾銀行券」、写真③「植民地の産業」、本文記述をみて、日本の植民地支配の内容を説明することができる。（知識） ・p. 183の地図⑥「日本からの移民」をみて、人の移動の様子や数値を説明することができる。（技能）	・p. 182の地図①「日本の植民地の拡大」、注①の記述を参考に日本の各植民地の支配方法の違いを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「台湾や朝鮮では、どのような植民地支配がおこなわれたのか、調べてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 183の表⑤「都道府県別の海外移民数」を参考に「資料を読みとろう」に答え、その地域が多い理由をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 182～183の記述をみて、日本の植民地支配がこんにちに与えている影響を考察するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 京城(ソウル)	○日本の植民地であったころの「京城」、その後の大韓民国のソウルの歴史を考える。	・「漢城」と「京城」の歴史と特徴に着目させる。 ・「ソウル」の発展や特徴に着目させる。	・p. 184の地図①、写真②・③を参考に、「漢城」・「京城」の特徴を説明することができる。（知識） ・p. 185のグラフ④をみて、「京城」の人口の推移を説明することができる。（技能）	・「台北（台湾）、大連（関東州）、豊原（樺太）など、日本のほかの植民地都市についても調べてみよう」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・日本の東京と韓国のソウルの歴史や街の構成を比較して両者の共通点や相違点を多面的・多角的に考察することができる。	1
	第 9 章	■第 9 章のねらい ・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、近代を展望する仮説を踏まえるとともに、「歴史総合」での学習の成果を活用して、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。その際、大項目 A から C までの前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近現代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることをねらいとしている。		・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	・国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・内容の確かな理解を図るためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道を立てて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、国際連盟を脱退した時期の情勢のなかで、日本が国際的孤立を避けるために、どのような外交関係をむすぶことが有効であったと考えられるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、日本が国際的孤立を回避するために、アメリカ合衆国やソヴィエト連邦など国際連盟未加入国やドイツ・イタリアとの関係を、どのように構築しようとしたかを考察したり、「あなたは、戦争が不可避となった画期について、どの出来事がそれにあたると考えるか、当時、どのような根拠にもとづいてそれが選択されたと考えるか、現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して、世界恐慌を契機とした保護貿易主義のひろがりや全体主義の台頭、中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして、当時の国際状況、国内状況	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
						についての考察をふまえ、歴史のなかで、どのような判断が何を根拠におこなわれたのかについて、根拠をもとに考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。その際、当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の回顧録などから、当時どのような観点で議論がすすめられたのかなどについて考察したりして、現代の視点と比較しながら議論するなどの学習も考えられる。また、第二次世界大戦の学習については、この戦争が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらし、人類の文化と生活を破壊したこと、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国においても各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下をはじめ空前の戦禍を被ったことに着目させ、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚させるようにする。	
	6 1. 普通選挙と治安維持法	○震災の前後で都市はどのようにかわっていったのだろうか。 ・都市の変容と関東大震災について考える。 ・1920年代前半の日本の政治を考える。	・都市の変容と関東大震災の影響，人々の生活の変化に着目させる。 ・政党内閣の動きに着目させる。 ・普通選挙法と治安維持法の内容や影響に着目させる。	・ p. 186の絵①と写真②をみて，関東大震災でどのような経験の人々がしたのか説明することができる。（技能） ・ p. 187の写真④「文化住宅」と写真⑤「阪急百貨店」，本文記述を参考にして，当時の人々の生活の様子を説明することができる。（知識） ・ p. 187の「ひと 市川房枝」をみて，女性運動について説明することができる。（技能）	・ p. 186の絵①「小学生が描いた関東大震災」，本文記述をみて，関東大震災の混乱のなかで朝鮮人・中国人虐殺や社会運動の指導者が殺害された理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「普通選挙の導入によって政治と民衆の関係はどのように変化したのだろうか」という問いに対し，多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 187の普通選挙法の問題点，治安維持法が普通選挙法と同時に制定された理由，ソ連との国交樹立との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・新聞や雑誌，ラジオやテレビ，そしてSNS社会といった情報伝達装置の発達が人々の生活にどのような影響をもたらすのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価基準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	6 2．大日本帝国の選択肢	○大日本帝国はどのような国内政治・外交をおこなったのだろうか。 ・国際協調と軍縮について考える。 ・日本の中国進出と昭和恐慌について考える。	・軍縮条約や不戦条約などの意義に着目させる。 ・政党政治の動向と対中政策の動きに着目させる。 ・世界恐慌と昭和恐慌が与えた影響に着目させる。	・p. 188の写真①東方会議と写真②ロンドン海軍軍縮会議をみて、それぞれの会議で何が議論されたのかを説明することができる。（技能） ・p. 189の地図③「北伐と山東出兵」をみて、中国国内の動向と日本との関係を説明することができる。（知識） ・p. 189の写真⑥の人々がなぜ預金を引き出そうとしたのか、理由を説明することができる。（技能）	・p. 188の「ひと 石橋湛山」をみて、石橋の小日本主義がどのように画期的であったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「経済のたてなおしのためどのような選択肢が考えられたのか、調べてみよう」という問いに対し、多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 189の世界恐慌と昭和恐慌の影響を都市部と農村に分けて調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 189の写真④と⑤をみて、選挙権をもった人の割合、女性と政治の関係を現在の18歳選挙権との関係もあわせて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 3．満洲事変とモダニズム	○満洲事変はどのようにして人々の支持を集めたのだろうか。 ・満洲事変の内容とその後の状況について考える。 ・二・二六事件の内容とその影響について考える。	・満洲事変の原因、日本の対応、国際連盟脱退の一連の動きに着目させる。 ・戦争と文化・社会の関連に着目させる。 ・五・一五事件や二・二六事件など軍部が暴走する時代に着目させる。	・p. 190の写真①とマンガ②の関係を説明することができる。（技能） ・p. 190の地図③「満洲事変関係要図」をみて、満洲事変の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 191の写真⑥の人々がおこなっている千人針がどういうものか、そして誰がお願いしているのかを説明することができる。（技能）	・p. 190のTopic「国防婦人会」をみて、女性と戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「戦争はどのような社会状況のもとでおこなわれていたのだろうか。まとめてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 191の「ひと ヒトラーとムッソリーニ」をみて、日本との共通点と相違点を調べ、グループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 190の満洲事変の記述をみて、軍隊は政府と同一でないことを確認するとともに、現在の文民統制（シビリアン・コントロール）がなぜ重要なのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 4．日中戦争と総力戦	○日中戦争はなぜ長期化していったのだろうか。 ・盧溝橋事件とその後の日本の中国進出について考える。 ・日本の新体制について考える。	・盧溝橋事件と日中戦争、第二次国共合作など一連の動きに着目させる。 ・日中戦争が長期化した理由に着目させる。 ・日本は長期化した戦争を継続するためどのような政策をおこなったかに着目させる。	・p. 192の写真①と②から、戦争と民衆との関係について説明することができる。（技能） ・p. 192の地図③「日中戦争関係図」をみて、日中戦争の動きを地図上で説明することができる。（知識） ・p. 193の写真⑥について、「読み解きのツボ」にある人文字の数字が何を表しているのか説明することができる。（技能）	・p. 193のグラフ④「村の応召者」をみて、赤紙応召者、現役入隊、志願の割合の変化とその理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「兵士たちはどのような思いで戦場に向かったのだろうか。話しあってみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 193の「ひと 火野葦平と宮柊二」をみて、文学と戦争との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 192のLink「南京事件」をみて、いろいろと見解の分かれる歴史的な問題に冷静に学問的にどのように対応すべきか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6 5．アジア太平洋戦争	○この戦争をアジア太平洋戦争とよぶのはなぜだろうか。 ・第二次世界大戦直後の日本の動向について考える。 ・アジア太平洋戦争の実態を考える。	・第二次世界大戦がはじまったころの日本の南進やソ連との関係に着目させる。 ・アジア太平洋戦争の前半の動向に着目させる。 ・大東亜共栄圏の内容に着目させる。	・ p. 194～195の本文記述をみて、アジア太平洋戦争の流れを説明することができる。（技能） ・ p. 194の史料③「南方占領地行政実施要領」をみて、史料に書かれていることを説明することができる。（知識） ・ p. 195の地図④「アジア太平洋戦争の展開」に表されている内容を時間の経過とともに説明することができる。（技能）	・ p. 194の写真①「大東亜共栄圏すごろく」をみて、どの地域が描かれているか、「上り」と「ゴール」の位置、このすごろくが作られた目的について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「「大東亜共栄圏」のもと、人々はどのような暮らしをしていたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 194の写真②，Topic「中国戦線の日本軍」をみて、日本の中国における植民地政策の内容や問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 194～195のアジア太平洋戦争には太平洋戦争という呼び方もあり，戦時中は大東亜戦争とも呼ばれていた。戦争の呼称について何が適切であるのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 6．敗戦	○総力戦は，民間人をどのような危険にさらしたのだろうか。 ・ 国民生活や戦線が破綻していく様子について考える。 ・ 日本の敗戦を考える。	・ 国民生活の破綻に着目させる。 ・ 戦線の崩壊の様子に着目させる。 ・ 日本の降伏への流れに着目させる。	・ p. 196の写真③や本文記述をみて，戦争によって戦闘員以外の民間人がどのような生活をしていたのかを説明することができる。（技能） ・ p. 196のポスター②，p. 197のポスター④，⑤，写真⑥をみて，10代半ばの少年が戦時中どのような生活をしていたのか説明することができる。（知識） ・ p. 197のTopic「8.15で終わらなかった戦争」をみて，日本が降伏した後でもどのような戦闘や悲劇が繰り返されたのかを説明することができる。（技能）	・ p. 196の地図①「全国主要都市での空襲・艦砲射撃」をみて，どの地域に空襲が多かったのか，空襲や艦砲射撃が多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「戦局が悪化しはじめてから日本が降伏するまで，長い時間がかかったのはなぜだろう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 197の本文で，「集団自決」と「強制集団死」の2つの言葉の違いは何か，どちらの言葉（もしくはさらに別の言葉）を使うのが良いのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 196～197の本文や資料をみて，戦争によって人々の生活はどうなるのか，原子爆弾の被害をどのように継承するのか検討するという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	地域にフォーカス 広島	○被爆以前の広島はどのような地域だったのか，原爆と平和だけでない広島の歴史を考える。	・ 水の豊かな城下町から軍事都市への変貌に着目させる。 ・ 移民を送り出した背景や原爆投下の実態に着目させる。	・ p. 198の地図①，写真②・③を参考に，広島 of 歴史を説明することができる。（知識） ・ p. 199のグラフ④をみて，移民を多く送り出した都道府県の特徴を説明することができる。（技能）	・ 「あなたの街や地域の性格は，どのようなことをきっかけに決まったり，かわったりしてきたのだろうか」という課題を調べ学習を通じておこない多面的・多角的に考察することができる。	・ 原爆が投下されたもうひとつの街，長崎と広島との共通点と相違点を考え，戦争で街がねらわれるというのはどういうことかという点を多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート	・ 準拠ノート	・ 討論や発表	
				・ 定期テスト問題	・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題）	・ ワークシート	
			・ 一問一答問題		・ ワークシート		
	第 1 0 章	■第 1 0 章のねらい ・ 近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉えることをねらいとしている。 ・ これまでの学習をふまえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりをふまえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習をおこなう。持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が地域社会や身の回りの事象と関連させた主題を設定して探究する。		・ 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・ 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、いままでの学習でみいだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察することができる。		
	6 7．世界のなかの日本占領	○戦後の国際関係は、占領にどのような影響を与えたのだろうか。 ・ 戦後世界の状況について考える。 ・ 日本の民主化や戦争責任の追及について考える。	・ 国際連合や冷戦など戦後世界の形成過程に着目させる。 ・ GHQの間接統治の内容に着目させる。 ・ 戦争責任の追及と女性の参政権に着目させる。	・ p. 200の地図①をみて、旧大日本帝国領のどこを連合国側が占領したのかを説明することができる。（技能） ・ p. 200の図③をみて、GHQの間接統治のしくみを説明することができる。（知識） ・ p. 200～201の本文をみて、GHQのすすめた改革について説明することができる。（技能）	・ p. 200の図③「連合国軍の日本占領管理・統治機構図」をみて、日本の「本土」と沖縄との違い、さらに「本土」と朝鮮半島の違いについてその理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「占領政策によって、敗戦までの日本の何が否定され、どこまでかわれたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 201のLink「戦争を裁く」をみて、パリ不戦条約との関係、ニュルンベルク裁判と東京裁判の比較をして、戦争犯罪を裁く意味をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 201の女性参政権の本文記述を参考に、女性の権利が戦前と戦後でどのように変化し、さらに現代との比較をすることによって女性の権利を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	6 8．占領改革と日本国憲法	○改革のなかで、人々は新たな権利をどのように獲得したのか。 ・ 経済の改革と日本国憲法の制定について考える。 ・ 社会の改革や民主化について考える。	・ 経済の改革や労働三法の制定に着目させる。 ・ 日本国憲法の制定と教育改革に着目させる。 ・ 地方の政治や男女の同権に着目させる。	・ p. 202の写真①をみて、当時の文部省が日本国憲法をどのように考えていたのか説明することができる。（技能） ・ p. 202の史料②「日本国憲法（抜粋）」をみて、書かれている内容や制定の経緯について説明することができる。（知識） ・ p. 203の表④「占領期のおもな政治、戦後改革の動き」をみて、日本の戦後改革の流れを説明することができる。（技能）	・ p. 202のグラフ③「農地改革前後の地主・自作・小作農の変化」をみて、農地改革の成果について、その理由を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は民主化をどう受け止めたのだろうか。日本国憲法制定の過程を通して考えてみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 203の絵⑤「ブロンディ」や絵⑥「シンチュウグンノヘイタイサン」が描いている内容や描かれた意図をp. 190ののらくろとの比較を通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 203のTopic「男女同権への取り組み」や本文記述をみて、女性の地位の変化や啓蒙する動きについて、その意義と現代につながる問題点を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予 定 時 数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	6 9．朝鮮戦争	○朝鮮戦争は、どのような戦争だったのだろうか。 ・ 第二次世界大戦後の朝鮮半島情勢について考える。 ・ 朝鮮戦争とその後の世界の動きについて考える。	・ 朝鮮半島や中国の分断状況に着目させる。 ・ 朝鮮戦争と日本の関係に着目させる。 ・ G H Q の占領政策の転換に着目させる。	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、朝鮮戦争の戦場や前線基地について説明することができる。（技能） ・ p. 204の注「ドッジ=ライン」をみて、描かれている内容や日本経済への影響について説明することができる。（知識） ・ p. 204～205の本文記述をみて、朝鮮と日本との関係を時間順に説明することができる。（技能）	・ p. 204の地図②「朝鮮戦争関連図」をみて、アメリカ軍の空軍基地の位置と朝鮮戦争との関係を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「朝鮮戦争は、戦後の日本にどのような影響を及ぼしたのだろうか」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 205のグラフ⑤「特需物資品目」と「輸出額に対する特需収入」をみて、年ごとに品目がかわっていく理由、輸出額と特需収入との比率の変化についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 204～205の本文記述をみて、いまだに続く朝鮮半島分断や中国の分断をいかに解決するかという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	近現代のたたかう・つながる	○近現代史では戦争についてたくさん学んできた戦争はなぜ起こるのかという「問い」を考えていく。	・ 戦争の姿と民衆の感情に着目させる。 ・ 戦争をいかに語り継ぐのかに着目させる。	・ p. 206のポスター②をみて、ポスターに描かれている人物が誰であるか、ポスターが表現しようとしていることを説明することができる。（知識） ・ p. 207の写真③、④をみて、戦争体験の継承の動きや内容を説明することができる。（技能）	・ p. 206の「考えてみよう」の「戦争の原因、そして、人々が戦争を支持した理由について、これまでどのような説明がなされてきたか、調べてみよう」という課題に対して、多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 207の「考えてみよう」の「教科書を読んでいると、「つながる」かたちにも多様な姿があることがわかる。たとえば戦争で孤児になった子どもは、たった一人にいるときにはどのような「つながり」を感じていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。	・ TRYの「地域には多くの戦争体験記集がある。内容に加え、つくった人々のつながりにも注目して読んでみよう」という課題に対し、多面的・多角的に考察することができる。	1

月	学習項目	○学習課題 ・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 0．日米安保体制と 5 5 年体制	○独立後の日本はどのような政治体制で運営されたのだろうか。 ・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約について考える。 ・ 独立後の日本の情勢について考える。	・ サンフランシスコ平和条約と日米安保条約の内容とアメリカとの関係に着目させる。 ・ 日本の 5 5 年体制と国際社会への復帰に着目させる。 ・ 原水爆禁止運動と安保闘争に着目させる。	・ p. 204の地図④「在日アメリカ軍基地」をみて，日本にある米軍基地や施設の違いについて説明することができる。（技能） ・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容を説明することができる。（知識） ・ p. 208の写真⑤，p. 209の写真⑥，ポスター⑧や⑨をみて，基地反対や原水爆反対の動きについて説明することができる。（技能）	・ p. 208の史料①「日米相互協力及び安全保障条約」，史料②「日米安全保障条約」，史料③「サンフランシスコ平和条約」をみて，書かれている内容や問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「人々は，独立後の日本や国際関係にどのような問題を感じて，運動にたちあがったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 209の絵⑦鉄腕アトム，ポスター⑧ゴジラ，ポスター⑨などをみて，原子力に対する意識や違いについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 208～209の本文記述をみて， 5 5 年体制の今日への影響を考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 1．高度経済成長	○急激な経済成長は，日本社会をどのようにかえたのだろうか。 ・ 日本の高度経済成長について考える。 ・ 高度経済成長の問題点について考える。	・ 高度経済成長で中心となった地域や産業に着目させる。 ・ 日本の社会構造の転換に着目させる。 ・ 高度経済成長の矛盾と対策に着目させる。	・ p. 210の地図①「コンビナートと四大公害病」をみて，日本の公害がおきた地域と主要な工業地帯との関連について説明することができる。（技能） ・ p. 210のグラフ④「産業別就業人口の推移」をみて，日本の社会構造の変化を説明することができる。（知識） ・ p. 211の「ひと 石牟礼道子」をみて，水俣病の告発の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 210の写真③の「建設中の高速道路」，p. 211の写真⑦と⑧をみて，高度経済成長と人の移動との関係について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「経済成長の負の側面を克服するため，どのような対策がたてられてきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 211の写真⑥や本文記述をみて，公害と環境保全との関係をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 211の写真⑤をみて，高度経済成長で核家族化がすすんだが，このことが現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 2．ベトナム戦争とアジア	○アジアの熱戦は冷戦下の日本と世界をどうかえたのだろうか。 ・ 1960年代の日本とアジアの関係について考える。 ・ 1970年代の日本とアジアの関係について考える。	・ 韓国をはじめアジアとの関係修復の歴史に着目させる。 ・ ベトナム戦争と日本との関係に着目させる。 ・ 沖縄返還と日中国交正常化の歴史に着目させる。	・ p. 212のTopic「日韓条約の焦点」をみて，日本と朝鮮半島の関係について説明することができる。（技能） ・ p. 213の地図③「沖縄のアメリカ軍基地」をみて，宜野湾市と嘉手納町に占める基地の割合を説明することができる。（知識） ・ p. 213の年表「1970～90年代の日中関係」をみて，日本と中国の歴史について説明することができる。（技能）	・ p. 212の写真①と②をみて，日韓条約に反対する理由，ベトナム戦争に反対する理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「日本と周辺諸国との関係回復に，戦争はどのように影響したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 213のグラフ⑤「沖縄と日本本土のアメリカ軍基地面積の割合の推移」をみて，沖縄の基地問題についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 213の写真④をみて，沖縄の本土復帰について問題点は何か，本土復帰が現在にどのような影響を与えているのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・準拠ノート ・定期テスト問題 ・一問一答問題	・準拠ノート ・定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ワークシート	・討論や発表 ・ワークシート	
	7 3．経済大国	○「大国」としての日本に求められた役割は何だったのだろうか。 ・高度経済成長の終わりにについて考える。 ・経済大国となった日本について考える。	・高度経済成長が終わった理由や影響に着目させる。 ・日本が経済大国になった理由に着目させる。 ・日本の新自由主義に着目させる。	・p. 214のグラフ②「賃金と物価の推移」をみて、物価と賃金の上がり方の違いと生活への影響について説明することができる。（技能） ・p. 214の写真④「日本車をこわすアメリカの労働者」をみて、このようなことがおきた背景を説明することができる。（知識） ・p. 215のグラフ「長時間労働の推移」をみて、日本の男性労働者の労働時間の特徴について説明することができる。（技能）	・p. 214の本文記述，p. 215の写真⑦や⑧をみて，地価の高騰や土地の買い占めなど土地が経済に与える影響について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「石油危機後の日本の不況脱出策には，どのような長所と短所がみられるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 215のTopic「女性のはたらき方の変化」をみて，女性の雇用の問題，グラフ⑨の男性の長時間労働の問題と比較してグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 215の本文記述をみて，日本の新自由主義や民営化にはどのような問題があり，現在にどのような影響を与えているのかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	歴史のなかの動物 牛	○牛はいつから「食べ物」になったのだろうか。	・「耕す」「運ぶ」存在から「食べる」存在になった過程を考える。 ・「和牛」とは何か考える。	・p. 216の絵①「牛鍋を食べる人」に描かれた様子，男女の描かれ方の違いを説明することができる。（技能） ・「和牛」が誕生した経緯について説明することができる。（技能）	・p. 216の史料①，②，③をみて，書いてある内容を説明するとともに，牛に対する意識の変化について多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 217の写真⑤をみて，人間も牛も国境をこえた感染症をどうするのかという問題について多面的・多角的に考察することができる。	・「近現代を通じた牛の役割の変化は，私たちの生活や食卓のどのような変化を映しだしているのだろうか」という問いに答え，学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 4．世界の転換と日本社会	○冷戦崩壊後の変化に日本はどのように対処したのだろうか。 ・冷戦体制の崩壊と日本について考える。 ・日本政治の転換点について考える。	・冷戦体制の崩壊の内容に着目させる。 ・湾岸戦争と日本の関与について着目させる。 ・5 5 年体制の転換と日本政治の変化について着目させる。	・p. 218のグラフ③「在日アメリカ軍駐留経費に対する日本側負担額の推移」をみて，日本側負担の推移について説明することができる。（技能） ・p. 218の本文記述をみて，冷戦体制の崩壊の様子やアジアの民主化の動きの流れを説明することができる。（知識） ・p. 219の本文記述やp. 230～231の「歴代内閣の歩み」をみて，55年体制発足時から転換期までの流れを説明することができる。（技能）	・p. 218～219の本文記述，写真④を参考に，自衛隊の海外派遣など国際紛争への協力のあり方について多面的・多角的に考察することができる。 ・TRYの「1990年代の政治改革や平成不況への対処の仕方は，現在にどのようにつながっているだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 219のTopic「歴史認識問題」をみて，日本が東アジア諸国と歴史認識を共有する試みについて，その必要性と難しさについてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・p. 219の写真⑤や⑥をみて，戦後処理をどのようにすべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	■評価の方法 ・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	■評価の方法 ・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	7 5．グローバル化する世界と日本	○世界はどのような方向に向かって変化しているのだろうか。 ・ グローバル経済と構造改革の問題について考える。 ・ 9. 11とそれ以降の日本と世界について考える。	・ グローバル経済と構造改革の内容に着目させる。 ・ 9. 11事件とその後のイラク戦争への日本の関与について着目させる。 ・ 格差の拡大と政権交代について着目させる。	・ p. 220の写真①やグラフ③「在日外国人数の地域別推移」をみて、日本にいる外国人の国籍や居住地域の特徴について説明することができる。（技能） ・ p. 220のグラフ④「平成の大合併」をみて、合併の歴史と問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 221のグラフ⑧「年齢別失業率の推移」をみて、グラフが示す特徴を説明することができる。（技能）	・ p. 220のグラフ②「日本の自動車メーカーの地域別海外生産台数」をみて、地域で生産台数の変化がちがうのはなぜだろうかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「グローバル化は、私たちの生活をどのようにかえつつあるのか、またそれに対する身近な対処の例を探してみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 221のグラフ⑨「正規・非正規労働者の人数の推移」をみて、グラフの特徴を理解するとともに、問題点をグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 221の写真⑤・⑥・⑦をみて、沖縄と米軍との関係を考え、日本の安全保障をどうするべきかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	7 6．「わたし」たちの社会と世界	○友だちや恋人、地域、家族など人々の関係はどのようにかわっているのだろうか。 ・ 災害とどのように向き合っていくのか考える。 ・ 現在の日本社会や世界の問題点について考える。	・ 震災と私たちとの関係に着目させる。 ・ 社会のあり方に着目させる。 ・ 私たちと未来について着目させる。	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災の内容や影響について説明することができる。（技能） ・ p. 222の本文記述をみて、現在の日本社会がかえる問題点を説明することができる。（知識） ・ p. 223の写真⑧「インターネットカフェ」や本文記述をみて、SNSの時代の特徴と問題点を説明することができる。（技能）	・ p. 222の写真①・②・③・④をみて、東日本大震災によっておきたさまざまな問題点をいかに解決すべきかという問いについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ TRYの「歴史を学んだわたしたちは、どのような社会、人間関係のありかたを構想できるだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 223の写真⑥「ソーシャル・ディスタンス」をみて、新型コロナウイルスが日本に与えた影響や、いかに解決していくのかをグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。	・ p. 222～223をみて、日本社会がかかえる問題点をあげ、これらをいかに解決し未来につなげるかを考えるという学習上の課題を解決しようとしている。	1
	さまざまな人生 時代と社会を考える「近現代」	○近現代の人々の人生を考える。	・ 近現代の庶民の生活について着目させる。	・ 近現代の日本人々の生活について説明することができる。（知識） ・ 近現代の労働者の生活について説明することができる。（知識）	・ 近現代の人々の学校生活、軍隊経験、結婚、労働、定年という営みについて多面的・多角的に考察することができる。 ・ 近代の人々の人生とわたしたちの人生を比べてみて、人の生き方を学ぶという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	1	

月	学習項目	○学習課題 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準			予定 時数
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				■評価の方法	■評価の方法	■評価の方法	
				・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題 ・ 一問一答問題	・ 準拠ノート ・ 定期テスト問題（資料読解・論述問題） ・ ワークシート	・ 討論や発表 ・ ワークシート	
	現代の日本の課題の探究	○地域のいまと歴史から様々な課題をさぐる	・ 東日本大震災から学ぶエネルギー問題に着目させる。	・ p. 226の写真①をみて、原子力の活用の問題点について説明することができる。（技能） ・ p. 226の写真②をみて、さまざまな代替エネルギーについて説明することができる。（知識）	・ p. 226の記述を参考に、エネルギー問題をどのように解決すべきか、公害との関係も視野に入れて多面的・多角的に考察することができる。	・ わたしたちの課題をみずから選び、探究活動を通じて未来につなげていくという学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	2
	わたしたちの課題を探してみよう①	○自然環境から文化を考えるー伝統や文化の継承と創造	・ 環境と人間との関係に着目させる。	・ p. 227のグラフ⑤をみて、地球温暖化の問題点を説明することができる。（知識） ・ p227のコラム「感染症」をみて、感染症と人類の関係の歴史を説明することができる。（知識）	・ p. 227の記述を参考に、地球環境の変化に対し、人類はどのように対処すべきかを多面的・多角的に考察することができる。		
	現代の日本の課題の探究	○世界からの視点で歴史を考えるー世界のなかの日本	・ 子どもの権利と世界紛争に着目させる。	・ p. 228の写真②「さまざまな歴史教材」をみて、歴史認識の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 228の地図③「第二次世界大戦後の地域紛争」をみて、地域紛争の問題について説明することができる。（知識） ・ p. 229の表④「男女格差の少ない国の順位」をみて、上位の国の特徴や日本がなぜ順位が低いのか説明することができる。（技能） ・ p. 229の写真⑤「ハンセン病訴訟の判決」をみて、日本における「格差」について説明することができる。（技能）	・ p. 228の記述を参考に、日本が世界のなかでいかに行動すべきかを多面的・多角的に考察することができる。 ・ p. 229の記述を参考に、いろいろな背景をもった個人が尊重される社会をどのようにつくるのかを多面的・多角的に考察することができる。		
	わたしたちの課題を探してみよう②	○認め合う社会へー社会や集団と個人	・ 共生社会のあり方に着目させる。				